

社団法人 桐生倶楽部会報

発刊のことば

理事長 長 沢 義 雄



長い間の念願であつた「倶楽部会報」が発刊に漕ぎつけたことは、この上ないよろこびである。二百余名の倶楽部員がいて、その何パーセントが倶楽部を理解し、倶楽部を利用しているかを考えると誠に寒心にたえないものがある。従つて倶楽部の発展も遅々として進まない。

桐生ぐらゐの都市、特に繊維関係の町とあれば、文化都市を大いに誇つてよい筈であり、私たちの先輩にはこのような立派な倶楽部を建ててくれた人たちがいるのに、それを引継いだ私たちが、それ以上の発展も改革も出来ないにあつては誠に先輩に対して申しわけないと思つている。しかし幸にして社員諸賢の強力な御支援のもとに、とに角五十年になんなんとするこの会館の整備も出来、一応維持して来られたことは、大いに感謝すべきことと思つている。創立以来五十年、人間でも相当痛んで人間ドック入りをしよというのだから、この会館も、オーバーホールの時期に来ていることは争われぬ。毎年修繕に注ぎ込む経費もバカにならない。その上何年後かには、道路拡張のために相当坪の敷地を失わねばならないことなど考えると、この数年後の会館の在り方については、大いに一考を要することになる。

それに対して私は大きな夢を抱いているが、何かの折りに公表して御批判を仰ぎたいと思つている。

この会報が出来たことによつて、①未知の人たちへのPR、②何かの御用で出席されなかつた社員諸賢への連絡、③これまでの行事やこれからの行事予定、

④社員諸賢の希望や論評随想などのエッセイの発表場所として大いに活用されることを希望しているのである。これによつて社員各位相互の親睦が増し、桐生倶楽部発展の一助ともなれば、これに越したよろこびはない。末筆ながら編集委員各位の御健闘に心から敬意を表するものである。

倶楽部へお出かけ下さい

副理事長 前 原 勝 樹

市民の間では桐生倶楽部は宴会場だと思つている人が多い。一寸上等の公民館で市の施設の一つだと思つている人もいる。実は倶楽部の社員の間にも「民間有志の出資で会館を経営している」と軽く考へている人もないとは云えない。しかしそう思わせるのは決して偶然ではない。単にPR不足のせいばかりでなく運営の実体にもその原因があるかもしれない。

元來倶楽部と云うものは英米系の民族の間に始まつたもので、職場や家庭から解放された気楽な集団を求めて作られたものである。職場と家庭、これは人間社会の最も安定したよりどころであるが一方またその拘束力も大きい。これらからのがれた気軽なイキヌキの場所、しかも内緒でなく公認の集団があればこれに入りたいのは人情である。従つて英米国民はみんな何れかクラブに加入している。そのクラブの銘柄によつてその人の社会的地位が知れるとさえ云われている。

それらの外来クラブの二三は戦後桐生にも入りこんで盛況を呈している。しかも我が桐生倶楽部は50年前発会せられ独得の伝統を以つて各種クラブの本家格として今日に至つているのである。

我が桐生倶楽部の特色の一つは立派な会館を持つてゐる事である。ところがこの会館の維持はなかなか大変で理事会議題の中心を占め支出の大半はこの營繕と人件費に費されている。その結果倶楽部本来の目的であるクラブ活動よりは目前の急務と云つた会館経営即ち貸室業が前景に出てくる結果となつてしまつているこれが桐生倶楽部をして貸室業と誤認せられる結果となつてゐるのである。

前述のように倶楽部は会員のイキヌキ



の楽しい場所であり、広い社交によつて見界を拡め教養を高める集団でなければならぬ。この目的のためには理事者は一人でも多くの社員が倶楽部を訪れるように施策すべきであり、社員諸君は「自分のクラブ」と云うお考えをもつて一回でも多く倶楽部に足をはこんでもらいたい。

倶楽部の企画である月次会、土曜懇話会は勿論その他の会合も出はじめれば案外楽しいものです。又來客の招待や御家族の御会食、パーティー、趣味の集りなどにも是非御利用ねがつて、「会費と出席」と云う、会員の資格二大要素を全うしていただきたい。

月次会報告

1月 社員総会・新年月例会

1月28日、社員総会を兼ねて、新年月例会を行いました。同席上、社員から次のような意見が出ました。

- 1 新年互礼会は、恒例の通り、元旦に行うべきである。
- 2 会費及び入会金は、必要に応じ改訂し、又、職員給与、火災保険契約等にも、細心の注意を払ってもらいたい。
- 3 事業計画については、種々な部会を設けて、その振興を計ってもらいたい。
- 4 資産再評価を行う必要がある。
- 5 その他

出席者23名 (当番幹事平野、木村)

2月 奥野信太郎先生を囲む会

慶応大学教授である先生は、専門の中国文学の権威であるばかりでなく、テレビの異色あるタレントでもあります。

2月22日、例会に先生を、お迎えし「社交と交際」というテーマで、興味深いお話を伺いました。

出席者24名 (当幹事前原(勝)塚越)

3月 休会

4月 満洲国宮廷秘話を聞く会

4月15日、元満洲国尚書部秘書官長元内閣恩給局長、現桐丘女子短大教授高木三郎先生を、お招きして、清朝最後の幼帝であり、又、日本帝国主義の傀儡に転落した、元満洲国皇帝、愛親覚羅尊儀氏に関する数々の秘話を、お話し願いました。

出席者28名 (当番幹事前原(一)斎藤)

5月 ガーデンパーティー

初夏、芝生の緑も鮮やかな倶楽部庭園において、24日ガーデンパーティーを催しました。

オードブル、各種の飲物、水沢の名物うどん等が用意され、社員も同伴で集り家族的な、なごやかな楽しい集りでした

出席者 社員33名 同伴者17名

(当番幹事 森口、吉野)

6月 斎藤長平氏の祝賀会

名誉社員、斎藤長平氏が、今度、藍綬褒賞を受けられましたので、11日、同氏の祝賀会を催しました。

席上、同氏から、色々と、桐生倶楽部の古い事を、お話し下さり、異色ある会となりました。又、此の例会は、珍らしい程の多数の出席者があり、同氏の人柄がしのばれました。尚、当日参会の社員が寄せ書を、それを表装して、記念の為、同氏に贈呈致しました。

出席者56名 (当番幹事山下、森島)

7.8月合併 納涼会

倶楽部恒例の涼納会は、3日午後6時から、水銀灯に映える緑の庭園で催しました。

今年の模擬店は、「新樹」の出張で、仲々に趣向を、こらしたもので、パーベキユーを主体とし、あんみつ、冷麦、とうもろこし等々、飲物は、例によつて、生ビールの呑み放題、酒、ジュース、コーラ。

余興としては、金魚釣り、ボンボン風船釣り、花火、西瓜割り等、全くの盛り沢山。

子供も大人も一緒になって、夏の夜を十二分に楽しみました。

出席者 社員50、同伴者65名
(当番幹事川村、飯山、花桐、小池)



9月 経済講演会

国際的にも、国内的にも、政治経済面で、まことに、問題の多い昨今。特に、今の不況から、何時、どうして日本経済が立ち直るか、という問題は、誰もが關心を持たざるを得ません。

そういう見地から、27日、野村証券取締役、沢野栄一氏を煩わし、「経済界の現状と今後の動向」というテーマで経済講演をお願いしました。

出席者24名 (当番幹事平野、木村)

10月 神田知事を迎えて

倶楽部としては珍らしいゲスト、神田知事を、23日御招きしました。

県政問題を中心に、色々な話題に花が咲き、丁度、皇太子米県のスケジュールも決まった時なので、それに関連した話題もあり、楽しい例会でした。

尚、当日開会に先立ち、知事を囲み出席者の記念撮影をしました。

出席者27名 (当番幹事前原(勝)塚越)

月次会について

月次会は、原則として、毎月1回開催される倶楽部の定例行事です。

月次会報告を、お読み下されば、お分りのように、各月、理事の中から、当番幹事を2人宛、交替で分担させ、その幹事が中心となり、講演会や懇親会等、色々なプランを練り、世話やきを致します

当番幹事が、いつも一番頭をなやますのは如何にしたら、出席者を沢山集め得るか?という事です。

理想を言えば、社員皆さんの倶楽部ですから、月次会は、初めの企画から、理事だけでなく社員の方に広く参画して載きたいのです。その為の方法なども色々考えておりますが、とも角、月次会には出来るだけ都合をつけて出席して下さい。又、月次会に対する御意見、御希望はどんな事でも、御遠慮なく、理事にお話下さるようお願いします。

予定行事のお知らせ

恒例の桐生倶楽部クリスマスは12月22日(水)頃行うという事に11月理事会に於いて決まりました。クリスマス企画委員は森口順四郎氏を委員長として、平野元吉氏、森島秀氏、吉野一郎氏、小池久雄氏、塚越平人氏、斎藤喜平氏、飯山清治氏の8名に委嘱細目に亘る企画立案の検討をクリスマス企画委員会に一任当日の役割分担を下記の通り決定致しました。

- | | |
|--------|-------------|
| 受付係 | 川村、山下、前原(一) |
| 進行係 | 森口、木村 |
| 模擬店会場係 | 吉野、小池 |
| 余興係 | 森島、塚越 |
| 景品 | 平野、斎藤、飯山 |
| 福引係 | 長沢、前原(勝)花桐 |
| 本部 | |

以上の構成メンバーで各担当役割を協議検討の結果桐生倶楽部社員皆様の御期待にそう盛大なクリスマスを行い度いと存じますので宜敷しく御願ひ致します。

昭和41年度新年互礼会は1月1日正午に倶楽部2階大広間で行います。社員の皆様全員で顔を合わせて新しい年を寿ぎ来るべき年に倶楽部社員各位の抱負を語り合い度いと存じます。全員の参加を御待ち致しております。

土曜懇話会案内

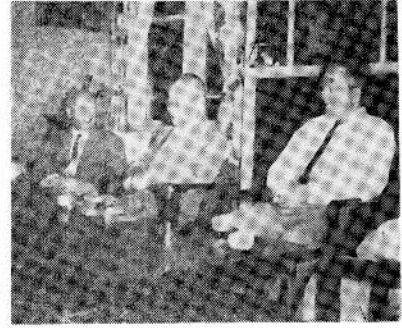
倶楽部がたのしいイキヌキの場所であると言う事を実証するのがこの土曜懇話会である。土曜懇話会の土曜という形容詞は毎週土曜の晩に楽しい会合を持つと言うのが目的であるからであり、懇話会と言う名称は当倶楽部発祥の母胎をなした桐生懇話会の名に因んだものである

目下は毎月第三土曜日の午後七時から九時と云うのが定日時となつているが曜日の変更も時々あり、これは土曜日は都合が悪いと云う人々のための計いである。気軽第一主義であるから往復ハガキの返事などはいらぬ。フラーと現われればよい。但し夕食希望の向は電話で一

予約してもらいたい。会費は食費として300円程度が普通で食事不用の方は100円いただく事にしたい。

会合の内容は別表のようにパライターに富んでいるがいかにも紳士の会員らしいユニークな集りである。

目下のところテーマは前原(勝)がない知恵をしぼつて毎月考え出ているがネタも底をついているので是非社員、皆様のおチエを拝借したい。ともかくこの会へ出てみると社員である喜びを充分体験出来ると確信している。未参会の方は是非一度お出かけ下さい。(係前原勝樹)



土曜懇話会報告

1月(第31回)

わが青春を語る会

当日丁度成人式の日は当るので社員各位の成人式年令のころの思い出ばなしが語られた。小僧時代の立志伝、兵隊生活の苦しさ楽しさ、徴兵検査の光景等。又末は博士か大臣かの学生生活を語る人もあり遂に初めて男になつた時の感慨などが出来て興のつくるところがなかつた

2月(第32回)

期待される人間像

この回は桐生ユネスコ協会の方々と共に催という事で開催され、従つて変つた顔ぶれもまじつて賑やかな討論会になつた主として「現代の教育はこれよりか」が中心の議題になつた。

3月(第33回)

古川柳を観賞する会

春情相催す頃ともなつたので主として艶笑川柳が研究(?)され笑声が絶えることがなかつた。二三の名句を御紹介すれば

月をみる頃は土手に薄生え。

おさしみの前には土手を一寸なで

女房の千秋葉は髪をなで 等々

4月(第34回)

ニュースの裏話をきく

桐生タイムス代表木村貞一氏をゲストにして新聞に出ないニュースを聞いた。所謂高級世間ばなしで、面白い話がたくさんあつてエライ人々の人間性が主たる話題となつた。ウツサばなしは紳士諸君も内心好きのようである。

5月(第35回)

矢野目源一先生を囲んで

矢野目源一はユーモア作家でフランス小嘘なんかで知られている。御本人は生体電気学とかが専門だそうであるが実はクスリ売りであつたというお笑いの一席であつた「私は定年81才であるが女房は40才でいつでも応じてくれる臨戦態勢にある」又曰く「親のいうこときかぬ作を全学連というのが諸君は全学連の心配はありませんか」。とくる。少々この心配のある社員が多かつたのか随分、クスリが売れたようである。よくみると松葉と真珠貝の粉末を練りあわせた丸薬のようであつたが、お買求めの方の効果のほど、一向に報告がないのでわからない。全学連のセガレがいうことを聞くようになつたのなら土曜懇話会も有意義という訳である。とまれ81才であの通り元気な男が実在することは人生に希望を与えるものである。当日の来会者35名で土曜懇話会最大のヒットという次第。

6月(第36回)

大沢治作先生の健勝を寿ぐ会

大沢先生は桐生高工時代からの群大教授で、いわば桐生の名誉市民的な文化人である。この先生は満80才を越えた今日、尚カクシヤクとして「ノミと校長と教授たち」という大著を出版されて世間を驚かされている。特に同書の後半を占める「人生大学入門」は実に有益な人生指針で、一読先生の崇高な御人格に傾倒されるものがある。当夜はいろいろ人生経験と人間学を何つて大いに有意義であつた。先生のますます御健勝を祈るものである。

7月(第37回)

盤景を観賞する会

目下ブームを呼んでいる水行の一派である朝倉流御一統の出演で製作の実演が行われた。みるみるうちに大自然の景観が目前に出現するが、ただ感嘆するのみであつた。

9月(第38回)

森喜作氏を囲んで

森さんも大物になられて、同じ土地におりながら容易にツカマラなくなつた。半年ぶりやつと御出演の機をつかんだので、来会者も2号室は満員の盛況であつた。学術を企業にもち込んだ力量と手腕は大したもの、世界を相手の研究と商売を巧みに使いわけている。外国向けPR映画を日本でみるのも一興であつたし、氏独得の国際風流談にいたつてはけだし圧巻であつた。会費以上の価値のあるお土産をもらつたり、英国ビールの御馳走になつたりした。

10月(第39回)

桐生碑の行方

地味なテーマであるが、推理小説的な面白さもあるので図書館長小林一好氏の研究を語つていただいた。来会者が少ないのではないかと案じたが、好事家も案外多いもので十数名の会合となつた。集古十種にのつている桐生の名宝を尋ねる学者の執念は松本清張ばりてぐんぐん話に引き込まれていつた。

11月(予定)

ぐんと趣向を変えて「皇太子のライスカレー」という企画である。社員に変わった経験をしてもらうこたんである。

昭和40年度(11月迄)

入退会社員のお知らせ

入会

- 有阪 昌治 桐生市宮本町1687
- 古川 三雄 桐生市旭町甲215
- 栗本 博恭 桐生市今泉町701
- 吉田善一郎 足利市小俣町422
- 島 勝二 桐生市梅田町1の24
- 田島 其一 桐生市芳町678
- 朝倉 融 桐生市浜松町1の878
- 大沢 治作 桐生市宮本町1264
- 矢部 靖定 桐生市稲荷町996
- 池上 直一 桐生市相生町3の150
- 設楽 仁 桐生市小曾根町2の1200
- 饗庭 武治 桐生市末広町2の1159
- 早川政次郎 桐生市本町1の176

名簿変更

- 前原準一郎死亡により前原元吉に変更
- 岸田勇作死亡により岸田英作に変更
- 駒井満蔵都合により協栄商事に変更
- 杉山茂吉死亡により杉山欣一に変更

退会

- サンウエーブ工業
- サンウエーブマルタン
- 小暮ラヂオ商会
- 山尾 庄平
- 三和 産業
- 寺内 恒雄
- 鈴木 敏弘
- 関田 清一

アンケート集計報告

3月に実施しました、アンケートを集計した結果は、下記のようにになりました
配布数215通、回収58通、回収率27%

問A 桐生倶楽部では、次の様な趣味の会の結成を考えて居ります。若し結成されるとすれば、どの部会に御入会になりますか。

- 答 小唄13 ゴルフ12 囲碁11
- 麻雀10 謡曲9 株式研究8
- 手品8 俳句8 長唄7
- 書道5 写真5 映画5
- 将棋4 洋画4 日本画4
- 茶道4 音楽鑑賞3
- 俗曲・民謡2
- 和歌2 コーラス0

問B 新年互礼会について

- 1 廃止した方がよい 18
- 2 従来通り行つた方がよい 27
- 3 意見なし 13

問C 月次会に対する要望事項

- 1 日時を変えてはどうか
(月末が多いので忙しい)
- 2 企画
イ 全社員の意向を尊重せよ。
ロ 理事以外より企画を募集せよ
ハ 映画、劇等を加えてはどうか
- 3 社員が誰でも気楽に発言出来るような雰囲気の方が希望。

問D クリスマスの企画について

- 1 従来通りでよい 10
- 2 要望なし 8
- 3 其の他(イ) 時期は12月初旬を望む。

(ロ) 子供向きのプログラムをもつと考慮すべし

(ハ) 階下の小部屋をもつと利用せよ。

(ニ) 一号室はダンスパーティーの会場にしては如何

(ホ) 景品準備の努力に感謝

問E 婦人社員の入会について

- 1 入会賛成 28
- 2 入会反対 6
- 3 どちらでもよい 18
- 4 婦人は社員の家族として、参加してもらおう。

問F 庭園の利用方法について

- 1 意見なし 36
- 2 従来通りでよし 1
- 3 無料で使用させよ
- 4 軽いパーティー等に気安く使えるように……
- 5 四季の変化にとほしい
- 其の他 (省略)

倶楽部だより

- 1月 1 前原準一郎氏遺族より、倶楽部基金として、金一万円の御寄附があり、前原基金として信用金庫の定期預金に積立。
- 2 備品表を作り、備品調査実施
- 2月 1 39年度事業報告書を、知事宛提出。
- 2 倶楽部創立当時の重要資料を発見、整理、保管する。
- 3月 1 岸田勇作氏4日死亡、17日杉山茂吉氏死亡、花祭を供える
- 2 アンケートの用紙配布
- 3 今月より会費増額。法人会費750円、個人600円
- 4月 1 住友火災より係員を招き、倶楽部の火災保険につき、説明を受ける。
- 2 職員の給与増額
- 5月 1 労働基準局に、事業適用報告書を提出。
- 6月 1 松浦光城画伯(元社員)より「谷川岳」の油絵の寄贈あり
- 2 六号室天井、二階準備室床下の補強・修理
- 7月 1 職員夏季手当支給
- 2 園田経理士を招き、資産再評価小委員会を開催。その結果資産再評価は行わなくてもよいという結論に達した。



アンケートで、社員の皆様から、御要望がありましたので、写真のマージャン一式の他、囲碁、将棋盤を揃えましたので、精々御利用願います。

- 9月 1 降雹の為、テラスのビニール屋根破損。
- 2 信用金庫借入金残額25万円期日につき書替。
- 10月 1 桐葉軒と土地貸借契約更改。

桐生倶楽部会報を発行してみようと言う話しが9月の理事会に提議され全員賛成木村貞一氏、小池久雄氏、飯山清治氏の3名を編集委員に指名、協議の結果編集の指針を正副理事長をまじえて決定し、批判より先づは発行と今日此処に桐生倶楽部会報第一号を皆様の御手許に御送り出来る段階に漸く漕ぎつける事が出

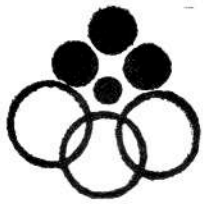
事しました。体裁内容共々社員皆様方の御批判があると存じますが、何はともあれ第一号が創刊されると云う新しい試みに御賛同頂きまして今後諸賢各位の御意見を参考に内容充実し桐生倶楽部社員の心のきずなになれば編集委員の嬉びは之に過ぎるものは御座居ません。

＝ 編集後記 ＝

- × 会報第一号でありますので、編集委員不慣れの為、社員の皆様に充分御満足願えるには程遠いものと存じますが、今後委員一同、精一杯努力して、第二号、第三号とだんだんに、紙面を充実させていきたいと念願しております。
- × 社員紹介・社員の書かれる随筆・俳句・倶楽部に対する御意見等々こうしたものは是非載せたいものです。社員の方々からも、是非積極的な御投稿を、お願いします。原稿用紙は、只今成作中ですので出来上りましたら事務局服部の所に置いておきます。

昭和40年11月30日 印刷
昭和40年12月1日 発行

発行所 桐生倶楽部
会報委員会
印刷 桐生タイムス社



社団法人

桐生倶楽部会報

桐生倶楽部について常に思っている ことを書いて見よう

大川 英三

いことはすべきでない。

むしろクラブの仕事をすることは光栄だ、銭金でなくやって見たいという観念で仕事をしてもらえるように仕向けなければ、よいクラブの施設は出来ない。

時間を守ることは紳士道の第一要件だ。ロータリークラブなどは、時間は喧しいが中にはロータリーの時だけで、あとの集会にはルーズなんて人もあるようだ。桐生クラブの集会だけは時間は、正確でありたいものである。

桐生クラブは楽しい社交の中に堅くならないで自然に教養と紳士道が生れるようにありたいと思う。

以上が社員としての望むところでありこれにそって理事者は運営して行ってもらいたい。

その外、近頃改築の問題も潜んで居るようだが、クラブの建築は大正時代の代表的な格調の高いモルタル木造建築で後世に残したいものとして、第一銀行の建物の様なものである。しかしどうしてもせまい、使い難いのと論が起るなら改築も止むを得ないが、徒らに損得ばかり考えていろいろな店まで同居し、街中の雑踏の中で住して居るようなことになりたくない。

これは急ぐことはない、立派な設計者と理事者で熟議をこらしてゆっくりとやって見ることだ。

それからクラブを充分に活動させるにはまだ人手が足りないよく二人でやって居ると思う。クラブの書記役は学校や役所の小使のようなものではない、理事と同格の人柄で堂々たる風格を持たせねばならない。

人間は社交性の動物なりというからには健全な社交により互の接触から心のふれあいが出来て社会に於ける人間関係が調整されるものだ。



倶楽部の存在の理由はここにある。市立の公民館の如きものも多分こういう使命を持つものだが、社団法人組織の本クラブの如きものは、市民一般でなく特にクラブ社交をなすためのものである。

或はこれを特別の階級だけのものだと非難されたこともあるが別に門戸を閉じて居るものでもなし維持会費さえ払えば門戸は開放されて居ると見るべきだろう。さてこの社交だがこれには唯自分の職業や勤務の場のみの素養だけでは、あらゆる職業人、勤め人、政治家等の人達の集る場に於いての面白い社交は出来ない。クラブ社交は映画や観劇講演会と異なり互に話による社交が、主となるのは止むを得ない。従ってこの談話なるものは自分の職業意識だけにこもって居たのでは駄目で、広い常識と社会性を持つものでなければ、面白い社交の時を持つことは出来ない。

各自、読書や研究による教養を身につけるといふ方法もあるが、それのみでなくクラブで社交して居る内にいわゆる聞き学問で見聞が広がって自然広い常識が身につけて来るといふものであろう

社交はクラブに出て互に顔を合せ、また自分の学んだこともないことや社会上の見知らぬ世間話に興味を持つようになって月次会や土曜会で一文にもならない話でも興味を持って話合いが出来て、相互の親愛感の増して行くのを楽しむというのが人間生活の一つの楽しみとなるようになってはじめてクラブが楽しい場所となるのである。

そこで酒、或はマージャン、短歌俳句等の集りもあってよからう。こうなれ

ば家庭の延長ということも出来る。それにはクラブの従業員の手をまつことなく各自のセルフサービスで行われなければならない。

もう一つクラブは社員の共同の応接間であるように利用出来る。うちでは小さい子供もあり職業の場でもあったりして落ちついた話も出来ないという場合に、お互に時間を打ち合せてクラブで会いましょうという利用のし方もっとあってよいと思う。

桐生クラブの使命は以上の様に利用されるべきものであろう。従って諸施設もこの目的に添うものでなければならぬ

庭の植木にしても石にしても自分等共同の利用の場とすれば特志家が植木の一本でも庭石の一つでも寄附されてもよいのではあるまいか。盆栽なども出し合せて職員が気をつけて管理を行届かせてみんな楽しんでという様になって欲しいものである。

桐生の紳士の社交場とすれば、白ら調度品にも卓上の花にも室の色調にも品位が溢れなければならない。個人の住宅にしても其建物の様式調度品によって人柄をおしはかる事が出来るものだ。クラブの様な半ば公共的な施設には、いづどんな上級のお客様、或は建築家が訪れるかも知れない。というに徒らに費用を値切り倒して安かう悪かろうというエグツな

倶楽部と私

エンダヤスゾウ



私が桐生東尋常高等小学校に入学した頃桐生倶楽部の建物がたてられました。濃いオレンジ色の屋根に、赤味がかつたクリーム色の壁、附近

のくすんだ背の低い家屋に比べてその異国風な建物はとてもきれいでした。

小学校の正門の前に組合教会ができたのもその頃で毎日曜に日曜学校に通いました。教会の左手すつとはるかに、お化柳と赤い鉄橋が見えて汽車が通るのを見られました。

校外写生の時間に青い麦畑を前景にと

素
心
作

り入れてクラブを好んで描いたものでした。すみれやれんげの咲いている畔道に腰をおろした私の目の前を大きな青大将がスルスルと通りぬけて行きました。その青光りした姿に思わず肝を冷たしたことをはっきり憶えています。レコード・コンサートやマンドリンの演奏会の時受持の音楽の先生に連れられて倶楽部にいったこともありました。

雷電山の下の中学校にはいるとクラブとしばらく、御無沙汰になりました。昭和8年東京での学生生活をおえて帰桐し、ある日本町2丁目の真尾源一郎さんのお宅にお伺いしました。その時桐生倶楽部について色々とお聞きしました。それ

から真尾さんの御紹介で社員の末席に加えて戴きました。

私が始めて家内に会ったのは、クラブの二階のホールで日本舞踊の催しがあった時でした姉等に付添われた彼女と階下の四号室で言葉すくなく話をしましたが憶えていることは彼女が、ほっそりとしていてお人形の様にスマートな娘さんだったということです。

戦争中は倶楽部の中に市の商工経済会の事務所があって私の妹もそこに勤めておりました。タイムスの木村社長さんも御一緒でした。家が近いので倶楽部の会合には時折出席致しました。寒いクリスマスの晩に燃料が無くて、オーバー、襟

巻に身を固めてふるえながら集ったこともありました。倶楽部を通じて沢山の先輩の方々に親しくして戴けたことは感謝にたえません。

これからは社員の御夫人方の為に社員夫人会を作られては如何でしょうか。家族会やクリスマスの集りとは別に時々のお嬢方だけの集りは、きっと有意義な会となるでしょう。懐しい倶楽部の建物も狭く又、老朽化してきました。改築か、増築も近いことでしょう。全館冷暖房で幾つかの和室もあって、しかも近代的に能率的な設備は何んでもある。そんな楽しい建物の実現を夢みております。

◇月次会報告◇

11月 桐生倶楽部記録スライド観賞会

＊美しい倶楽部、と題して桐生倶楽部の設立準備の御苦勞の多かった大正9年頃の記録（議事録、日誌、登記抄本、発行債券等）が出て参りました事から端を発して倶楽部の47年間の歩みを年代的に順列し、現在の倶楽部の運営を預る理事会の審議状況、倶楽部行事としてその基本的な二本柱、月次会並びに土曜懇話会は現在の時点としての倶楽部のありのままとして1年間を月別に整理作成し社員の皆様方に見て頂くと共に今後倶楽部に入ってこれられる方に倶楽部は何ぞやと質問された時に曰わく云い難しと云う事でもなしに理窟抜きに倶楽部とは斯様な処で斯様な人間関係の上に立って斯様な行事に依って和して居ると云う事を御理解願ひ度いと11月12日に御企画願ひ47名の会員出席の盛会でした。

（当番幹事 前原（一）斎藤）

12月 クリスマス祭

12月22日恒例のクリスマス祭が会員、家族 134名と云う多数の出席をみて華かに開場しました。

当日は理事の方々が大サービスの精神で受付をはじめ、袋詰にされた、たくさんのお土産品の受渡しをされ、会員も家族も恐縮の体でした。

クリスマス委員長の森口理事の御挨拶を皮切りに、キリストを祝福し聖書に静かに耳を傾け、おごそかなオルガンの音に合せて、全員で、＊きよしこの夜、＊もろびとこぞりて、を歌い、華かな中にも美しい、落着いた雰囲気がかもし出されました。

うどん、そばの模擬店。ワインコーナーでは辛党には一寸甘いムードのカクテ

ル。味白慢のシューマイ、寿司の折詰。ビール、ジュース等の飲物と充分な食事を口にしながら、理事長の御挨拶に賑かに二部が始まり会員、並びに家族の出演で、日本舞踊、バレエ、手品等々が盛りだくさんに続けられ、鳴りびびくクラッカーに会場はますますと上気し、溢れるばかりの和気に包まれました。皆様お待ちに待った一番の呼び物の福引抽籤が始まりますと、会場は一瞬静かになり、夫々袋に書いてあるナンバーを見直す等次々に渡されすばらしい景品に皆様、羨びす顔でした。

協賛頂きました、三ツ葉ライトのバンド、そしてバトンガールの方々の出演にクリスマス祭りという集いの会場はいやが上にも最高潮に達し、いつしか過ぎてしまった二時間余の後は、小さいお子様連れの御家族がぼつぼつ引き上げてゆく姿が見受けられました。椅子のなかった方々も落ち着いて坐る事が出来。

ホッとしてバンドに耳を傾けグラスで喉を潤し盛会なるが故に見た立ちんぼの疲れをいやされました。

この立派なクリスマス祭を行う事が出来た事は一重に会員の方々の景品其の他に於ける絶大な御支援の賜と、準備に当りました。理事の面々、深く感謝致します。当日美しく飾られました会場の出来ました事は、前日から、倶楽部に詰めて、あれこれと準備に汗を流されました方々の賜と併せて深く御礼申し上げます。

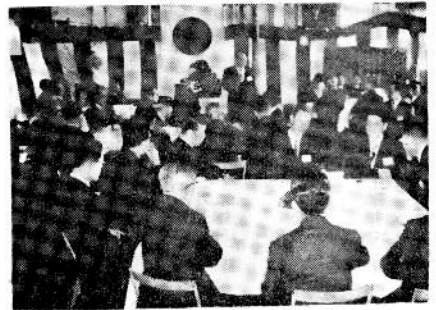
1月 新年互礼会

経済的変動期として難かしかつた昭和40年も暮れ、難かしかければ難かしかつた丈に昭和41年の日の出に当る元旦に恒例の行事として倶楽部社員が定刻の12時に

三々五々参集し59名の盛会な新年互礼会を催す事が出来ました。

理事長の開会の辞に始まり、副理事長の乾杯の音頭に正月の気分が二階大広間に溢れ定例に依り理事長指名に依る各界名士の昭和40年度の経過報告、昭和41年の各業界の推移並びに抱負等スピーチが一巡し初めると互礼会はピークに達し日頃御無沙汰勝ちな社員各位間に杯のやりとりが始まり社員の中から午年にちなんで午の書き方の特技の御披露等あり仲々和やかな新年互礼会でした。

（当番幹事 山下、森島）



倶楽部よりお願い

◎今度桐生市の一部が3月1日より新住居表示になりますので恐縮で御座居ますが桐生倶楽部社員の方で住所の変更になられる方は名簿、連絡、通信等の関係上倶楽部事務局迄御連絡賜ります様御願ひ致します。

◎倶楽部の記録用として古い写真や資料を御持ち合せの方は是非倶楽部へ御貸し下さる様御願ひ致します。

◎桐生倶楽部会報も季報として定期的に年4回皆様の御手許に御届け出来ます様企画致して居りますが社員皆様より愛される桐生倶楽部として前向きに歩んで参り度いと存じますので意見、感想、希望等事務局に原稿用紙を用意して御座居ますからどんでん御投稿願う様御願ひ致します。

私のみた桐生クラブ

山口 茂



桐生クラブは桐生の文化の発祥地として、又織都桐生の社交の中心としての存在であって、私の知る範囲には昭和6年頃には会員も40人か

50人位ではなかつたかと思つて居ります。そして、なかなか入会はできなかったようであります。クラブ員であると信用もあつたし、又クラブ員としての責務も又重要であつたようでした。私など入会もできず数年以上を経まして機を得て入会させていただきましたのです。

私は桐生以外の土地については余り詳しく知つては居りませんが私の出生地の前橋にも桐生クラブのような民主的で、無色で、清潔な民間団体は無いようです。本市にも、ユネスコ、ロータリー、ライオンズと世界的な団体が次々と誕生して市民の文化水準も高まってきて誠に喜ばしいことでもあります。

理事長さん初めクラブ関係者の大きな協力により、内容はいよいよ充実をみ、尚、又建築において外装に従来の建築の味を十分に生かし、昔風ではあるが落ち着いた、そして新鮮味のある建築様式が私共に限らない親しみと、安定感を持たらしてくるのであります。

会員数においては4倍にも増加され、月例会、土曜懇話会と、親睦と教養に大いに利するところ多く、又、家庭の延長としての利用度も多く、交友団体の活用も数々にして桐生クラブの目的、精神にかなつて運営されて居るので嬉しい次第であります。私達のクラブは家庭の延長の観があつて集会をもつにも極めて安易にあの落着いた部屋が自由に使用できるし、尚、又諸団体の会合等も催され相当高い利用度をもっています。

月例会は毎回出席することができなくも会の状況、入会員の紹介等を通知状にて知らせて下さるので止むなく欠席する場合でも好感をもつことができます、今

回欠席しても次回には会員の方々と会うこともできるし、何の束縛もなく自由であるのが私にとっては嬉しいことでもあります。私の最も印象に残つて居るのは、故岸田勇作氏の罎の研究と収集の発表でありました。罎の細かい説明とそして苦心して集められた数々の名作の展示には敬服のほかはありませんでした。あの日常多忙を極めた氏が、よくもあれまでの罎の蒐集と研究を為されたことかと驚き入りました。そして氏は一時を得て、あの罎を静かにながめ、観賞の三昧に入つた時の心境を察すると、あの時の氏の面影が彷彿として浮かぶのであります。

土曜懇話会は担当の前原勝樹氏が時機を得た主題をとり開催されるので楽しいのであるが私としては医師会の種々なる会合のために全てに出席することがなりませんので困つて居ります。が然し開催通知が非常に丁寧に説明が書いてありますので止むなく欠席しても大勢が判つて一応自分で欠席を認めている次第です。

今後も従前通りの運営を望むものであります。過日調査を行なわれた趣味の勉強の集いなどは是非実行してもらいたいと思つています。そしてクラブ自体の活動をより実のあるものにして行きましよう。自由で静かで親しみのあるわれ等の桐生クラブであることに誇りと悦びを感じつつペンを開くとします。

私とクラブ

梅沢 武男



桐生クラブの建物を見る度に、私の幼ない思い出がよみがえる。紺がすりの着物に小倉の袴をはき、ズックのカバンを肩からブラさげて、東

小学校に通つたものである。境野さんの前も田ボ、深い小川をはさんだ堤には、真赤なヒガン花が咲いていた。クラブに曲る角に人家がマバラ、それから家が一寸続いて、つき当りの小川を飛びこして土手から校庭に入る。夏は校庭に清水の

小川が流れていて、体操の時等は足を洗つたものである。

校庭からは遠く田をへだて、汽車の煙が見え、冬ともなればお百姓さんの肥料をまく姿がチラホラ見えて、のんびりした風景だつた。

この頃から、あの赤い屋根のクラブと称する建物は一体何をやる所だろうかと思ふ不思議に思われた……

ここ迄書いてきて、念の為クラブに電話してききたしたら、永井さんの返事で大正8年に出来た建物との事。そうすると私は大正6年に東小学校を出たのだから、私の記憶は間違いで、旧制桐生中学校に入ってからの感想である。然し幼年からの思い出と思わせる程私の関心があつたという事になる。

とに角近所ではあり、当時めづらしい建物であつたから、異常の注意を引いたのは私だけではなかつたと思う。

そんなわけで私は少年時代のあこがれであつたクラブの建物を今もつて愛し、会合には屢々利用させてもらつて居る。

私の二度目の結婚披露もクラブだつた。又、職業上の講演等も、講師は変わった建物だと賞め、静かで講演に身が入ると喜んでくれる。時々御邪魔して、あの芝生で澄んだ空気と日光を浴びて孫と遊ぶと心がなごやかになる。三才の孫娘も「クラブに行こうよ」等と時々せがんで居る。只この愛すべき建物が、いつ迄もこの姿で居られるのであろうか。

道路の拡張等で、この歐風の建物が、直線の集団である冷たいコンクリートの近代建物と化する時が来るとすれば如何に御時勢とはいつても、何か淋しいものがある。

青い物も見られない街住いの私には、あの庭園の一角に有料個人風呂でも出来て、夏など一浴した後、芝生を眺めながら冷たいビールでものめたら、それこそ心身のオアシスになる等と勝手な夢が続く。

映画「美女と野獣」「悲恋」さては、「フランケンシュタイン」等の古城を一寸にほわせるあのエキゾチックな建物、これが近代化に建てかえられた時こそ、私の幼い思い出の一部も崩れ去つてしまつた時なのであろう。

楽しい土曜懇話会

○皇太子のライスカレ

お話の会ばかりでなく、食べる会と云うので企画されたもの。木村理事の発案である。

はじめて公式に桐生市を訪問された。皇太子の中食がライスカレーとの事で、案外、庶民的な此の食事に人気沸いて

そのものズバリを、御相伴にあづかろうと云うので、伊沢主人に申し込んだところ18人分だけ、それも2回に分けてならんと承知してくれた。ところが希望者多数で大弱り、御夫婦は一人前で御辛棒を……。と云つた次第、なにしろ食器もそのまま給仕は主人自らの説明付とあつて、大好評であつた。(40年11月20日)

○私の健康長寿法

新年のこととお目出度い年の始めに今年こそは午年の為、力でガン張ろうと云うわけ。

大川英三氏(70)どこまでもマイペース無理をしない。酒を呑む時も、客は客自分は自分で適当にのむ。血圧や、僅かな病気は気にしないで、感謝の気持で生活している。

大沢治作氏(80)亀の子のように寝て手と足を百回ほど振る。毎日これを実行している。又3~5分間、倒立をするが、



これも有効である。

矢島信次氏 (71) 毎年山へ登っているお蔭で歩くことは若い人に負けぬ、食事はなんでも結構。間食は絶対にしない。

木村貞一氏 (68) 寝る時は、一度素裸になって冷たい寝間衣に着かえる。これをはじめから風邪を引かなくなった。蜂蜜を連用しているが若さを保つには良

いと思う。

周東英助氏 (68) 早起き早寝で、規則的な生活をしている。

梅沢武男氏 (60) 血液酸性は長寿の敵アルカリ性にするために、笹の精、をのんでいる。家族一同元気旺盛である。

前原勝樹氏 (62) 食事規制だけはしている。朝はパン、牛乳 2合、コーヒー。昼はうどん、夜は肉食、山の病院へ上り下りするので、足はまだ大丈夫、クスリは成可くのまない。

北川好雄氏 (54) 子供と遊んで、気持ちを若くもつ。

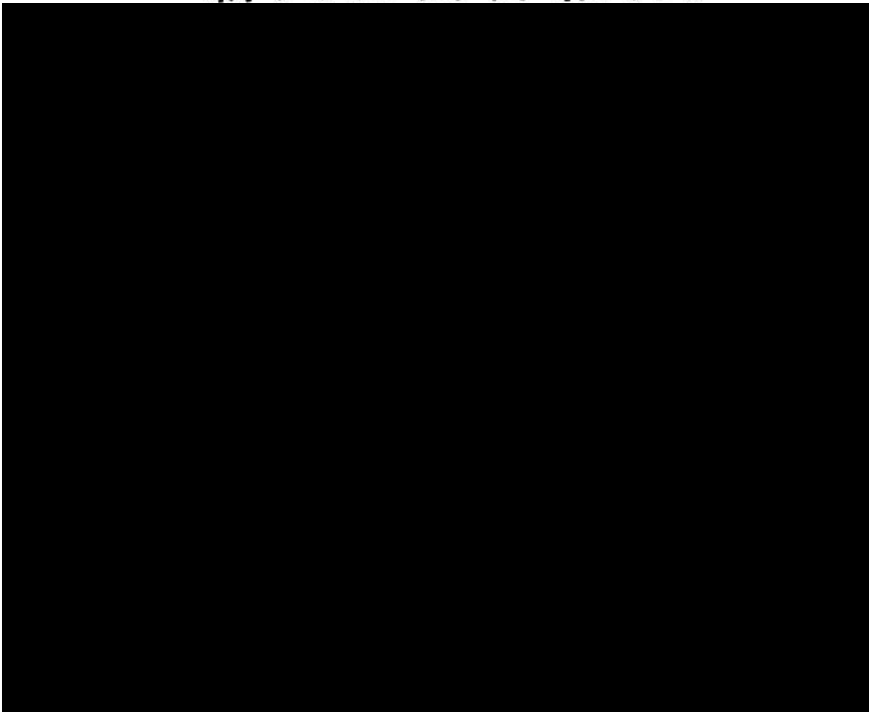
遠藤俊一氏 (50) 野菜とうどんで量感を満足させる。毎晩ビール 2本をのむ。

古川三雄氏 (44) 桐生人は厚着の為に風邪を引きやすくしている。私達東北人は裸で寝るので、風邪はひかない。

以上のような貴重な体験法が語られたこの記事が桐生タイムスに出た日は新聞の売行がよかったと云う話。

(41年 1月15日) (係 前原勝樹)

☆新入社員御紹介☆



二倶楽部だより二

12月

- A、会報第 1号配布
- B、服部修君 (倶楽部事務員) より、同君の製作による桐生倶楽部記録 (自昭和40年3月～41年5年迄の予定) のスライドを寄贈したいとの申入あり理事会に於て承認。製作費補助金 4万円を支出。
尚、此のスライドは、斎藤、小池、飯山、塚越理事により、編集の上、

桐生倶楽部で保管することとなる。

- C、22日、クリスマス祭
- D、年度末決算
- E、年末年始休館12月30日より1月3日迄

1月

- A、1日 新年互例会
- B、28日 定時社員総会
- C、固定資産税納付
- D、信用金庫借入金残額25万円返済

2月

- A、県知事に、前年度の公益法人としての事業報告をする。

◇御案内◇

◎入会手続き

倶楽部へ入会を希望される方は社員2名の推薦があれば、所定の入会申込書で随時申込みが出来ます。

毎月一回開かれる理事会に於て、その入会の審査を行ないます。理事会の審査をパスすれば、直ちに事務員が参上し、入会手続きを致します。

入会金は3000円。但し特別の事情がある場合は法人としての新入会員も認めますが、此の場合の入会金は5000円尚 入会申込書は倶楽部に備えつけてありますから、御必要の方は、事務員に申付け下さい。

◎部屋の使用

倶楽部の建物は、社員の為のもので、社員は原則として無料で随時、倶楽部の部屋を使用出来ます。

但し、ロビー以外の部屋を利用する時は、事務員の指示を受けて下さい。というのは、他に予約があったり、使用中の部屋があったりしますから……

又、社員のみでなく、社員がその家族や、友人を、お連れ下さっても構いませんが、その場合、社員1名で、5名以上の社員外の方を、お連れする事は御遠慮願います。

社員であっても、日時を定めて、専用する場合は規定の料金を納入して戴くこととなります。

以上の使用規定を御承知の上、社員の皆様方が夫々の応接室のつもりで、気軽に倶楽部を御利用下さるよう御願致します。

折角囲碁や麻雀も備付けたのですが、案外御利用なさる方が少いようです。

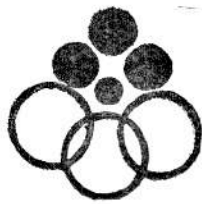
食事や飲物は、何処へでも御自由に御注文出来ますし、利用しはじめれば倶楽部は、社員の皆様方にとって、まことに楽しい場所になると存じます。

一編集後記一

▷創刊号は、全く不出来で、編集スタッフ一同汗顔の至り。「でも 2号は、マア、マア……」というのも自画自賛か
▷本号も 4人の方が、倶楽部に対する愛情のこもった原稿を御寄せ下さいました。本当に有難う存じます。今後も沢山の社員の方々に、会報に載せ切れない程の御投稿を御願致します

市より町名変更通知あり、3月1日より倶楽部の新任所は下記のようにになりました。 桐生市仲町2丁目9番3号

発行所 桐生倶楽部会報委員会
印刷 ツボノ印刷



社団法人

桐生倶楽部会報

桐生倶楽部に望む

書上文左衛門



桐生は明治、大正にかけ森宗作、大沢福太郎、金子竹太郎、前原悠一郎、前原準一郎等の諸先輩が中心となり多数有志諸君と共に桐生懇話会

なるものを結成し、之が中軸となり桐生の産業教育文化等の諸事業の向上発展に努力されたのであります。例えば当時中央に於ける経済界の大御所波沢男爵（後に子爵）を名誉会長に御願ひして帝国ホテルに於て朝野の名士芸能人等を招待して桐生御召鑑賞会を催したのであります

以来中央に於ける桐生御召の認識を深め販売数量の増大を見るに至りしことや日露戦後、東郷、上村等の諸元帥を招待したり又は宮殿下及大臣の楽遊を求め桐生産業の認識を中央に深めることに努力する一方、日本絹織、岡毛整織、桐生機械等の諸会社の設立を計り工業的桐生産地を機械化することに努力されると共に教育の方面に於ても女子高の設置と県立への昇格、高等工業学校の誘致等限りなき努力を続けられ今日の桐生の基礎を築かれたのであります。之等の協議や実施致す場所としては適當なるもの更になく主として料亭を利用するほかなき有様でありました。

町民子弟の教育問題まで料理屋で相談することは余りにも不適當であるので協議の結果今日尚存在する社団法人桐生倶楽部が生れたのであります。而して有志諸君の協議や視察の為めの集りの場所として現在の建築物や内部の装置等を整備したのであります。之は実に50年に近い昔のこととなりました其の後の日本は幾多の変革を経て今日に至りました。其の間、歴代の理事長と理事諸君の多大の御努力により今日桐生倶楽部は桐生に於ける立派な存在として万般の事柄に利用され居り設立当初の先輩の遺物として恥しからぬ存在であります。

然し私の言わんとするものは桐生倶楽

部と称するのは現存する倶楽部の建築物や内部装置のみを云うのではないのであります。之等は会員が集会を催したりお互に懇談したり、場合によつては色々の催し物をしたりする場所に過ぎないのであります。要は会員多数が桐生倶楽部を組織して居る組織そのものを云うのであります。私は倶楽部の設立当初より関係して参りました。然して設立当初の目的は己に前に述べた通りで長い年月を経た今日に至りましても今尚変りはないと存じます。私は薩摩の身の今日真実のことはよくわかりませんが、経済的取支の状況からして理事諸君が考えて居られる真の意味の倶楽部活動が充分に出来ず、ややもすると貸部屋業的存在になることを案ずるものであります。現在の取入には又口を借ることを得ぬことと思ひます。

以上は私の倶楽部に対する消極的観測と考え方でありませんが、一步前進して之を考えると桐生倶楽部が中心となり桐生の文化の向上の推進的役割を果たされたいと念願致します。桐生としては現在市の行政の面や産業の面に於て色々の問題が山積して居ると思ひますが、市や協同組合や商工会議所等に於て夫々担当して居る部分は別として、桐生倶楽部は桐生

市が産業都市なるを以て主として桐生の文化の方面を担当し之を向上推進されて然る可くと存じます。

織物産地でありながら桐生は前橋、高崎等と比較して文化的に最も後れていると思ひます。単に音楽だけに限定して例をとつても、高崎には交響楽団があり、尚又洋楽の個人教授をして居る人が30名も居り観音山の一角には文化村が出来て文筆家や音楽関係の人が住んで居る。

前橋にしても毎年群馬会館に数回クラシックの音楽会が開催されている。然るに桐生に於ては淡谷女史の云われる歌屋サンの演奏会は押すな押すなの盛況であつてもクラシックの音楽会は成立せぬとのことであります。桐生倶楽部が文化的事業をやるには先ず第一に資金のことを考えねばなりません。

欧米先進国に於ては政府が率先して社会事業は勿論のこと文化事業にも多額の金を出して居ると同時に民間人も余裕のある人は皆金を寄贈して居るので色々仕事が行われる。乍然特種な人々の寄贈にのみ依存して居ては定例の計画はたちません。要は多数の組織員たる会員が拠出する倶楽部の維持費並に事業費を豊富にして始めて実行出来ると思ひます故、会員諸君の理解と積極的協力が得られなければ出来ぬことであります。而して桐生倶楽部が中心となり桐生市民の文化的水準を引き上げ、桐生が文化都市として充分の資格を具備するときの來らんことを念願し期待するのであります。

ひっそりと 見る人もなく 花の雨



さして広く無い倶楽部の庭園ですが、四季それぞれの花があります。

特に桜は、3年前に植えた若木が育ち、今年は、十数本見事に咲き揃いました。

御米館の折、気がついて「ああ奇麗だなあ」と、社員の方々に喜んで頂けたら桜も本望でしたらうが、残念ながら、そういう社員の数がかつたようです。

メンドリの倶楽部

森田 勇治



英語に Cock and hen club というのがある。これを日本語に直訳すると、オンドリとメンドリの倶楽部ということになるが、これは男女

合同倶楽部の意味である。

かつて桐生倶楽部の理事会で、女の人を社員にするかどうかについて論議がなされたことがある。その女の人というのは、特定の個人ではなく、一般的な女性の意味であったのだから、その点誤解がないようお願いしたい。定款の上では男女の区別はないのであるが、従来は慣習上男子に限定されていた。だから、女性に解放することは、倶楽部にとつては画期的なことなので、慎重に審議がなされた訳である。

しかし、その結論がどうなったかは、数年前なのですっかり忘れてしまった。それはともかくとして、将来の問題とし

てこれを考えて見る必要があるように思う。

私は現在の倶楽部をオンドリの倶楽部とし、別にメンドリの倶楽部を新たに作り、二本建てにするのがよいと思っている。建物は共同で使用するが、部屋はオンドリ用とメンドリ用の二つに区分し相互不可侵にする。必要によっては、共同の部屋を設けてもよい。

クラブとしての活動は、原則として男女別々であるが、ものによっては共同でやってもよい。会費はもちろん男女平等である。

なお、倶楽部はお役所ではないから、固苦しく力みかえる必要はない。オンドリとメンドリは、たまには離れて息抜き(レクリエーション)をしたい場合がある。これには倶楽部は、かつ好の場所である。こんなことに倶楽部を利用することも結構である。

要するに気軽に出入りし、楽しみながら倶楽部の目的(定款 第2条)にそう活動をすればよいのである。

話は別になるが、ある時、ある知人に倶楽部の社員になることをすすめたところ、その人はケゲンそうな顔をして「倶楽部は金を出せば、だれにでも貸してくれるんじゃないんですか」と私に反問した。この人ばかりではなく、一般の人の

中には、あの建物が桐生倶楽部の総てであるように思っている人が、案外多い。

クラブの中には、ロータリークラブやライオンズクラブなどのように、組織そのものが大きくクローズアップしてくるクラブもある。

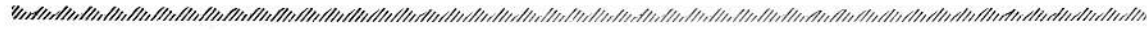
もしだれかが「桐生ロータリークラブは、金を出せばだれにでも貸してくれますか」と質問したら、恐らくその人は暑さで頭がいかれた、と思われるにちがいない。

それでは、一体クラブとは何であろうか。日本百科大辞典によると、クラブは「共通の目的をもつ人々を会員組織として、社交・娯楽・運動競技・社会文化活動・教育厚生活動などの目的で集まる場所」である。

そうだとすれば、桐生倶楽部は、クラブとしての条件を完全に備えている。

このような立派な倶楽部をのこしてくれた諸先輩に対し、われわれは心から感謝しなければならない。同時にわれわれには、倶楽部を発展させて行く責任がある。

そこで、女性に一翼をになってもらい新風を吹きこんでもらったならば、それが倶楽部の本来の面の発展に大きなプラスになると考え、あえて女性倶楽部の併設を提案した次第である。



月次会報告

3月 = 20年の回顧 = 座談会

3月28日(木) 当番幹事 花桐・小池

桐生タイムス社が創立20周年を迎えての記念に「20年の回顧」と題する小冊子を刊行しました。

これは戦後20年間の桐生の色々な出来事が記録されています。

それから思いついて、此の座談会を企画したわけです。

なつかしい思い出や、苦しかった体験等々、皆さん夫々に身近な20年の出来事に話がはずみ、僅か3年間だけで時間切れ、あとは後日にゆずることとしました。

たまには、こうしたゲストなしで、社員だけがゆっくり話し合うような月次会も、いいのではないのでしょうか。



4月 強精薬をめぐる最新の問題

倶楽部社員総ての人が否、生きとし生けるものが「Stay Young」の為に腐心して居ると云っても過言ではないでしょう。

4月の倶楽部月次会は此の方面の權威中沢三四雄氏にお出で願って「魅力万点の課題に卒直明快なメスを揮ってユーモラスに、医学並びに薬学の両面から専門的なお話しの内容をききずにお聞かせ願ひ仲々有意義な一時でした只々残念な事は不老不死は不可能としてもバッテリーに依るラジオの様に充電されて居る間は機能的に支障なく放電完了した時其の機能に終止符を打つ様に人間が生を享受して居る間は「Stay Young」で静かに生にきよならば云えぬものであろうか等と空想と希望の去来の中に楽しい一時でした。

其が完成した時人間社会の究極的終着駅でしょうか? 節制に依り長寿を全うすれば全うする丈人間の円熟味を増し、か

てて加えて肉体は青年期より同一状態を保持された假で終止符迄一生と云う文章を書き了る事が出来たらと重ねて参加下さった社員一同が瞬間的にも夫々希望的な考えを御持ち合せになったのではないかと思います。斯う言う問題は人間の全智全能を以ても不可能とは知り乍ら夢を持たして頂ける楽しい問題をテーマとした月次会でした。

4月28日当番幹事 平野・木村

過去、現在と将来

新井 幸長



吾妻山の苔葉、桐生川のかじか、赤岩橋の清流のほとりからのぞむ赤城の山姿等々清々しく、澄み渡り、偉風堂々と桐生をとりまく山紫水明

の桐生は誠に恵まれた郷土である。小都市であり近代化も遅れていると謂われるなかに桐生クラブの存在は誠に喜ばしいものである。

その前後庭のただすまい、50年前に作られたとは思われない車寄せ、周囲のか

こい、建物の外観と色彩、そこからかもし出される雰囲気、特に階下各部屋の配置と調度など、よく調和したものである。このあいだもある祝賀会での会話のうちに「ここは実にアットホームで気分がよい」、「そうですね前橋にはこんなに落付いた所はない」と、私も常に心のうちにそれを感じるもの一人であり、私の関係する会合はここで催すことにしている。

おそらく大方の桐生の人々もここに誇りをもち、山緒ある建物として、或は伝統ある組織として暗黙のうちにその存在と活動に大きな期待をかけていると思う。そこで感ずるのはこの大きな遺産を残してくれた郷土の先輩の先見の明に敬服せざるを得ない。子孫のために美田を買うなどは先哲の教である。桐生クラブは桐生の先輩が残された大きな財産ではあるがこれによって誰も安易を求むるものは居ない。

むしろクラブの施設そのものとともに

次ぎ次ぎの会員に引継がれている精神や伝統こそ桐生人の心の糧となり、大きな指針となって私等を動かしてくれる。これこそ有限の生命をもつ人間が永遠に生きる道を歩んでくれたまたとなき例である。今日私等が文化生活を楽しむものも桐生の方々を含めて広く世界の先覚の努力の御蔭である。

過去の蓄積が現在を生み、現代人の英智と活動があつて明るい未来を望みうる私等もいたづらに懐古に或は快適な日常に明け暮れてはすまされぬ。

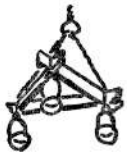
国、県及び市では夫々の専門家が政治、経済、産業、社会、文化の各部門で明日を築くための努力をつづけられ、問題点を採上げて之が是正に、改善にふさわしい方策が進められている。然し前々から桐生にも郷土博物館の設立が望まれている。その実現及びその維持に諸種の困難があるので誰もここに手をつけようとしぬ。

そうこうしているうちに桐生に潜在す

る貴重な品物は段々散逸してしまうのではないかと思う。

そこで本クラブ員が中心となつて各方面の御協議を得て、長期計画を樹立し、全市民に呼びかける準備をしたらどうかと思考する次第であります。特に科学博物館をも兼ねるならば小学、中学、高校の理科教育に大きな支えともなり、織物その他技術関係にも及ぼすならば、産業との結びつきも緊密化し、桐生史、桐生織物史の生きた裏づけともなつて、次代の人々に及ぼす好影響は多大なるものがあると信ぜられる。

現在も文化面では図書館関係者によつて各種の活動が従行されているようであるからこの方々もおそらく御賛成頂けるのではないかと存じますし、やはり長期に亘つての努力が必要と存じます。只御忙しい会員に仲々之が計画など簡単にできるものではありませんまいがこんな事を考えているものもあると御叱正頂ければ何よりと存じます。



気軽で楽しい 土曜懇話会

○歯医者のお話をきく会

若い時は歯が痛まなければ歯医者さんに用はない。この歯痛の原因はなんと云つても虫歯が第一である。この虫歯は、あらゆる他の病気が減少しているに拘らず増加する一方である。この原因はいろいろあるが虫歯が砂糖の消費量に平行している点で、やはり甘いものに関係がありそうである。予防には昔から歯を磨く、と云うより歯を掃除する事が大切とされているが、実効は疑わしい。戦後外国では弗素の飲用が提唱されている。

これは公共水道に一定量の弗素化合物を混入する方法であるが、日本でも京都の山科でこれを実施して数年になる。成果のほどは未だ正確なデータにはならないが相当目ざましいものがあると云う。

昔から地域文化の原動力となつた桐生倶楽部であるから、弗素による虫歯予防運動のインシアテープをとつたらどうか。虫歯についての問題は歯槽膿漏であり人にきらわれる口臭の大部分はこれが原因であるが本人が案外気付かないので意外の損失を招いている。百年の恋も一ぺんにさめてしまった話さえある。しかしまた的確有効な治療法がないので困りものであるが、歯を清潔にし歯茎をよく磨擦すると予防的効果はある。

中年以後問題になるのは義歯である。義歯はすい分占くからあつたもので、柳

生宗矩のいれ歯が保有されているが「つげ」の木で作つたもの、これを利用して「くの一忍法」が行われたのであろう。日本では総入れ歯は老人の最後的手段があるが、アメリカは、1、2本欠けらと思ひ切つて全部抜歯して総入れ歯にしようとする。昔から歯は年令を示し敬老を尚齒と云つた。歯の丈夫な人は長寿を保つ事は一般の認むるところである。

世俗に歯、眼、MARAなど云われるのはこの三者で老化の程度を知り得たと考えたからである。

皆さん歯を丈夫にして長寿をたのしみましょうと北川好雄先生は結ばれた。(2月19日 第42回)

○録音できく昭和の40年

NHK放送録音を編集したものである戦前の10年ぐらゐが一番興味深かつた。昭和初期の田中首相の声には日本のヨキ時代を夢みる心地であつたが既に神話である。戦中戦後の20年は記憶は新たであり、悪夢の想い出のようで楽しくない。昭和10年代が一番懐しく、流行歌「波浮の港」や古賀政男の賞讃には不覚の涙がとまらなかつた。(3月19日 第43回)

○桐生の石仏をたずねて

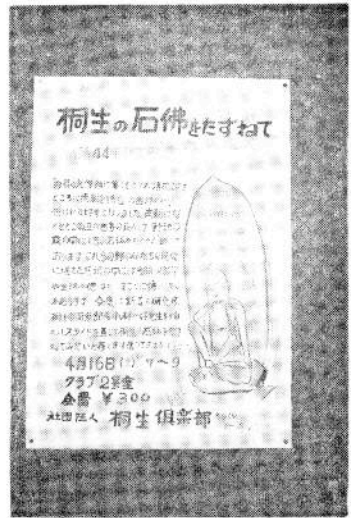
落花はゆく春を惜み、懐古の情をかきたてる。「白眉の老僧時に掃をとどめ、落花深きところ南朝を説く」の漢詩が想い出される。この季節に適しいお話とし

ては小林一好先生を慣わした。野末の叢の中におむる石仏達の悲情の中に我等の祖先の心が託まれて限りない懐きがあり、先生の解説でスライドをたのしんだが、仏像の形や持ちもの等から、その仏像の素性を知つて一層たのしいものがあつた。(2月16日 第44回)

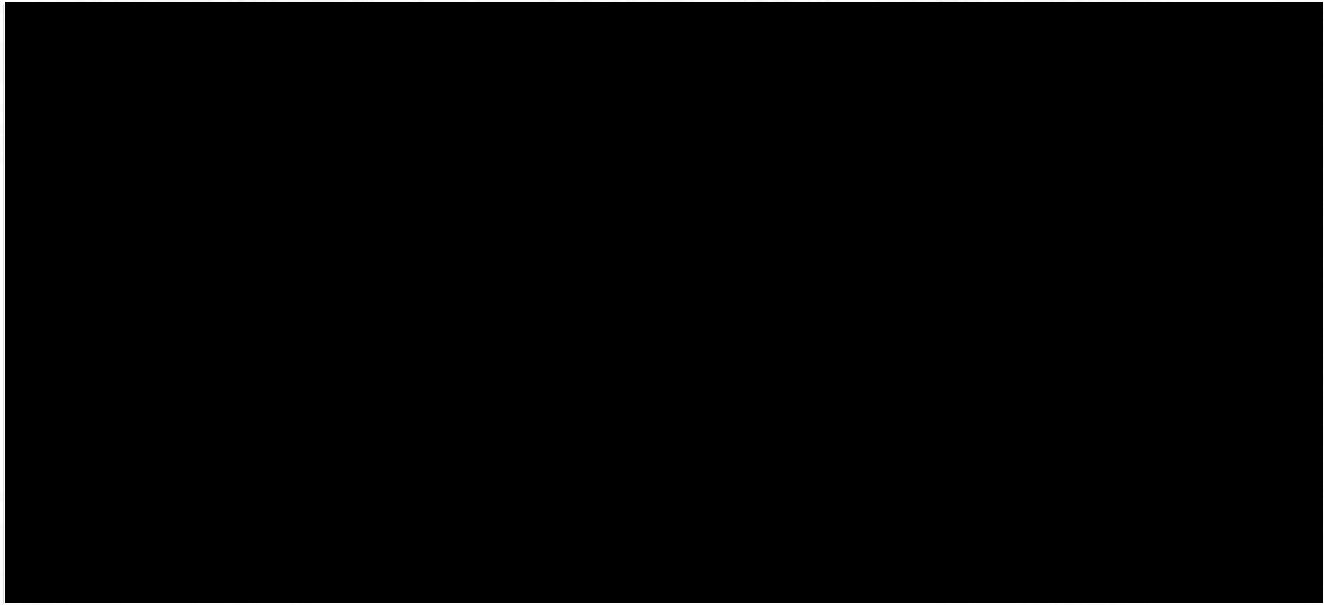
○120才長寿法

重田寛さんのお話は全部御自身で実行したことであるのが頼もしい。したがつて奇癖の方法は何もなく、極めて健全な御一般的な健康法であつた。しかし明るい性格と不拔の信念は一時間半の講話にグングン引込んで時のたつのを忘れさせた。長寿は方法ではなく「心」であると痛感した。(5月14日 第45回)

係 前原勝樹



二 新 入 社 員 御 紹 介 二



青年部について

今でも、時偶は桐生倶楽部青年部という言葉が出る。

当時からすでに20年近く、一緒に遊んで頂いた境野元理事長や、南川潤理事は故人になってしまった。

部員も半数以上、桐生には居ない。

しかし、当時楽しかった青年部の存在は、部員が誰しも「貴重な青春の記録」として、胸裡に残しているに違いない。

青年部の発足は、昭和22年3月2日、理事長は斎藤氏、大川名誉社員、境野常務理事が世話人であった。

当初のメンバーは 15名（内女子2名）月 2回の日曜日に倶楽部で会合、会則も役員もなく、当番は 2人宛交替で設営、

メンバーは、社員の子弟及びその友人という事であったが、社員の子弟は案外少なかったようである。

その後、会を重ねるうちに、部員数も増え、30人程になった。

年令は20才から25才位が大部分で、東京の大学に在学中の者も数人。斎藤長七郎氏だけは、やや年長であつて、リーダー格として面倒をみて下さった。

ハイキング、工場見学、討論会、句会読書会等々の他に、倶楽部の行事にも参加、クリスマスパーティーは、青年部が一切をやった。

約3年続いて、25年末で解散、その中の希望者は、桐生倶楽部の社員となる事が認められ、吉野、斎藤、小池、吉成の諸君が社員となった。

二 倶 楽 部 だ よ り 二

3 月

- A、宛名印刷器を購入
- B、会報 第2号発行
- C、会館利用率最高を記録

4 月

- A、社員入社歴及び年令等の記録作成
- B、法人税均等割納入
- C、営繕委員会を開き、修理箇所を決める
- D、固定資産税の決定、第一期分納入
- E、職員の給与改訂
- F、服部修君（倶楽部事務員）の母堂死去、倶楽部より花輪及び香典を贈る

5 月

- A、小川建設により、倶楽部各所の修繕開始
- B、1号室にクーラー設置

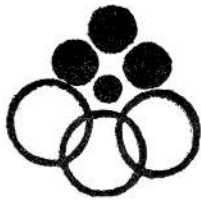
★ 編 集 後 記 ★

▷寄稿された方々に深く感謝申し上げます。今の所、社員の方々の投稿を中心に編集しておりますので、原稿が果らないと会報が出せません。

今後ともよろしく御協力下さい。

▷2号で、どうやら会報の体裁だけは整ったように思いますが、よりよいものにする為、お気付きの点は、どしどし御叱声頂き、又、面白いアイデア等があったら御教示願います。

発行部 桐生倶楽部会報委員会
印刷所 ツボノ印刷



社団法人

桐生倶楽部会報

香り高い雰囲気を

齋藤長平



桐生倶楽部を創立してから半世紀を経る様になった

立派な建築、設備を持ち得た事は外来の人々にも自慢の種であった。

社団法人としての組織が許可されたのも県下で恐らく初めてであったろうし、其の頃は、何処の市や町へ行っても、人目につく建物はすべて公共のものか、半官的なものであったのだから……。

今更言うまでもないが、桐生倶楽部設立の趣意は清純な郷土の人々の社交を通

して、教養と文化を昂め、桐生の産業、経済、政治の進歩、発展にも自ずから社員

の意向を反映させて行くことであった。倶楽部発足の頭初から市や織物組合等とは、経営面でも、経済面でも何の関係を持たなかったが、倶楽部自体で醸成された良識が、そうした機関に關係ある社員を通して各方面から浸透、顕現されたのである。

一方社員の教養を向上させる為には、郷土史の編纂、発行、美術工芸の展覧、趣味の講座、音楽会等を催した。

現今のように、各種文化の大衆伝産の方法が発達していなかったので、中央から種々な關係を辿って名士来桐の際は必ず講話を聞く等に努めた。

要約すれば、こうした倶楽部の行事、常に滾々と湧き出る社員の公約教的意見や良識が、郷土文化の向上に非常に効果のあった事は何人も否定出来ないと思う。又、桐生倶楽部は桐生人の茶の間であ

り客間としての役目を果して来たとも云えるのである。

私は現在の桐生倶楽部が近頃流行しているアチブルの仕事などはやらないで出来るだけ気易く集って、我家の茶の間と同じように寛いで、楽しく語り合い郷土の繁栄と平和の為になる意見を廻したり、各自好む趣味を研究したり、和やかな空気を通して、人格や趣味の自然に向上する事を希うのである。

何にしても私が若い時代には、桐生には誠に尊敬すべき良き先輩が沢山居られた。いつか機会をみて社員諸君に当時を偲び想い出話を聴いて貰いたいと思っている。

重ねて申上げるが、倶楽部は営利法人ではない。倶楽部の盛衰は黒字を誇る決算書だけで判断は出ない。

和やかな清純な社交から生まれる言い知れぬ香り高い雰囲気は郷土に撒き散らす存在であっていただき度いものである

アラスカの花の種子

近藤吉次郎



市の繁華街の裏通りに我が桐生倶楽部がある。周囲騒音の中に広い庭を控えよくこんな静かな環境に包まれた建物があると思う位である。この

北欧調の建物を見る毎に一昨々年のヨーロッパ旅行の思い出が心に浮んでくる。外地の旅の思い出は最初に降りた空港と訪問地の印象が一番鮮かである。真夏の6月18日午後10時(グリニチ標準時GMT午後11時)に東京羽田空港を出発ジェット機で北東に飛び翌午前9時40分(GMT午後11時30分)アラスカ第一の都アンカレッジ空港に到着した。空港は北極地帯なので或は雪があるのではないかと思ったが案外当日は晴天で青々とした森林を広く切り拓いた広野の中にあり真夏ではあり暖流の影響も手伝ってか日本の5月頃の暖かさであった(7月は平均14°Cと称せられる)。他の滑走路には白い胴体に真赤な尾翼ある飛行機が周囲の緑の中に鮮やかに映えていた。

玄關の上に大きくENCOURAGEの文字も鮮かに四角の硝子張りのしょう

しやな建物の中は、他の国の空港のものと大差はない。アラスカ特有の毛皮、木彫人形とか絵葉書の類が飾られ販売されていたが、その片隅にアラスカ地方の花の種が売られているのが目についた。種は種々沢山あったがこの中から、Rock pose a laska Arctic Daisy Lu piue (Hupinus Articus) North-u lights Iris (Iris setose) 等を買って見た。

出発前療護園の子供達から外国の絵葉書と花の種を買って来て欲しいと頼まれたのでこの花が咲いたらさぞ喜ばれるだろうと思ったからである。1袋1ドルとの事これをヨーロッパ旅行中鞆の底に深く納めて持ち帰った。帰国後種の播き方を方を袋に書いてある通りやって見た。袋にはいい花を得るためには次の通り行えとある。This alaskan wild flower seeds should be darupened fro-zen and thawed three different days before plauting to insure good reseelts ingermination If plauted in the fall or winter this is not necessary 帰国後療護園の職員や子ども達は北極の花に期待して胸ふくらませつつ処方通り温めたり凍らせたりして播いたり又秋、冬にはこの必要がないというので種々工夫をこらして、11月末にも播いて見たが芽を出したのは一種類だけこれも日影に育ったような小さい一葉を

けた白いヒョロヒョロした茎が5~6cm伸びただけでそのまま萎んで了った。折角内地で、北極の花を咲かせて観賞出来る楽しみにしていたが、子ども達のこの希望も淡雪の如く消え去ってガッカリしたのである。その後この地方は大地震に見舞われひどい損害を受けたそうであるがその当時の風景はどうなっているであろうかと思うにつけ折角持ち帰った種を咲かせる事が出来なかった事をかえすがえすも残念に思っている次第である。

お知らせ

今月は2年に1回の役員改選の為、臨時総会が26日(月)に開催されます。

いつも総会には出席者数が非常に少く折角重要な倶楽部運営の基礎となるべき事項の審議なのに充分社員の皆様方の意を汲みとれない感があります。

倶楽部を社員皆さんの手で、より楽しい倶楽部にする為に是非多数の社員の御出席をお願い申し上げます。

尚、参考の為役員改選に必要な項目を定款より抜き書き致します。

第六章 役員

- 第17条 本倶楽部に理事15名を置く
- 第18条 理事中より正副理事長 各1名を互選す
- 第19条 理事は社員総会にて選挙し得票の多数を以て当選者を定む
- 第21条 理事の任期は2カ年とす。但し再選することを得

桐生倶楽部に思う

福 島 昭 吉



玉砂利の音がこきみ良くかすかにこだまする。アイボリーの小さな城に急ぎ足で向った赤い絨氈の廊下を通りぬけて、ふと庭園に目をむける。

目にしみるような芝生の青さが広々とした自由な境地へさそい入れる。

小さな孫とたわむれている老年の紳士に心ひかれた時、一そう平和であり家族的な人間関係をしのばすにはいられないが…。

このみどりの芝生ではぐくまれる幼時期の感情の芽が無意識のうちに知性とからみあって、大人になりその知性の奥に

もう一つの正しい方向づけをするもとなる感情が芽ばえて、やがて社会人としての活動が始まるだろう。環境、境遇等に再認識をしながら小ルームに戻った。

いかにも古いが整頓された室内に近代建築にはみられない心のやすらぎと、諸先輩のきづきあげてくれた歴史的なニュアンスを感じる。

思えば私が未だこの世に生を受けていない大正八年の頃、あたりはのどかな田園風景の中にこの城が建てられたそうで人家の密集している現在を思う時全く夢の様な話である。

その城の中では倶楽部と云う共通の目的の下につどう人々が、政治、経済、文化、諸活動の中心となって活躍され、また唯一の貴族的なムードあふれる社交場としての存在は、一般社会の羨望的のようであったと聞かされた話を思い出さないわけにいかない。

そのムードを47年経過した今日までも

なお維持出来ることは立派な先輩方の豊かな人間性、行動が、有機的つながりとなり結集してこそ成長をなしとげたるものと信じ頭が下る思いである。

私はまだクラブ社員として入会の日も浅く幼稚な存在ではあるが、先輩諸氏のよき指導にあやかりながら前進「向上」しのびのびと若い木の芽の様な創造の精神を強くアピールして新しい時代の流れにそって行ける人間的な和を築きあげたいと思っている。

「夕立に緑の芝が
生きかえるように
自然の力にみづからを省りみて
輝く明日へ希望をいだき
とはに栄えんこの集いのために」

末筆ですがこの機会をかりて、入会を必要に迫めてくれた斎藤、小池、飯山三理事に深い感謝を申し上げ終りにします。

月次会報告

6月 ガーデンパーティー 及び絵画展

午前9時～午後5時

出品点数 洋画 20点

日本画 14点

当番幹事 前原(勝)、塚越、前原(一)

齋藤 6・7月共催

(塚越記)

このたびのパーティーは絵画展との組合せにより今迄にない成果をおさめた。

この企画はクラブ活動の重要な一環として斎藤(喜)、小池会員等提案により、以前から考えられていたものであるが愈々実現の気運が醸成され理事会の支持を得て実行されることになった。実施に当って、出品点数、展覽方法、搬出入管理等幾多の難問があったが先輩会員の暖かい指導のもとに若手会員の熱意がこれらを克服し 第1回の試みとしては予想外の成功を取めた。就中最大の関心事であった出品点数は折角の応募作品を成る程度制限をせざるを得ない状況であった。将来は二階ホールも使用しなくてはならないだろう。尚今後絵画のみでなく書、活花、写真等の腕前のひ露も期待される

又ガーデンパーティーも最近回を重ねるにつれて参加者が増し、雰囲気も盛り上りを見せている。これらは何れも倶楽部本来の目的にかなうもので、団らんの中に理解を深め合うのに効果がある。

今回は前述の如くパーティーと絵画展とのコンビネーションがよかったと思う計数は次の通りである。

ガーデンパーティー 於クラブ庭園

日時 昭和41年6月7日(火)

午後6時～9時

出席者数 社員 53名

同伴 19名

絵画展

日時 昭和41年6月7日(火) 8日(水)

8月 納涼会

恒例の倶楽部名物の納涼会は去る8月2日 午後6時より、事務局員諸君の御苦勞により美しく清掃された倶楽部の庭園に於て行われた。

参加社員諸氏の日頃の心掛けの良さのためか当日は誠に良い天候に恵まれ、当倶楽部史上最高の145名(内訳は社員53名 同伴者72名、子供20名)と多数の出席者にて当番はテーブル、椅子の配置変更や不足に嬉しい悲鳴を挙げる有様でした。会は定刻より約30分遅れて、山下当番理事の司会にて始まり、長沢理事長の例によつての名挨拶、前原副理事長のしやれた新入社員の紹介と続いて、森口理事の乾盃にて宴に入った。当日遅刻者が思いの他多かったのは 5時より産文にて集会があった故であるが、倶楽部の会合は桐生時間でなく始めたいものとする。

当日の献立を紹介すると、オスカー自慢のサンドウィッチとカツレツ、サラダソーゼージ、シューマイ、枝豆、唐もろこし、アイスクリーム等々質と云い量と云い十二分であった。飲物は遠田商店の生ビールを始め総て飲み放題(その割には完行きは良くなかつたらしい)各テーブルからセルフサービスの食事、飲物を運ぶ先輩諸氏や御婦人産にて夕暗みせま



る頃は、芝生は次第に、にぎやかになって行った。芝生の美しい緑にムード音楽ビールと各テーブルに談論風発、和やかな交歓が続いて行く。

子供係の理事諸氏の御世話により金魚釣りやヨーヨー釣りが行われている。子供より両親が結構楽しそうに釣っている方も散見する。西瓜割は仲々難かしい。花火が随所で打上げられる。

余興は特に予定はなく、森口理事の指名で先づ桐生歌謡界の大御所、小野俊夫先生が得意のノドを披露する。矢張り先輩(おつと失礼)はうまい。周東英助氏同伴のタイ国の技術見習生 3名がタイのフォークソングのコーラス、倶楽部に異国の情緒がただよい、国際親善の火が挙げられ盛んな拍手が起った。

予定の 8時30分平野理事の万才三唱にて解散、楽しい話題をもって家路についた。

当倶楽部の諸会合でも納涼会は特に楽しく、にぎやかに行われて居ります。暮のクリスマスには今回の記録を上廻る参加社員のあることを希望すると同時に、設営の当番理事の御苦勞に感謝致します

8月2日 当番幹事 森口・吉野・
山下・森島
(森島記)

「クラブ新入会の感想」

小玉澄男



金子竹太郎さんに逢った事があったかどうか忘れたが名前もその人柄も三十年も前からよく知っていた。故前原準一郎さんが何かにつけて桐生クラブの話聞かせてくれて、恐らく何十回も同じ話をされたから、初代理事長像がいつか私の頭の中に出来上ったせいであろう。と同時に、桐生クラブにも何かの関心が生れてはいたが、一庶民の私にとって、桐生クラブはまことに縁のない、高く遠い存在であった印象を今思い出す。

それもその筈、大正の中頃に設立費を5万円投じたということは、小さな住宅なら当時100軒も建ち相当巨額をかけたことで、その100軒の小さな家の一つがあれば事足りる小市民の私から見れば、襟を正して入らなければならぬ程立派

な建物であるし、また、それを支えて居る社員諸氏には、こつちがあまり小市民過ぎて縁遠い思いがしたからである。これは単に私のひがみだけではなさそうで当時の社員が、桐生クラブをそうあらせる様に努めたものの様に思える。クラブ創立史から少し拾ってみれば——その発言は町政を動かすと言われる程強力——でさり、また——社員は互に高い理想と誇りを堅持し、服装なども、きわめて注意深くさせられ、数名のボーイで威儀を正してクラブ玄関に来館者を迎えた——とあるから、昭和になってからも濃い遺風があつたにちがいない。

お巡りさんを怒つた人達と思ひ込んだら終生忘れられないと同様に、桐生クラブは私にとって、今でも昔と同様寄りつきがたい雰囲気のあるところの様に思えてならない。若い頃、クラブの話を聞かされ過ぎたせいかも知れないし、或は、社員のエリート意識みたいなものが連綿と繋って、一種の犯しがたい近より憎い窮屈なものを、今でも醸し続けているせいかも知れない。

そうした昔の社風が今もあることが、果して将来良いことか、新入社の私には良くわからないが、そうした空気を一新したい動きもクラブにあると云うのは大変うれしいことである。女性を社員に

加える意見や、パーティーや納涼会を開催して、社員の家族の出入りを計るのも根本は、怒つたクラブの空気を一新し緩和し様とするに他ならぬのであろうと思う。

が、その様に外力を加えて改善を計るのも無論大事だが、社員相互間の壁をぶち抜いて、自ら脱皮を計ることも大切ではなからうか。地位や学識や学歴や財力を一切抜きにしても信頼し合えば、男同志の裸のつき合いへ、一步一步近づく様な努力が、お互い同志に扶われたら、そこからクラブ独自の層濃い団結が生れて、社風も一新するのではなからうか

多くの先輩社員の中には、今まで全く没交渉で未知の方々も沢山居られるが、早くその人々からも温かな笑いを投げて貰える様になりたいと思つてはいるものの、——まことに失礼な言ひ分申訳ないけれど——入社はしたが、窮屈で居憎いところなら、出席も減るし退散もすると云うのが、新入社員の偽りない気持ちでもある。

勝手なことを申しましたが、向後種々な面で社員諸先輩の、大きな御指導を得られるものと、大いに期待をいたしておりますので、何卒よろしく願いいたします。



気軽で楽しい 土曜懇話会

気軽で楽しい懇話会も座談会形式を重ねて五十回になんなんとしている。今期は変わった会合を二回ほど持ってみた。

それは倶楽部を貸部屋から脱して、本来の姿に戻したいと云う要請に答えての催である。社交倶楽部には趣味のグループによるクラブ活動がつきものである桐生倶楽部でも囲碁、麻雀の設備は夙にそなえて、ある程度の利用はされている。しかしまだまだ一般的とは云えない。そこで予て、アンケートで希望者の比較的多い、絵の同好者の会、俳句の会等を作りたいたと考え、土曜懇話会を土台にはじめてみたのである。

入場者があつた。そこで出品者を中心に広く絵画愛好者の参会を呼びかけたところ、予期通り広範囲の方々の集合をいただき、洋画を画いている人、日本画をやっている方、美術品の鑑賞家、同業集家等であり、画論が出、芸術談が高潮し、みんな天狗の様相を呈して、談話活発、遂に酒が足りぬ騒ぎにまで相成つた。ここで諸氏の意見を綜合し、広く美術愛好者を大同團結した*桐生倶楽部美術グループ、結成を約し、その委員をあげて散会した。

○俳句趣味の会

(第48回、7月18日)

俳句は流派がきびしく、指導者がちがうので簡単にグループは作れぬと忠告されていた。しかしやってみなければわからぬし、俳句には門外漢の前原の呼びか

けなら失敗したところで禍根は残るまいと通知を出してみた。さいわい約10名のお集りをいただいで話し合ってみた。庶子宗匠と数年間暮したと云う宗匠級からこれから俳句をはじめたいと云う入門希望者までいろいろとどりでである。俳句を習いたいが、白髪頭を下げて大家に教えを乞うのも億劫である。これが初心者いつわらざる心境である。だれかに気軽に指導してもらいのである。わがままと云えば、それまでがだ一通りの指導を受けなければ人前では駄句れないのは知っている。仲間同志でこれが出来れば願つたりかなつたりである。

集つた方の中にも充分指導者格の方々も居るようであるから気軽に実地指導を受けようとする事になった。次回は季題五句を持ち寄つて互評会をやろうと話がまとまった。

時間の残りを前原の*奥の細道をたどりて、をきいてもらった。

因に8月26日に初句会が催され詠草は本誌をかざることになっている。

○絵画同好者の会

(第47回、6月17日)

5月の絵画展覧会で意外の盛況であった。出品者も30名に近く、300人以上の

(係前原)

□... ..□

第一回桐生倶楽部社員絵画展

美術グループの誕生

.....新入社員紹介.....



例年恒例の春のガーデンパーティーの準備会の席上、パーティーの彩りとして何か大人向の嗜好はないかと云う事から多士齋々の当倶楽部として社員同志内輪の自作絵画展をやってはと云う事になり前原副理事長、塚越、斎藤理事の肝入りで急に話で決まった。日もない事故心当りの有志に新作旧作を問わず兎に角出品して頂こうと云う事になった。会場設営も、時間、予算、出品数量の見透しも困難なまま、倶楽部の各部屋の壁面をそのまま利用する事になり、斎藤(長)、大川名誉理事を始め、前原(勝)、落合、森(正)、森(喜)、菊地、須賀、田代町田、斎藤(喜)、服部各氏の力作逸品が集り、倶楽部を一夜にして格調高い美術の殿堂に変える事が出来た。

当日(6月7・8日)の参観者も緑の芝生にてほどよくアルコールをきこしめした故もあろうか、満員盛況、多数の即席美術評論家が生まれ、定刻過ぎても尚ロビーを始め各部屋は美術絵画芸術論に沸き、果てはクラブ活動かくあるべしと云える様な倶楽部本質論迄華をそえ、予想外の御好評を頂く事が出来た事は出品の諸氏

を始めとして係一同望外の喜びであった。続いて6月18日土曜懇話会をかり、絵画同好者の雄り、と云うテーマにて展覧会の反省会を兼ね、更に定期的なクラブ活動に発展させようと云う事になり、前原、古川、須賀、斎藤の4氏が世話人に定まった。7月22日、ゲストに女子高の小島市造先生を御招きして、第一回美術グループ、の集いが催され、年春秋二回の展覧会を骨子として毎月1回目標に会合、催しをする事と云う事で桐生倶楽部内のクラブ活動の1号の誕生を見たのである。*美術グループ、としては、当分は正社員のみを対象として美術の趣味を通じて楽しいクラブづくりの一翼を担って行き度いと念願しているが、ゆくゆくは家族会員迄加えて更に巾広い活動を夢見て居り、ここに誕生の御挨拶を兼ね誌上を御借して社員各位の積極的な御参加を御願する次第です。

尚来る10月下旬(10月22・23日頃)第二回社員絵画展を開催予定につき奮って御参加御出品下さる様作品の御準備の程を重ねて御願申上ます。(斎藤記)

二 倶楽部だより 二

6月

- A. 服部修君より母堂死去35日の香典返しとして事務用手提金庫を戴く
- B. 会報 第3号発刊。
- C. 創立50周年基金の積立を開始。
- D. 住友火災と保険契約更新。
- E. 1号室クーラー使用料を決める。(1日1時間400円)

7月

- A. 桐生倶楽部記録スライド完成、製作者服部君より倶楽部に寄贈。
- B. 職員に夏季手当支給。
- C. 俳句グループ結成、世話人は岩下小玉、辻の三氏。
- D. 美術グループ結成、世話人は斎藤須賀、古川の三氏。

二 編集後記 二

▷寄稿者は、古い社員、新しい社員、理事の方、理事でない方と出来るだけ広い範囲の方々をお願いしています。夫々の立場で遠慮なく倶楽部の為に御意見ををお願いします。

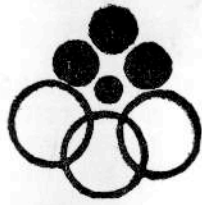
▷いよいよ美術グループ、俳句グループが誕生。倶楽部本来の活動が軌道に乗って来た感があり、会報の紙面も賑やかになりそう。

桐生倶楽部俳句会

八月二十六日

二三行なりし便りも涼しけれ
森口順四朗
今日も亦暑くなるらし(さるすべり)
前原紅
倶楽部員晩涼の灯に初句会
岩下 吟千
打水に草を追われし蝶一つ
古川 光春
竜胆や測量の抗深し得ず
丸山 貞夫
蚊帳吊りて己が世界を作りけり
土居 土佐男
稲妻にメス描き仰ぐ遠き空
北川 詩泉
水打ちて紅き鬼灯見つけたり
(ほおすき)
大沢 治作
湯上りのタオル片手に月を見る
加賀山猪子
(C)
お菓上げておくれお盆の仕度かな
服部 修
訪れを受けて裸を詫び申す
小玉 孩子

57
12
(付)



社団法人

桐生倶楽部会報

理事長に選ばれて

前原 一 治



今回の役員改選によ、て理事長に選ばれましたが果して会員各位の御期待に沿い得るやどうか全く恒惓たるものがある次第であります。

50年前桐生市の先輩に依って桐生倶楽部が当時としては田舎には珍らしいモダンな立派な建物が30才台の青年であった先輩の方々の自主的な御努力によって創設され所謂桐生の産業文化センターとして又社交の場として大きな役割を果たして居た事を考えますと施設の少かった当時とくでは当然かかる施設の必要性は充分考えられた事と想像出来ますが積極的

之が実現に邁進された先輩各位に対し心から敬意を表する次第であります。

勿論50年後の今日桐生市の諸施設も順次整備され又一方産業文化団体も夫々結成され力強く活動して着々成果を挙げつつある事は大桐生市建設の上からも真に御同慶に耐えない処であります。

戦後産業団体を始めとして教育文化社会事業団体等夫々の立場に於てすばらしい活動もして居りますが之等の団体が横の連絡を一層密にして活動したならばより一層桐生市の発展に大きく寄与するのではないかと思考致す次第であります。

幸い現在 200余人の倶楽部会員は夫々の団体に所属して活躍して居らるる方々でありますので桐生市建設等の問題に就いて倶楽部に於ては何等遠慮気兼ねする

事なく談論風発大いに意見を斗わす自由討議の場を作っていたならば倶楽部も活気横溢した場所となるでしょう。

又政治経済問題等に就いても卒直に之を表現して意見の交換をする場所が作られるならば桐生市にとつても大きなプラスになると思ふ次第であります。

尚倶楽部を会員相互の社交の場として又会員の憩の場として大きく利用していただくならば益々明るい親しみのある倶楽部となる事でしょう。

幸い長沢前理事長始め会員各位の御苦心御努力に依り倶楽部の施設も着々整備され先輩の創立当時の理想も順次再現しつつありますので倶楽部の将来は大きく期待し得ると確信して居ります。

今後に於ても之か理想実現の爲め会員各位の倶楽部に対する御希望御意見を御発表いただき御期待に沿い得る倶楽部を実現さすべく努力致したいと思ひますのでより一層の御支援御顧慮を心より御願ひ申し上げる次第であります。

理事長退任に當つて思うこと

前理事長 長 沢 義 雄



昭和31年 9月に理事長に選任されてから 5期10年。考えてみると長くても短かい* ひと昔、であった。

私が桐生倶楽部に入社したのは昭和

9年の 4月、理事に就任したのは21年 9月であったから社員歴33年になる。その間いろいろな出来ごとがあつたが、今は全く思い出になつてしまつた。理事長在任中にまとめた資料によれば、創立以来40有 7年のクラブの歴史は全く苦難の連続だつたと云つてよい。時局的苦難と経済的苦難が絶えずクラブの周辺に漂つていた。今ここでそれを述べる紙面もないが、そのクラブと共に私は私の半生を歩いて来た。

現在クラブは時価 1億5000万円の資産と20万の税金。従業員 2人の給与、ボーナス。会館の維持整備等考えると、クラブ役員の仕事はそう簡単なものではない。特に考えていて貰いたいことは、言うまでもなくクラブは営利事業ではない。

しかし何かで利潤を追及しない限り常に赤字の苦しみになやまねばならないということであり(それに何処から 1円の補助ということもないのである)常にクラブの体面を保つためには、相当な苦心が払われない限り、その経営はきわめて困難だということである。

私の在任中、私は多くの非難を受けていたようだ。激しく論難攻撃してくれた人もあつたようだが、クラブの健全経営を考えるならば、こうした悪評も敢えて甘受せねばならないと思つた。事業もドシドシやるがよい。会館はもっともつと充分に活用されねばならない。会員の使用があまりにも少なすぎる。だがだ——それは何れも経費を常に計算にいられたことではなければならない。赤字や、みにくく荒果てた会館で、何の事業だ、何の会だ。創立当時の郷土の先覚者たちが地下で嘆こうではないか。

桐生倶楽部創設の意義と、今日の在りかたに就て、もっと会員諸君は研究し自覚を持つべきである。郷土の誇りをさらに強固なものに仕上げてこそ私たちの桐生の発展があり得るのだ。かつて一度あ

斎藤・花桐両社員晴れの叙勲

11月3日 生存者叙勲の発表あり、当倶楽部関係者から斎藤、花桐両氏が名誉の叙勲を受けた。

名誉社員である斎藤長平氏は、調停委員としての長い間の功勞により勲四等瑞宝章、理事である花桐逸策氏は、社会保険関係の功勞者として勲五等双光旭日章を夫々受けられた。

倶楽部としても名誉な事であり、全社員が心から御両氏の叙勲をお祝ひ申し上げる次第である。

つたように、「赤字のために市に寄附してしまおう」などという暴言は、郷土や先覚者に対する冒瀆である。

幸にして政治家として多年その手腕をみがかれた前市長前原一治君を新理事長に迎えて、私たちは安心しておまかせ出来ることをこの上ないよろこびに思つている。前原君の先代悠一郎氏はこのクラブ創設当時の功勞者であつたのだから、父子 2代にわたる経営は、必ずやクラブをしてより盛大なものに仕上げしてくれるのであらうことを期待する。

最後に会員諸君にくり返し云ふ。クラブ精神を理解してその経営に熱意をもって当れ！決して赤字にするな！クラブを荒廃させるな！クラブから昔日の栄光を再現させよう！

第二回桐生倶楽部社員絵画展 (美術グループ)



第1回の桐生倶楽部社員絵画展(6月7・8日開催)が非常に好評だったこと、倶楽部が本来の姿としての倶楽部活動に漸く刮目されてきたことが相俟って、6月18日、土曜懇話会において、桐生倶楽部内に、クラブ活動の第1号として「美術グループ」が誕生したことは9月10日発行の桐生倶楽部会報第4号に紹介された通りであります。

「美術グループ」に同好者として名前を連ねた御歴々は、いずれも、鼻っ柱も強いが力量も充分という、云わば、口も八町手も八丁の面々で、この顔ぶれを拝見

致しまして、われわれ世話人一同(斎藤〔喜〕、須賀、古川)甚だ意を強くした次第であります。

かくして、かねてからの計画である第2回社員絵画展を開催すべく、準備をはじめることになりました。その一環といたしまして、第2回の「美術グループ」の会合を9月18日午前11時より倶楽部庭園において、写生会を兼ねて行なう予定でありましたが、あいにく、雨のために流会となりましたことは、かえすがえすも残念なことであります。

この会合が行なわれておりますれば、

「美術グループ」の御歴々の超傑作で、第2回社員絵画展を尚一層賑やかに飾って戴けたことと思えます。

秋季絵画展は10月20日搬入締切とし、21日夜飾付を終り、22・23日の両日、桐生倶楽部において華やかに開催されました。さいわい、秋晴に恵まれ、参観の方々も社員110名、家族及び一般300名、合計410名という盛況でありまして前回は上回る状態は、出品者ならびに世話人一同の感激、おくあたわざるものがございました。

今回は新しく5名の出品者が加わり15名32点、しかも油絵あり、日本画あり、宗教画あり、水彩画あり、似顔絵ありで誠にヴァリエテイに富んでおり、このような多彩な絵画展は世界広じといえども桐生倶楽部以外では観られないのではないかと思われたほどでありまして、出品者の皆様の御好意に対し、衷心より厚く御礼を申し上げます。とくに倶楽部の長老であられる大川英三氏、斎藤長平氏及び山川忠雄氏等の大先輩の御出品を戴き、錦上添花を添えることが出来たことは美術グループ世話人として、悦びに堪えないところであります。

今後も春秋2回の社員絵画展の開催が予定されており、回を重ねるにしたがい隆盛の一路を辿って参りたいと思っておりますので、奮って御出品あらんことを御願申し上げ、また、「美と真理」の探究にしばし浮世の憂さを忘れて絵筆を揮うことも、ストレス解消と長寿の秘訣であると思われまので、「美術グループ」に尚多数の社員の方々の参加を御待ち申し上げ、「美術グループ」生みの親である前原(勝)理事に満腔の敬意を表し、倶楽部服部氏の御骨折に感謝しつつ擲筆致します。(古川記)

倶楽部の思い出とこれから望むこと

下山 親三郎



古いことであるが、30年程前に群馬精機という会社を設立するため、私が郷里の太田から出かけてきて、斎藤長平さんを介し、桐生の有志と

初めて会談した場所が、桐生倶楽部であった。

そこには、前原悠一郎さん、森宗作さんというような桐生の大どころを始めとし10数名の有力者が待ち迎えてくれたのであるが、これらの方々が桐生倶楽部社員としての気高い自負をもって、会談に臨んでおられたことが、今日なお、深い印象として、私の脳裏に残っている。

その後、私も倶楽部に加入させてもらい、更に戦後間もなく理事の末席を汚していたが、その頃はまた社会の混雑が続き、倶楽部の財政も窮境にあったので、

倶楽部としては、云わば暗中模索の時代であった。世情も安定した今日では、倶楽部も漸く本来の機能を取り戻してきたので、今後、桐生の文化、産業或は市政の上に、社員の良識が反映してゆくような倶楽部の運営が、期待される訳である

そこで先般の会報で、書上、斎藤の阿氏が、夫々、倶楽部創立の趣旨や沿革を述べられ、倶楽部のバックボーンともいふべきものを、明らかにされたことは、今後の倶楽部の運営と社員の在り方に対する貴重な示唆となっていると思う。

私はこの線に沿って、先ず以下の如き提案を試みたい。

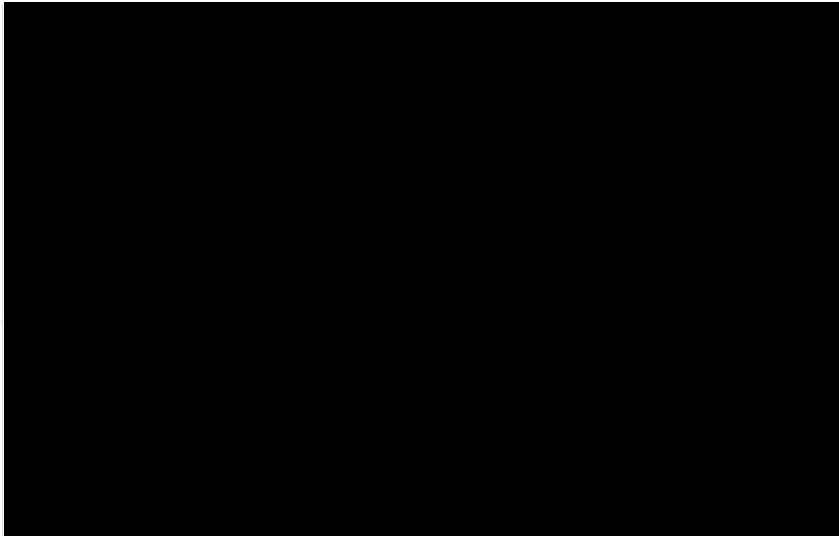
1. 倶楽部を桐生における唯一の民間団体として、真に権威あるものとした。
2. 月次会に於ては、時折、桐生の諸問題をとり上げて、討議研究し、その成果を桐生倶楽部の意向として、社会に伝達浸透の方法をとる。
3. 群馬大学工学部との接触を密に学

- 者と学術を尊ぶ風潮を高める。
4. いずれ桐生を去るべき他郷から来任している官衙、銀行会社等の代表者に対し、桐生に良き印象をもって、らうような方途を講ずる。
 5. 社員は倶楽部にきたら、お互に謙讓にし、社会での偉さを持ち込まないことが望ましい。平等で民主的な心構えと態度こそ倶楽部を楽しいものにする大切なコツであろう。
- 座席など、だれかどこに座ってもよいようになったら、夷に立派なものである。
- 以上の5項目に今回はとどめ、他は又の機会に申し述べたい。

終りには附け加えたいことは、長沢前理事長が、財政に力点をおかれたのは、倶楽部に対する遠い慮りからであることを我々は十分に理解し、高く評価すべきである。また、前原前副理事長が、特に文化面に活動されたことに対しても、深く感謝すると共になお今後も独自の企画を続けて頂きたいものである。

前原新理事長は、恐らく、財政と文化の両面に妙味をもたせた倶楽部の姿を描き出してくれるものと期待している次第である。

二 新 入 社 員 紹 介 二



倶楽部の運営は

社員皆さんの手で.....

委員会制度の発足

11月の理事会は 7日に開かれましたがその席上、委員会制度を作る事が決定しました。

とりあえず下記のように 4委員会が設けられる事となり、理事は夫々委員会所属を決定致しましたが、委員会は理事会だけで構成されるものでなく、一般社員の方々に夫々御希望の委員会に入って戴き理事と一緒に楽しい倶楽部たする為に活躍して戴きたいわけです。

未だ委員会もその制度が出来ただけなので、これから委員会毎に有能な社員の方を獲得するべく勧誘するようになります。

＝文化活動委員会＝

土曜懇話会や、美術グループ、俳句の会等が此の範時に入ります。これから更に短歌や囲碁、麻雀等々この会も出来る事でしょう。

委員長 前原(勝)
所属理事 森口、斎藤、森島

＝行事委員会＝

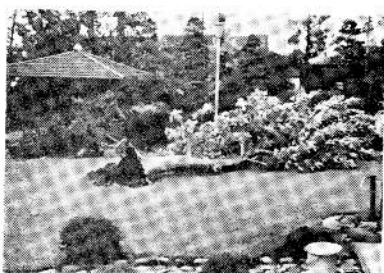
クリスマスパーティー、新年互例会、納涼会、ガーデンパーティー等を担当
委員長 平野
所属理事 飯山、塚越、吉田

＝管理委員会＝

会館(建物、設備)の管理
委員長 長沢
所属理事 花桐、川村、吉野

＝弘報委員会＝

会報の発行、倶楽部のPK
委員長 木村
所属委員 小池



26号台風大あばれ

倶楽部の被害も甚大

去る 9月25日台風により倶楽部の建物庭園も大きな被害がありました。

割れたガラス、吹き飛ばされた瓦、崩れた壁など、兎も角応急の修理は済ませましたが、倶楽部にとっては痛い臨時出費でした。

二 倶楽部だより 二

8月

- A. 納涼会 (2日)
- B. 定時休館 (15日、16日)
- C. 倶楽部俳句会 (26日)

9月

- A. 同和火災 (100万円口) 保険契約更新 (1日)
- B. 会報第4号発行 (22日)
- C. 台風26号の為会館各所に相当な被害を及げる (25日)
- D. 臨時社員総会を開催、理事15名改選される。(26日)

10月

- A. 新理事登記 (4日)
- B. 新理事会に於て前原一治氏理事長に選任される。(8日)
- C. 臨時理事会を開き、小池久雄氏副理事長、平野元吉、吉野一郎両氏を会計相当理事と決定。(14日)
- D. 朝日火災 (400万円口) 保険契約更新 (15日)
- E. 会館修理工事開始 (19日)
- F. 第2回 倶楽部絵画展を開催 (22日・23日)
- C. 社員大塚祐氏(ナトリ社長)死亡。

11月

- A. 県に公益法人の役員変更報告書及事業所住居表示変更報告書を発送 (4日)

お知らせ

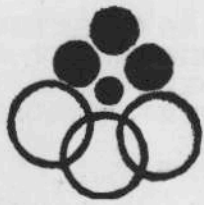
桐生倶楽部の電話番号が 12月4日より次のように変わります。御注意下さい
(5) 2755 番

× 編集後記 ×

▷別記のように委員会制度が出来ず、広報委員会は、此の会報発行が主な仕事ですが、社員の中で興味のある方は是非とも当委員会に入って、より面白い会報を作る為に力をお貸し下さい。沢山の広報委員が集まり交替で会報を編集するようになったら、パテエテイに富すだ面白いものになると思います紙面をかりて社員の方にお願ひ申し上げます。(これは広報委員会だけの特権)

- ▷理事長以下新理事長決定。委員会制度のような新しい行き方をどんどん進めて、倶楽部活動が飛躍的に活発化してもらいたい。
- ▷社員の俳句、短歌、詩などを載せたいと思います。是非御寄稿願ひます。

発行 桐生倶楽部会報委員会
印刷所 ツボノ印刷所



社団法人

桐生倶楽部会報

★ クリスマス 雑感 ★

木 村 貞 一

当番の故を以って、クリスマスに就て少々書かせて貰う。

昨年の12月20日桐生倶楽部恒例のクリスマスが盛大に、文字通り盛大に催された。

そして今ではもう、欠かすことの出来ない行事であり然も回を重ねるごとに盛大の方向に進んでいるのであり、平素は兎角* 女人禁制、的なる倶楽部で女性も子供も一緒たになって大いに笑い、大いに親しみ、大いに胸襟を開くことの出来る年 1回のチャンスである。

家族ぐるみの集りというのは夏の納涼会というのがあるが此方は主として野外だからクリスマスに於けるようなムードは出ない。

クリスマスの方は屋内で狭く居るしい会場で混然雑然としているところに近親感や華やかさが生れるのである。

それにつけても* 日本人、というのとは* 不思議な人種、のようである。

盆も正月もキチンと実行しながら何時の間にかシーズンになるとクリスマスというのをやるのが当たり前になった。



平素は* 教会、などとは全く無縁の衆も、それこそ猫も杓子もシングルベルの音に合わせて浮れないと気が済まないことになったのは民族的にプラスなのかマイナスなのか？

屁理窟は別として、兎に角楽しいことは楽しいのである。

会場がせまど、という点が一つの短所であり同時にこの行事の盛り上りのために大きな長所となっている。

この催しの成功の為には何時も優秀な* 裏方さん、の努力が土台となっている倶楽部役員の中の青年将校、を中核とする* 設営のベテラン、達が腕に汗を掛けて奮励努力した結果の上にアノ愉快な行事が展開されているのである。

和気藹々、という言葉は桐生倶楽部クリスマスのために出来ているのではないかとと思われるほどである。

適量のアルコールは* 人生の潤かつ油、である、ということはこの催しがよく証明してくれていると思う。

この行事の特色の一つは、福引が盛大であることである。

関係方面が実に気前よく、豪華な景品を豊富に寄贈する。

アトラクションも立派だった。

斯く申す私など、実は2、3年前まではクリスチャンでもありもしないのに* クリスマス、なんて……といった風な冷やかな傍観者の一人だったが今では結構、熱心な共鳴者になってしまったようだ。

これは何かしら、理屈抜きにした一種の魅力が有るのかも知れない。

今年は前よりも一段と* 良いクリスマス、でありたいものである。

◎出席数	社員及び同伴数	116名
	幼 児	21名
	招待その他	42名
	合 計	179名

二 新 年 互 礼 会 二

1967年羊年の1月元旦はさわやかな年の始めであった。恒例の桐生倶楽部新年互礼会は社員多数出席がされて2階大広間で賑々しく開催された。定刻1時紅白の幕にかざられた会場で和気あいあい雰囲気溢れる中で新年の礼を交わし決意も新たに社員相互の弥栄を祈念し合った。式次第は次の通りである。

日時 昭和42年1月1日 午後1時
司会 前原勝樹氏

- 一、国歌「君が代」斉唱
指揮 小池副理事長
- 二、年頭の挨拶 前原理事長
- 三、謡曲「羽衣」名誉社員 大川美三氏
- 四、祝杯 名誉社員 斎藤長平氏
- 五、各界代表スピーチ
政界 長谷川四郎氏
 連沼 治郎氏
 遠藤 俊一氏
 繊維 花桐 逸策氏

- 機械金属 早川 政雄氏
- 教育 森口順四郎氏
- 医学 山川 忠雄氏
- 青年 米田 壽徳氏

六、「年の始め」合唱

ソングリーダー 小野俊夫氏

七、万才三唱

前原理事長
以上

互礼会出席者 68名

当 番 前原(勝)塚越



活発化した委員会活動

前号の会報で御案内申上げた委員会制度は、各委員会毎に社員に委嘱し活発に活動を初めました。

又、2月の理事会に於て、従来の常設委員会(行事・文化活動・管理・広報)以外に、倶楽部50周年記念委員会・定款改正委員会と2つの特設委員会の設置も決まりました。

今号には各委員長の御抱負を述べて頂

くことにしました。

尚、各委員会所属の委員名は下記の通りです。

◇行事委員会(委員長平野元吉)

飯山清治、塚越平人、吉田展雄、藤井竜二郎、遠田安蔵、大槻門次、米田篤穂、小林昭三、五十嵐健雄、福島昭吉、武藤聰文、坪野茂、角田定

次郎

◇文化活動委員会(委員長前原勝樹)
俳句——森口順四郎、岩下才一郎、小玉澄男

美術——斎藤喜平、古川三雄、須賀武次

娯楽——森島秀、岸田英作、栗木博恭、木村博一、大森貞夫

◇広報委員会(委員長木村貞一)

小池久雄、野田友治郎、丸山正一、蓮幸男、青木次郎

◇管理委員会(委員長長沢義雄)

川村佐助、花桐逸策、吉野一郎

文化活動委員会から

委員長 前原勝樹

倶楽部は読んで字の如く、社員が俱に楽しむ部屋である。社員がここに集って教養を充め、イキヌキをするところである。文化活動委員会こそ倶楽部活動の中核をなすものと自負している。委員は森口、森島、斎藤の3氏と私し4名、当座森口氏に俳句を斎藤氏に美術グループを、森島氏と私が土曜懇話会で一般教養を支持つことになっている。しかし委員は時々委員会を持って今後の展開を相談しているが、分野を拡げると同時にユクののある内容を持った企画が出るものと期待されている。

土曜懇話会、既に49回を重ねているが今後は政治経済へも視野を拡げて、桐生市の発展に役立つような指導性を持たせてゆくつもりである。これこそが先輩の倶楽部創立の主旨に副うものと確信している。その手はじめに、桐生の交通網について、国鉄、東武をはじめ各交通機関の代表者を招致して座談会をひらく予定である。今後のテーマに就いては社員各位からの御提案をお待ちいたします。

美術グループ、年2回の美術展は一層賑やかに開催される予定である。5月展にそなえて、水上方面への雪山スケッチ旅行が企てられている。斎藤理事の他に古川、須賀の両社員が加わって活躍中であるから、今後倶楽部の名物になること請合である。

俳句会、森口理事は地方俳壇の俊英として、油の乗り切った俳作をしているから大した熱意である。それに小玉社員は孩子と号して虚子の直門宗匠格とあるから指導者には充分恵まれている。既に4回の句会を持って、倶楽部育ちの俳人も数名育てている。毎回10名程度であるが、せめて20名の句会にしたいと願っている。これから俳句を始めたい人にはまことに好機会である。はじめたばかりの新米揃いですから、今から入会されれば充分たのしめられます。ぜひとも御加入を

お待ちしております。

その他、短歌会も作りたいと考えます昨年中青柳武門先生の御指導を始めましたが、先生の逝去で中断しています。陣容を改めて再開いたします。歌人も少ないと思いますので期待がかけられません。小唄、写真、旅行等も考えています。御声援のほど願ひ上げます。

行事委員会について

委員長 平野元吉

桐生クラブも長沢前理事長殿の御努力と各役員諸氏の御協力に依って会館の改装や補修も完成して誠に気持ちの良い明るいクラブが生まれました。又今回の役員改選に依って前原一治氏が理事長に又副理事長には小池氏が新任せられて今後更に新企画の下により良き桐生クラブとなるでしょう。何と言ってもクラブの使命は会員相互の親睦で有って互に意見の交換や名士の講演或は又先輩諸氏の経験談等を拝聴する事に依って人格の向上を計り又色々有益な事業を施行して真に楽しく期待の持てるクラブで有る事が望ましいものです。

この意味から今度クラブには行事委員会、管理、文化、広報等の各委員会が生まれました。自分は行事委員会に属するので其の内容を簡単に御披露申しますと委員長平野又副委員長に飯山君各委員には遠田君、藤井君等の外に主として青年会議所議員で有る極めて優秀な実行力の有る青年紳士5名で石鮎の様なグループで有ります。

其の仕事は新年互礼会、ガーデンパーティー、納涼会或はクリスマス等の大行事を行い又理事会や会員諸氏の要望する大事業を遂行するのが其の任務で有ります。今後の計画として旅行等も決行して益々親睦の度を深めたいと考えて居る次第です。

以上が其の概要で有りますが思えばクラブの盛衰も幾変転時には雨漏りも甚だしく収支も思うにまかせず幾多の困難に遭遇した事もありましたが今日の輝かしきクラブを見る時に誠に感無量のものが有りまして先輩諸氏が残した此の遺産を立派に永く後世に継ぎ度いものと念願して止みません。又各委員会に於かれて益々クラブ将来の発展の為に格別なる御尽力を賜らん事を願って止みません。

管理委員会報告

委員長 長沢義雄

管理委員会とは、倶楽部内部外部の調査、什器、補修、営繕等一切の管理を言う。

何しろ会館も50年の星霜を経れば老朽化し、各所の修理が生じる。クラブの使命として会員の集るところはすべて快的でなければならぬ。従って調度品等も破損や汚れがあつてはならない。毎日の清掃も十分に注意し、励行されなければならない。

昨年は内部会館修理に11万5690円を費し、9月26日の26号台風の被害18万9000円を要した。台風の被害は昭和39、40年と無被害であつた。従つてこの委員会は予算を立てるといふわけにはいかない。台風などは全く自然によるからだ。今年内部修理は今のところ問題はない。その時になって手を加えるか否かを決めたいただ自然による台風被害等のないのを祈るのみである。前年度のこの委員会で要した費用は30万4650円であつた。



文化的遺産としてのクラブ



文化財と云えば
先ず重要文化財、
国宝等が頭にうか
ぶが、他方、無形
文化財と云うのも
あって、共にそれ
等を、保護し、後
世に永く伝える努

力がなされている。

財産はすべて、誰かに受継がれるが、昔の王様、大富豪ともなれば、今日云う文化財も山程相続したものである。

併し、資本主義の爛熟した近代国家では、膨大な個人財産には、べらぼうな相続税がかけられ、他方、文化財的な、コレクションを多大にもつ人は、財団法人の様なものを造るか、国や公的機関に寄附して、永く保存する傾向になった。

富の偏在を防ぎ、文化財を社会有にしたいと云うのは、近代人の本能とも云えよう。

扱って、桐生クラブは、先人の寄附行為による財産を持つ、社団法人である。桐

辻 勇 蔵

生程度の地方都市には珍しい、と、よく云われる様に特異な存在である。私は、文化的遺産と云ってもよいと思っている

従って、クラブ社員は先人に感謝し、文化的遺産の継承者である自覚を、常に持つ必要がある。

最近では、理事の方々が多様な行事を、計画される様になったが、会費は払うが、さっぱり出席しない人は、前述の自覚が足りないと、云われても仕方がなかろう。

それと共に、クラブ社員は、後人により立派なものを残してゆく努力を、常にしなければいけない。

そう云う観点から、私はクラブ社員の入会金は、相当高額にしてもよいと思う。私立大学の入学金や、ゴルフの会員権と比較するのは、どうかと思えるが、アンバランスの感がする。会費に就ても考慮の余地がある。

公益社団法人である、桐生クラブの社員は経済的な犠牲は承知の上で、入会するのが、前提であろう。

は、我々の知らない頃の話迄聞かせてくれる。そんな話をゆっくり聞く事の出来るのも近來希で、春芝居の時以外には滅多にない事だ。

春芝居 先代ばなしで 幕しまり

「斎藤・花桐御両氏の 叙勲祝賀会」



暮もせまりました師走22日、当桐生倶楽部に於いて社員の大元老たる斎藤長平氏が勲四等瑞宝章、花桐逸策氏が勲五等双光旭日章を夫々地域社会に対する御奉仕、御貢献に対して受賞されました祝賀会を催しました。偶々20日が倶楽部のXmesでしたので倶楽部側として御参集願うのに多少出席上に不安が御座居ましたが、さすがに受賞者の人柄と桐生文化の殿堂たる桐生倶楽部の文化勲章に対する関心度の表明（文化度の高さと云いましょうか）として二階の大広間が満員と云ううれしい悲鳴をあげる大盛会でした（参加70名）

祝賀会は行事委員長の平野元吉氏の司会で前原理事長の挨拶から初まり叙勲受賞の斎藤、花桐御両氏に対する記念品贈呈が行われ続いて祝賀第一陣を名誉社員の大川英三氏が御両氏受賞の当然さを社会的見地より逐一明確に証左なされ深い感動を与えれば続いて第二陣は元倶楽部理事長長沢義雄氏が桐生倶楽部、中興の人として亦現桐生倶楽部運営の指導者として御両氏を御賞讃なされ亦第三陣として斎藤氏の竹馬の友として、花桐氏の現役経済人の友として拓殖憲花氏が人間御両氏にして御同慶の祝辞を申上げれば斎藤長平氏の感涙にむせる謝辞、人間花桐逸策氏の感動の謝辞と半生をかけたはねかえりに対する感激の一瞬で御座居ました。座が頂点に達した時解きほぐす様に11月末より12月中旬にかけて中南米の市場開拓をかねて視察旅行より帰朝した副理事長の小池久雄氏の報告があり、川村佐助氏の乾杯の音頭で祝宴に入りました

其間社員参加者の最年少者（岸田英作君、米田篤穂君）より花束贈呈の一幕等あり、実に和気あいあい倶楽部本来の楽しいうれしい祝賀で終始致し名残りは尽きませんでした万才三唱を以って会を閉じました。

桐生倶楽部行事委員会一同斯様な、倶楽部本然の文化的香り高き会合が先先輩に続いて持てる様祈念すると共に嬉んでふなれでは御座居ますが会場準備をさせて頂き度いと思ひますし、和やかな会合に終始しました事を重ねて厚く御礼申し上げます。（行事委員会一同）



春 芝 居

大 森 貞 夫

人間誰しも、仕事の他に熱中する事の出来る、楽しみをもっているものだ。私も16年間熱中しつつ放しの趣味がある。歌舞伎である。芝居を観て居る時、芝居の話をしている時が私は一番楽しい。

そもそも私が芝居に熱中しはじめたのは19才の時、昭和26年、今の歌右衛門が歌舞伎座で、襲名披露の娘道成寺を出したその舞台を観て以来である。その頃から毎月少くも月の中に5度や6度は通い出した。おかげ様で今でも裏口から木戸御免で通用して居る。その中に観て居る丈ではおさまらず、芝居好きの仲間が集って、自分達も舞台に立つ程になった。

4年前前他界されたが、先代梅幸のお弟子さんで、女形の生き辞引といわれた尾上梅朝さんをお願いして、お稽古をつけてもらったものだ。劇場はその頃かたばみ座という三流どこが常打ちにしていた。浅草松屋の5階にあるスミダ劇場を使って3日間の公演である。おそらく他人がみたら、真に氣狂い沙汰であつたらう。知人、友人、親戚に切符を送りつけお弁当に飲物、おみやげを用意するあれである。下地をぬった丹前姿は役者気分充分でまんざらでもなかった。

スネをかじって居た学生の頃の事だから親の苦労も知らずに、こんな馬鹿げた身分不相応の遊びも出来たのだろうが、今ではそんな事は夢にも出来よう筈がない。

しかし、今でも芝居見物丈は相かわら

ず続いて居る。芝居見物の四季を通して一番楽しいのは出しものの如何にかかわらず、毎年正月、春芝居の初日に出掛けて行く気分である。恒例により2日がその初日というわけだが、正月早々東京迄芝居見物に出掛るなんて吾気な奴と、あきれられそうだが、これをやらぬ事には大袈裟の様な、私の一年は、はじまらないのである。家内もはじめの頃は淋しそうに、正月くらいは家に居てほしいといやな顔をしたが、最近では慣れたせいかそれともあきらめてか、何も言わなくなった。

今年も御多聞にもれず、2日から4日まで劇場めぐりをして来た。芝居を観るのもさる事ながら、春芝居初日の楽しみはもう一つある。大向をつとめる東京中の芝居好きが、此の日には申し合わせた様に歌舞伎座に集って来るのである。新顔もいるが、昔交合って居た連中も可成り多い。こんなのもって本當にうれしいものである。楽屋の年始廻りを済ませるとあとは久しぶりだなという事で昔ばなしに花が咲くというものである。3階にあるおでん屋に入り込んだり、すし屋に腰をおろしたり、一ぱいやりながら好き勝手なお喋りのはじまりである。好き勝手なといっても勿論芝居の事以外の話題はない。今の梅幸はこうだが、先代はこうだったとか、15日目の艶は格別だったねとか、成駒屋も絶品だが、淀君を演る迄にはまだまだとか、芝居好きの大先輩たち

二 新入社員紹介 二

定時社員総会報告

昭和41年度の会計決算報告及貸借対照表損益計算表を審議する社員総会は 1月26日開催。平野理事の会計報告に初まり前原理事長より昨年度の事業概況の報告あり引続き本年度の収支予算案の審議に移り参会社員の熱心な検討の結果全議案を承認可決いたしました。



次に今後の運営に付いて活発な意見の発表あり

1. 監事を設けてはどうか
2. 婦人社員の入会に賛成（具体案は理事会に一任）
3. 桐生倶楽部の文化活動を活発にして県や市当局より認識されるような倶楽部にして欲しい

等の意見がありました。今後共社員各位よりの御希望をお聞かせ願えれば充分検討して運営に取り入れてまいります。

開会6時——閉会9時

当日の出席者

社員総数	233名
委任状提出者	126名
出席者数	24名
合計	150名

当月幹事 前原（勝）・塚越

十一月句会

夕空に枯木の枝の細々と
 転ずれば紅葉の中の一部落
 小豆十すゑと語る句碑のこと
 押されつつ掌を合せけり西の市
 北風のこの眼差の妻嫌う
 ストープのやかんが鳴りし留守居番
 昨年の柿の頃より病むという

忘年句会

一面の枯桑烟人居らず
 村人の三十年の雪という
 ひいらぎの花かそかなり暮早し
 初雪に幼き頃をふと思ひ
 福寿草庵主は見えず日向縁
 冬枯の山路にかかり温かし
 楼上の火の番絶えず動きあし

新年初句会

この橋を渡れば開く大冬野
 霜焼の手を母の掌に包まれし
 冬の海人には逢はず砂ひかる
 山裾に寒灯見ゆる患家なる
 初詣今年は何を願かける

吟子 梅松居 貞夫 順四朗 貞夫 順四朗 貞夫 順四朗
 吟子 梅松居 貞夫 順四朗 貞夫 順四朗 貞夫 順四朗
 吟子 梅松居 貞夫 順四朗 貞夫 順四朗 貞夫 順四朗

一 法人入会

新日本絹織株式会社
 桐生市東久方町 3丁目55
 代表者 中村西四郎

二 倶楽部だより 二

12 月

- A. 固定資産税第3期分納入 (9日)
- B. 朝日火災保険600万円更新 (9日)
- C. クリスマス準備の為の行事委員会を開く (1日)
- D. 会報第 5号発行
- E. 忘年俳句会 (15日)
- F. クリスマス祭 (20日)
- G. 斎藤・花桐両氏叙勲祝賀会 (22日)
- H. 年末、年始休館 (12月30日~1月3日)

1 月

- A. 新年互礼会 (1日)
- B. 社員総会 (26日)
- C. 新年俳句会 (28日)

2 月

- A. 理事会 (6日)
- B. 県知事宛事業報告書提出 (7日)
- C. 文化活動委員会、広報委員会 (11日)
- D. 月次会武藤貞一講演会 (21日)

二月句会 (雪の日に)

五年振り友の訪れ小正月
 惣門の閉ざされてあり日脚のふ
 枯芝に動くものあり日のたまり
 石仏の頬に日脚の伸び給う

ここに又小さき流れ春の雪
 あづまの屋根に雪ある枯木かな
 雪帽子危くのせるやつでかな
 機街の雪の風情のここかしこ
 沈丁の蕾も雪に包まれし

吟子 梅松居 貞夫 順四朗 貞夫 順四朗 貞夫 順四朗
 吟子 梅松居 貞夫 順四朗 貞夫 順四朗 貞夫 順四朗

一 編集後記

▶ 倶楽部も色々な面でにぎやかになって来た。会合の数も種類も増え、集まる社員も多くなっている。

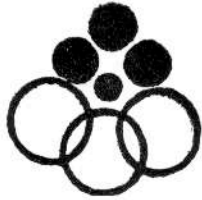
2月は例年集りが悪いため月次会を休んで居たが今年は長沢当番理事の企画で武藤貞一氏を招いて月次会を開く事にした。

当初参加人員も少いだろうと予想して1号室を会場に予定した所が申込みが多く急遽会場を二階大広間に変更、嬉しい見込違いとなった。



発行 桐生倶楽部広報委員会

印刷所 ツボノ印刷所



社団法人

桐生倶楽部会報

☆ガーデンパーティ☆ 5月 月次会



5月は倶楽部恒例の行事委員会主催の「ガーデンパーティ」の月で御座居ましたが偶々4月が4年に1回の選挙月でしたので当倶楽部社員よりの当選者10名の祝賀会を兼ね、其の上ユーマクラブよりの御好意で長崎拔天さんを御迎えして盛り沢山の催しとなった訳で御座居ます。

5月20日(土)午後5時より6時迄を二階広間で長崎拔天さんの御話を伺い、6時よりガーデンに移行して社員当選者、県会連沼治郎氏、市会町田忠一氏、遠藤俊一氏、杉野昇氏のスピーチを頂き当選の喜びを分ち会い倶楽部の元老齋藤長平氏の乾盃の音頭で和やかなガーデンパーティに入りました。当日は天候に恵まれ、目に沁みる様な新緑の倶楽部庭園で参加者80名が時の移るのを忘れホステスの行き交うソフトなムードの中に歓談其の尽きる処を知らず庭園がすっかり夜陰に包まれ名残りが尽きず会場を移し春の宵を惜しむ情景等散見、本当に倶楽部本来の桐生文化人の社交場として健やかに和やかにほほえましい会合に終始出来ました事を行事委員会一同衷心より感謝しながら御報告させて頂く次第で御座居ます。

二日本の心二 4月 月次会

2月19日クラブ主催で行われた武藤氏の講演は、氏を知るものの心を強く打つものがあった。氏は最近病気をされてからとみに発音が聞きにくく低声となったために、氏を知らない人々にとっては魅力のないものになったことと思われるが武藤氏は現代日本に於けるほんとうの日本人であって、私たちは氏を、「日本の心」と思っ敬愛している。

当日の講演の中にも、アメリカ見聞中に於けるアーリントン墓地の硫黄島戦勝記念碑に対する感想などもその現われの一つである。「あのよろこびは沖縄を決して日本に返還などしないという戦勝のよろこびだ！」と喝破し、真珠湾頭に撃沈された戦艦アリゾナを、そのまま戦士の眠る永遠の墓地とし、多くの観覧者にこれを見せていることは、日本に対する敵愾心の若き世代に対する養成材料としか受取れないとするあたり、戦争に対する正しい批判とともに、アメリカ一辺倒に終始する現政府への警鐘と見てよいであろう。

武藤氏は青壮年時代を新聞記者として

送り、その卓見は定評のあるもので、独立して益々その辣腕は光りを放った。それがために多くの支持者を得て、筆陣に論戦に各地をまわって「正しい日本の認識」のために闘い抜いている。勿論そのためには常に新しい知識のとり入れに努力し、海外も何回となく詳細に見聞し、記者時代からの外遊回数は相当数にのぼるものがある。

しかも名声におぼれず謙虚にしてたかぶらず、地位名誉を求めることなく、完全野人として堂々の論陣を展開するなど現代日本にはなくてはならない一服の清涼剤である。おしむらくは前記のように講演・演説に不向きな発声となつたために、氏の偉大さを知らない人には誠に物足りないものになつたであらうことを残念に思うものである。

今後もし武藤氏の講演等に接することがあつたならば、よく氏の人格識見に理解を持たれ、清聴せられんことを切望するものである。

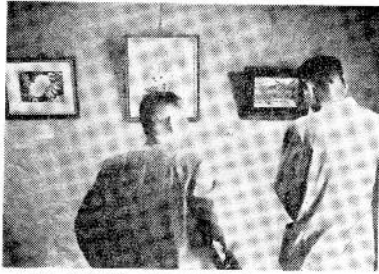
(長沢義雄記)

末筆ですが此の会合に発り一國一城の主で形成されて居ります当倶楽部に於いて行事委員各氏の絶大な御活躍が大いなる陰の力でありました事を併せて御報告させて頂きます。有難う御座居ました。

(飯山記)



第3回桐生倶楽部絵画展



桐生倶楽部の絵画展も愈々 第3回を迎え、5月20日(土)、5月21日(日)の2日にわたって、華々しく開催された。今般も、日本画に斎藤長平氏、大川美三氏、山川忠雄氏等倶楽部の長老の御出品を戴き、落合喜一郎氏、田代定四郎氏、森正雄氏のレギュラーの傑作と相俟って6号室を飾ることが出来たことは世話人としても嬉しい限りで心から御礼申上げる次第である。さらに今後とも毎回、青年を凌ぐ若さを以って桐生倶楽部美術グループに光を添え、また後進の鞭撻に寄与せ

られんことをこいねがうものである。

油絵は1号室に飾られ、前原勝樹氏、丸山貞夫氏、小出善三郎氏、江原庄兵衛氏、菊地晤氏、斎藤喜平氏、須賀武次氏服部修氏及び古川のレギュラーのほかに今回は新しく野田幸悦氏の御出品を戴き回を重ねるにしたがって充実してきたことは、世話人一同の大いなる喜びとするところである。油絵の批評は、5月20日付桐生タイムス紙上に文芸部臨時記者の記事が掲載されたので、御参照願えれば幸である。両日間の参観者は実に320名の多きにわたり、桐生倶楽部絵画展も桐生名物の一に数えられるに至った観がある。参観者の中には、「これが忙しい社長さん達の作品であろうか。」と、感嘆おく能わざる声も随分きかれたのであるが、忙中閑、心のゆとりをもつことが世の中を明るくし、ユーモアの精神にも通ずる第一歩であると長崎拔天氏ものたもうている。しかし、我々も、手離しに喜んではかりはおられない。今後は写生会な

どもどどん行なつて、さらに立派な作品で桐生倶楽部を飾り、名実ともに桐生倶楽部の絵画展を天下の名物にしたい所存である。茲に御出品を戴いた御歴々及び絵画展の開催に御尽力戴いた各位に対し満腔の謝意を表し、桐生倶楽部絵画展を盛大に終始し得たことをともに喜びあいたいと思う。

ただ、少し難を云えば、暮の色が絵画を引立てるのに聊か不適當ではなかつたかということ、照明が不完全で見にくかつた作品もあつたと思われることである。このことは予算にも重大な関係のあることであろうが、今後、美術グループとして考慮に入れるべき課題と思われるので敢えて、ここに一筆書きのこしておく次第である。

最後に、倶楽部社員のなかには、まだまだ隠れたる同好の士が多いときいてゐる。どしどし美術グループに加入していただいで、絵画を通して、ともに明るい桐生倶楽部社員の結合と楽しい社会づくりに御力添を願いたいものである。

(昭和42年.5.24 古川三雄記)

水上スケッチ行



2月25日美術グループ会合。世話人一同及び前原(勝)氏らのきも入りで、第1回のスケッチ行が決定。

3月19日朝須賀、有阪両氏のお骨折りで夫々の車に分乗させて頂き、水上は谷川岳を目ざして出発。

前原(勝)落合両先輩を陣頭に、寒風をけたてて飛入りの美女や、前橋のS氏らなど賑やかな顔々であった。総数10人

月夜野町の茂左エ門地蔵で休けい。どこか画くところを探す。観光客が多すぎると、風が荒くて、目ざす谷川岳は遠容しか現さず。ここで前橋の人や、女性 が別れて、猿ヶ京方面にゆき、吾々は水上町へ。

工事中の水上有料道路を北へ。案内を買って、私が上牧附近の山へ車を入れて貰う。展開する山容は俄然、貝眼の土を捕えて離さぬ、忽ちキャンパをかまえ、

或は色紙をぬらす先輩の瞳は、少年のその様に、歡喜そのもの。寒気凛烈の中、夢中で手が動く。烈風にイーゼルを吹き倒され、起しては、押えては、画く真剣さ。

谷川岳にいとむもの、谷川岳に背をむけるヘソ曲り、谷川岳をココロにぬたくる者、等々午後2時頃まで頑張る。

時にチラチラ吹雪あり、筆も凍てつく寒さ。未だもう一枚……と目をいからす者もあつたが……鼎路につく事にした。

驚くべきは落合さん。忽ちにして色紙3枚を華麗な点景でものし、若い人々をアツと言わした事である。

☆ ☆ ☆

絵の内容は言わぬが花。天狗の面々のこと。5月の発表展をごらんの方々の意に任せたい次第。

人々の猫背となりし雪の山

(丸山貞夫記)



趣味アンケート

会員の趣味調査

先般文化活動委員会で行った会員の趣味特技調査の結果は次の様なものでした。この調査によるともつとも多い趣味はゴルフ、ついでマージャン、ドライブ、囲碁……で、回答者1人平均4.6の趣味という多芸ぶりです。

また運転歴は54年という春山善吉氏がトップで、大部分の人が戦後の免許という結果でした。

1. 趣味のベスト10

①ゴルフ49人②マージャン38人③ドライブ29人④囲碁26人⑤絵画25人⑥俳句25人⑦旅行24人⑧小唄22人⑨謡曲22人⑩写真21人⑪歌舞伎21人

2. 項目別ベスト3

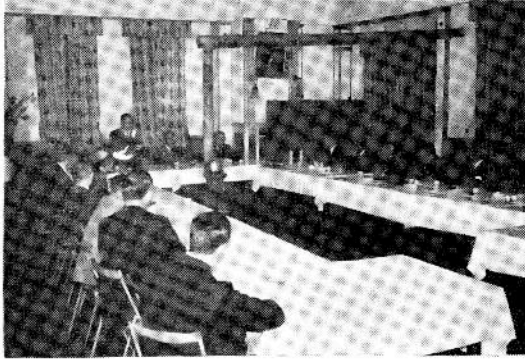
- A①絵画①俳句③写真
- B①小唄①謡曲③ダンス
- C①麻雀②囲碁③将棋
- D①ゴルフ②ドライブ③旅行
- E①歌舞伎⑤美術③音楽(クラシック)

3. 運転歴

回答者125人中37人が免許所持

1年～10年	20名
11年～20年	10名
21年～30年	3名
31年～40年	3名
41年～50年	0名
50年～	1名

交通問題についての座談会 (3月月次会)



現下の交通事情は、連日市内の何処かに救急車のサイレンを聞かぬ日はなく、一歩家を出れば水道、下水、電話、ガス等の道路工事で、何処を通つたらよいやら判らず、狭い道路に車も自転車も人間も溢れるという文字通り生命を賭けた交通戦争の様相を呈しております。

3月月次会は此の問題をテーマにして桐生警察から関署長、新井交通課長をお

招きして交通事情の現況及び取締りの苦心談などを聞きました。

桐生は交通事故の件数に比して死者が多く、その殆どが踏切事故であるという背すじの寒くなる話、無断駐車、青空駐車に対する苦情は多いが、思い切った取締りの出来ない実状、此のまま車の台数が増え続けたとしたら取締りも出来ない状況になる等と色々興味深

い話がありました。

又、そのあと社員から交通規制、駐車取締り、横断歩道の新設等に関して熱心な御要望や質問があり、署長、課長から調査の上善処する事を約束されたなど非常に有意義な座談会でありました。

日時 3月24日 6時

出席者 24名

担当理事 森口、吉野

クラブに入会して34年

加賀山 猪三郎



私のクラブに入会したのは米沢高工(現山形大学工学部)から創立当初の桐生工業(現桐生工業高校)に赴任した昭和9年の10月頃と記憶して居る。爾來今日まで正に34年の歳月が流れて居る。光陰は矢の如く30余年の人生が実に昨日の如く思われる。30余年前のクラブと今日のクラブとは建物はそのままであるが、会員の顔ぶれは相当に変わって居る。中には故人になられた方も居られ、又引退された方、桐生を去られた方等相当に入れ替りも激しかったのである。今それの方々を追想して走馬燈のように当時を思い出し万感交々たる感がある。この長年月所謂桐生の名士と交歓し、直接、間接に得たるものは多く、やはり入会したことはよかつたと思つて居る。納めた会費の金額も相当に達して居ると思うが、金では得られない尊い何ものかが得られたと思つて居り、今後も得られると確信して居る。

このようなグループは他市(少くとも本県)には見られないグループであつて本市の誇りとするところである。従つてこの卓越せる組織を助長し、成長発展させることは会員の義務であり、先覚者に対する感謝の念である。

それにつけても、前理事長を初め理事

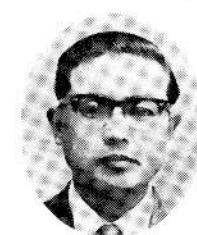
の方々には当クラブの経営、維持については相当に苦心を払われ、考慮されたことに対して深く敬意を表するものである。内部の改装、ベランダ、芝生の庭園等大分以前よりは気持のよいクラブになったのであるが、未だ旧態依然たるものもある。先年長沢前理事長の考案された高層ビルの建設は一時相当論議され或は実現の可能性もあるやに見受けられたが、反対論の圧力で、立ち消えとなつて今日に及んで居る。市の日抜き通りに高層の中央ビルが続々と立てられ、市の面目を一新しつつある今日、今尚大正時代の波に、市の中央に敷衍して居るのも時代錯誤のようにも感ぜられる。高層ビルの実現には相当の難関のあることは勿論で一朝一夕では出来ないことではあるが、宇宙時代の今日、何だか時勢に取り残されはしないかと心配される。市の文化財として保存したいのも一理があつて結構ではあるが、今後幾年かの後には時代の波に押し出されるのではないと思われる。

最後に一言したいことは昨年より始められた趣味のグループ組織である先年もその話があつたのであるが実現を見ず立消えに終つて居る。今回は相当強力に会員に呼びかけたようであり、その部門も相当多岐に亘つて居るが、実際に初まって居るのはごく少ないと聞いて居る。私も2~3の部門に志願したが実行に移されたの俳句の部だけである。本部は森口さんを主宰に数回の会合を持って活発に活動して居るが、お互いに忙しい身にと

つては、出たいことは山々であるが、それをゆるぎない事情にしばられて止むなくさぼることになる。それがつもりつもつて出席者が少なくなり、流会となつて最後は解散の破目となる。今回もこの経路を辿るのではないかと心配される。折角理事者諸氏の英智をしぼつて企画された名案を竜頭蛇尾に終らせることは惜しく、何とか持続させたいものではある。会員各位の一考を煩す次第である。

「三」という数字

有 阪 昌 治



10年来、会社の取引先である商社の役員K氏から、

かつて「三」という数字に就いて色々聞かされたことが、今以て強く印象として残り、

又私の物事の判断の基底にもなっている

K氏が云われるのに、此の世に「三」という数字を用いた諺が沢山ある。即ち石の上にも三年」「三度目の正直」「三日坊主」等々と、最初の内は「三」の使用が半ば偶然のものとして、苦笑しながらK氏の話聞いていたが、更に浜辺に立つて波の打寄せ方を見ると、一度寄せ二度寄せそして三度目に大きく打寄せ、それが繰り返されること、何かそこに自然の摂理があるのだと聞かされるに及んで、自分の身近に「三」に関連した色々のことごとが、余りにも数多くあることに気が付き、それからというもの、

「三」という数字に就いて大いに興味関心をもち始めたのである。

其の後、株式関係の人から「大廻り三年小廻り三月」つまり大相場は三年毎、そして相場の小動きは三ヶ月毎に不思議にあるものだという事聞き、私なりに「三」という数字が物事の一つの区切りであり、節であり、裏を返して云えば安定した数であるということをつくづく感じたのである。

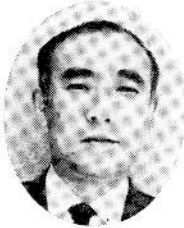
希望に燃えた新入社員が、定着するかしないかは、早ければ入社後三ヶ月、遅くとも三年目にはほぼ確定すること、逆に云えば得てして三ヶ月目、或は三年目辺りに動搖し始めることは、私のささやかな人事の体験からも何度も思い当ることである。「試用期間三ヶ月」これは殆んどどの会社の就業規則に見当る字句でもある。

私なりのこぢつけかも知れないが、何かそこに「三」という数字の不思議さ、神秘さを深く感ずるものである。

更に其の後、尊敬する先輩M氏から人生には大きく三度の失敗と三度のチャンスがあるのだというM氏の体験を聞き、自分の過去を振り返りそして又先を思いこれからの失敗有ることを予想し、大いに自我の抑制に努めると同時に来るべきチャンスと確とキャッチする為にも、日々の勤務に精励している次第である。

つきない いづみ

北川 好雄



桐生懇話会が、倶楽部の前身だといふことが、社団法人桐生倶楽部案内のリーフレットに記してある。

この懇話会は、明治33年6月に当時本店が桐生町にあった四十銀行内で、第1回会合が開かれている。——会員相互の交通親和を旨とし、兼ねて実業上健全なる発達を期する——というのが目的で、会員39名、強力な団体であった。会費は、1ヵ月1円であった。

その業績の一部をみると、桐生商工業案内の発刊、桐生停車場改築、電話設置の推進、電力供給会社の創設、中央から講師招聘して各種講演会の主催など経済

産業、文化の各方面に活躍している。当時、玉突きを桐生館に設置して——本会員は無料を以て、玉突きを為す特権を有するものとす——というしかつめらしい規則をつくつたり、ハイカラぶりもうかがわれ、ホホ笑ましい活動状況であった。

大正5年6月この懇話会は解散し、桐生倶楽部設立の決定まで、17年間にわたって、桐生市発展のために、指導的役割をはたしている。そして、懇話会全員のほか、門戸をひろげて、新社員をつのり社交倶楽部を創立した。

社員175名、特別社員288名、賛助会員20名が、当時のメンバーである。

由来、「クラブ」は、欧州方面では、古くからあったが、日本では、当時漸新な考え方であったと思う。

大正7年8月には、社団法人の許可を得て、8年暮には倶楽部の社屋が完工し現在の姿を現出したのである。

その当時からの発展経過についても、

社員先輩に、つぶさにお話を伺う機会を是非つくつていただきたいとねがう。

これは、わが倶楽部が、異隆の曙光を望める昨今、過去50年の歴史を知り、確たる基盤に立脚して、将来の道を照すよすがにしたいからである。

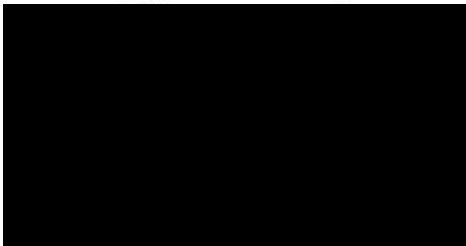
先人の所期していたように、実のある社交場として楽しみ、人としての肉づけをすると共に、社会的カミシモの着用はやめて、まったく丸腰の人間性のふれあいの集会場としても、立派な殿堂でありここに、本市各方面の良識をプアルして談笑のうちに、爽快なアイデアがうまれたえず、地域社会にながれだす。

いわば、健全で、建設的なそしてゆたかな泉として育成する。

すなわち、本市発展の源泉としての、「桐生クラブ」を確立してゆこうというもので、つねに、その原動力機関のはたらきを期したいものである。

参考——前原悠一郎氏著「桐生の今昔」

二新入社員紹介二



法人加入

医療法人岸会岸病院
桐生市相生町2丁目227
電話(4)8949番

二倶楽部だより二

- 3月
 - A. ローカル紙記者(7社)と倶楽部の懇話会(2日)
 - B. 消防署より防火設備点検に来館(3日)
 - C. 会報第6号発行
 - D. 趣味の調査(アンケート)を配布
 - E. 美術グループ「谷川岳雪山写生会」(19日)
- 4月
 - A. クラブ庭園の桜満開(6日頃)
 - B. 固定資産税額新決定に付き理事長より減額交渉をする
 - C. 吉野一郎氏宅大火に付き倶楽部より御見舞をする(15日)
 - D. 市及県法人税均等割納入
- 5月
 - A. 事務用ロッカー購入
 - B. 行事委員会を開く(9日)
 - C. 定款改正委員会を開く(16日)
 - D. 絵画展(20・21日)
 - E. 会報委員会を開く(17・25日)
 - F. 住友火災と保険契約(400万円)更新

隣坑のただ松蟬を聞きしのみ
桑伸びし話声のみ曲り道
娘へ便り津軽の野べも夏来しや
藪咲く部屋に通され待たざる
温泉の町に続く林道雪まばら
花菖蒲未だしじしみ蝶のとぶ
街道の川辺に沿いて竹の秋

森口順四朗
前原梅松居
岡田あきら
古川光春
大沢治作
小玉孩子
岩下吟千

桐生倶楽部俳句会(五月句会)

お知らせ

7月の月次会の御らせ。

7月は行事委員会主催で倶楽部社員家族ぐるみの*納涼会、を開催致して居ります。夏の宵に桐生文化の殿堂たる桐生倶楽部庭園で桐生文化人を一堂に集め、定例に依り飲み放題、食べ放題の歓談の中に社員家族ぐるみの懇親の中より明日の香り高い桐生が生れる事を期待して止みません。行事委員会一同腕を奮って設営させて頂きますので多数の御参加を御待ち致します。

編集後記

▷会報を少しでも面白くし、会員の皆様に読んでいただき、会員相互をつなぐパイプにしたいと委員一同頑張っていますが委員の不慣れと材料不足で仲々です。会員の皆様の投稿を是非御願いたします。

▷この号に掲載しましたが文化活動委員会で行った趣味のアンケートがまとまりました。このデータをもとにして今後多くの趣味のグループが生まれ、会員相互の交通が盛んになることを期待しています。

「クラブ」とは？ CLUB

共通の目的を持つ人々を会員組織とし、社交、娯楽、運動競技、社会文化活動、教育厚生活動などの目的で集まる場所。

クラブ組織は、その目的の如何に拘わらず、社団又は法人組織のものが多く、その運営管理は会員から役員を選任して行うのが普通である。

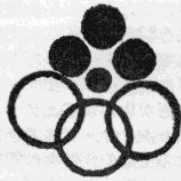
経営維持は特別のもの以外は会員の出資や会費によるものが多い。

欧州や米国などではクラブ活動が種々の面で生活にとけこんでいるが、此の面での歴史の浅い日本ではクラブ中心の社交はまだその端緒についたに過ぎない。

(日本百科大事典より)

発行 桐生倶楽部広報委員会

印刷所 ツボノ印刷所



社団法人

桐生倶楽部会報

—南川潤氏と桐生倶楽部—



戦後の一時期
境野理事長時代
理事としてフ
レッシュな感
覚で活躍され、
当倶楽部に大
きな貢献をさ
れた作家の南
川潤氏が亡く
なられてから本
年の9月22日
で13回忌を迎
えました。本号
は南川氏を知る
人達から寄稿を
頂き氏の思い出
をしのぶことに
しました。

南川氏略歴

本名 秋山賢止
大正2年日本橋の材木問屋に生る
昭和12年慶応義塾大学英文学科卒業
昭和12年「掌の性」により第2回三田
文学賞受賞
昭和13年「風俗十日」により第3回三
田文学賞受賞
昭和19年桐生市に疎開す
昭和22年5月桐生倶楽部入会
昭和23年9月理事に選任される
昭和29年9月死亡
主な著書「風俗十日」「失われた季節」
「生活の扉」

南川さんの文化性導入

文化活動委員長 前原 勝 樹

私は南川さんの紹介で倶楽部に入社したのだから一応その思い出をかく資格はあるわけである。

私が南川さんを知ったのは終戦直後、患者として往診したことに始まる。当時の私は肩章こそないが軍医少尉の軍服で将校用の図嚢に診療具を入れて、自転車で宮本町の南川宅へ行ったものである。

私も昔は文学少年であったから南川さんの主治医になるのは大いに光栄と感じていた。執筆中の書斎や、文具、書籍などをもの珍らしくながめ診療が終ると一時間くらい*文学講話、をきいたものである。

なにしろ石坂洋次郎に先だって第2回第3回の三田文学賞を獲た中堅作家であるから大したもの、一時は雑誌記者が次の間にとまりこんでいて。原稿の居催促をしたものである。そんな晩には呼ばれてブドウ糖ビタミン等を注射して、先生の執筆を応援したこともあった。

南川さんの倶楽部への貢献は*文化性の導入、にあったと思う。当時の革新理事長である境野さんとはよく馬が合い、戦後の新時代に適應する倶楽部造りに精進された。文化性の少ない土地だけに桐生倶楽部がとかく経済的、産業的の色合が濃かったが、境野、南川の縁で文化倶楽部への転換の梶がとられたのであり、倶楽部主催の夏季大学などがあって南川

講師の講義は大した評判であった。

現在の倶楽部に新しい文化委員会が出来て私がこれに関係して微力を致しているのは因縁浅さからと感ずる次第である。私の夢としては、文化活動委員会が主管して*南川潤選集、の出版もしたいし、文学碑なども建てたいと思っている。無法者の坂口安吾に押つぶされている南川潤の遺業を回復する事は桐生文化人の責任であり、その先鋒となるのが倶楽部の文化活動委員会であると思う。

南川さんと青年部

斎藤 喜 平

南川さんに初めておめにかかったのは先生が三田文学賞受賞作品の「掌の性」署名本を持って父を訪ねて来られた時で「水戸作」の弟さんということで、当時中学生であった私には近寄り難い存在だった。白哲の、見るからに新進作家らしい姿が印象に残っている丈である。

其の後、戦後の混乱期に友人の小池君を通じて芭蕉でお会いし親しくお話を聞くようになり、偶々当時の理事長境野武夫さんの御尽力により桐生倶楽部青年部の誕生を見、前理事長の長沢さんと共に担当理事として亡くなる迄、私共は大へんお世話になった。

青年部は文字通り我々戦中派に残された灰色の青春の中の唯一の華やかな思い出

出となっているのであるが、此の青年部の中心であり推進力となつて下さったのが南川さんであった。青年部の我々にとつては南川さんは作家というより、人生を論じ芸術を語り、野に遊ぶかけがえのない良き師でありやさしい先輩であり、立派な理事であった。

病身の身を細身の杖に托して、いたいたしい姿をおして我々若者の為に身体を張つて接して下さった事は今も尚我々の胸底深く、文士作家を越えた真の知識人、文化人として強く焼きついているのである。

先日先生の13回忌の墓参の後、遺族の方々と数々の思い出を語り合う裡に、かつて青年部に籍を置いた一人として先生が口ぐせの様に「みんな幸になれよ」と云われて居た声が聞えてくる様で何か大きな借を残しているような気がしてならなかった。メンバーの何人かは現在正社員となつて立派に活躍されているが、いつの日か、かつてのメンバーを集めて先生や境野さんを偲びながら両氏の靈に成長した姿を見て頂きたいと思つている。

よき師 小池 久 雄

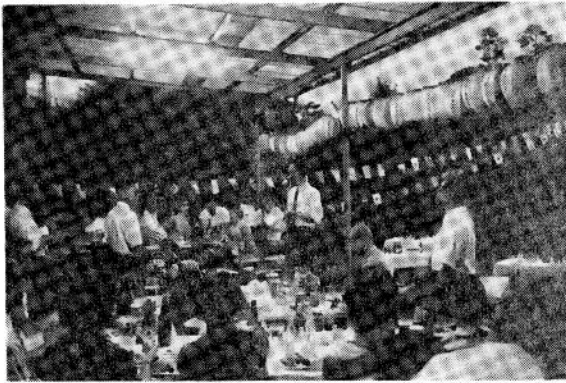
南川先生を初めて知つたのは戦後間もない昭和21年の晩夏であった。繊細な感覚と鋭利な知性に裏打ちされたスマートな会話、豊かな常識と人間に対する愛情に満ちた思考。すっかり人間南川に魅せられてしまった。

爾来、先生は私の人生に於て最も影響される所の大きかつた師となり先輩となつて下さったのである。

翌22年の春倶楽部青年部が出来たのも斎藤、大川名誉社員、境野、長沢前理事長等の御理解とともに、南川先生の示唆による所が大きしいし、青年部が発足してから月2回の会合には病弱の身で殆ど毎回出席され、一緒に遊んで下さった時には人生や芸術を語り、時には他愛ない遊戯に興じ、時には近郊を散策するなど。いつも先生は愉快そうであつたし、私達も実に楽しかつた。今にして思えば先生も随分負担に感じられる事もあつたろうが、先生の愛情に満ちた楽しい雰囲気、私達に酔う思いで、私達は貴重な青春の時代を過ぎて頂いた。当時の青年部のメンバー誰もが此の楽しい思い出を忘れ得ぬであらうと同時に、先生に対する感謝の念はつきない。

(その青年部が機縁で先生は倶楽部の正社員となり、やがて理事に推された) 果はせるころにてありし忌日かな

二 家 族 納 涼 会 二



7月25日倶楽部庭園に於いて桐生倶楽部家族納涼会を催しました。

桐生倶楽部家族納涼会とは伝統ある桐生市の町造りに参与したこよなく桐生を愛する青年グループ「桐生懇話会」のメンバーが名実共に桐生に文化の殿堂、桐生倶楽部 を作って桐生の文化人を集め

共々手をたづさえて時の歩みに順応した町造りを其の家族の力強い理解の下に展開しようとした先達の意思の下に斯様な機会を作って今日に継承されたものを推測致します。曲折はあっても其の企画と催しが意思を引継がれて来年は50周年を迎える訳ですから桐生文化人の一員としての誇りの下に未永く積み重ねて行き、楽しい会合でありませう。留意する処に斯様な定例行事を担当する行事委員会の行き方と運営方法が暗示されて居ると理解させて頂き行事委員一同喜んで手を汚し、汗を流して事に当して頂いて居る訳で御座居ます。

家族納涼会開催10分前に夏の景物で御座居ますはげしい夕立の為に御出席の通

知を頂いて居ります方々も出足を控されましたのでしよ92名の参加にとどまり一寸淋しい感じでは御座居ましたが夕立をさけて用意されたテーブルをガーデンからテラスへ亦雨が止みますとテラスからガーデンへとセルフサービスで移動して桐生倶楽部ならではの何時もの雰囲気生ビール飲み放題オードブル食事も十二分に家庭的にと水沢のうどん、おにぎり、アイスクリーム、デザート迄盛り沢山に用意させて頂き、夏の宵をバンドを準備させて頂いて只々楽しさ一杯の中に終始、夏の景物として各テーブル間に花水、噴水の真似事に涼感を盛り上げ夕暮みの中に花火の打上げ金魚釣り、ボンボン釣り、団扇使いの音に夏の風物詩は満点、西瓜割りの子供の一喜一憂に懐古の念にしたり時の刻みも忘れ9時迄楽しいやりとりが各テーブル間に行き交い友情をはぐくみ、懇親の情は爽り文字通りの楽しい会合でありました事を更めて御報告申上げますと共に多事多用の中を御参加下さいました事を深謝して筆を擱かせて頂きます。「行事委員会一同」

「エッフエタ」

森 正 雄



聖福音の中に、「キリストがガリラヤの海に行かれた時、人々のたのみに応じて唾とつんぼの人をつれ出してその耳に御指を入れてまた唾して

その舌にさわり、天をおおいで息を吐き「エッフエタ」といい給うた。開けよとの意味である。するとその耳はひらけ、舌のもつれはとけ正しく話した」として居る。また私たちが信者になる時の洗礼式の時にも、その故事にならって神父は唾きした指を耳などにふれ「エッフエタ」と唱えます。私たちはつんぼではないが神の御言葉真理をきくに弱かつんぼ同様だにちがいない。霊的な耳、きこえる耳閉ざされた耳が開くようにとの意味である。聞く耳を持たぬものにとつては、折角のよい話しかけも「馬耳東風」に終つて了う。実際私達は四六時中見たり聞いたりしてはいるものほんとうに聞いている事は、そんなに多くはないような気がする。一方では話したと云い他方では聞かぬと云い争う事もしばしばあるものだ。この事は人間の能力上止むを得ぬ事で許され事と思ふ。しかし一人人間は相手方の話を十分聞こうとしない傾向がある様だ。

今も議会は与野党の間で收拾のつかない状態になってしまった様だ。ベトナムに於ける対立、アラブとイスラエルの対立、アメリカの黒人問題、何処を見て

も対立、対立ばかりである。対立はあってもいいが、相手とどうして話し合いがつかないのか。耳が閉ざされているとしか考えられぬ。先日「天地創造」のすばらしい映画を見た。不遜な人間がバベルの塔を建てはじめたが、一瞬、言葉が通じ合わなくなつて、お互の耳が閉ざされてしまった結果、散り散りに解散してしまふ場面があつた。

ただ現在の人類は昔から思ふと色々な意味で、物的には勿論の事、精神的にも随分進歩して居る筈である。だから相手方が良識のある限り、大概話し合いがつくものである。多少相手が無茶であっても、譲歩の態度によつて、争いを和げる事が出来るにちがいない。ここで有名な聖フランシスコの「平和の祈り」の一部を紹介しよう。「愛されるよりも愛することを理解されることよりも理解することを」この精神が世界中に拡がるならば世界に真実の平和がもたらされる筈である。「愛」があるならば「エッフエタ」耳は開かれ、相手の心が通じ和解出来る筈である。先づ私たちは身近な家庭の中で、そして家庭の延長のように社団法人桐生倶楽部の中で「エッフエタ」の声に応じ、お互いに心から親しみ合い、その雰囲気桐生全市に拡げたいものと思ふ。楽しみと俱にする名にふさわしい桐生倶楽部の大きな役割にちがいない。

最後に過般「ユーモア・クラブ」の新発足が伝えられたが、其後どうされたか講演を聞いて、私も大変よいと思つた。

真実の「ユーモア」は愛の表現でもある。従来「ユーモア」はとかく浅薄な言葉のあやをもて遊ぶ程度のものが多かったと思ふ。真実の親子の愛情、夫婦の愛情、友情なくしてユーモアは生れるも

のではない。愛と理解なしの「ユーモア」はつまらぬものであり、時には相手の心を傷つける事すらあると思う。ユーモラスの言葉を云う方も、それを聞く方も「エッフエタ」でなければならぬ。キリストの云われた「エッフエタ」には、今迄述べた以上の深い意味があるのは勿論である。神の御声をきく耳を持つてとの意味である。神を忘れ、不遜な人間中心の世界には、バベルの塔を建てた人たちと同様、ただ混乱と悲惨な運命が残されるだけと思ふ。(8月4日)

桐生祭と八木節音頭

藤井 龍 二 郎



伝統ある本町通りの祇園祭が桐生祭に変わつて4年、漸く官制から脱して民衆のものになってきた。そして他市から視察も来る様になり北関東

の名物となる日も遠くはないと思ふ。

八木節は全国的に有名な音頭であるが昔の堀込源太の野卑な文句と中腰で腰をふる様な踊を連想して下品な感じを与える。しかし景気の良い調子でトロットにもルンバにも変曲出来て若人にも親しめるリズムである。歌詞も織物宣伝に桐生の風物を歌い込んでよい。踊は阿波踊と比較してむづかしいとか前進がないとか批評する人があるがこう云う人は踊の輪に入らないで見た丈で云う人達である。手かすが少い割に変化があり一寸教われはすぐ出来て楽しめる。それに直立の姿勢で昔の八木節音頭とはまるで違つて居る。見た丈では一寸覚えにくいがいれば

すぐ出来るのがよい。この踊は元々くらの回りを廻って踊る様に出来て居るので前進が少ない。阿波踊の様に町中流して踊るならその様にかえねばならないがその必要はない。

桐生の街中に景気をつけ夏枯れの商店街をにぎやかにし周辺のお客を集める手段として益々盛んにやってもらいたい。

そこでユニホームの浴衣である。桐生織物の産地として図案が下手であった。これは結果論であると云われればそれ迄だが料のわけの菊五郎格子の中途中端が反って模様をいかつくして居り模様全体がむりに絵羽にした感じで、ずっきりし

ない着尺の機屋さん図案家も大勢いる事だから来年にはもっとあっさりした粋な柄をこしらえてもらいたい。勿論絵羽風の模様が良い。この出来の上手下手がさすがに織物産地だと他市に云われる元である。

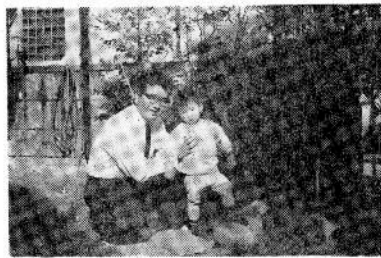
次に地区別にある子供みこしであるこれは本町の祇園祭の附属物である。子供みこしと云っても大人でなくては、かつげない重い物が多い。又この頃の子供はみこしをかつぐ魅力より漫画や怪獣のテレビ、絵本を見る方が好きである。或地区ではやめた処もあるが継続している処もある。子供を口実にする大人の遊びな

ら止めるのが本当だ。当番町会の役員がその間商売を投げ打って町会の費用と有志の寄附を多額に消費するのは一考を要する。かつぎ手の少ないみこしを出すなら三輪車にのせて子供に構みこしをかつがせる程度の簡単なものに出来ないものか。所謂合理的な方法に変えるか一層やめて全市のお祭の中に溶け込む方法に考えてしまいたいものである。その地区地区の事情があるが一考して戴きたい。

兎に角やり初めた桐生祭だから一層にぎやかに有意義に桐生の宣伝とその発展の為に北関東の名物として大々的にやってもらふ様に希望する。(42年8月記)

父と子の名勝負

武藤 聰 文

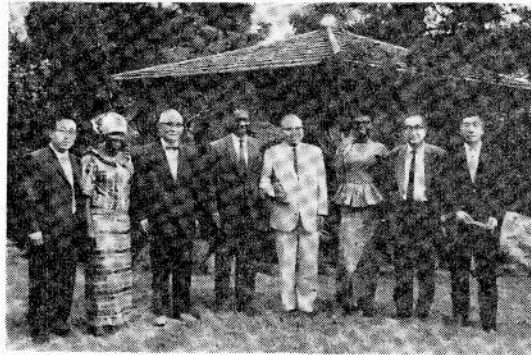


最近、桐生クラブに基会が始まり、私も下手ではあきすが、好きなので、今後出来るだけ参加してみようと思つてます。それで、私の学生時代に、前クラブ員であった父と、毎日の様に、碁将棋をやつて居た事を思い出して、なつかしさに筆を取つてみたいと思つてます。その頃碁将棋では、木村名人と升田八段の名人戦及び碁では、貝清源対坂田八段の試合が行なわれて居て、一般の人をも含めて花ざかりの時代だつたと思つてます。夏休みだつたので、私は十和田方面に行きたくて、費用その他の点を考へて居た最中でした。考へた末、費用を手伝ってもらつたため、父に将棋十番勝負を申し込んだところ、心よく承知してもらいました。今考へると勝つても負けても行かしてくれ積りだつた様ですが、一日五番勝負、二日で計十番勝負と云う事になり、名人戦が始まりました。碁はその頃習いたてでしたが将棋は暇にまかせて、友人と一日に五十番位指して、五百番勝負などと云つて大試合(?)を行なつて居り、授業中に詰将棋を考へていると云つた、いわゆる、油の乗りきつた時代でした。二日目が始まつて五対四で私が勝つて居り五分になるか六対四で勝つかと云う。私にとって重大な場面をむかえました。十局目は中盤を向へて勝負五角のところでした。私の手番中来客がありまして、父が応待して居る最中に、どうしても勝ちたい私は、自分の角を敵の王の一つ上の段に行く様に動かして、それでも不安なので銀を向うの持駒から自分の方へ持つ

てきとききました。来客中に形、有利となつて居るので、父がすわり大長考を始めました。尤も大長考と云つても二、三分のものです。それから接戦となりましたが、貯金がものを云ひまして勝利となりました。旅行にも行つてまいりました。今一人の子供の親となりまして他人に迷惑をかける事はいけないが、父子で、スポーツ、碁将棋で、子供が勝ちたい一心

でする反則は、或る程度許せると自分勝手に思つて居ります。そんなユーモラスな家庭を誇りにして居ります。今、クラブに基会が発足した事にあたり、勝負事の好きだつた父が生きていたら、水曜日喜んで出て行く様子が眼に浮かびます。子供が小学校二、三年になつたら教え始めて、早く好敵手を作つてみたいと思つてます。

二 ガーナ大使来訪 二



駐日ガーナ特命全權大使 エスピー・オー・クミ氏は 7月31日の桐生市公式訪問に先だち、28日二人の姪をともなつて私的に来桐、当倶楽部へ立寄られた。

左の写真はその時のもので、桐生織物協同組合幹部と一緒に撮したもの。

桐生倶楽部句の集い

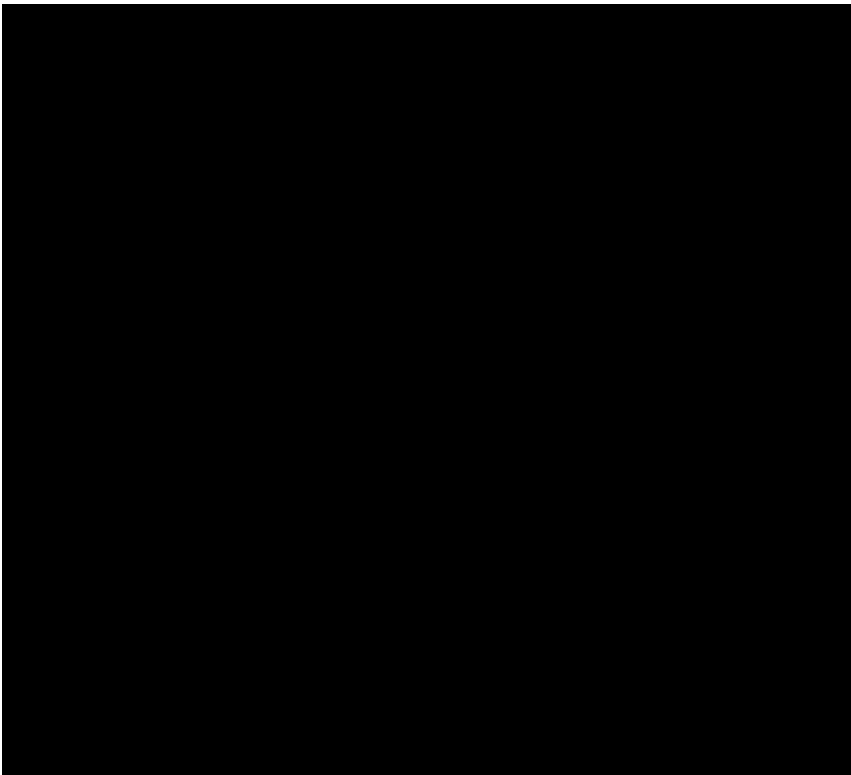
九月十九日。十六夜であり、子規忌にも当る絶好の月例会だつた。だが、夕方からの心憎い曇り空で、名月に接することが出来なかつたのは残念。

秋の山晴れて山容正しうす
水白くおどると言ふもいよよ秋
屁放虫話の筋を乱しけり
秋雨に垂れ下りたるさくろかな
十六夜や倶楽部と云へる古館
長雨の茸のたよりほつ／＼と
コスモスの群がり咲ける宿なりし
ひとしきり思ひ出話栗を食む
祖父のごと曾祖父のごと秋蚕飼ふ
みんな、せつかくの十六夜の月を心待ちにしていたが、あきらめて、月と霧の兼題で、又一句会。帰る頃には秋雨がし／＼と冷たかつた。

語ること途絶え勝なり月を待つ
あの雲に月あるらしやうす明り
十六夜の曇りしま／＼に更けにけり
期せずして中庭に出づ月の友
十六夜や昨夜ののこりづいぎ汁
チャルメラの消えてゆきたる夜霧かな
潮の霧にかくれし櫓音かな
霧の潮朱けの鳥居はかしことか
山霧の流るゝを見て旅にあり

久緒 順四朗 光春 久緒 順四朗
吟子 梅松居 治作 梅松居 吟子
あきら 治作 梅松居 吟子

☆ 新 入 社 員 紹 介 ☆



法 人 加 入

日本生命桐生支部
桐生市本町6丁目36
電話④2632番

二 倶 楽 部 だ よ り 二

6 月

- A. 美術グループ修道院写生会 (11日)
- B. 柘植憲邦氏夫人死亡理事長以下告別式参加 (15日)
- C. 初心者俳句講座 (講師荒川あつし) を開く (23日)
- D. 全館レースカーテン取替

7 月

- A. 室内室外消毒を行う (11日)
- B. 庭園雑草除去 (1~24日)
- C. 民間非営利団体並消費報告書を県に提出
- D. 納涼会 (25日)
- E. 囲碁の会結成する (29日)
- F. 職員夏季手当を支給

8 月

- A. 囲碁の会例会日、毎週水曜日と決める (2日)
- B. 固定資産税 (第1、第2期) 支払
- C. 斎藤長平氏夫人死亡告別式に理事長参加 (17日)
- D. 定時休館 (15日・16日)
- E. 会報第8号編集委員会を開く

囲 碁 部 会 結 成 報 告



先に行なわれた趣味のアンケートの結果、多数の囲碁愛好者の居る事が判りましたので、これらの社員に対し、改めて囲碁部会の結成を相談しました所20数名の賛同を得ましたので此に第1回会合を行い (7月29日午後5時於桐生クラブ) 次の事項を決定し、美術、俳句部会に次いで新しく囲碁部会の発足が決定しました。

1. 毎月原則として毎水曜日午後5時よりクラブロビーに於て手合わせを行う。
2. 会員のレベル向上並びに初心者の指導の為、適当な指導者を御願ひする。
3. 春秋2回、大手合わせを行う。

4. 部内事務処理の為、下記の世話係を設ける。
斎藤、木村、米田 (記録) 武藤 (会計)

囲碁部会部員名

前原一治、小池久雄、吉田展雄、斎藤喜平、木村博一、米田籌穂、関口三四郎、小長谷博、武藤聰文、蓮沼治郎、小島貢、駒形行信、遠藤俊一、大沢徳三郎、野村年穂、長内清、巴山栄三郎、野田友次郎、大沢治作、辻勇藏、岡崎弘、中村茂、小林一好

初心者大歓迎です。御希望の方は奮って御入会下さる様御願ひ致します。

(文化活動委員会木村博一記)



☆ クリスマス ☆ の お 知 ら せ

桐生倶楽部定例の一大行事で御座居ますクリスマスは云々迄もなく12月に盛り沢山の企画の下に和やかに催したいと今より計画致して居ります。何とぞ奮って社員皆様の良き御智恵と御協力を頂戴して盛大なクリスマスになります様御願ひ致します。12月初旬になりましたら恒例の福袋を作らせて頂く関係上我假に参ると存じますが其節は多大なる御厚情を御願ひ致します。
「行事委員会」

発 行 桐生倶楽部広報委員会
印刷所 ツボノ印刷所



社団法人

桐生倶楽部会報

前原理事長の御逝去を悼む

元旦の互礼会には元気なお姿を見せられ、新しい年の御抱負などを語っておられた前原理事長に、今は追悼の言葉を申し上げなければならぬとは何とも悲しい限りであります。

前原理事長は昭和29年当倶楽部理事として選ばれ、一昨41年9月には全社員の与望をになつて理事長に就任されました。

16年間桐生市発展の為につくされた名市長としての手腕が、当倶楽部運営の面でも充分生かされ、委員会制度を作り、文化活動を活発にし、社員数を増大し、着々と其の成果をあげられました。

特に本年は倶楽部創立50周年に当りますので、これが記念事業を非常な熱意で準備されておられましたのに、其の途次に急逝されたのは全く惜しんでも余りあ

ることです。

其の人柄、識見については今更喋々するまでもなく全社員の皆様がよく御存知の通りで文字通り全社員の敬愛するに足る理事長でありました。

御尊父の名誉社員であられた前原悠一郎氏も桐生倶楽部創立の功労者であります。倶楽部設立に際し、既存の倶楽部を視察調査し会館建設資金の調達、建築施工の依頼、什器備品の購入等々に身をもつて当られ、設立後は初代理事長金子竹太郎氏のもとに副理事長として其の経営に力をつくされた功労者であります。

このように二代にわたり桐生倶楽部の為に尽力された事は桐生倶楽部の歴史の上に特筆すべきことであると思われま

す。前原理事長は御就任の際「現在は産業団体を始めとして教育文化、社会事業団体等夫々すばらしい活動をしているがこれらの団体が横の連絡を緊密にして活動したならばより一層桐生市発展に大きく寄与出来る。幸い二百数十名の桐生倶楽部社員は夫々の団体に所属して活躍しておられる方々なので、当倶楽部を卒直な意見交換の場所として頂くなら桐生市にとつても大きなプラスになると思

」と述べられております。

前原理事長は、当倶楽部をたんなる社交の場、社員の憩いの場としてだけでなく更に積極的に桐生の政治、経済、文化諸問題についても夫々の業界、団体を代表する社員を通して倶楽部が其の横の連絡機関ともなり、意見交換の場ともなる事を理想とされておりました。

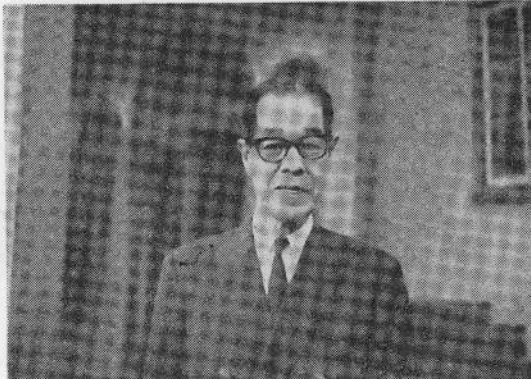
然もこれは桐生倶楽部創立当初の理想でもあつたように思われます。

あれを思い、これを思えば益々前原理事長を失つた事が悔やまれてなりません。せめてあと一年でも二年でも理事長の職におられて倶楽部発展の為に御世話頂きたかつた。いや、せめて五十周年の日まで待つて頂きたかつたと思うのが、全社員の真情でありましよう。

天命をかさず、此の上は残された私達社員一同、前原理事長の理想とされたような倶楽部とするように精一杯努力することをお誓い申上げ、その霊の安らかならんことを願うよりありません。

在りし日の前原理事長の温顔をしのびつつ謹んで桐生倶楽部社員一同限りなき哀悼の意を表する次第であります。

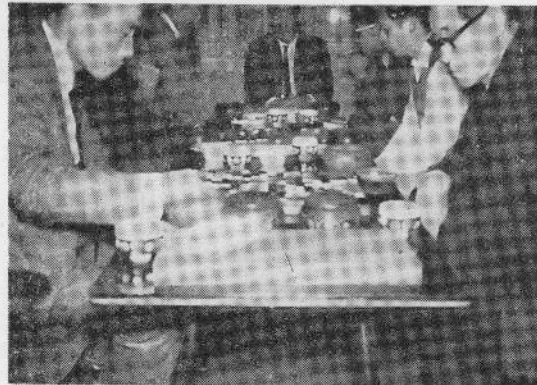
前原理事長の在りし日を偲ぶ写真



倶楽部玄関前で (四十二年十一月)



クリスマス祭 (四十二年十二月)



囲碁部例会 (四十二年十月)

22日の市民葬に当り当倶楽部として前原理事長の御霊前に生花一对及び小池副理事長より弔辞を奉呈致しました。

囲碁部会秋の大手合せ

囲碁部会は二十数名の入会者を得て昨夏発足以来益々盛況です。昨秋11月には県知事より優勝盃の寄贈を得て待望の第1回大手合せを開催しました。成績は下記の通り。

尚本年は特に初心者を迎える方針なので御希望の方は奮って御入会下さるよ

A	1	木村	2級	—	木村 2級
	2				
	3	武藤	3級		
	4	関口	5級		
B	5	野村	2級	—	小長谷 2級
	6	小長谷	2級		
	7	前原	5級		
	8	加藤	4段		
C	9	大沢徳初段		—	森口 1級
	10	大沢治初段			
	11	辻	5級		
	12	森口	1級		
D	13	山根	2段	—	山根 2段
	14	長内	2級		
	15	斎藤	2級		
	16	駒形	3級		

うお願い致します。(囲碁部 木村)
 日時 11月23日 午後1時
 場所 桐生倶楽部
 方式(1)参加者15名を抽選により4グループに分け総当り戦。
 (2)各グループの優勝者4名により再度総当り戦。
 (3)段級位は平素の実績により定め1級1目のハンデとし、5目半のこみ出しとする。

木村 2級 (2勝1敗)	—	一 小長谷 2級 (優勝)
小長谷 2級 (2勝1敗)		

シリついてしまった。小出さんの如きは10米も道具をとばされて、探す一騒動であった。

ダムの上は三つの川が合流して、全山ハゲと云つても過言ではない。製銅所の吹き出す亜硫酸ガスと、廃棄物の毒で、草木は枯れ果てて、僅かにいたどりが生えるのみ。近年之が対策も改善されて、山は緑をとり返しつつある。

然しながら80年間の古河市兵衛さん一家の銅山経営のプラスとマイナスは今もって問題を残し、栃木の代議士田中正造翁の有名な直訴事件以後の問題は今以つて、下流の農民に痛憤を与えて止まらない。

河川汚濁の政府の処置も、手ぬるい次第だ。公害と云う問題と共に都会地を含めて対策急なるを要する。

風がつよいので早くにやめて、古河氏の別荘が日光街道細尾峠の入口にあるので、そこへ行き昼食をとる。そこは芳堂と名付けられ、一般の人にも開放されている池あり、築山ありの茶室風の優華な古い建築である。広さも大きく、折柄お祭りで見えて、可愛い児童がおみこしを担いでワッショイワッショイと練り歩いていた。附近には家も見えぬのに。

附近の紅葉は真紅、黄葉と交ぜてすばらしい。早速水彩画をかく人もあつた。服部氏は芳潤堂の女主人から俳句をかくて貰つて、ニコニコしていた。

午後2時半帰路につく。

11月4~5日のクラブ美術展に出品の想をこめて、夫々散会したのであつた。

連山の枯山画く七八人 丸山貞夫



第4回倶楽部絵画展

秋のスケッチ行

10月22日、晴、日曜日。8時小出さん須賀さんの御好意で、自動車に乗せていただく。一行6名。小出、須賀さんの運転で、丸山、江原、野田、服部の四氏同乗。尚スケッチに同行希望の星野さん、堤さん親子も御一緒した。

目的地は足尾町である。沼紋の紅葉は美しく、神戸ダム附近は特に谷が深く、古木が密生して、幽すい峡である。

国道とは云え未改修部分が大半で、大間々町をぬけると、殆んど凹凸の路面の連続である。

神戸ダムは工事費 187億円、水資源公団が乗り込んで、目下地元東村民と補償問題で交渉中である。未だ工事発注にならぬのに、大手の建設業者が続々看板を上げて、早くも工事獲得戦たけなわとあ

る。ダムが出来ると、発電所も出来るが一大湖水が出現する。その水面は東村沢入附近までに達する。国鉄は埋没するのでトンネルでダム附近をぬけて高く上げてゆく。国道も高く上がる。

昭和46~47年頃は満々たる水にうかぶ美しい山が観光客を招く事であろう。

足尾町を車は通りぬけて約6キロ、足尾ダムに達する。昭和24年建設省の施工で出来たこのダムはアメリカの日本援助物資に対する見返り資金で工事が着工された。高さといひ、長さといひ大きな砂防ダムであるが、周囲のハゲ山の雄大さには、人間のやる事はまことに小さい。

キャンパスを立て、自まんの筆を運ぶパステル、水彩、油彩それぞれに圧倒されてかきすすむ。午前11時すぎになると風が吹き出してキャンパスを吹きとばされる始末。折かく描いた油絵に砂がビッ



月次会報告

9月 ユーゴの話聞く

海外旅行ばやりの昨今だが、東欧の国々を知った人は珍らしい。

1年余東欧のユーゴスラビヤで機織工場の投技指導をされて先般帰国された桐生出身の平田次郎氏(日本レーヨン勤務)を招き色々珍らしいお話を頂いた。

9月25日当番理事長沢、斎藤

10月 政界よもやま話

連日新聞を賑わした佐藤首相の外遊。その一つ台湾訪問の折、随行され、活躍された長谷川代議士を招き、益々緊張する国際情勢、金融引きしめをせざるを得ない日本経済の問題、内外多端で揺れ動く政界等についてお聞きした月次会。

10月25日当番理事森口、吉野

11月 文化財をめぐつて

桐生市文化財専門委員の天利秀雄先生を講師にお願いして「文化財をめぐつて」のお話を聞いた。

「桐生市における指定文化財」という小冊子を頂き、「文化財とは？」という説明にはじまり、桐生市の文化財について興味深いお話を頂いた。

最後に桐生史談会の会長としての立場で43年5月開催予定の「明治100年展」の資料を是非桐生倶楽部社員の方々に御提供頂きたいと熱心に御要望されていた事を附記する。

11月25日当番理事森島、吉田

宗教心とは

野口 健策



私の読んだ昆虫の本の中にアリの生活が出ていた。アリはハチと同じような社会生活をしていることは知っていたが細かいことは知らなかった。知っ

ていてもせいぜいアリマキと共生し又彼等の社会が女王と、女性の変化したハタラクアリと、髪ゆいの亭主のようなおすアリとに分かれ、女王は産卵のみを行い、ハタラクアリが衣食住、育児外交等生活のすべてを担当し、おすのアリはぶらぶらとのんきにあそび愛情のときだけに必要なのだといったていどだった。

ところがアリの世界はもっと複雑で驚くべき組織ができていているという。彼等の中には奴隷がいる。他のアリのグループを襲い、そのサナギを分取り、これをふ化すると、ふ化したハタラクアリはその敵のグループのために一生をささげて働きつづける。また彼等は農耕を行う。彼等が集めた木の葉の苗代に一種のきのこを栽培し、雑菌を除去し、自分の排泄物

を肥料としてやり、きのこを育て、移植さえるという。更に、蝶の幼虫を家畜のように飼育し、食物を与え、その分泌する甘い蜜を搾りとることあたかも人間で牧畜をするようであるという。その他狩猟や泥棒までやるといふのがあるから驚嘆のほかはない。

こうしたアリの共同社会を人間の社会と比較してみると、もし彼等がさらに進化し、形や力を増加したならば、未来の地球を支配するのはおそらくアリにちがいないということばも生れて来るであろう。

さて、そのアリ一個を取り上げて見ると、彼等は本能のままにただ一生を働きつづけ、次の世代へ生命を引きついで行く。人間の世界はどうだろう。食っては眠り食っては眠り、子が親になり子が親になり、しかも数十万年の人類の歴史のなかでわれわれが生かされるのはわずか百年足らずである。その百年足らずの間に次々と世代が引きつがれて行っているだけだと考えると、人間もアリも全く同じではないかと思われもするしかしそうなのであろうか。いやもちろんそうではない。アリはただ本能的に生きてだけであるが、人間は考える力を持っている。アリの場合は数万年前のアリも現在のアリも同じことをくりかえしている。まし

てより幸福になるような努力はほらわれない。すなわち、アリの世界では数万年前のアリから一足とびに現在のアリに移ることが出来るわけである。ところが人間はその時代時代に共栄の為の努力が払われ、後世に貢献しているのだ、これが人間と他の動物と異なる処であると思うが、同時に人間の永遠の生命だとも考えられる。

どうせ百年足らずの一生なら、したい放題勝手なことをして楽しく生きた方がとくではないか、と考えた人々もいたようであるし、現代もそう考える人もいると思うが、必ず幸福だとは限らない。他人を犠牲にしても、悪いことをしても、自分だけが、と考えて財産や名誉地位を獲得しても、これには必ず不安や苦しみが伴うものなのである。何故であろうか、それは人間に良心があるからである

良心に背いた時人間は非常に不安であり、少しも楽しくない。その良心とは何か。これが神である。神の意志がわれわれの心の内にあるのである。そしてまた宇宙の意志でもある。この良心こそ、宗教的の自己なのであり、この本来の自己を感覚的表現的の自己が合体した時に、人は悟りを得たといえるのである。他の動物にない良心(神の意志)の命するままに行動する時よろこびと生き甲斐との生活が生れて来るものと思う。

欧州かけある記

鈴木 義一郎



全行程22,700斤 乗りついた飛行機 14機、訪問国数7カ国、これに要した日数25日、これが今回訪欧の主要諸元です。何しろ見るもの聞くもの

全く新しいものづくめで然かも1カ国2~3日いただけですからとても全貌を語るなんてわけには行きません。10年前ならばいざ知らず昨今では僅か1カ月足らずの旅行では大きな事は申し上げられないのですが御寛容の程予じめお願いしておきます。

今回渡欧の主目的はスイス国バーゼル市で開催された第5回欧州繊維機械展を参観することでした。これは業界オリンピックと言われておまして4年に1回ヨーロッパ自由圏各国で持廻り開催しております。即ち1951年のパリを皮切りにマンチエスター、ハノーバーと続いて今回のバーゼルの番となったわけです。その開催規模の壮大のことは驚くばかりでありまして、しかもわが国の東京国際見本市会場が全て世界有数の繊維機械メーカーの出品で埋めつくされてしまった如くでした。開催期間10日間、出品メーカー851社、小間は全てフルスペースで2,585小間、入場料2ドル50セント(900円)で世界各国より30万人が参観してありま

す。各種機械の性能については茲で詳細に申し上げ兼ねますが、単純に国別にランクすると全般的に秀れた機構、工作精度から見てスイスと西ドイツが東西の筆頭と云う事になりました。ついては保守的ではありますが伝統のあるイギリスとやや野暮たいが大量生産向機種を得意とするアメリカを推したいと思います。コスト面から見て健斗していたのがフランス、イタリー勢ですが今一つ個性が惹きいて云った所です。会場は違いましたがチエコも素晴らしい製品を吾々の前に展示してくれました。意外の伏兵はスペインでありましてこの斗牛とフラメンコの国は繊維機械も仲々さかんで特に横メリヤス関係の機種はわが国向としても恰好のもので注目されてきました。以上がごく大まかな機械展のアウトラインです。さて固い話ばかりでは如何かと思しますので話題を変えてM(機械)からW(女性)に移りましょう。女性の美しいのはスエーデンが第一です。10人寄れば7人位はモデルかと見間違えうに彫の深い目鼻立ちの整った美人ばかりでした。対日感情も良好で勇氣と元氣(?)があれば今浦島も悪くないようです。但し40才以上になるとやけに太った人や反対に骨ばって意地悪婆さんみたいになってしまうのはどうしたわけなのでしょう、ついでにはフランスも愛くるしい感じの人が多く及第です。若い人も良いが中年以上の女性の品の良いのはここが第一でしょう

イタリーは髪も瞳も黒い人が多く背恰好も日本人並で愛想も良くこれ亦及第です。スイスは質実型で可もなし不可もなしと云った所です。イギリス人はギスギ

ス、ドイツはゴツゴツとしていて余り頂けませんでした。

以上平均的女性観です。女性の話題のついでですが、今やミニスカートの全盛時代でそれだけでなく長い脚を膝上15~20厘もあらはに活歩しています。ですからスカートの長さで後姿を見ただけで大体の年配が判かります。ガイドの話ですとロンドンの発祥地ではこの上にカーテン生地を引かける種族が出はじめてこのためロンドン中のカーテン生地は向う2週間売切れたとの事です。果して日本にもこんな風俗が上陸しますかどうか……実はこの他とっておきの話もありますがそれは然るべき機会としまして終りに帰国して感じた事を申し上げます。

祖国日本は掛値なしに世界で最も秀れた国の一つでわれわれはもつと胸を張って自信を持つ必要があると痛感した事です。こんなに四季の変化に恵まれ風光明媚、太陽の光も豊富で空気、水もおいしい国土で教育水準も高く産業の榮えている国、人情もこまやかで芸術スポーツを愛し永い歴史を持った国、一つ一つをとれば他にも有るかも知れませんが全ての条件を総合して見て、わが国民は少しもコンプレックスを感じる事はありません

希はくば家庭を愛し、職場に愛着の心を持ち、郷土を愛し、そして祖国日本を今一度私達の心の中にしっかりと抱きしめることが一番大事なのではないでしょうか。以上を今更のように再認識出来たこと、これが本来の使命と共に大きな収穫でした。

☆ 新 入 社 員 紹 介 ☆



法 人 加 入

桐生工業株式会社
桐生市相生町2丁目704
代表取締役 川崎舎竹男

二 倶 楽 部 だ よ り 二

9 月

- A. 50周年記念委員会 (4日)
- B. 俳句会 (19日)
- C. 美術グループの会合 (22日)
- D. 囲碁部会9日より毎週水曜日を定期例会日とすることを決定
- E. 月次会「ユーゴの話を聞く会」講師 日本レーヨン平田次郎氏 (28日)

10月

- A. 会報第8号発行 (10日)
- B. 50年史刊行委員会 (17日)
- C. 美術グループ写生会 (足尾22日)
- D. 月次会「政界よもやま話」講師長谷川四郎氏 (25日)
- E. 50周年記念委員会 (27日)

11月

- A. 社員名簿作成、配付
- B. 第4回桐生倶楽部絵画展 (4~5日)

- C. クリスマスの件について行事委員会開催 (21日)
- D. 50年史刊行委員会 (22日)
- E. 囲碁部第1回大手合せ (23日)
- F. 月次会「文化財をめぐって」講師天利秀雄先生 (25日)

12月

- A. 50周年記念事業の一つとして暖冷房工事施工 (2~22日)
- B. 境野、前原両前理事長の肖像画を掲額 (6日)
- C. 積木手入れ (8~11日)
- D. クリスマス祭 (23日)

1 月

- A. 新年互礼会 (元旦)
- B. 50年史刊行委員会 (12日)
- C. 社員藤井竜二郎氏逝去 (15日)
- D. 前原理事長逝去 (12日)
- E. 定時社員総会 (29日)

将棋部会が誕生

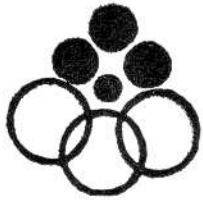
文化活動委員会は今日までに、美術俳句、囲碁と三つの趣味のグループを発足させたが、第四番目のグループとして、社員園田昇氏等のお骨折りで将棋部会が設けられることになり、12月26日発起人会が開かれた。決定事項下記の通り。

世話人 太田兼吉・遠藤俊一・金子節次・正田英二・吉田展雄・武藤聡文・平野元吉・園田昇
入会金 1000円・会費 1ヵ月 100円

1月から発足の予定なので同好者は倶楽部事務局まで申込まれたいとのこと。

発 行 桐生倶楽部広報委員会

印刷所 ツボノ印刷所



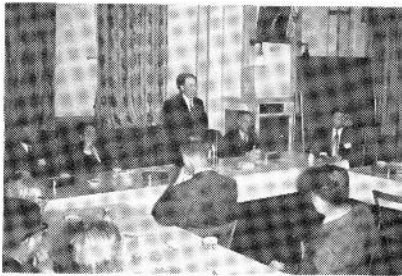
社団法人

桐生倶楽部会報



月次会報告

4月 国際経済問題について



昨年来ポンド切下げに端を発し、ドル防衛、ゴールドラッシュ、ベトナム問題等々をめぐって国際経済が大ゆれにゆれ日本の経済はもとより桐生の経済にとっても非常に甚大な影響を与えつつある。

23日の月次会はこうした現下の国際経済問題について御造詣の深い伊藤忠商事株式会社の常務理事片桐良雄氏を御招きして御話を願った。

片桐氏は御父君が桐生出身で、特に名誉社員齋藤長平氏とは御懇懇の仲、縁戚や知人も桐生に多いとのことで、非常に御多忙の中を快よく御来頂いた次第。尚、片桐氏は昨年まで大蔵省におられた東京税関長をつとめられた方である。

当日は来会者約40名、難かしい話を非常に要領よく説明され、日本の景気回復は予想外に早い等と明確な見通しを話さ

れた。御都合悪く御出席出来なかった社員の方の為に講演の要点を記載する。



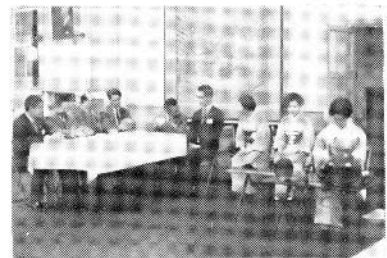
- 1 さすがの大英帝国も政治や経済の硬直化の現象が随所に見られる。日本に比較した場合、投資欲、企業意欲が非常に低い。こうした事が経済の危機を招きポンド切下げとなった。一度あることは二度とないと保証出来ないが、ここ当分の間(2年位)はポンドは安定し再度の切下げはないと見る。
 - 2 金とドルの関係と云えば、アメリカでは紙幣と金との直接関係はないが、外国政府銀行の要求があればアメリカは1オンス35ドルで金を売り渡す制度になっているだけ。金価格をアメリカが上げた場合でも各国の通貨とドルとの関係は変わりなく一時は動揺があっても大きな混乱はないと思う。物価の値上りもそれ程心配は無い。財産保全の為不動産株への投資などは神経質すぎると思う。
 - 3 金の問題よりも、アメリカのドル価値が動揺するのは大問題、然しアメリカ経済の實力からすれば充分ドル防衛
- 4 アメリカは戦後ドル不足に悩むヨーロッパにマーシャルプランによって多額のドルをまいた。これが1960年までのアメリカの繁栄につながったのだが反面ドル紙幣でヨーロッパに資本進出をした。外国資本が一旦入りこむと必ず定着してしまう。これに対してドゴールなどが非常に反発を感じている。
 - 5 経済成長率が10%程の日本に比べイギリスは3%程度で非常に低い。低くから安定していると云えないのはポンド切下げの例を見てもわかる。日本の成長率が高すぎるから不安定だと云われるが、しかし伸びるべき時に思い切って伸ばさねばならないという高度成長論は正しいと思う。国内経済でも、すでに輸出の伸長で外貨収支は大幅の黒字になって来た。いつまでも「引き締め」政策をとるべきでない。私は可成り早い時期に「引き締め」政策が緩和されるものと見ている。
 - 6 繊維産業の将来性については、遺憾ながら余り明るい見通しはたてられないものと思う。日本からのプラント輸出などで後進国の繊維産業は着々発展している。わが国の鉱工業生産のうちでも他業種にくらべて繊維産業の伸び率は、実は低い。業界の将来は決して楽観出来ないものと思う。

3月 茶 会

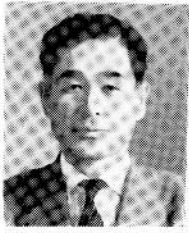
そろそろ花だよりも聞こうという3月26日、川村理事長夫人の御指導で茶会が開かれた。最近茶道の普及ぶりには目覚ましいものがあり、色々の場所で薄茶などを出される機会も多くなったが心得のない人達には何となく気重なもの。ごく一通りの事でも社員の方々に知って頂くという狙い。

社員の御夫人方、若いお嬢さん方の顔

も見え、いつもの月次会とは違ってはなやかなゆったりしたムード、川村夫人の用意して下さった茶道の歴史を書いたプリントの説明があつてから、蓮さん、萩原さん等日本茶道学会桐生支部の方々のお手前で参加者全員が順々に御馳走になる。偶々御来会の大川名誉社員の造詣深い特別解説の飛入りもあり楽しい集りであった。



近頃思うこと 島 勝 二



経済をはなれて私達の人生は成たないものであるから全く、そろばん勘定をはずした生活は有り得ない。現代に生きる私達の不幸は、「利益心」に重点を置きすぎて、人間に対する価値観念に大きな狂いが生じて居るのでは無いだろうかといつも思う。

もう少しそろばんをはずして「愛の心」でお互に接しあえないものだろうか。或る評論家の言を借りれば、人生態度の基本は「利益心」と「愛の心」との二つのことがらに於て考えられる。そして前者はいつでもそろばんを片手にして何事に対しても損得を勘定しながら生きる態度のことであり、後者は損得をまったく意識しないわけでもないが自分の利益や自分の幸福だけを尺度にして生きるのではなく常に他者の幸福を念頭に置きつねに社会の福祉を心にかけて生きる態度のことであると定義して居る。

そこで「吾等の愛する桐生市」はどうであろうか。近頃どうも乾燥した街だとよく口にされる原因はどうも前者の人口比率が特に高いのではないだろうかと恐れる。更にある教授は云う南北問題がたいぶ叫ばれて居るが南方民族を動かし導き、働らく事を教えるのば大変な難事なのだとの自分の経験によると、よく働くこ

とは地位を向上し将来を安楽に暮らす為なのだと教えれば、彼等は、現在吾々は食うには天然の食糧があり衣服や住居にもまして困らない吾々は現在がすでに安楽なのであり働らく必要はないとして働らく事の無駄を指摘されてさじを投げた之間かされた事がある。青少年の不良化が心配されて居るが「利益心」の多い大人の世界の圧力で、又経済格差のはげしい世相の中で、いくらかがいてもどうにもならない少年の苦しみの中に南方意識が芽生え、不良化傾向が減少しない病根がある様に思う。

徐々に格調の高い街に、そしてよい方向に進歩して行く事とは思ふけれども、先づ大人の人生態度の変化による「愛の心」人口の急激な増加を希うこと切なるものがある。

憲法記念日が近づいたが、之と関連して吾が桐生市に立派な市民憲章の制定されて居る事を他市に比較して誇りたかく感ずる市民の一人として青年会議所会員の活動を高く評価したい、青年会議所会員の「愛の心」に依る発想が、このユニークな市民憲章を制定し更に育てられつつある事に、心から尊敬の念を禁じ得ないと同時に制定20年後が楽しみである。創立50周年を迎え、立派な桐生倶楽部の会員にさせて頂いた事に私は非常な誇りと感激を押しがたいものである。卓見な先輩により創立され、有能な役員により受つがれた「愛の心」に満ちた桐生倶楽

部が肩のこらない社交の場であり、つかれを癒す憩いの場であると同時に桐生市を「愛の心」で満す震源地であつてほしいと願うと同時に自分も会員としてそうつとめたいと思う。私事になり恐縮ですが有志の方々のおすすめと努力により画廊を開設して半年漸く軌道に乗り美術愛好者にも多大の関心を呼び休日を中心に続々と展覧会が催されこの間2万数千人の人々に何等かの形で良い影響を与えた様に思います。

倶楽部の服部さんが、永年の念願であつた「吾が愛する郷土」のテーマで3月に個展を行い会員有志の方々の御力添えもあつて3日間に1500人の入場者を迎え大成功に終つた事は誠に意義深い事でした。之が更にNHKに取上げられ桐生倶楽部と山紫水明の桐生市が紹介された事は当倶楽部の会員として喜ばしい出来事でした。願わくは服部君の白重白成を切に願ひする次第です。

半公共的な画廊の運営については熱心に取組み「多忙な現代社会の洗心の場として」更に美術関係の相談の場として市民の皆様御期待に副いたいと念願して居ります。桐生市は他市に比較して非常に美術人口の多いと言う事実を画廊の窓から再発見して、ひたすらに願う事は織物の街としての桐生がこの素地の上に優秀なデザイン、新しい感覚の織物の生産に勇気を以て取り組み「愛の心」に満ちた活気ある街造りが出来ませう様切望する次第です。指名を受けしませ駄文を御詫びして筆をおきます。

たばこ雑感



夜中に、煙草をきらすともむように吸いたくなるものだ。日頃おいてありそうところ洋服のポケット、引出をかたばしからさがし廻る経験は愛煙家なら必ずあると思う。私は其の苦痛からのがれるべく、一つの方法を考え出して実行している。

緊急非常用として、ハイライトーツ、ビニールの袋に入れ、ボール箱の中に入れて縛る奥に鎮座ましましいる数を多く保存すると補給することがおつくなるので必ず一箇に限る。夜中の非常用であるので何如なる理由があつても、昼間は絶対に手をつけないことを、神に誓つてありますので昼間は手をつけない。一寸大げさかな……。夜中使用したら必ず翌日補給することの心掛けが必要である。この方法の実行により灰皿をかんまわして、ニガイ吸がらを吸わなくてすむ様になった。月に1、2回は御利益を授

野田友次郎

かつて居る。愛煙家の皆様も緊急非常用として特別な保存場所に一つ用意しては如何でしょうか。是非おすすめしたいと思う。

私は案外忘れっぽい性分である。万年筆でもライターでも買って一カ月位持てば永持するほうで、とくに、ひどい時は昼間買ったライターが夜には手元にはすでになく、どこへ忘れたか、落したかさっぱり見当がつかないことが度々あり、最近では万年筆は安物のボールペン、ライターはマッチに変わってしまった。これなら、なくしても別にくやくもなく気楽である。然しマッチの補給は中々大変である。私のポケットにはいつも料理屋、バーのマッチ2、3ヶ入つて居る。飲屋にいてもテーブルに置いてあるマッチは必ず頂戴して帰つて来ることにして居る。年中違つた飲屋のマッチがポケットに入っているが家内も別に気にしていない様である、世の男性の中には、たまにバーのマッチがポケットに入っているため家庭騒動のもとになる事を聞いている日頃飲屋のマッチを2、3ヶ入れて置

く事が適當の刺激にもなり、案外家庭円満の秘訣かも知れない……。

たばこの味は、ただすうだけ味覚、嗅覚だけのことでなく禁煙を楽しむことも切り離せないような気がする。煙の見えない暗闇のなうでは余りうまくない様だ。風のない部屋でのけむりは複雑微妙の曲線模様は何とも楽しいものだ。風の強いところのたばこは味は余りうまくない。車の窓から強い風が吹きこんだり、扇風器の風が吹きついたりするところでは灰が飛び散るばかりでなく煙が風のために吹きちぎれて、視覚でたばこを楽しむゆとりがない様な気がする。よくバイクで、くわへたばこをしながら突走っている人をよく見かけるが、どうゆうつもりなんだろうか……。

私は今迄に禁煙しようと思ったこともなく肺病など余り気にしたこともない。恐らく死ぬまで一生タバコとは縁が切れそうもない。

聞くところによると桐生市タバコ消費の還付金は約1億円位桐生市にころがりこむそうだ。大変な大金である。市の財政に大きな寄与しているわけだ。我々愛煙家は必ず市内で買い、2本のエンドツから大いに煙を出して市の財政に協力しようではないか。

桐生倶楽部内規

当倶楽部には定款以外の定款としては会館使用規定があるだけで、日常の運営に関してはつきり成文化したものがなく不便を感じておりました。

昨年初めより此の件につき理事会で臨時に作られた定款改正委員会で色々検討の末、下記のような「内規」が作られ、8月の理事会で決定、実施されております。いずれ次回の社員名簿作成の際は定款と共に集録する予定ですが、とりあえず会報の紙上で御知らせ申し上げます。

内規

第1章 運営規定

第1条 会計担当理事

倶楽部の会計を処理する為に理事の中より2名の会計担当理事を置く。

第2条 当番理事

各月毎に2名の当番理事を設ける。当番理事は輪番制とし夫々その月の理事会、月例会開催の準備をし、又倶楽部の庶務を監督する。

第3条 委員会

(1)本倶楽部に下記の委員会を設置する。

- A 文化活動委員会
- B 行事委員会
- C 管理委員会
- D 会報委員会
- E 特設委員会

(2)各委員会は夫々次の事業を分担する。

- A 文化活動委員会
土曜懇話会、各種趣味の会、旅行等の文化、教養リクリエーション活動を担当
- B 行事委員会
クリスマスパーティー、新年互礼

会、納涼会、ガーデンパーティー等の行事を担当

- C 管理委員会
会館(建物、設備)の管理
- D 会報委員会
会報の発行、倶楽部のPR
- E 特設委員会

理事長が特に必要と認めた場合に理事会の議を経て設置する

- (3)委員は理事及び一般社員の中より理事長が委嘱する。委員会には委員の互選により委員長1名を置く。
- (4)委員の任期は役員任期に準ずる
- (5)委員会は委員長が必要と認めた場合、随時開催する。

委員会の必要とする経費は特別のものを除き原則として倶楽部の本会計からは負担しない。

第2章 慶弔規定

第4条 社員の弔事、災害等に対しては下記の通りとする。

- (1)本人死亡の場合 花環1本
- (3)病氣見舞 1カ月以上わたる病氣の場合見舞金(1000円程度)
- (3)災害見舞 災害の程度により正副理事長及び会計担当理事で協議の上決定

第5条 従業員の慶弔、災害等に対しては下記の通りとする。

- (1)結婚祝金
- (2)出産祝金
- (2)死亡弔慰金
従業員の同居家族(実父母、配偶者及び子女) 香典2000円
- (4)葬祭費 本人死亡の場合
- (5)病氣見舞金

1カ月以上わたる病氣の場合
見舞金 5000円

(6)災害見舞金

災害の程度により正副理事長及び会計担当理事で協議の上決定。

第3章 服務規定

第6条 従業員の休日は下記の通り。

- (1)毎月4日間(内2日は日曜日、2日曜日)
- (2)8月15・16日
- (3)12月30日~31日(但し1日は出勤し、互礼会に支障のないように勤務する)

第7条 毎年1回4月に昇給を行う。

第8条 毎年7月及び12月に賞与を支給する。

附則 此の内規は42年8月11日より実施するものとし、その改訂は理事会に於て行うものとする。

＝桐俱50年を語る座談会＝



桐俱50年史の編纂は編集委員長沢義雄氏を中心に進められているが、去る4月21日には、斎藤、大川、書上名誉社員及び、川村理事長以下理事数名の出席を得て1時から4時半まで創立以来現在に至る倶楽部の歴史について座談会を行った。50年史を飾るにふさわしい内容の豊かな座談会であった。

碁と人生

木村博一



最近の全国の囲碁人口は500万以上と云われ増々増加の一途を辿っております。そもそも碁は堯舜の時代に考案され神功皇后の三韓征伐の時代に日本に渡来したと云われてお

りますから日本に伝わってからでも千数百年の歴史があります。がそれはともかく何故に碁がかくも多数の人々をひきつけるか、碁に興味のない人は勿論、碁を愛し碁を好む人でも一度は考える事があるかと思ひます。それに対し呉清源の、「天理を究めた人間の精神の発展の歴史」と云う難しい表現から「それは一種の

ゲームであり、それ故に娯楽である」という安易な表現に至る迄、人によって様々です。かつて梅崎春生氏も碁は人生に対してどの様な価値があるかと述べておりますが、ここに興味ある一文があります。それは徳川夢声氏が将棋の木村名人と升田八段との名人戦の対局を観戦して「私はその時つくづくそう思った。そして孫子の代まで勝負師なんかにするものではないと思った。まったくこれは世にも惨酷極まる見世物である。

昔ローマの円形劇場で人間と人間とを殺しつこさせて、それを見物したそうだがこれはその凄惨に近いものの様な気がした。盤に相対している二人は正に生命の削り合いをしているんだ。それをローマの劇場見たいに直接には見物していない、でも全国のファンはラジオを通じ新

聞を通じてかたずをのんで見ているわけだ。どっちが勝つてもどっちが負けてもタカが将棋ではないか！ それを日本中で大騒ぎをして当人同志も生命を縮める想いをしているのは考えようによるとバカバカしいの極点である。

私は一寸そんな気がしたのである。然し、もう一歩進めて考えて見た。要するに戦争をするなり、スポーツをするなり芸術をするなり、宗教をするなり、貯金をするなり、パチンコをするなり、人間というものは何かに夢中にならねば生き甲斐を感じることが出来ない動物なのである。果してそうなら戦争で夢中になるより将棋に夢中になる方を神はヨシと見給うであろう。ついにそういう結論に達して、私はホットとした。」と書いています。表現方法にはいろいろあると思いますが、その云わんとする点は当たっています。とにかく碁や将棋は人間を熱中させ生活に生き甲斐を感じさせる何もの

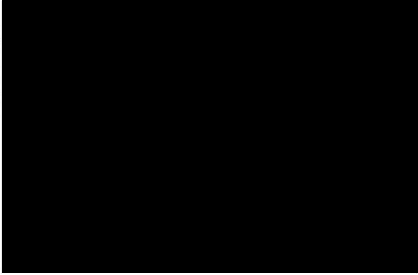
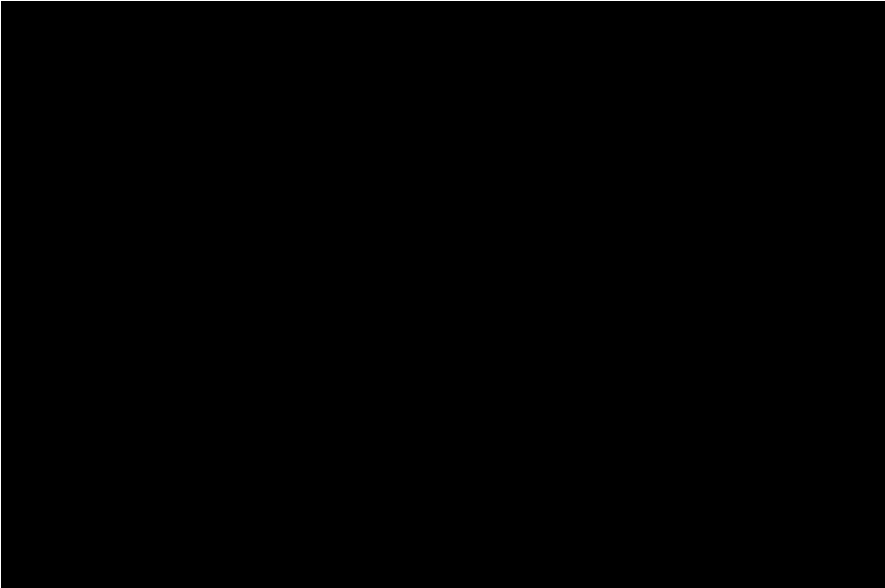
かがあると思います。さて当桐生クラブの囲碁部会も二十数名の入会者を得て発足以来益々盛況を極め昨年秋には県知事より優勝盃の寄贈を得て待望の第一回大

手合を開催しました。

引き続き本年は19名の参加者を得て第二回の大手合せを開催中です。今回は新方式で全員2回宛の対局。5月8日か

ら6月末日迄の毎週水曜、土曜が対局日でその経過はロビーの掲示板に発表されます。囲碁に興味のある方は是非楽しみに御覧になって下さい。

☆ 新 入 社 員 紹 介 ☆



法人加入

尾池工業株式会社桐生出張所
桐生市末広町3丁目1147番地
電話 (2) 2 5 3 9 番
代表者 桐生出張所長 今西洋右

両毛倉庫株式会社
桐生市巴町2丁目1820番地
電話 (4) 6 4 1 5 番
代表者 取締役社長 小池邦八

桐生倶楽部俳句会 (四月句会)
花少し残して丘は元の丘
朝の雨夕の雨や柿若葉
数椀多仏塔また雨に濡れ
故郷を捨てし夫婦の木の芽和
ふもとよりはやししの笛やわらび狩
あれは何これは何々木の芽吹く
柿苗の太郎二郎という名札

吟下 梅松居 久緒 光春 晃子 孩子 順四郎

「我が愛する郷土」 服部さんの個展



当倶楽部に勤務している服部さんの個展が3月をはじめ「シマ画廊」で開かれ、

1500人ももの参観者を集めるといふ反響を呼びました。更に4月20日にはNHKテレビで「郷土をえがく」と題して仕事の余暇に鉛筆をにぎるアマチュア画家としての服部さんの姿が紹介されました。

個展が「我が愛する郷土」というテーマであるのを見ても分るように服部さんの絵は郷土桐生に対する愛情に発したもので、桐生の美しい景色、減び行く古き良き時代の建物等を描いており、今後も更にかき続けて桐生百景を完成するのだと意気こんでいます。

二 倶楽部だより 二

2 月

- A 理事会 (9日)
- B 川村佐助氏新理事長に就任 (9日)
- C 事業報告書を県知事に提出 (10日)
- D 会報第9号発行 (10日)
- E 50周年事業計画について臨時理事会 (19日)

3 月

- A 理事会 (4日) 人会金値上となる。
- B 防火設備検査 (12日)
- C 3月月次会「茶会」 (26日)

4 月

- A 理事会 (8日)
- B 俳句会 (18日)
- C 50年史編集委員会 (21日)
- D 50年史に集録する為の座談会「倶楽

部の50年を語る」(21日)

E 4月月次会伊藤忠商事片桐常務による経済講演 (23日)

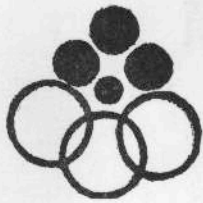
✕ 編 集 後 記 ✕

▷先日の50年を語る座談会の折、名譽社員書上氏より興深いお話を聞いた。講談や芝居でおなじみの番隨院長兵衛は間違いなく桐生の人であるという。書上家に奉公して或る日主家の子供を背負い天神様の境内で遊んでいる時過って梅の小枝で子供の目を傷つけた為に申訳ないと桐生を出奔し江戸に行き俠客と云われるようになったとのこと。子分のデッチリ清兵衛、ネジガネの与次兵衛等も桐生の人でその子孫も桐生に居り、清兵衛の墓は浄蓮寺にあるそうである。

▷倶楽部50年史は本文を長沢前理事長、中川信彦先生が手分けで執筆中であるが、案外資料が少く大分御苦心の様子古い頃の写真なども倶楽部には余りないし、此の際こうした倶楽部関係の古い写真や資料を持っておられる方、又誰それの所へ行けばあると御心当りある方は是非御協力を賜わりたい。

発行 桐生倶楽部広報委員会

印刷所 ツボノ印刷所



社団法人

桐生倶楽部会報

創立50周年式典!! 未曾有の参会者で賑う



桐生倶楽部50周年の式典は、秋晴れの11月22日午後4時に開始された。

下記の式次第で、吉野理事司会のもとに進行。

1. 開会の辞 小池副理事長
2. 国歌斉唱
3. 式辞 川村理事長
4. 感謝状贈呈 書上二代理事長、斎藤三代理事長、長沢五代理事長、大川名誉社員、清水殿氏、永井アキジ氏
5. 祝辞 神田知事、荒木市長
6. 閉会の辞 平野会計担当理事

約30分で式典を終了、直ちに斎藤名誉社員の発声でシャンペングラスをあげて乾盃、祝宴に入った。

当日の参会者は、来賓54名、社員167名という倶楽部としては未曾有の来会者で立食パーティ形式とは云え、階上広間だけでは収容出来ず、階下の1号室にも席を設ける盛況。

5時半過ぎ大川名誉社員の発声で万才を三唱して一応祝宴を終ったが、如何にも社交倶楽部らしい和やかな雰囲気、酔った如く、尚も会場に残り歓談を続ける人階下の各部屋で回想談を楽しむ人、碁盤や雀卓を囲む人等が多く、夜ふける迄、祝宴の余韻がただよう光景であった。



50周年式典を終って

理事長 川村 佐助



前原理事長時代に当倶楽部50周年事業の計画が樹てられ、その途中から私がバトンを受けつぐ事になった。

社屋の改装、冷暖房の設置、50年史の刊行、式典の準備等々、仲々に大変な事業である。然し此の桐生倶楽部を創立し維持発展させてこられた郷土の諸先輩に対しても、何が何でもやり抜かねばならないと決意した。

幸いに、全理事、全社員の方々の絶大

な御協力で、先ず心配されていた寄附金も予定額を突破し、11月初旬には、会館内外の改装も終り、50年史も刷り上げた。あとは当日の式典を待つのみとなったのだが、その式典には社員はもとより今迄倶楽部が御世話になった方々を出来るだけ沢山お招きしたいと思ったが何ともしも、会場が手狭で矢張り或程度しぼらざるを得なかったのは誠に心残りであった。

さて式典当日は、神田知事、荒木市長始め御来賓の方々が非常に御多忙の中を

喜んで御出席下さり、3人の名誉社員以下社員の方々も曾ってない多数の御参加を得、なごやかな雰囲気、祝宴が終始した事は、理事長として全く喜びにたえなかった。

同時に私としては、これだけの倶楽部を残された諸先輩の偉大な業績に改めて敬意を表し、我々社員は、どうしても此の倶楽部を守り抜き、更に発展させて行く重大な責任のあることを痛感すべきであると思った。

50周年式典を終って、改めて長沢前理事長始め理事の方々、社員の方々、更に県、市、ロータリークラブ、青年会議所等々の方々の御協力に厚く御礼を申上げる次第です。

感謝状を受けた人達の横顔



書上文佐衛門氏

第二代理事長、現名誉会員。

倶楽部の前身とも云うべき桐生懇話会時代よりの倶楽部の歩みを知っている方。おそらく

現存者の中では最も古くから倶楽部の運営にタッチされた方であろう。初代理事長金子竹太郎氏のあとをつぎ大正14年1月から15年9月迄理事長をつとめられた明晰な頭脳を持った温厚な英国型紳士ではあるが、今でも言葉の端々にキラッと内に秘めた熱情がうかがえる。

草創期の倶楽部の基礎作りには無くてはならぬ人であった。

尚、桐生倶楽部の敷地は当時書上氏の所有地だったようである。



斎藤 長平氏

第三代の理事長、現名誉会員。

大正15年より昭和25年10月に至る24年2カ月、理事長をつとめられた。倶楽部50年の歴史

の半分は斎藤理事長と共にあったのである。「倶楽部は桐生の茶の間であり、客間がある」と氏は云われるが、同時に社員誰でも茶の間であり客間でありたいもの。理事長時代の氏は「斎藤に会うなら倶楽部へ行け」と云われるように身をもって前述の言葉を実践されたという。座談の妙を得、常に明るく誠実に人に接する社交人であるが、戦中、戦後の混乱期に何者にも屈せず倶楽部を守り抜いたような気骨を持つ人。



大川 英三氏

大正11年入社以来、理事6期、常務理事5期、副理事長5期をつとめた。現在名誉社員。

茶道、華道、謡曲、日本画、短歌、古美術鑑賞等々その趣味の多いこと、知識の豊かなことは他に類がないであろう。しかも熱心な無教会派のクリスチャンで氏の主宰する「聖書研究会」は倶楽部創立以来現在迄、毎日欠かさず続けられている。こうした氏の教養なり生活態度なりが格調高い倶楽部の雰囲気を作る上に裨益する事、誠に大きいものがあつたに違いない。理想に燃えた若き斎藤長平、青木専治、大川英三のトリオの活躍は倶楽部史の上で大きく評価されるものである



長沢 義雄氏

第五代の理事長。昭和31年9月から41年9月まで10年間、理事長をつとめられた。

桐丘学園を裁縫女学校から今日の大学園に

飛躍させた事業手腕は素晴らしいものだが、倶楽部運営に当っても、その手腕は遺憾なく発揮され、現在の健全化を図り会館内外の大改装を果された。

理事長時代は、殆ど毎日倶楽部に来て全く御自分の家のように細かく気を配って会館の保全につとめられた。

又、倶楽部の古い記録、新しい記録を綿密に整備され、今回の50年史の基礎資料を作られた。

氏の倶楽部に対する愛着の深さには深い敬意を払わざるを得ない。



清水 巖氏

倶楽部会館を設計・施工された方。

会館の建築に当り適当な設計者が地元になかった為、金子初代理事長等が地元出身の

講談社々長野間清治氏に設計者の紹介を頼んだ所、野間氏が清水巖氏に依頼したという。当時同氏は日米共同住宅設計コンクールで一等に当選した優秀な若手設計者であった。

倶楽部現在の会館は、この清水氏が心血をそそいで設計図を作り、自ら施工に当つたもの。

倶楽部会館が昔の面影のまま、郷土の文化財として50年の齢を迎えた今日、氏も79才で元気に東京で倶楽部の祝典を喜んでおられるようである。祝典は御令息が代理で出席された。



永井アキジさん

昭和2年から、倶楽部の職員として働いている。

亡くなられた御主人も、其の御父さんの永井源平氏も倶楽部の職員であった。

会館の一隅に住居し、夜会館が門を閉ざしてからも気を配らねばならない。忙しい時には子供さんも動員する。全く一家をあけて倶楽部に深い愛情を持って働き続けている貴重な人である。

「70に近い永井さんが、黙々と掃除をのっている姿を見ると、倶楽部を汚してはすまないと思いますよ」と述懐する若い社員もいる。



月次会報告

5月 ガーデンパーティ 柘植氏叙勲祝賀会

新緑に映える倶楽部庭園で恒例のガーデンパーティを企画。又、社員柘植憲邦氏が勲五等に叙せられたお祝いも兼ねさせて頂きました。

所が当日は合憎の雨で、急拠会場を2階へ。新緑は見られなくとも、ホステスの花をめでながら、飲み放題、食べ放題の趣好で、誠に賑やかなパーティでした5月27日出席者47名。行事委員会担当

6月 交通法規講習

7月1日から交通法規が改正になるので交通法規を中心とし、色々の角度から

交通問題について話を聞こうというので講師に桐生警察署長多胡勝氏、交通課長持田祐治氏を招きました。又、こういっ催しなので、社員だけに限定せず、社員の御家族に御出席を呼びかけ、出席者には法規受講証を交付して頂きました。

6月17日出席者58名。当番森島、吉田

7月 納涼会

納涼会とクリスマス祭の2つは、倶楽部として社員の御家族にサービスさせて頂く恒例の行事です。

7月22日、倶楽部庭園に於て、食物と飲み物をタップリ用意し、金魚釣り、ボンボン釣り、花火等も準備し賑やかに開催。此の夜ばかりは子供さん方が主賓。

夏の一夜を楽しく過ごしました。

但し、この夜も途中から夕立に襲われたのは残念でした。

出席者96名。 行事委員会担当

9月 会館建築当時の思い出話 最近の建設工業あれこれ

25日は定款一部変更の為、総会が開かれ、終つてから月次会にうつりました。先ず社員吉田龍雄氏より、倶楽部会館建築当時の思い出話を聞きました。

氏は、会館の設計、施行をされた清水巖氏の義兄であり、懇話会当時から倶楽部創立に至る経過、会館の出来る迄の創立者達の御苦心、清水氏の御苦勞など詳しく話され、現在の社員として非常に参考になりました。

次に社員丸山貞夫氏より、建設業界のうつり変わり、建設業の成功者の苦心談、今や世界のトップクラスとなった建設工法のあれこれなどは深い御話でした出席者25名。 当番平野、木村

社員寄稿

アラブ気質

蛭間 義雄



私達日本人は、世界でも有数の気短い人種といわれているが、原因は四季の変化が激しい狭い島国に、大人口が住んでいる環境の為らしい。

今年の4月から6月にかけて商用で中近東、特にアラビヤ半島を回って来ましたが、この辺に住んでいるアラビヤ人はRケネディ事件の犯人の様なもの中にはいるが、概して私達日本人と対照的に、ノンビリした気の長い連中である。

よい例としてアラビヤでの織物の商売のお話をしてみます。先ず私達(メーカー商社連合部隊)が織物のサンプルを持ち、現地のバイヤー(貿易商)のオフィスへ行きます。一同自己紹介が終り椅子に座ると、彼は最初に私達一人一人に、「貴方は何を飲みますか?」と順番に尋ねる。此の場合の飲み物は、コココーラ又はセブンアップ。この数が決まるとおもむろにボーイを呼び、注文を告げる。

やがて近所の飲料店より冷えたビン詰めをボーイが持って来て、私達にそれぞれ手渡し、私達が飲むのを待っている。此の時飲物の注文がないときげんが悪くなるので、飲みたくない時でも無理に注文する。さて私達が飲み終ると満足した表情で、(自分の好意が完全に相手に通じたかと思っているらしい)商況の話に入り、サンプルを検討し始める。これまでの時間が約1時間。ここで今度は番頭さんが、近辺の小売店の主人を呼びに行く主人か1人2人と現われて来るバイヤーと番頭氏と小売店の主人連でガヤガヤ、アラビヤ語でサンプルの品定めが始まる。賑やかなこと一寸したデパートの特別売場の様に感じである。この調子なので一通りサンプルの品定めが終るまで約3時間、商売が始まるのが午前9時頃だからサンプルを一通り見終ると午後の1時。ここで商談中止となり、昼寝の時間になってしまう。

各自家に引揚げ、昼食をしてから午後の4時頃迄居寝である。我々もホテルへ帰り昼食、居寝という段取りで、午後の商売が始まるのが4時頃、又オフィスに行くとき先程の連中が集まって来る。ここで例のコーラとセブンアップを繰返し、ガヤガヤやって7時頃になると、「まだ結論が出ないから明日又来てくれ」でその日はチョン。翌日出直すと、又々コーラ、アップで始まり、皆ゾロゾロ集って来てサンプルを囲んで意見交換。当方が黙っていると幾日でも続くらしい。

こちらの商社の連中も心得ていて、頃合を見てバイヤー氏に明日は引揚げて次の予定地へ出発すると切り出すと、ガヤガヤが静まりバタバタと注文を出し始めるといった具合である。日本の商社員も馴れぬうちは相手のペースになり、1軒で3日も4日もかかって、2、3点しか売れなかったという話も聞いている。

C40~50°の灼熱の砂漠の国では此の位のペースでないと物事が進まぬらしい。私達が内地で日本人的感覚で予定を組んで行っても、完全に崩れてしまい。気持ばかりがイライラして一向に仕事はかどらないというのが実状です。

もう一つの例として彼等の政治感ですが、カイロは勿論クエード、バクダット等どこの都市へ行ってもアラブ連合の指導者ナセル大統領の写真が、ホテル商店に飾ってあり、(タクシーの窓にも貼ってある)ナセル氏の人気は相当なものと思えたので、例の中東戦争について彼等のプライドを傷つけぬよう敗戦の弁を聞いてみると、異口同音に戦争は未だ終わったわけではなく、初戦のシナイ半島の戦場では我々は不利であったが、近い将来必ず巻返して、ユダヤ人をこのアラビヤ半島から追出して見せる。と云っており敗北感など葉にしたくとも無い。又過去の歴史を振り返っても、ヨーロッパから来た十字軍もアラビヤは征服出来ず、長期戦の末逃げ帰つたではないかと、顔色一つ変えず平然としている者もいた。このように戦争に対する考え方も私達が支



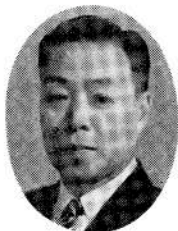
那事変~大東亜戦争と約10年間戦って、ヘトヘトに疲れ切ってしまったのと違い彼等の顔を見ていると20~50年でも平気でノンビリ広い国土で、戦って行くのかも知れないと思える。

又アラビヤ各地の空港はローカル線のためか、出発予定時間が全くでたらめで1時間~2時間待たされるのは通常だが飛行機の出発が遅れると判るや空港の窓口に行き交渉しているのは白人と我々日本人位でアラビヤ人達は黙つてベンチに座り悠々としている。最初の頃は私達もイライラしたが、旅の終り頃は日本で一日一日を、時間に追われて生活している日常と思ひ比べ、彼等のノンビリ生活を羨ましく感じるようになって来た。矢張り海のような砂漠という大自然の中に、1カ月、2カ月と住んでいると、気の短い日本人でもアラビヤ化して行くのかと感じた次第です。

(写真はドバイに於ける筆者)

長谷川さん おめでとう 近 藤さん

社員から大臣と政務次官が誕生



社員の長谷川代議士は今度の第3次佐

藤内閣に重要ポスト農林大臣として入閣された。又、同じく社員近藤参議員も北海道開発次官に就任。倶楽部にとつても誠に嬉しい限りである。

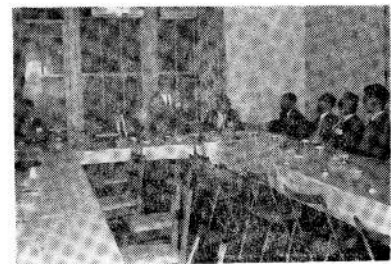
将棋部会創設記念大会

園田昇、太田兼吉氏等が世話人で、将棋部会が、11月24日に創設記念大会を開き、はなやかに発足を飾つた。

当日は、日本将棋連盟よりA級棋士加藤博二八段を招き、東毛支部桐生有段者会からも多数の応援があつた。

今後例会を毎週火曜日と決定、出来る

限り多数の方の入部をお待ちすることである。



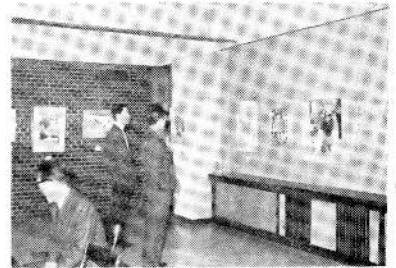
☆新入社員紹介☆

LOBBY

美術グループ

絶好の紅葉シーズンを狙って、10月13日梅田郷へスケッチ行。参加者が少なかつたのは残念でしたが、夫々が素晴らしい傑作？を画きまゝなので、次回倶楽部の美術展への出品をお楽しみー。

グループの1人、保倉一郎氏の近作を集めた個展が11月23日～25日の3日間、シマ画廊に於て、当美術グループの後援で開かれ、参観者1000名をこえるという盛況でした。(下は会場の写真)



囲碁部会

恒例の秋季大会は、御多忙の為、ふだん余り出られないメンバーにも、充分腕を揮って頂く時間をとる為、9月11日から11月末迄、毎週水、土曜を手合せ日とする長期リーグ戦形式をとりました。申込者は山根三段以下19名、熱戦の末、日本レーヨンの長内二級が18勝6敗の成績で優勝、カップを手中にしました。

×編集後記×

▷云いわけになるが、会報の発行が遅れていたのは50年史編集の為に手をとられてしまったので――。

▷社員の何人かから「会報が出ないが？」という問合せが事務局にあつたとの事。申し訳ないやら、有難いやら会報の発行を楽しみに待っていて下さる人のいる事は何よりの励みです。

発行 桐生倶楽部広報委員会

印刷所 ツポノ印刷所

二倶楽部だより二

5月

- A 50周年記念事業券金開始 (10日)
- B 理事会 (7日)
- C 柘植憲邦氏叙勲祝賀を兼ねてガーデンパーティ (27日)
- D 会報第10号発行 (10日)

6月

- A 理事会 (6日)
- B 春季囲碁大会 (8～30日)
- C 月次会「交通法規について」

7月

- A 行事委員会 (6日)
- B 理事会 (8日)
- C 事務員給与増額、夏期手当支給 (15日)
- D 納涼会 (22日)

8月

- A 50年史原稿完成、印刷所(上毛新聞)に渡す (6日)
- B 理事会 (7日)
- C 改修委員会(委員長平野理事)及式典委員会(委員長長沢理事)を特設 (7日)
- D 定時休館 (15日・16日)
- E 階上の岡田画伯、2号室小林画伯

の絵を修理

9月

- A 庭園雑草とり (2日～4日)
- B 理事会 (9日)
- C 秋季囲碁大会始まる (9月11日～11月30日)
- D 改修工事始まる (20日～11月15日)
- E 臨時理事会 (25日)
- F 月次会 (25日)
 1. 倶楽部建築当時の思い出話 吉田亀雄氏
 2. 最近の建設工事あれこれ 丸山貞夫氏

10月

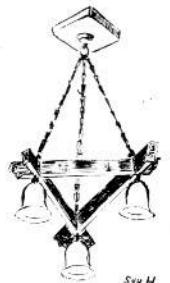
- A 理事会 (10日)
- B 美術グループ写生会 (13日)

11月

- A 理事会 (8日)
- B 植木手入れ (10～15日)
- C 臨時理事会 (18日)
- D 50年史納本 (20日)
- E 50周年式典 (22日)
- F 行事委員会 (25日)
- G 将棋部会発足 (28日)
- H 保倉一郎氏より油絵の寄贈 (30日)
- I 社員長谷川四郎氏農林大臣に就任 (30日)

三つの灯り

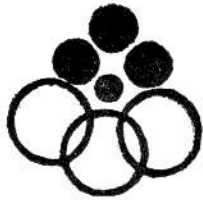
五十年史にも説明が出てはいるが、倶楽部ロービーにあるシャンデリアは、創立当初よりあったもので、その特異の形と三角形の一辺毎に、平和・幸福・親睦と書かれてあるのが注目される。事務局の服部氏より、此のシャンデリアをテーマに作った詩を投稿されたので掲載する。



(編集部注)

白い天井に 吊された
 だれも知って 三つの文字が
 ゆかしい灯り 書いてある
 私はいつも こう思う
 平和とは何だろ うか
 みんな揃って 顔合わせ
 楽しい食事 することさ
 親睦とは何だろ うか
 あなたと私は 信じ合い
 仲よく 助け合うことさ
 幸福！それは何だろ うか
 過ぎたむかしを 語り合う
 妒妬の今が 一番に
 幸せなのさ 幸福さ
 外は冷く 内は明るく暖かく
 桐生倶楽部の 半世紀
 歴史の光 見まもりて
 夜は静かに 更けてゆく

(詩とカット)
事務局 服部 修



社団法人

桐生倶楽部会報

再び理事長に選ばれて

川村 佐助

新役員が決まる

定時社員総会



昨年2月、前原前理事長の御逝去で、はからずも理事長を引き受けるにいたり1カ年を過し、本年2月、再び理事長に選ばれましたこの間、懸念していた50周年事業を無事に完遂し、大過なく前理事長の残任期間を果し得ましたのは、社員各位の絶大な御協力の賜であり、改めて厚く御礼申し上げます。

昨年理事長を引き受ける際にも申し上げましたが、私は浅学非才、とうてい理事長の器にあらずと、今でも考えております。然し社員の皆様方の御信任を得て、再び理事長に選ばれた以上は、自己の全身全霊を傾注して其の職に当る覚悟であります。

桐生倶楽部の新しい50年の歴史が、本年から始まります。倶楽部を創立された郷土の諸先輩の偉大な業績を考える時、現在の社員である私達は責任の重大であることを痛感せざるを得ません。

郷土の過去50年間、文化史、産業史の上に倶楽部の果して来た役割は、誠に輝かしいものがあります。

これからの倶楽部はこの地域社会の中でどういう役割を背負って行くべきでありましょうか。

折にふれて、こうした倶楽部の基本的なあり方について、社員の皆様方から御意見を聞かせて頂きたいと思っております。そして、社員全部で新しい目標を、はっきり見定めて、次の50年の足固めをして行きたいものです。

会館の問題も、都市計画による広見線拡張工事が近々に迫っており、敷地の一部が削減され、管理人室を取り払わねばなりません。此の為、増改築の青写真を管理委員会で作って頂くことになっておりますが、いずれ此の問題も折を見て社員の皆様方と相談申上げるつもりです。

ともあれ、社員の皆様方に、今後一層の御協力、御鞭撻を賜われますよう心からお願い申し上げます。

昨年2月、前原前理事長の御逝去で、はからずも理事長を引き受けるにいたり1カ年を過し、本年2月、再び理事長に選ばれましたこの間、懸念していた50周年事業を無事に完遂し、大過なく前理事長の残任期間を果し得ましたのは、社員各位の絶大な御協力の賜であり、改めて厚く御礼申し上げます。

昨年理事長を引き受ける際にも申し上げましたが、私は浅学非才、とうてい理事長の器にあらずと、今でも考えております。然し社員の皆様方の御信任を得て、再び理事長に選ばれた以上は、自己の全身全霊を傾注して其の職に当る覚悟であります。

桐生倶楽部の新しい50年の歴史が、本年から始まります。倶楽部を創立された郷土の諸先輩の偉大な業績を考える時、現在の社員である私達は責任の重大であることを痛感せざるを得ません。

郷土の過去50年間、文化史、産業史の上に倶楽部の果して来た役割は、誠に輝かしいものがあります。これからの倶楽部はこの地域社会の中でどういう役割を背負って行くべきでありましょうか。

折にふれて、こうした倶楽部の基本的なあり方について、社員の皆様方から御意見を聞かせて頂きたいと思っております。そして、社員全部で新しい目標を、はっきり見定めて、次の50年の足固めをして行きたいものです。

会館の問題も、都市計画による広見線拡張工事が近々に迫っており、敷地の一部が削減され、管理人室を取り払わねばなりません。此の為、増改築の青写真を管理委員会で作って頂くことになっておりますが、いずれ此の問題も折を見て社員の皆様方と相談申上げるつもりです。

ともあれ、社員の皆様方に、今後一層の御協力、御鞭撻を賜われますよう心からお願い申し上げます。

定時社員総会は、去る1月25日開かれ事業概況、収支決算、財産目録、50周年事業決算等が審議、承認された後、役員の変更を行ない別記の理事15名、監事2名が決定、引続き44年度の新予算案を審議承認された。

又、理事長1名、副理事長2名、会計担当理事2名は、2月4日の理事会に於て、別記の如く互選された。

- (理事長) 川村佐助
- (副理事長) 小池久雄、平野元吉
- (会計担当理事) 吉野一郎、山下正夫
- (理事) 前原勝樹、斎藤喜平、森口順四郎、木村貞一、塚越平人、森島秀、飯山清治、吉田展雄、森正雄、藤江敏雄
- (監事) 園田昇、遠田安藏

尚、役員は任期は昨年9月で終了のほすを、50周年事業の為、本年の定時総会迄延長したもの。副理事長1名の増員、監事制は新定款に則って今期から始まったものである。

委員会構成表

社員皆さんの手で、社員皆さんの楽しい倶楽部を…という趣旨で、41年11月に発足した委員会も4年目を迎えました。

委員の任期は役員と同一という内規があり、2月の理事会で新委員も決定致しました。

本年新しく出来たグループは、文化活動委員会の中の、スポーツ、郷土史研究、木曜懇話会です。社員の方々の積極的な御参加を希望しています。

木曜懇話会は、以前、前原勝樹理事が御担当で、毎月1回、土曜の夜、ゲストを招き、趣味の会や座談会等を気楽な雰囲気で開催、好評を得ていた土曜懇話会の復活で、今回は山下理事が世話役を引受けられました。

	委員長	副委員長	担 当 理 事	委 員
文化活動委員会	前原	森口	森口 (俳句) 森島 (麻雀) 森 (美術) 藤江 (スポーツ) 山下 (木曜懇話会) 斎藤 (郷土史) (囲碁) 吉田 (将棋)	(美術) 古川・須賀・保倉 (俳句) 小玉・岩下 (囲碁) 木村・大沢・武藤 (将棋) 園田・太田・川口(盛) (麻雀) 岸田・小林(昭) (スポーツ) 福島 (木曜懇話会) 大森 (郷土史研究会) 藤井・小林(一)
行事委員会	飯山	塚越	塚越・吉田	大槻・小林(昭)・五十嵐・米田・福島・武藤・坪野・田中・清水(計)・村田(伊)・星野・金谷(善)・川口(恵)
管 理 委 員 会	平野	吉野	吉野	
弘報委員会	小池	木村	木村	岸田・野田・丸山・佐久間 蓮・青木

新 委 員 長 の 抱 負

我等の倶楽部

文化活動委員長

前原 勝 樹

私が引続いてお引受けしたのは、まだ夢があるからです。

倶楽部は紳士の公認の社交機関です。会館は我等の楽しみ場所であり、我家の延長であります。会員は倶楽部に集って歓談し、同好者と趣味を語り、ゲームに時を忘れる、それが「我等の倶楽部」と云えることであります。別の言葉で云えば倶楽部は会員のものであって、すべての行事も設備も会員のためのものでなくてはなりません。

一部には桐生倶楽部は公民館や、産文会館のような公共の貸し部屋或いは公会堂と考えている向があります。これは大きな誤りであります。なるほど桐生倶楽部は会館使用料なり貸部屋代で経営の一部をささえています。しかし、これはむしろ変則であります。倶楽部の経費は全額会員の負担であるべきで、そうした組織をクラブと云うのであります。貸部屋代に依存しているのはまだ会員が充分に会館を利用しないためであります。この意味で我が文化活動委員会の仕事は最も本格的なものとするべきであります。

経営本位の時代は過ぎました。今や会員の自覚により、利用時代に入ったのであります。

その先達となって活動するのが、我が委員会の仕事であります。

このための第一着手として会員の趣味の調査をいたします。近口アンケートの葉書が参りますから必ずご記入の上返信願います。我々はそれを基本としグループ創をして、倶楽部を文字通り俱に楽しむ部屋にいたしたいと存じます。重ねて申しますが、桐生倶楽部は会員のためにあるものです。公会堂や貸部屋業とは違った運営法がある筈です。文化活動委員会の皆さんの活動と会員の理解とご支援をねがってやみません。

会報の役目

弘報委員長

小池 久 雄

どんな会でもスリーピングメンバーがいるものである。もっともロータリークラブやライオンズクラブ、青年会議所などは出席義務を強く云われるのでスリーピングメンバーはいないだろうが……。

当倶楽部にも勿論いる。倶楽部は社員に決して出席は強くないし、極端に云えば月1回か2回の会合に出て出なくてもよい気楽さが倶楽部の持ち味でもある。

とは云え倶楽部としては出来るだけ多くの社員に会合に出て頂きたいし、会館を利用して頂きたいのが本音である。

スリーピングメンバーの方に会すと「たまには出たいと思うのだが、どうも億劫になってしまつて……」と言われる。確かに会合というものは、出づけていと次の会も自然に足がむくが、何かの用事で何回か欠席してしまうと、次に都合がついても億劫になり勝ちなものである。そうしたブランクを埋める事が弘報委員会で担当している桐生倶楽部会報の役目であろうと思う。

3月、半年倶楽部に御無沙汰していても会報を見れば「ああ、こんな事やっていたんだな」「こんな方が新しく社員になられた」「こう云うグループが出来たのなら自分も仲間に入りたい」と云うように倶楽部を身近に感じ、次の会合にスムーズに足が向くようになる。そんな会報を作りたいと考える。

勿論、今迄では充分其の役割を果たすだけの内容をとまなっていないし、委員会として更に会報だけでなく広く倶楽部のPRも考えねばならない。又関係資料の蒐集、整理をやって行きたい。

何彼と抱負ばかり多いが、委員会には優秀な人材もスカウト出来たし、着々と目標に向かって歩を進めたいと思つている。

才2期の使命

行事委員長

飯山 清 治

前期故前原理事長の時に委員会制度が誕生し平野行事委員長の下で副委員長の命を受け、只々倶楽部の定例行事を如何にして効果的にクラブ本来の社交場として楽しい憩いの場を産み出すべきかと夢中で御献立表と取組んで参りました。

現川村理事長の下、委委会制度が確立され第二期を迎えて行事委員会は如何にあるべきかと漸く眼を向ける余裕が多少なりと生じてきた今日此頃です。定例行事は社員皆様が御存知の通り其の実施日が決つて居ります。実施日の前日に行事委員会を開催し真剣な討議と発想に依り形式、内容、方法を作り出し、其の中で最も好ましいスタイルを選出して開催日の理事会に報告し採決して頂き実施の運びと致し度く存じます。倶楽部の伝統と現在の社員総意の反映とをマッチして50年の輝かしい伝統を100年への将来に調和発展させて行く事が出来得るならば之が第二期の使命と考えて居ります。其の目的を果す為には是非共社員各位の御意見を御聞かせ願ひそして多くの方々の御出席を願つてすべての行事が有意義な会合となります様立案計画致し度いと存じますので御声援を給ります。

—美術グループ—

春の写生会

うらかな春の日曜日(4月13日)足利市郊外の行道山へ美術グループのスケッチ行、俳句グループの森口、岩下、曾我の三氏、川村理事長も参加され、古川氏父娘、須賀、斎藤、丸山氏等、車に分乗して、お花見の賑う中を行道山へ。

麓の所で車を降り、長い長い石段を写生道具を抱え、汗を流して登りつめ、古い山門をくぐつて、若芽のかすむ中に白い木蓮の花が明るく浮かんだのどかな眺を前に、山頂の庫裡で一息入れた時の爽かさは、正に千金の価値でした。

浄因寺にお願ひして精進料理を頂いたり、春の日ざしの中で写生を楽しみ、俳句グループの人達の運座(俳句の互選)に加わつたりの楽しい一日でした。

(美術グループ 保倉)



LOBBY

—囲碁グループ—

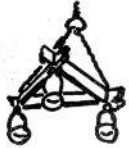
44年前期大手合せ

囲碁のグループは、数ある趣味の会の中でも最も活発な活動をしている。

年2回の大手合せも、今回は第4回目当たる。「44年度前期大手合せ」と名づけた此のリーグ戦は、5月7日から6月28日迄の間、毎週水曜・土曜の6時頃からロービーで開かれる。



- 参加者 山根3段、森口初段、長内1級
 小池1級、藤井1級、野村2級
 斎藤2級、木村2級、駒形3級
 武藤3級、平野5級、藤生6級
 辻 6級、島 6級



月次会報告

2月 私の研究

—当市の産業についての —考察—

桐生出身の群大工学部教授上野清一郎氏をお招きした。教授は群大で管理工学の講座を持っておられるが、単なる学究にとどまらず、群馬県生産性協議会桐生副支部長などの肩書きを持っておられるように、「地方の大学は、その地域社会地方産業と直結すべきである」と云われ積極的に学校という狭い枠を飛び出した活動をされている。

失礼だが、学校の先生のお話しという肩のこりがちなもの、上野教授のお話しは内容も豊富で、話術も巧み、当日は非常に寒い日であったが、時間の経つのも忘れる程の興趣を覚えた。

当日不参の社員の御参考までにお話の中から 2,3の興味ありそうな所をピックアップすると、

◎これからの家庭の主婦は家政学でなく生活統計学を勉強するべきである。俗にサ行の主婦だけでなく、カ行の主婦でなければいけないと云われる。サ行とは、裁縫・炊事・洗濯・掃除（全部頭にサ行の音がつく）であり、カ行とは、家計・教育・工夫・経済・考察・計画・交際（いずれも頭にカ行の音がつく）である。

◎管理技術の言葉に3 S というのがある標準化 (STANDARDIZATION) 専門化 (SPECIALIZATION) 単純化 (SIMPLIFICATION)

これが合理化の原則であり、工場管理だけでなく、生活技術の上でも適用出来るものである。

◎工場管理の上で、先ずダラリを無くすことが肝要。ダラリとは、ムダ(無駄)のダ、ムラ(真)のラ、ムリ(無理)のリ、を指す。

◎映画の8ミリ、16ミリ撮影機を改造して、普通1秒間に24コマのシャッターを、1秒間に1コマとか、1分間に2コマとか自由に調節出来る特殊撮影機を使い、色々な研究資料を作っているこれをメモーションという。

3年程前に交通問題にこれを利用して県警やジャーナリストから非常に注目を浴びた。現在、桐生の織物工場の作業分析に利用している。桐生の商店街に此のカメラを持ち込んで、各商店の客の出入り、商品のレイアウトの可否などを調べたら面白いと思う。

◎すべての生活に、我々ももっと数値的な考え方を持つべきではないか、例えば自分の風呂の適温が何度か知っていれば、無駄にわかし過ぎたり、ぬるい湯に入って我慢することもない。日常の生活でも数値的な考え方をしない為の無駄が沢山にある。

2月21日 出席者 24名
当番理事 森口、塚越

3月 桐生市政の現状

社員でもある荒木市長を煩わして、桐生市の問題点のあれこれ、今後の御抱負などを語って頂いた。「仕事を何もしな

ければ批判は無い、批判は覚悟の上で仕事をやる。やれば出来るものだというものを行政の上で残したい」と語り、非常に積極的な姿勢が窺え、頼もしい限りであった。

3月25日 出席者32名
当番理事 木村、森島

4月 七宝焼の話

今月は趣きをかえて、七宝焼の話と実演。講師は、日本七宝工芸会北関東支部長の三保秀子さん。

工芸ブームの折からで、社員の奥様方の顔も見え、赤、青、緑等に色どられた精妙華麗な七宝焼の出来るまでを熱心に見る等、なごやかな会であった。

4月30日 出席者 28名
当番理事 山下、吉野



社員寄稿

桜の思い出

金谷善介



さまざまな事おもいだす桜かな 芭蕉
又桜の季節がやって来た。岡公園の桜も余程の樹令になるだろう桜の思い出には色々あるが恩師西田博太郎先生の事が真先に思い出される。「花半開。酒微酔」の句を愛されよく口にされ又揮毫されて居たが先生の酒は微酔どころでなく斗酒尚辞せずであった。又飲みはじめたら最後時間おかまいなし鶏鳴曉を告げてもまだまだ飲みあかすお酒であった。私が出征する壮行会の夜先生は私のお守りとして次の句を書いて下さった。

歌器以満覆。撲満以空全。

そしてこの言葉の意味として次の註を

書き加えて下さった。即ち歌器とは支那にて昔用いた酒を入れる器の名にて之れに一杯入れるとデングリ返り又撲満とは支那の陶器製貯金箱の名にて入れることは出来るが出すときは壊さなければならぬもの即ち歌器は満を以てくつがえり撲満は尚空所であれば、こわさず全一杯になるとこわして出されるの意にて満心を戒むる語で何時迄も効力を続け満心を出さぬ事が人生成功の竹であるよく此の句を玩味する様との訓であった。私は此の書を装丁し座右の銘として居る。

桜の季節になるといつも恩師を偲びこの教訓が悪い出されて来るのである。先生には私と同クラスの御子息があられた。先生はこの御子息健二君を深く愛されて居た健二君は実に頭がよく小学校4年生の時から挿入を改造して実験室を作り試

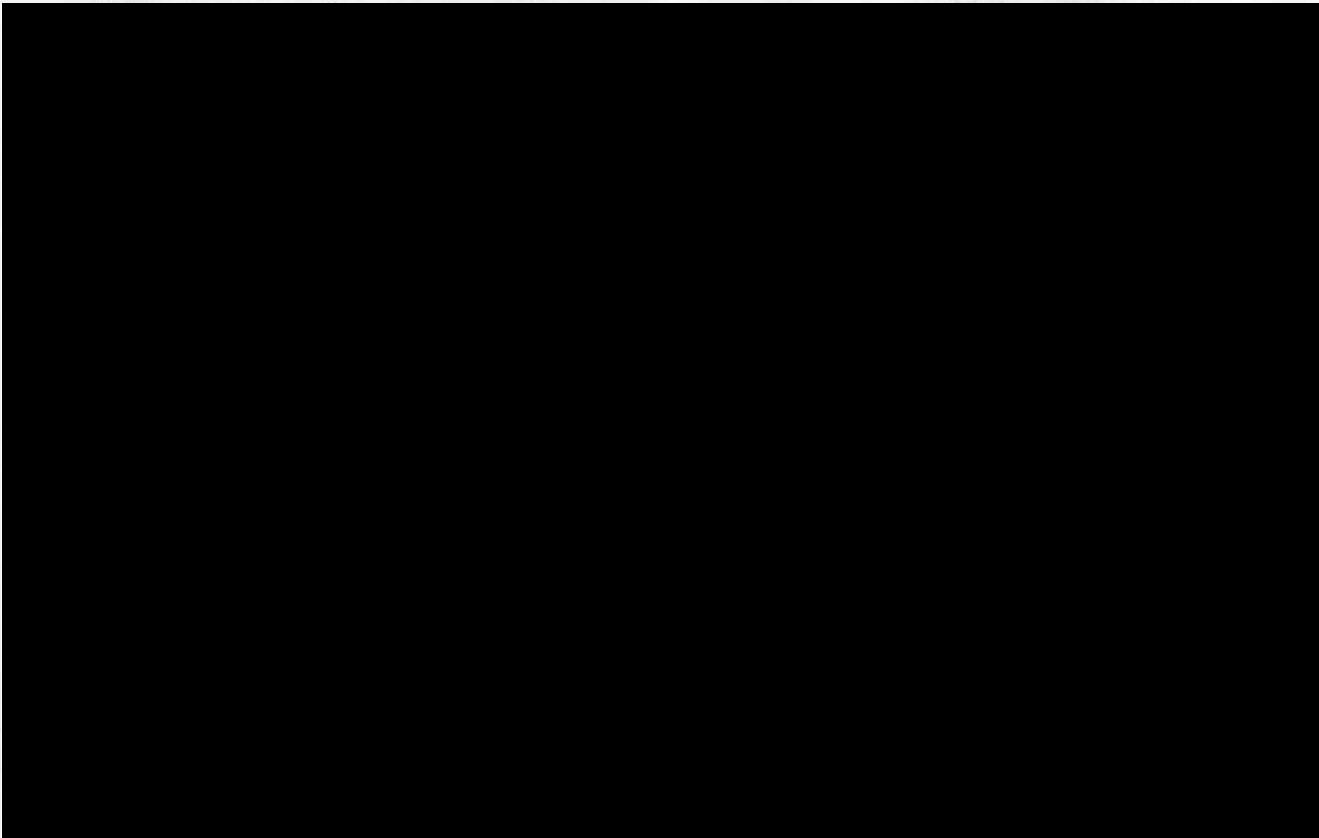
験管を描えて化学の実験をやっていた不幸にも病に倒れ6年生の夏にとうとう不婦の客となってしまったが彼が若し健康に恵まれ成長していたならきっと素晴らしい化学者が生まれていたに間違いなかったであろう。それだけに先生は健二君を又となく愛して大きな期待をよせておられた様だ健二君の他界は余程先生にはこたえた様だ私の顔を見る度にいつも健二君を思い出され特にお酒が入るとこの感が深かった。北小の桜も樹令を重ね当時校庭を取りまいて咲き誇った偉観もすっかり変り或は切られ或は枯れて僅かに残るのみとなった思えば当時桜を眺めながら同じ学窓に育った竹馬の友も齢を重ねて夫々に社会の一線活躍して居る。人生の幸福の中には色々あるが良き友を持つ事の喜び程大きいものはない。今でも毎年恩師を囲んでクラス会を開いて居るがこの時だけは皆童心に帰って楽

しい一時を過ぎ名残りつきないものである。友と言えは同じ趣味につながる友も又よきものである年令、職業、性別を超越して一つの趣味に心を集める竹馬の友

や仕事の友と異った友情である。桐生倶楽部の文化活動の同人の会はこの交遊の場として又とない処である。私も仕事の面ではしばらく桐生を離れて居たが今度再

び桐生で事業を始める事となった仕事は軌道に乗ったらこの文化活動の同人の会に入会し趣味の友を多数持ちたいものである。 昭44・4記

☆ 新 入 社 員 紹 介 ☆



二 倶 楽 部 だ よ り 二

12 月

- A 理事会 (6日)
- B クリスマス祭 (12日)
- C 職員年末手当支給 (18日)
- D 定時休館 (30・31日)

1 月

- A 新年互礼会 (1日)
- B 理事会 (9日)
- C 定時社員総会 (25日)
- D 職員給与報告を市税務課へ提出 (31日)
- E 大沢治作氏 (社員) 死去 (31日)

2 月

- A 火災防止の徹底 (設備資材及び火点の点検) (1日)
- B 理事会 (4日)
- C 牧島画伯個展後援 (21~28日)
- D 臨時理事会 (21日)

- E 月次会 (21日) 「私の研究」群大 上野教授

3 月

- A 第2回服部修個展後援 (1日~4日)
- B 委員会構成、当番幹事表作成 (7日)
- C 理事会 (7日)
- D 月次会 (26日) 「市政について」 荒木市長

4 月

- A 理事会 (7日)
- B 美術グループ写生会 (13日)
- C 行事委員会 (15日)
- D 弘報委員会 (21日)
- E 月次会 (24日) 「七宝焼の話」 三俣秀子氏

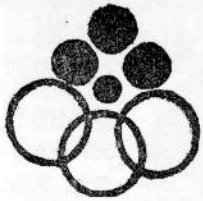
当番理事について

倶楽部では、理事を2名宛組合せ、各月の当番理事としております。

当番理事の其の月の間、倶楽部の庶務に目を通し、理事会を設営し、月次会の企画・運営に当ります。御参考に当番理事担当月をお知らせ致します。

44年5月 森・齋藤	6月 藤江・吉田
7月 前原・飯山	8月 森口・塚越
9月 木村・森島	10月 山下・吉野
11月 森・齋藤	12月 藤江・吉田
45年1月 前原・飯山	2月 森口・塚越
3月 木村・森島	4月 山下・吉野
5月 森・齋藤	6月 藤江・吉田
7月 前原・飯山	8月 森口・塚越
9月 木村・森島	

発行 桐生倶楽部広報委員会
印刷所 ツポノ印刷所



社団法人

桐生倶楽部会報

前原悠一郎氏の胸像 倶楽部に寄贈

桐生倶楽部設立の功労者であり、初代副理事長でもあった前原悠一郎氏の胸像が9月末に前原邸から倶楽部庭園に移された。

これで庭園内に、初代理事長金子竹太郎氏、初代副理事長前原悠一郎氏とお二人の胸像が仲良く並んだわけである。

前原悠一郎氏の胸像の倶楽部移転は、数年前から長沢理事長が特に強く希望され、御子息であり、前理事長であった前原一治氏に申込まれていた。

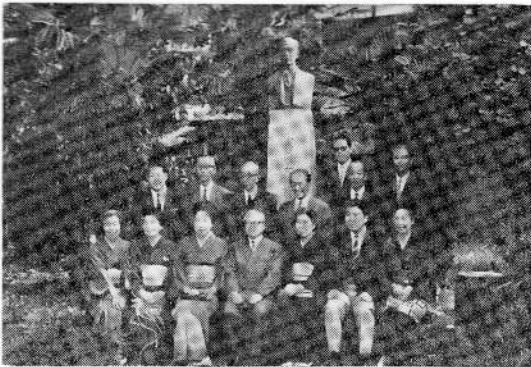
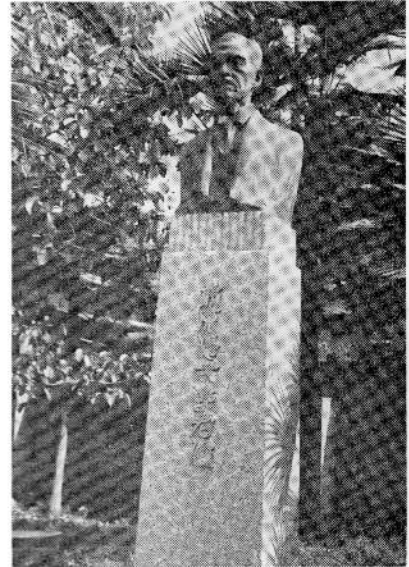
それが此の程、実を結び、前原氏の御遺族から倶楽部庭園へ御寄贈の申入れがあった次第である。

去る11月30日、此の日は、悠一郎氏の

誕生日であり、胸像を設立した日でもあるので、御遺族の方々を倶楽部に御招待申し上げ、理事長以下理事の人達、名誉社員の方々と共に、胸像の前で記念写真を撮ったり、中食をとりながら故人を偲ぶ思い出話などに一時をすごした。

前原氏の胸像は別掲にも説明のある如く、非常に貴重なものであり、これを進んで御寄贈された御遺族の方々の御好意に、倶楽部側としては理事長以下非常に感謝している。

金子、前原お二人の胸像には、倶楽部庭園にいつまでも大切に安置され、倶楽部の発展を見守って下さるに違いない。



株式会社、株式会社日本絹織機製作所、桐生製材株式会社（現在の桐生建設）、株式会社書上商店、旭絹織株式会社（旭化成の前身）、群馬精機株式会社等々、枚挙に暇がない。

政治面でも、大正2年桐生町会議員、大正8年山田郡会議員、郡会議長、大正13年桐生に市制施行、第1回の市会議員、市会議長に当選。

教育、文化面では、桐生中学設立に非常に功績あり、桐生倶楽部の創立功労者としての業績に倶楽部五十年史に詳しく記述されているが、郷土の新聞、両毛織物新聞（後に上毛新聞に合併）、織物業界の為機関雑誌として「桐生之里」、「織物工業」の刊行等に努力を惜しまなかった。

其の人となりは、温厚篤実で紳士の典型であり、人に対しては寛大、自己には頗る厳しく、事に当っては沈思熟考して果敢に処理したと云われる。

桐生市の生んだ第一級の人物であった事は間違いない。

記憶力も抜群で、昭和33年に市役所から刊行された、其の著書「桐生の今昔」を見てもよく分る。

戦後は、令息前原一治氏に、日本絹織の経営をゆだね、桐生丘公園裏の山荘で悠々自適の生活を送られ、昭和37年3月29日、90才で其の輝かしい生涯を終られた。

胸像について

胸像は、昭和11年10月31日、前原悠一郎氏の誕生記念日に、日本絹織株式会社関係者及び友人知己が、下記のような趣意で、日本絹織の構内に建設されたもので、前原邸に状された。

古い当時の建設趣意書には、こう書いてある。

「今日の躍進桐生の礎石を築き、其の教育・産業・市政の各方面に亘り貢献せられたる氏の努力は深く感謝描く能はざる所なり不肖等敢て茲に計りて同氏の胸像を建設し以て其の功績を不朽ならしめんとす」

胸像の製作者は当時彫塑界の第一人者であり皇室芸術院会員であった朝倉文夫氏であり、芸術的にも実に貴重なものと云えよう。

★…… ……★

前原悠一郎氏の略歴

明治6年10月31日、前原伝次郎氏の長男として、桐生新町2丁目に生れる。

前橋中学、物理学校を経て、東京高等工業学校卒業。

明治32年6月より35年12月迄、桐生織物学校で教鞭をとる。

明治35年12月、模範工場桐生糸染合資会社（後の日本絹織株式会社）創立。

渡良瀬水力電気株式会社創立に参画、明治39年、合資会社桐生製作所（後の桐生機械株式会社）創立に尽力。明治40年両毛整織株式会社合資会社（後の両毛整織株式会社）の設立に協力。

其の他にも設立に参加、協力された会社工場は、桐生生糸株式会社、帝国絹布



月次会報告

6月 交通問題 学生問題

当番理事 木村・森島

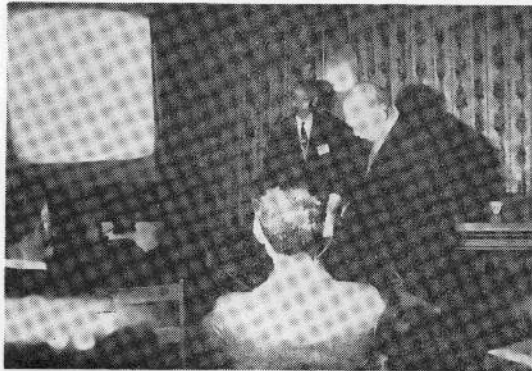
10月から実施されるポイントシステムを中心とした交通問題のあれこれを、交通課長から、70年を控えて益々激化する大学紛争、学生運動を警備する側から見た問題を警察署長から聞く。

6月25日 出席者44名
当番理事 吉田・藤江

9月 時局雑感

北海道開発政務次官として大活躍の参議院議員近藤英一郎氏を迎えて、当面する内外の政治・経済問題についてタイムリーな御話を頂いた。

9月29日 出席者25名



10月 桐生市を中心とした文化財

最近は、市民の文化財に寄せる関心が非常に強くなりつつある。桐生市文化財専門委員、天利秀雄先生を迎え、文化財の意義、選定、保存の苦心等を聞かせて頂いた。

10月30日 出席者25名
当番理事 山下・吉野

11月 聖地巡礼

群大工学部教授、吉岡春之助先生は、生物と理学の泰斗として知られ、蟻の新

品種なども発見され、ヨシオカの名を冠した蟻の学名もある程だが、又、熱心なバイブルクリスチャンでもある。

動乱の続くイスラエルへ本年1月、キリストの聖地を訪ねた旅を、スライド8ミリを使って話して頂いた。

11月24日 出席者14名
当番理事 森

江原庄兵衛氏 御逝去



江原精練工場の会長で、エバラネリの名で、絹織物の精練では世界に名を知られた江原庄兵衛氏が去る11月逝去された。謹んでお悔み申し上げる。氏は桐生倶楽部創立メンバーの1人であった。これで現存の創立メンバーは書上文左衛門氏、お一人になってしまった。



桐生倶楽部九月俳句会

九月十八日

お祭の近づく桃の未だもがす
破りたる袋の中の桃白し
長雨に心微びたる如くあり

小玉 孩子
森口順四郎
荒川あつし

美しき老でありたし白芙蓉
葉の上に登りし蚕糸を引く
老後ふと思ふときあり鬮雲
広沢やどかん〜と成し鏡
岩山の地雷のおそろしき
露の畑残れるものの皆小さし
岩清水したたるを見て憩みけり
径々の夢の花にも赤と白
鉢植の茄子も虫に喰はれけり
七月八日九日月は旅
毛野の山いまおしなべて夕焼ける
家普進もみじを残し設計す
機音に灯りのゆらぐ夜業かな
澄む水にうごめくものもなくなりし
末枯れてゆくものの一忌日

木 芳
貞 樹
えみ子
伊智尾
沢 水
光 春
心 耳
羊 村
春 江
夜行車
三山子
吟 千
久 緒
孩 子
順四郎

LOBBY

一囲碁部会一

44年秋季大手合せ

9月16日から11月21日迄、毎週火曜・金曜の夜を、手合せの時間にした長期リーグ戦。今回は参加者15名で熱戦を展開藤井一級が優勝し、11月28日打上げの懇親会を行なった。

- 優勝 藤井一級
- 準優勝 大沢初段
- 1位 武藤四級
- 2位 木村一級

一スポーツ愛好会一

文化活動委員会のスポーツ部は、藤江理事、福島社員の担当で、8月26日のボウリング大会を皮切りに活発な活動を始めた。

8月26日 ボウリング大会於スターレーン

参加者 15名

- 優勝 野村3ゲーム合計得点 459点
- 準優勝 藤江 426点
- 1位 福島 426点

11月25日 第2回ボウリング大会
於桐生スターレーン

参加者 15名

- 優勝 佐久間3ゲーム+ハンデ634点
- 準優勝 田中揮 612点
- 1位 清水 557点

10月2日 第1回桐生倶楽部理事長杯
ゴルフコンペティション

於 太田ゴルフ場

参加者 12名

	クロス	ハンデ	ネット
優勝吉田(鮎)	95	23.2	71.8
準優勝 福島	97	24	73
1位 稲村	96	20.8	75.2

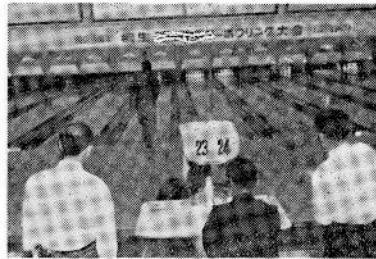
12月6日 第2回桐生倶楽部理事長杯
ゴルフコンペティション

於 藤田カントリー

参加者 11名

優勝 五十嵐	91	19	72
準優勝 阿部	91	18	73
1位 吉田展	99	24	74

尚、此の冬は、家族ぐるみのスキー教室を予定している。



一将棋部会一

11月14日(金)、午後1時から秋季リーグ戦を行ない園田二段が優勝、次位は吉田(展)一級であった。

将棋部会のメンバーは下記の9名であるが、毎週火曜日が夜を例会日として倶楽部ロービーで、盤をかこむことに決まっているので、部員以外の方でも、随時飛入り大歓迎とのこと。

川口三段、稲村三段、太田二段、園田二段、遠藤初段、吉田一級、杉野一級、野田一級、平野一級

一俳句部会一

俳句部再発足

について

三年前に誕生したクラブ俳句会も、いつか先細りの状態となっていたが、今回クラブの文化委員会組織の拡大を機に、再出発することになった。

先づ、七月五日、森口、岩下、小玉の部員が会合、運営其他について協議した結果、クラブの俳句会は、クラブ会員だけのものとすべきだというオーソドックスな考え方に捉われないで、クラブが中心となって運営してゆけば、クラブ会員以外の人達との交流をはかることも、俳句の心にも適い、これこそクラブ文化活動の時流に適した行き方であろうという結論となった。

又、クラブ俳句会は、現代俳句の祖師高浜虚子先生の唱導された客観写生の精神に沿って進めて行くという方針を確認した。

そこで、最初の句会を七月十八日(金)、ホトトギス名人、荒川あつし氏を迎えて開くことになったのである。

当日集まる者十二人。頃合いの人数で半分は、クラブ会員外の人達だったが、皆、面識ある人達なので、至ってなごやかに、しかも熱心に会が運ばれて、名句選句が、ぞくぞく生まれ、楽しい夏の一夜であった。

われわれは、忙しい、荒び勝ちな日々の生活の中で、時には静かな心で自然に接し、素直な人間本来の心に立ちかえることこそが必要で、クラブ文化委員会の意義も、ここに在ることと思う。

俳句会再発足の主旨も亦、これに他ならないのである。

同好の士も、そうでない人も是非、お気軽に仲間になっていただきたいと思います。(森口)

以上の森口理事の御報告にあるように7月を第1回として、8月18日、9月18日、10月17日、11月18日と各月大体18日頃と日を決めて定期的に句会を開いていく。

部員は、森口順四郎(順四郎)、小玉澄男(孩子)、岩下才一郎(吟千)、前原勝樹(梅松屋)、古川三男(光春)、北川好雄(詩果)、清水信次、小池久雄(久緒)。

桐生倶楽部俳句会

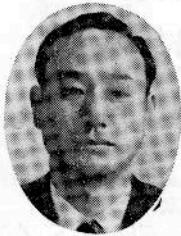
七月十八日

- 岩下 吟千
- 清水 信次
- 下山 径石
- 前原梅松居
- 啄木の古き机や梅雨暗し
- 梅雨雲の静かに動く今日も雨
- 俄か雨通りしあとの若葉かな
- 黒須三山子
- 鮎の骨たくみに抜くをめでつ酌む
- 餌を放つ足音待てる金魚かな
- 古川 光春
- 水張ってプール開きを待つばかり
- 青木 木芳
- 夏夏の茂れる丘も一古墳
- 小林 羊村
- 帰省子の二人となりし夕餉かな
- 二木柳東人

社員寄稿

『どうにかする』

村田伊弘



「市民性について」という座談会があった。ある著名人から市民性の一つとしてどうも桐生人は「明日は東

から風が吹いてなくなるだろう」というような「どうにかする」的な考え方をもっているのが兎角行き詰ったときよくこんな心境に出合う場合が多い。中小企業経営ではこの「どうにかする」的経営がちよくちよく見られる。よく一言に中小企業経営は深みのきりぎりすであると言われる。やれ公定歩合は引き下げたとか、財政支出は超大型予算であるとか、43ヶ月の持続景気であるとかいう言葉を新聞、テレビで見たり聞かされたりする。でもこのような好況の波にお目にかかれる中小企業者はいったいどの位あるであろうか、大方はそうしたお目もじを得ないで終るようである。幸いにお目にかかったとしてもその多くは六日の菖蒲十日の菊になるのがオチであろう。中小企業も浅みのきりぎりすであってほしい。このような深みのきりぎりす環境がひいては、「どうにかする」的な考え方に連がつてくると思ってもつとも「どうにかする」的でないならば必ずや「どうにかする」気にもなれるのであるが、そうなれない原因といえば事実「どうにかする」からであろう。倒産さわぎがあっても75日のたとえで忘れられてしまうのか、ざりとて世間はそれほど甘くはないのにそれほどの指弾を浴びないで済んでしまう。見方を変えればこれは「どうにもならぬ」ととどのつまり追いつめられて始めて「どうにかする」その本性を発揮する可能性が経営者に脈々と伝承されているからであるとも考えられる。この本性は開拓者精神であるとも言えようが「どうにかする」的経営ではこれからの熾烈化してゆく競争にたえてゆくことは思いやられる。そこでこれからの中小企業経営はいずれも「どうにかする」意気地の経営でなければならぬ。「どうにかする」にはまず確乎たる意思決定が入用である一般に、「経営管理は意思決定である」と言われているが経営管理者のもつとも重要な行為は多くの場合意思決定そのものである。機業の構造改革がいよいよ途につかんとする昨今、経営者自身の、「どうにかする」的な精神の高揚をこの際切に願います。

から風が吹いてなくなるだろう」というような「どうにかする」的な考え方をもっているのが兎角行き詰ったときよくこんな心境に出合う場合が多い。中小企業経営ではこの「どうにかする」的経営がちよくちよく見られる。

よく一言に中小企業経営は深みのきりぎりすであると言われる。やれ公定歩合は引き下げたとか、財政支出は超大型予算であるとか、43ヶ月の持続景気であるとかいう言葉を新聞、テレビで見たり聞かされたりする。でもこのような好況の波にお目にかかれる中小企業者はいったいどの位あるであろうか、大方はそうしたお目もじを得ないで終るようである。幸いにお目にかかったとしてもその多くは六日の菖蒲十日の菊になるのがオチであろう。

中小企業も浅みのきりぎりすであってほしい。このような深みのきりぎりす環境がひいては、「どうにかする」的な考え方に連がつてくると思ってもつとも「どうにかする」的でないならば必ずや「どうにかする」気にもなれるのであるが、そうなれない原因といえば事実「どうにかする」からであろう。倒産さわぎがあっても75日のたとえで忘れられてしまうのか、ざりとて世間はそれほど甘くはないのにそれほどの指弾を浴びないで済んでしまう。見方を変えればこれは「どうにもならぬ」ととどのつまり追いつめられて始めて「どうにかする」その本性を発揮する可能性が経営者に脈々と伝承されているからであるとも考えられる。この本性は開拓者精神であるとも言えようが「どうにかする」的経営ではこれからの熾烈化してゆく競争にたえてゆくことは思いやられる。そこでこれからの中小企業経営はいずれも「どうにかする」意気地の経営でなければならぬ。「どうにかする」にはまず確乎たる意思決定が入用である一般に、「経営管理は意思決定である」と言われているが経営管理者のもつとも重要な行為は多くの場合意思決定そのものである。機業の構造改革がいよいよ途につかんとする昨今、経営者自身の、「どうにかする」的な精神の高揚をこの際切に願います。

二倶楽部だより二

5月

- A 理事会 (7日)
B 弘報委員会 (13日)
C 文化活動委員会 (17日)
D ガーデンパーティー (20日)
参加者 56名
E 会報第12号発行 (20日)

6月

- A 理事会 (7日)
B 文化活動委員会 (11日)
C 消火器の検査と放射訓練 (16日)
D 将棋部会発足 (19日)
E 臨時社員総会 (25日) 参加 30名
F 月次会 (25日)

7月

- A 理事会 (8日)
B 行事委員会 (15日)
C 納涼会 (25日) 参加 86名
D 職員給料増額、夏季手当支給
E 石田画伯より油絵の寄贈

F 1号室テーブル入替

8月

- A 定款変更、県より認可 (7日)
B 理事会 (11日)
C 社員、萩原清彦氏御逝去
D 前原ロータリーがバナーより机と椅子の寄贈
E 服部修事務局員から油絵の寄贈
F ボウリング大会 (26日)
G 俳句会 (18日)

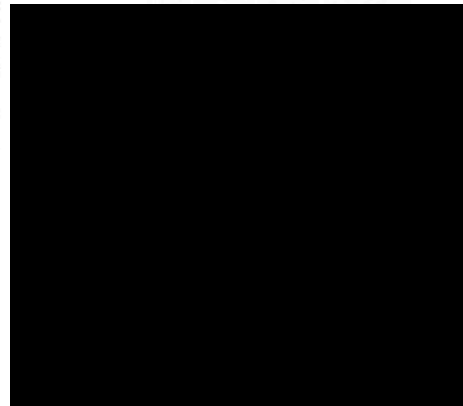
9月

- A 理事会 (8日)
B 前原悠一郎氏の胸像移転
C 俳句会 (18日)
D 秋季開募大会始まる
E 月次会

10月

- A 理事会 (8日)
B 俳句会 (17日)
C 月次会 (30日)

新入社員紹介



文化活動委員会

アンケート集計

昭和44年6月7日

Table with 2 columns: Question/Category and Answer/Count. Includes items like アンケート通知発信数 (258通), 回答数 (81通), 回答率 (31%), and a list of 12 interest groups.

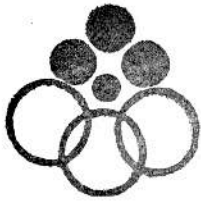
11月

- A 理事会 (8日)
B 行事委員会
C 俳句会 (18日)
D 月次会 (24日)
E ボウリング大会 (25)
F 社員設楽仁氏、江原庄兵衛氏御逝去

事務局よりお願い

住居表示及び電話番号・局番の変更があった方は至急事務局まで御連絡下さい。

発行 桐生倶楽部広報委員会
印刷所 ツボノ印刷所



社団法人

桐生倶楽部会報

予算がついて大活躍を期待される 文化活動委員会

倶楽部は長い間、財政的に余裕が無かった為、会費や会館使用料等の収入は会館の維持費、職員給与などで終わってしまい、倶楽部自体の活動費には仲々廻せない状況であった。

ところが、本年から会費の値上げも決まり、同年事業の借入金の返済もすんだ為、文化活動委員会に年間30万円の予算が計上される事が1月の総会で決定、2月23日の文化活動委員会で、各グループ毎に予算を分配した。

其の明細と、事業予定は下記の通りである。

- 1、俳句 担当森口、小玉、岩下 ¥40,000—毎月1回の例会、年間2回位、先生を招く、4月は岡安透子先生。
- 2、囲碁 担当小池、木村、武藤 ¥30,000—毎週火・金曜6時からロビーで、例会。春秋2回大手合せ。
- 3、木曜懇話会 担当山下、大森 ¥25,000—毎月1回、木曜日にテーマを決め

ゲストを招いて話を聞く、第1回を4月16日、郷土史研究会と合同で松島正見先生を招き、「桐生城物語」についてお話を伺った。

- 4、美術グループ 担当森、古川、須賀 保合 ¥25,000—作品展は年1回 (20,000円予定) 他に随時スケッチ行、研究会等 (5,000円予定)
- 5、麻雀 担当森島、岸田、小林 (昭) ¥20,000—春秋2回大会を開く予定。
- 6、スポーツ 担当藤江、福島、武藤 ¥80,000—ゴルフコンペ年2回 (40,000円予定) ボーリング大会年2回 (20,000円予定) スキー教室年1回 (10,000円予定)
- 7、将棋 担当吉田、園田、太田、川口 (盛) ¥10,000—年数回の大会を予定
- 8、郷土史研究会 担当前原 (勝)、藤井、小林 (一) 第1回の研究会は前述

のように木曜懇話会と合同で実施。以上のように総額30万円の中で24万円を各グループに割当、残り6万円は予備費として残した。

文化活動委員会の事業は、倶楽部本来のあり方を示すものであり、本年度から予算がつき、前原勝樹委員長のもとに、各担当の理事・委員も大張切りで、本年からの文化活動委員会は人活躍を期待されると思う。



写真説明

2月に改装された「あづまや」たまにはこんな処で、御家族連れで食事でも一。

桐生倶楽部会館利用のお願い

桐生倶楽部は貸室業ではありません。会館は社員の為のものであり、社員が趣味の為、憩いの為にフルに使って頂くのが本旨です。

社員個々、又は社員の親しいグループの方々だけで、常に会館の各部屋が一杯になる程利用して頂けたら、貸室料の収入が無くなり倶楽部の財政は窮乏になるかも知れませんが、それが本当の倶楽部の姿に立ち返ることだと思います。

会館の使用規定は下記のようになっております。

- 1、社員は本倶楽部会館を無料で随時御自由に共同使用出来ます。但しロビー以外の部屋を使用する際は事務職員の指示を受けて下さい。又、社員は家族及び知人を誘引する事が出来ませんが、社員1名につき5名以上を誘引することは御遠慮下さい。
- 2、社員であっても、特定の日時を予め定めて専用する場合は、使用料を納

入して頂きます。

- 3、社員外の者が本館を使用するには社員の紹介及び理事者の承認を要し、且つ臨時会費(使用料)を納入する規定になっております。

以上の規定のように、会館は社員が使うことが原則です。

御自分の応接間と同じように、友人を誘って、談話の場に使って頂いたり、たまには御家族をつれて新緑の美しい庭園を眺めながら、テラスや、あづまやで、御好きなものを出前を頼んで食事でもしたり、色々にご利用頂けたら倶楽部会館も本望だろうと思います。

繰り返しますが、倶楽部会館はあく迄社員の為であり、社員が規定の範囲内で使う場合は無料です。

是非、積極的に御利用して下さいをお願いいたします。

尚、参考迄に現行の使用料を第3面に附記しておきます。



写真説明

倶楽部の前庭

本年度中都市計画により前の道路が拡張され大分様子が変わりそうです。



月次会報告

3月 時局談を聞く

前農林大臣、当倶楽部社員長谷川四郎代議士を迎え、中央政治の問題、一般国内問題などについて色々話しを伺った。特に、円切上げの問題、デノミネーション金融引締め等、経済問題は多大の関心をよんだようである。

3月26日 出席者 45名
当番理事 木村、森島

4月 印度の珍しい仏像の話

最近、仏像を信仰の対象としてだけでなく、古美術の面から興味を持つ人も非常に増えている。

社員野口善雄氏（浄運寺住職）は、つい先頃仏教誕生の地、印度各地を歴訪されたので、4月例会は氏をお招きし、

珍しい印度仏像のスライドを見せて頂きお話を聞いた。

4月24日 出席者 20名
当番理事 山下、吉野

往診の婦路の夜桜美しき
 茎立ちし大根に花に蝶
 来ぬ人にかたくりの花摘みにけり
 この山もあはれも花の山
 少しづつ落ちこぼれしも春の水
 花屑の淀に舟着く茶店裏
 春水の滑らかに石一つ越え

榕樹（がしゆまる）の落葉を拾ふ旅愁かな
 南国の春日眩ゆき砂湯かな
 胸の辺を賢道ひ過ぐる砂湯かな

同 同 岡安 迷子
 森口 順四郎
 古川 光春
 曾我 余白
 前原 梅松居
 小玉 スミ子
 小玉 スミ子
 岩下 吟千

LOBBY

一囲碁部会—

45年春季大手合せ始まる

3月17日から5月15日迄、毎週火、金曜日6時から、ロビーに於て熱戦が行なわれている。

（参加者）山根3段、大沢2段、森口初段、藤井初段、長内1級、小池1級、木村1級、野村2級、駒形2級、武藤2級、藤生4級、島7級、辻7級、野田7级以上14名

—スポーツ愛好会—

2月24日のボーリング大会は、2時からスターレンで行なわれ、参加者18名、成績は下記の通り。

優勝	清水	513点
準優勝	須江	501点
1位	山田	494点

第3回ゴルフ大会は、3月14日、岡部地産カントリー、美里コースで行なわれ

、出席者15名を得て、理事長杯は清水氏が獲得した。

準優勝 須貝、1位 服部、2位 田中、3位 稲村
尚、次回のボーリング大会は社員だけでなく家族も含めての競技を計画している。

—郷土史研究会・木曜

懇話会—

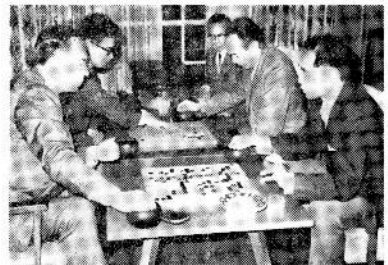
先に桐生タイムスに連載され好評だった「桐生城物語」が一冊の本になって出版され、これ又、大好評で予想外の部数が売り切れたという。その著者松島正見氏を、4月16日桐生倶楽部にお招きし、郷土史研究会、木曜懇話会の合同で、お話を聞かせて頂いた。

出席者は30名をこえ非常に盛況であった。

—俳句会—

遅かった花が、ようやく散りはじめた4月21日の宵、ホトトギス同人、

岡安迷子先生を迎えて20数名の盛会、上記の作品はその中のクラブ社員の名句。



（白熱!! 囲碁大会より）

社員寄稿

野次馬根性

塚越平人



アポロ13号は12号と比較してあまり騒がれずに月に向って発進した。これは巨大科学国米の宇宙技術が完べきであるということと、数回の月ロケットの成功が所詮感激をもたらさなかったのであろうかとかにかく13号は出発した。所が途中で電気系統の故障がおこり月への到達を断念し急ぎよ帰還ということに決り、その危険度も相当高いということ

でにわかに全世界の注目を浴びマスコミも日夜大きく取り上げて報道するに到った。よく考えて見るとその目的からして成功した場合の人類に対する科学的貢献度は失敗した時の貢献度とは隔絶している筈であるが失敗した時の方が遙かに騒がれるのは何故であろうか。三人の宇宙飛行士が無事帰還出来るかどうかが相当取り上げられていたが人命の問題だけならば地上にも更に多くの問題が存在するのは察知の通りである。それでは順調に発進し無事に地球に帰還するというある程度定着して来た必然性が破られた故にであろうかしかし此の種の計画に或る程度の危

険性ハブニングはつきものではないだろうか。私は野次馬根性が人間の気持の中にいつの時代でも如何なる時にもひそんでいて何かの機会にそのはげ口を見出そうとしているのではないだろうかと考える。

先日の大阪ガス事故は史上例を見ない惨事であり我々も同業者として市民の一人としてこの様な惨事を今後絶対起さぬよう覚悟を新にした次第であるが幾多の原因の累積はあるにしても若しあの現場に野次馬が集まらなかったとしたら、死亡はあの様に多数にはならなかったと思う。現在自分達が育て自分達が実践をしていかねばならぬ社会に未だスタンドで観戦のみに終始している人達のなんと多いことよ!! と嘆ぜざるを得ないのである。

桐生倶楽部定款を改定 定款改正に至る経過

一昨年、定款改正委員会が出来、理事
会・総会の度々の議を経て、昨年8月、
51年ぶりに正式に改訂の認可が、主務官
庁である群馬県知事から指令された。
(昭和44年8月5日認可)

同生倶楽部の定款は、大正7年の創立
当初のものが、50年も其のまま使われて
来たが、何と云っても、現在の運営上は、
不便な所が多かった。

新定款全文

社団法人桐生倶楽部定款(新)

第1章 名称

第1条 本倶楽部は社団法人桐生倶楽部と称す

第2章 目的

第2条 本倶楽部は社員相互の知識を交換し親睦を敦ふし公
益に関する事業を攻究し之が遂行をするを以て目的
とす

第3条 本倶楽部は前条の目的を達する為、左の事業を行う

- 1、学術講演会懇話会を開くこと
- 2、名士を招待し又は其談話を聴取すること
- 3、慈善的演芸会を催すこと
- 4、図書を備えて縦覧に供すること
- 5、其他本倶楽部の目的を達するに必要な事項

第4条 本倶楽部の事業を行なう方法に付いては理事会の決
議を以て別に之を定む

第3章 事務所

第5条 本倶楽部は事務所を群馬県桐生市仲町2丁目9番36
号に置く

第4章 資産

第6条 本倶楽部の資産は寄附金品社員の会費事業及び財産
より生ずる収入を以て成る

第7条 本倶楽部の資産は理事之を管理し国債証券又は確実
なる有価証券を買入れ若しくは銀行に預金して其利殖
を図るものとす

第8条 本倶楽部の経常費は資産より生ずる収益、社員の会
費並びに使途指定の寄附金を以て支弁す但し臨時に
要する費用は理事会の決議を以て之を定む

第5章 社員

第9条 本倶楽部の社員の種類次の如し

正社員

名誉社員

第10条 正社員たらんと欲するものは社員2名以上の紹介を
以て申込むべし前項の場合に於て其許否は理事会の
決議によりて之を定む

第11条 新たに正社員となるものは理事会の決議を経た金額
を入会金として納付すべきものとす

第12条 正社員は会費として毎月理事会の決議を経た金額を
納付すべきものとす

第13条 名誉社員は学識名望あるもの若しくは本倶楽部の為

特に尽力せられたるものより理事会に於て之を推薦す
第14条 社員にして本倶楽部の名誉を汚し又は其義務を履行
せざるものは総会の決議を以て除名すること得

第15条 社員の退納金は退社又は除名其他如何なる場合に於
ても之を返還せざるものとす

第6章 役員・職員

第16条 本倶楽部に理事15名、監事2名を置く

第17条 理事中より理事長1名、副理事長2名を互選する
理事長は本倶楽部を代表し一切の業務を総括するもの
とす

理事長に事故あるときは副理事長代つて行うものとす
第18条 理事及び監事は社員総会に於て選任す若し其行為に
不都合あるか又は其任務に堪えずと認むるときは社員
総会に於て之を解任することを得

第19条 理事は名誉職とす

第20条 理事の任期は2ケ年とす但し再選することを得
補欠の選任は前任者の残任期に止む

欠員あるも事務に差支なき限りは改任期迄其選挙を延
期すること得

任期の満了によって退任した役員は新たに選挙された
役員が就任するまでの間はなお役員職務を行うもの
とす

第21条 本倶楽部に必要なる職員は理事長之を任免す

第7章 総会及び理事会

第22条 本倶楽部は毎年1月社員総会を開く但し左の場合は
臨時総会を開くものとす

1、理事会に於て必要と認めるとき

1、社員5分の1以上より会議の目的たる事項を示し
て請求ありたるとき総会の決議は社員2分の1以上出
席の上過半数に依り之を決議す

第23条 理事会は必要に応じ理事長之を招集し理事2分の1
以上出席の上過半数を以て之を決定す

第8章 会計

第24条 本倶楽部の会計年度は毎年1月1日に始まり12月31日
に終る

第25条 本倶楽部の収支決算は監事の監査を受けた上社員総
会の承認を経るものとす

附 則

第26条 本定款の改正は総会の決議を必要とす本則に定めな
きものにして本倶楽部の目的を実施するに必要な事
項は理事会の決議を経て之を行なう

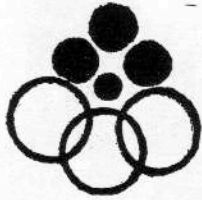
理事の仕事

社団法人桐生倶楽部定員数並びに使用料

(45.4.1)

室名	定員	半口	9時~17時	17時~22時	備考
1号室	30名	1,500円	2,200円	2,000円	(食堂)
2号室	15名	1,200円	1,800円	1,500円	
(3号室)	7名	500円	800円	600円	(食堂)
(5号室)					
6号室	15名	1,200円	1,800円	1,500円	
4号室	7名	1,500円	2,200円	2,000円	
二階広間	100名	3,000円	5,000円	3,600円	

テラス、あづまや等は独専使用は出来ない。 テラス 20名食事、喫茶等集会の場合 1,200円
あづまや 20名 食事、喫茶等集会の場合 700円 厨房 500円 ●芝生の使用は特別の他禁ず。



社団法人

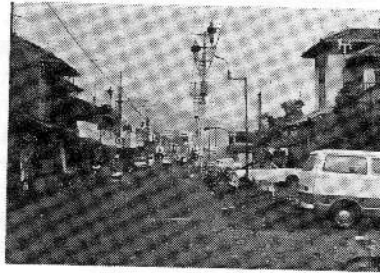
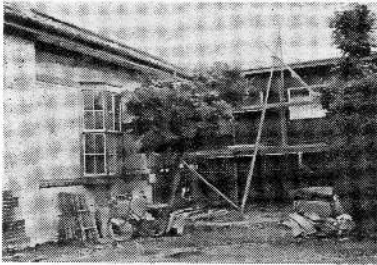
桐生倶楽部会報

桐生倶楽部改築工事始まる

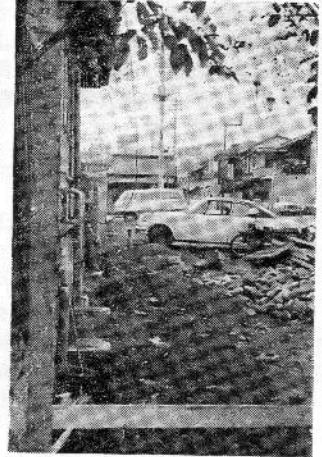
桐生倶楽部都市計画広見線拡幅事業のため、倶楽部敷地350.82平方米、が桐生市に買収されることになり、管理人の建物も撤去、それに伴い塀・門等も作り直しをすることになった。

土地買収金、その他補償金の一部で管理人の住居は桐葉軒側に新しく作られることになり、新しく倶楽部の裏側に駐車場も出来る、すべての工事は6月中に完成の予定である。

【新築中の管理人室】



この自動車の置いてある部分が市の買い上げの対象となった敷地



長沢氏名誉の叙勲



【長沢義雄氏】

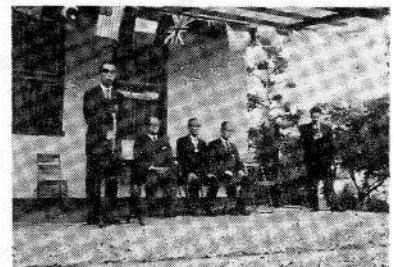
名誉社員、前理事長・長沢義雄氏は、去る5月3日、多年にわたる教育行政の功績をもって勲三等瑞宝章を受けられた。

5月25日桐生倶楽部として叙勲祝賀会を予定したが、残念ながら突然のご病気で取りやめになった。いずれお元気になられたら日を更めて祝賀会を行なう予定である。

新井・加賀山両氏の

叙勲祝賀

ガーデンパーティ



【新井・加賀山両氏】

木村貞一氏を 偲ぶ会

当倶楽部理事として長い間、倶楽部発展につくされた桐生タイムス社長木村貞一氏が、2月18日旅先に於て急逝したことは倶楽部社員一同全く哀惜にたえないものがあり、3月2日、木村貞一氏を偲ぶ会を催した。

写真は、昨年8月ヨーロッパから帰られて倶楽部木曜懇談会で話をされた時の木村貞一氏



月次会報告

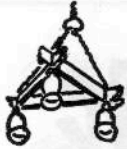
- 45年度 -

5月 ガーデンパーティ

すがすがしい初夏の一夕、緑の美しい庭園で新井幸長・加賀山猪三郎両氏の叙勲祝賀パーティを行なった。両氏とも多年の教育界につくしたご功績で、新井氏は勲三等、加賀山氏は勲四等の栄を受けられたもので、席上、川村理事長より記念品をお贈りした。

5月27日

92名



月次会報告

6月 公害問題と渡良瀬川の水についての話

最近、市民の大きな関心を集めている渡良瀬川の水の問題を公害の面より見ると、講師はこの問題について深い研究をしておられる群馬大学工学部教授の松田俊治氏であった。

6月25日 出席者 24名
当番理事 藤江・吉田

7月 家族納涼会

定例行事の家族納涼会は21日の夕方より倶楽部庭園で行なった。行事委員会の設営で、飲物・食べ物も豊富、金魚釣りポンポン風船釣り、花火等の遊びもあり賑やかであった。

7月21日 出席者社員 33名 } 計98名
 家 族 65名 }

9月 防衛問題の話

塚越理事、日野貞夫社員のご好意で、前防衛研究所長、現野村総合研究所長、軍事評論家として著名な佐伯喜一氏が、多忙なスケジュールを割いて来桐され日本の防衛問題について詳しくお話を伺った。

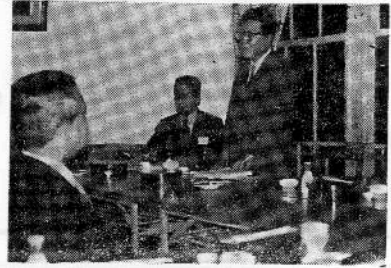
9月25日 出席者 30名
当番理事 木村・森島

10月 70年代年の日本経済

高度成長から安定成長路線に踏み出した70年代の日本経済はどうなるかという問題を、早稲田大学商学部教授永山武夫氏よりお伺いした。

経済企画庁の発表した、新経済社会発展計画（昭和45年～50年度）に基づいて、色々な角度からメスを入れたお話。

10月24日 出席者 24名
当番理事 森・小池



12月 クリスマス祭

大川名誉社員にバイブルを読んで頂き会員で讃美歌を合唱してから、食事・福引きなどの余興。新人社員のアンブローズ親父さんも参加され、一層雰囲気盛り上げる。年々参加社が増えて会場に入れ切れるかどうか、行事委員会の心配の種という程の盛況であった。

12月17日 出席者社員 48名 } 計120名
 家 族 56名 }
 幼児 4名 }

1月 新互例会

本年は出席者 58名

1月 社員総会

従来は、1月の定時総会に於ては、決算及び予算の審議のみであったが、本年より新定款により、役員任期（2年）満了に付き新役員改選を同時に行うことになった。新役員は下記のように決定

理事 川村佐助・小池久雄・平野元吉
 山下正夫・吉野一郎・前原勝樹
 木村貞一・森口順四郎・森島秀
 飯山清治・塚越平人・吉田展雄
 森 正雄・藤江敏雄・島 勝二

監事 遠田安蔵・園田 昇
尚、2月の理事会で互選の結果、理事長は川村佐助氏、副理事長は小池・平野両氏とそれぞれ留任に決定した。

LOBBY

一郷土史研究会一

桐生タイムスに「近世桐生夜話」を連載された郷土史家木本政雄先生を招いて「江戸末期に於ける桐生の庶民生活」という話題で、秋の一夜を楽しい話を聞かせて頂いた。

10月21日 参加 14名

一囲碁部会一

秋季囲碁大会 9月15日～11月15日
優勝者 木村博一初段 参加者15名
春季囲碁大会 5月4日から開催中
参加者15名

一美術グループ一

10月25日、赤城国際ゴルフ場で写生会を行なった美術グループは、11月24・25日の2日間、倶楽部階上で、第5回絵画展を開いた。出品作、氏名は左記。

番号	画 題	区 分	号 数	社 員 氏 名 (ABC順)
1	清 流 の 印 象	洋 画	F 10 号	江 原 正 治
2	釣 舟	〃	F 10 号	古 川 三 雄
3	赤 城	〃	F 10 号	〃
4	赤 城	〃	F 8 号	保 倉 一 郎
5	窓 辺	パステル	F 6 号	〃
6	の り 子	〃	F 6 号	〃
7	風 景	洋 画	F 8 号	池 田 光 二
8	秋	〃	F 10 号	菊 地 晤
9	鍋 割 山	〃	F 20 号	〃
10	シ シ リ ヤ 人 形	〃	F 4 号	金 谷 善 介
11	静 物 壺	〃	F 8 号	〃
12	紫 陽 花	〃	P 6 号	〃
13	仕 事 場	〃	F 20 号	小 出 善 三 郎
14	パ ラ	〃	F 8 号	前 原 勝 樹
15	花 あ じ さ い	〃	F 6 号	〃
16	白 菊	〃	F 6 号	〃
17	キ リ ス ト	〃	F 20 号	森 正 雄
18	聖 母	〃	F 10 号	〃
19	風 景 (1)	〃	F 8 号	丸 山 貞 夫
20	〃 (2)	〃	F 6 〃	〃
21	雁 来 紅	日本画		大 川 央 三
22	題 未 定	〃		斎 藤 長 平
23	茶 煙	〃		下 山 鶴 三 郎
24	漁 港	洋 画	F 6 号	須 賀 武 次
25	渡 良 瀬 川 畔	〃	F 8 号	〃
26	赤 城	〃	F 8 号	〃
27	題 未 定	日本画		田 代 定 四 郎
28	風 景	〃		山 川 忠 雄

一俳句部会

俳句部は毎月倶楽部の2号室で句会又は、外へ出て吟行をやっている。

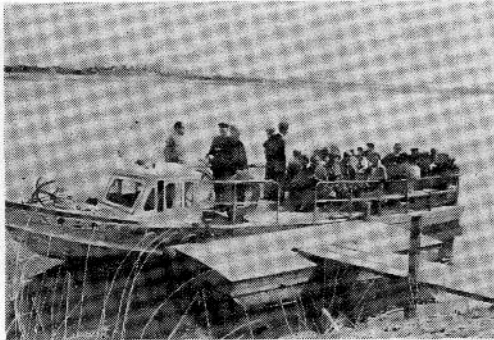
- 6月17日 於桐俱 荒川あつし先生の指導を受ける 参加者25名
- 7月17日 於桐俱 参加者12名
- 8月18日 於桐俱 参加者13名
- 9月27日 足利市はん阿寺及び足利学校跡へ吟行、ホトトギス同人岡安迷子、荒川あつし両氏の指導を受ける

参加者22名

当日は颯々流れる絶好の秋日和で、足利や埼玉の句友達も参加し、さわやかな句会を心ゆくまで楽しんだ。会員一同、桐生倶楽部の文化活動を強く再認識した和やかな一日であった。

月に当日の即吟七句を持ちより互選の後、迷子、あつし選も披露、講評があり俳句の勉強に大いに得るところがあった。(森口記)

- 10月16日 於桐俱 ホトトギス同人 市村不先先生指導 参加者20名
- 11月16日 於桐俱 ホトトギス同人 田中暖流先生指導



3月 利根川畔吟行で渡船に乗る一行

- 12月12日 吾妻公園吟行及び桐俱 「しほさゝ」主幹 吉田高浪先生指導 参加者20名
- 1月17日 恵方詣り吟行、妻沼聖天様 歓喜院 参加者16名
- 2月18日 於桐俱 ホトトギス同人 市村不先先生指導 参加者18名
- 3月28日 「河ぞいの春」吟行、千代田村利根川畔、新田屋 参加者28名
- 4月25日 梅田吟行「山の里」

4月吟行会

騒々しい選挙の声も、びたりと止んだ4月25日、早目に投票をすませて、梅田町高沢河畔山菜料理「山の里」に集まった。くづついていた天気もすっかり晴れて絶好の吟行日和。17人の会員がそれぞれ山峡の薫風に吹かれながら春の川のせせらぎを楽しみ、木の芽どきの山菜料理を満喫し、なごやかな句座の進行と共に親睦を重ねた一日であった。その時の句の一部は右の通り。(森口記)

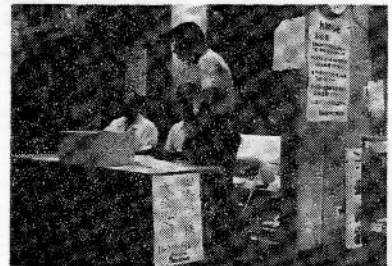
- 5月29日 於桐俱 参加25名

桐生倶楽部俳句部を再出発以来一年余を経て桐生俳壇に、その存在が次等に浸透し市内各会派からも参加するようになった。倶楽部俳句部がそれら会派の横の連絡、行事の連携のために一助になるならばと念願するものである。(森口)

春の川陽のあるところ
山容に立夏近きをおぼえずや
春風や山ふところの一茶寮
帰りには芹つみゆけと主云ふ
片栗の花も一つの山料理
梨の木の本の花を見て居りし
もの蔭の何か冷え冷え木の芽どき
石垣の積み目々々々春の草
南に桐生城趾や風光る
春川を飛石づたい渡り来る

一スポーツ愛好会

- 6月21日 第4回ボーリング大会 於スターレーン 参加17名
- 8月18日 第4回理事長杯争奪ゴルフ大会 於太田ゴルフ場参加17名
- 8月25日 第5回ボーリング大会 於スターレーン 参加22名
- 9月21日 家族ボーリング大会 於スターレーン 参加者社員 26名 計38名 家族 12名
- 3月21日 スキー教室 於尾瀬オリンピックアスキー場 参加28名



家族ボーリング大会受付

昭和45年度 ◇倶楽部だより◇ (1)

- 5月
 - A 理事会 (9日)
 - B 昭和45年度固定資産税減額申請 20%割引 (13日)
 - C ガーデンパーティ及び新井幸長氏 (勲3等) 加賀山猪三郎氏 (勲4等) 叙勲祝賀を行なう。(27日) 72名
 - D 俳句会 (26日) 13名
- 6月
 - A 理事会 (8日)
 - B 俳句会 (17日) 荒川あつし先生指導 25名
 - C クラブ利用車増加のため自転車置場を駐車場に改造
 - D 月次会 (25日) 群大工学部教授松田俊治氏の「公害問題と渡良瀬川流水について」講演 24名
- 7月
 - A 行事委員会 (2日)
 - B 理事会 (8日)
 - C 職員定期昇給及び夏期手当支給
 - D 俳句会 (17日) 12名 於クラブ
 - E 家族納涼会 (21日) 於庭園 社員 33名 計98名 家族 65名
 - F 草とりを入れて庭園整備
- 8月
 - A 理事会 (10日)
 - B 定時体館 (15日・16日)
 - C 社員ゴルフ大会 (18日) 於太田ゴルフ場 参加 17名
 - D 俳句会 (18日) 13名
 - E 二階広間に暗幕を取付ける

- F 木曜懇談会 (27日) 欧州見聞談 木村貞一氏の話 出席 21名
- G 美術グループの集い (26日) 9名
- H 社員ボーリング大会 (25日) 参加 22名 於スターレーン
- 9月
 - A 理事会 (7日)
 - B 秋季囲碁大会 (9月15日~11月15日)
 - C 社員家族ボーリング大会 (21日) 於スターレーン 参加社員 26名 計38名 家族 12名
 - D 月次会 (25日) 佐伯喜一氏の防衛問題の話をきく。参加30名
 - E 俳句会 (27日) 足利はん阿寺吟行、岡安迷子先生指導参加23名

◇ 新入会員紹介 ◇



当番理事編成表

理事の中から、毎月当番理事2名を決め、その月の倶楽部運営に関する細かい日常の仕事の監督、理事会の用意、月次会の設営等に当らせております。46年6月以降の各月の当番理事は下のよう

6月	前原・飯山	10月	吉野・森
7月	平野・小池	11月	島・藤江
8月	森口・塚越	12月	吉田・前原
9月	森・山下		

昭和47年度

1月	飯山・平野	7月	前原・飯山
2月	小池・森口	8月	平野・小池
3月	塚越・森島	9月	森口・塚越
4月	山下・吉野	10月	森島・山下
5月	森・島	11月	吉野・森
6月	藤江・吉田	12月	島・藤江

昭和48年度

1月	藤江・前原
----	-------

発行 桐生倶楽部広報委員会
印刷所 ツボノ印刷所

◇ 倶楽部だより ◇(2)

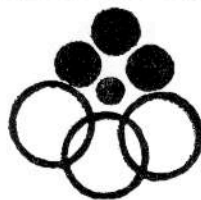
45年10月

- A 理事会 (12日)
- B 俳句会 (16日) 20名
- C 郷土史部会 (21日) 木本政雄先生「江戸末期に於ける桐生の庶民生活」参加14名
- D 月次会 (24日) 早稲田大学商科・永山武夫氏の「70年代の日本の経済」参加24名
- E 美術グループ写生会 (25日) 於赤城国際ゴルフ場参加8名

11月

- A 理事会 (10日)
- B 都市計画に対する検討をはじめ

- る
 - C 俳句会 (16日) 田中暖流先生指導参加20名
 - D 第5回絵画展 (24日・25日) 出品者16名、作品29点、来観者80名
 - E 行事委員会 (20日)
- 12月
- A 理事会 (8日)
 - B 俳句会 (12日) 吾妻公園吟行及びクラブ吉田高浪先生指導20名
 - C 職員年末手当支給 (15日)
 - D 植木の手入れをする
 - E クリスマス祭 (17日) 社員48名 家族56幼児4、合計120名
 - F 年末休館 (30日・31日)



社団法人

桐生倶楽部会報

齋藤長平氏を偲ぶ会

去る昭和48年2月22日午後6時、2月の月次会行事として名誉社員であり理事及理事長を永くお勤めになった、故齋藤長平氏を偲んで語る会が催されました。

齋藤さんの死を惜しむ友人知人約30人と嗣子喜平氏と神谷氏の参加を得て、非常に意義ある会合だったと思います。

小池副理事長の司会で、先づ川村理事長から追悼の挨拶があり、続いて石川正吾さんから、若き学生時代を共に京都ですごした思い出話をされ、非常に進歩的であったと同時に、覇気に富み、多くの友人と交流された当時のモダンボーイ齋藤長平氏の面白い一面を語られました。

名誉社員長沢氏及大川氏より理事として共に苦勞した戦後間もない頃の倶楽部の話が、又理事長時代の齋藤さんが、桐生倶楽部は桐生市の茶の間としての役割を果たすのだ、として暇さえあれば出勤して、各界の名士と話し合う機会を作り倶楽部の発展に尽力された様子を語られた。

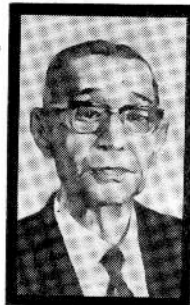
山下 理事からは人権擁護委員として、或は調停委員としてのお人柄を話されたり、伊沢弘一先生からは仲人としてお世話になった当時の齋藤さんの知られざる一面を、又石川一善先生からは学校給食の創生期に西小後援会長として、校長を授けて、群馬県に於ける第1号として学校給食を実現したとか、晩年特に交流の深かった一人下山先生からは、淡々とした齋藤さんの心境など、更に新井滋雲先生より日本画同好会長としての大きな功績や美術愛好家としての一面が語られる等、尽きざる思い出話に時の経過を忘れるような状況であった。終りに近く御子息神谷さんと齋藤喜平さんから子として見た父の一面を語られ、暖かい思いやりを持ち、一面きびしさをも併せ持った、父としての升長さんに参会者一同心暖まる情感にひたり乍ら2時間近い座談会を終了した。

塚越、金谷、両理事が当番理事として木曜懇談会の山下理事とともに、この会を企画運営され録音に大分苦心されたこのテープが、齋藤さんの霊前に供えられたことは、非常に意義ある催しであったと存じます。

尚、出席者全員の発言を記述すべくで

すが、紙面の関係もあり、要約させていただきましたが、倶楽部が私の人生の大半であったと云う程桐生倶楽部を愛した社員としての優等生である齋藤長平氏に心から哀悼の誠をささげて報告といたします。

(文責 島勝二)



故 書上文左衛門氏



故 齋藤長平氏

書上、齋藤両名誉社員の死を悼む

桐生倶楽部2代の理事長であり、名誉社員であった書上文左衛門氏は、昨年7月14日御逝去になり、3代理事長、名誉社員齋藤長平氏も、そのあとを追われように本年1月16日永眠された。

書上文左衛門氏は、明治24年5月6日生れ、東京高等商業学校(現一橋大学)卒業後、家業の織物買継商を継がれた。書上商店は誰もが知る300年も続いた桐生随一の織物買継商、戦前は上海其の他に6カ所の支店と140人の店員を擁していたという。

若くから、桐生の文化・経済・政治あらゆる面で活躍された。

特に桐生倶楽部に関しては、創立当時の理事であり、会館の現敷地は、当時書上家所有のものを譲られたとのことである。大正14年には、2代理事長として御就任になり、倶楽部発展の基礎造りをされた。

戦後、書上家の邸内の一部に住んでいた坂口安吾も一目置いていたという。晩年の書上氏は、全く他に得難い風格の持主であった。

時偶、倶楽部に出席されて話される氏の片言隻句からでも、スケールの大きな文化人、教養と信念に裏打ちされた重さのようなものを感じさせられた。

齋藤長平氏は、明治24年9月25日生れ、京都高等工業学校卒業後、紺屋「升長」を継がれた。

桐生倶楽部創立直後に入社され、大正15年3代理事長に選任され、昭和25年迄、実に24年間倶楽部運営の責任者として活躍された。戦前の発展期、戦中戦後の受難期、氏の身を挺して倶楽部の為に尽くされ

たエピソードは数限りない。此の人生、倶楽部を愛し、誇りとした人はいないであろう。

「桐生倶楽部50年史」に取められた。齋藤長平の所感の中に、「私の人生の3分の2が倶楽部と共にあり、その又、半分が理事長としてであった。だから倶楽部の歴史は私の歴史でもあったと言える」と書かれてある。

然し、氏は家業や倶楽部だけでなく、政治・経済・文化あらゆる面で桐生の町、桐生の人の為に幅広い活躍をされてもいる。市会議員、群馬精機株式会社社長、赤城社社長、新日本絹織株式会社社長、人権擁護委員、裁判所調停委員会会長、図書館後援会会長、日本画愛好会会長等、数々の履歴をみても充分察せられるであろう。

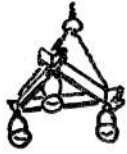
氏は話し好きで、博識、多才な其の人ならではの語りで人を楽しませ、飽くことを知らない。又、反面非常に聞き上手な人でもあった。

然し、氏を敬愛する人が、その年令を問わず非常に広かったのは、話し上手というだけでなく、究極する所、その人柄であったらうと思う。

他に寛やか、自らを厳しく生きた人である。いつも自身を捨てて、相手の立場に立つて物考える事の出来た人である。

齋藤氏は長年の心の友であった書上氏が逝って非常に落胆された御様子であった。我々は、時を経ずして、郷土の大先輩、倶楽部の功勞者2人をなくし、寂寥此の上ない。然しお2人が別の世界で、「又、一緒になれたなあ」と、話し合っておられるように想像し、僅かに慰めるより術はない。

書上、齋藤両氏に社員一同心から哀悼の意を捧げる。(小池)



月次会報告

昭和46年度

46年度は庭園工事や、地方選挙及び参議院議員選挙が重なり3月より6月まで休会しました。

7月28日 小山市長に市政の抱負を聞く会を催したところ39名の出席があり一号室が身動きのとれぬ程でした。

9月21日 郷土映画観賞会 出席21名 理事長から「最近の経済問題について」と題しての挨拶があり、続いて映画を観賞した。A. 新しい町、B. 高原の四季、C. 草津志賀ルート 当番理事(山下、森島)

10月26日 座談会 出席12名 ゲスト抜きで身近な話題により秋の一夜を楽しく過しました。

11月27日 祝賀祝賀とスライドの会 森口順四郎氏、金子友三郎氏は永年のご功績により、勲五等双光旭日章を賜り、その栄誉をお祝い申し上げた。同時に月次会を兼ね、スライドを観賞した。テーマは、「亭主長持ち、女房長持ち」奥様同伴で大変楽しい会でした。出席48名 (飯山、藤江、島)

12月21日 クリスマス祭 恒例の福引などもあり、にぎやかにX'masをお祝した。出席126名(社員105名、中学生15名、幼児6名) 担当 行事委員会

昭和47年度

1月1日 新年互礼会 出席55名 普段お見えにならぬ方々も多数お集まりになり新しい年を祝った。 担当 行事委員会

1月28日 社員総会 社員総数250、出席146(内委任状128) 議長は川村理事長。議事録署名人は小玉澄男、森口量、昭和46年度事業報告を平野副理事長が、・財産処分特別会計・収支計算書、以上の報告は吉野会計理事、昭和47年度予算案説明を吉野会計理事が行ない全議案を可決承認されました。

2月——休会——

3月29日 桐生市長に抱負を聞く会 小山市長にご出席いただき今後の抱負をお話し願った。出席38名 当番(塚越)

4月28日 二大事件の真相を聞く会 県下に起きた二大事件、即ち連合赤軍浅間山荘事件と大久保事件について県警本部交通部長土谷政五郎氏、同捜査一課長持木一二氏、同警備第二課長中山和夫氏をお招きしその真相を聞いた。出席52名で近来にない盛会であった。 当番(山下、森島)

5月26日 ガーデンパーティー 新装成った庭園でのパーティであったが出席者が少なく残念だった。出席35名 担当 行事委員会

6月——選挙のため休会——
7月——休会——
8月——休会——

9月20日 納涼会 森農場に社員及び家族併せて72名の参加を得て楽しく一夜を園遊した。席上

造園師小山音作氏に感謝状と記念品を贈った。

担当 行事委員会

10月25日 小池副理事長にソ連の土産話を聞く会 先頃織協によるソ連訪問から帰国された小池氏に土産ばなしをしていただいた。郷土料理に打ちとけるうち、特ダネ話もあって盛会だった。出席33名 当番(山下)

11月——衆院選挙のため休会——

12月25日 クリスマス祭 会員家族68名、小学生15名、幼児15名、計98名と大変にぎやかだった。特に福引賞品を豪華にしたのが呼びものだった。 担当 行事委員会

昭和48年度

1月2日 新年互礼会 出席63名 担当 行事委員会

1月26日 社員総会出席155名(内委任状132通)にて無事案件を可決承認した。

2月22日 斎藤長平氏を偲ぶ集い 木曜懇談会と共催により28名の参加を得てありしの日の斎藤氏を偲ぶ会を催した。この機、ご家族を囲み故人の四方山話を録音し壁前に捧げた 当番(塚越、金谷、山下)

3月29日 「繊維と公害」スライドと講演の会 群大工学部高分子化学科教授の石井義治先生をゲストに招き、上記テーマのもと研究会を行なった。出席12名 当番(山下、吉野)

歴史の流れ

福田 才 治

今日ほど、歴史の流れを実感できる時代は、かつてなかったのではあるまいか歴史といえは、まず過去のもの、そして教科書などに書かれたもの、しかも何百年何千年と長時間単位のものというのが今までの観念であった。それが現代では、生活の中に歴史を意識し、その流れがこの眼で見られるのである。

歴史は社会の変化である。何が大きな事件が起り、それによってその後の社会の流れがかわる。だからその事件が、歴史に特筆される意義をもつ。よく十年一昔というが、昔は十年間くらいでは、歴史の本にのるようなことは稀であった。

今では、十年はおろか、毎年歴史に記録されそうな事が起っている。

人類発生以来何万年も、ただ詩歌やおとぎばなしでかよっていた月に、現実にはアポロが何度も行くようになった。しかも、これは偶然に発生した事象ではなく人間が計画的につくり出したものである。またこの頃、急速な開発にともない、古墳や昔の住居跡などが発掘される。昔の人が、一つの聚落を形づくって生活し、やがて、そこから離散していくまでには、ずいぶん永い年月を要したわけである。それが今では、僅かの期間で何十万人もの都市や大きな臨海工業地帯ができる。一方、過疎地では、昔の人ならばもう何百年か辛抱し手がけてみる村を、案外思いきりよく、次々に歴史的遺物にし

ている。もつとも、そこにもやがて観光開発などの手がのび、これからは埋蔵文化財にもならぬうちに、あとかたもなくなくなってしまうかも知れない。

さて、このように社会が早いテンポで変るといのは、それだけ人間が活発に活動している証拠であろう。ある政党のスローガンに、何やらの流れをかえようというのがあるが、今まで一代や二代ではどうにもならなかった歴史の流れを、いま生きている自分たちの力で、どうにでもかえられるわけである。誠に生きがい多き世に生まれあわせたものであるがそれだけに責任も重い。せいぜい、子孫に笑われないような歴史をつくりたいものである。(47、4、30)

LOBBY

—スポーツ愛好会—

◎46年度

10月13日、スターレーンに於いてボーリング大会を開催した。22名参加して腕を競った。尚、ゴルフ部は休みだった。

◎47年度

4月25日、「田中」に於いて6名が出席しスポーツ部の打合せ会を行なった。

そして5月11日にボーリング大会をスターレーンで開催し、19名が参加した。

その結果、優勝—小林(祥)
準優勝—須江
ブービー—橋本(辰)となった。

更に12月19日にもボーリング大会を開き12名と年末のせいかやや参加が少なかったが、優勝—藤江

準優勝—飯山
ブービー—蓮沼(桐生建設)

という結果だった。

また、ゴルフ部とスキー部は、それぞれ休会となった。

◎48年度

2月11日にスキー教室を尾瀬戸倉国際スキー場で行なった。雪不足が心配されたが、坪野茂氏の指導で無事終了した。

参加者は家族を含め50名であった。

—美術グループ—

◎昭和46年度

9月26日、モデル写生会をクラブで開く予定だったが、都合で中止となった。

10月16日絵画展打ち合せ会

11月6・7日桐生倶楽部絵画展をクラブ2階広間で開催した。

出品者15名、出品点数25点、91名来観

◎47年度

9月10日、静物写生会を新井リコ先生指導のもとクラブで行なった。14名参加

10月10日絵画展打ち合せ会

10月22・23日第7回絵画展を開催
出品者14名、出品点数27点、来観者110名

—囲碁部会—

◎46年度

毎週火・金曜日の2回を練習例会とし毎回6名位いの出席で続けられた。

5月4日より7月6日まで、クラブに於いて春季囲碁大会を開催し、11名の参加で競ったが、結果は優勝が山根、準優勝が木村の両氏であった。

更に9月21日より11月23日まで秋の大会を行ない、12名の参加で戦った。

優勝は森口氏、準優勝は木村氏が連続で勝ちとつた。

◎47年度

この年も毎週火・金曜日を練習例会とし、春の大会を4月4日より5月30日まで行なったが、木村氏が優勝し、準優勝には島氏、3位には岸田氏が入った。

7月15日に東泉閣で納会を行なった。また、秋の大会には12名が参加し9月5日より11月24日まで行なったが、選挙などで中断し、成績が出なかった。

第7回桐生倶楽部絵画展出品者目録

番号	画題	区分	号数	氏名
1	ざくろ	日本画		大川 英三
2	枯はす	〃		大川 英三
3	とおもろこし	〃		大川 長平
4	梅	〃		大森 勝樹
6	ガーベラ	油絵	F3号	前原 勝樹
6	カーネーション	〃	F8号	前原 勝樹
7	静物	〃	F8号	前原 勝樹
8	静物	〃	F4号	森 正雄
9	チマブエの聖フランシスコ	〃	F6号	森 正雄
10	米沢の御廟	〃	20号	須賀 武次
11	ロシア人形	〃	F6号	金谷 善介
12	エスキモー人形	〃	F4号	金谷 善介
13	静物(壺)	〃	F6号	金谷 善介
14	清流の印象	〃	F10号	江原 庄兵衛
15	静物	〃	F8号	古川 三雄
16	根寸景	〃	F10号	古川 三雄
17	吾妻公園	〃	F10号	古保 倉一郎
18	静物	デッサン		保 倉 一 郎
19	初秋のながめ	油絵	F8号	延 命 実 (桐生機械)
20	静物	〃	F8号	延 命 実 (〃)
21	静物	〃	F8号	新井 一郎 (桐生機械)
22	けがれなき尾瀬	(1)水彩	四切	松村 英雄 (東京電力)
23	〃	(2) 〃	〃	松村 英雄 (〃)
24	〃	(3) 〃	〃	松村 英雄 (〃)
25	石仏	油絵	F6号	梶井 海一
26	静物	〃	F8号	梶井 海一



一 俳句部会

- ◎昭和46年度
 - 6月26日：出席26名 於クラブ
 - 7月29日： 25名 //
 - 8月27日： 24名 //
 - ホトトギス同人荒川先生指導
 - 9月30日：出席18名 於クラブ
 - 市村不先先生指導
 - 10月25日：出席18名 //
 - 11月26日： 21名 //
 - 12月27日： 26名 忘年句会 //
- ◎昭和47年度
 - 1月25日：出席20名 新春句会 //
 - 2月13日： 25名 俳句吟行西方寺
 - 3月 休み //
 - 4月27日：出席13名 於クラブ //
 - 5月19日： 19名 //
 - 6月27日： 21名 //
 - 7月2日： 50名 //
 - 森口順四郎氏追悼句会
 - 8月 休み //
 - 9月 休み //
 - 10月17日：出席3名 //
 - 11月14日： 20名 //
 - 12月12日： 42名 //
 - 忘年句会市村不先先生指導
- ◎昭和48年度
 - 1月～3月 休み

故 森口順四郎氏の略歴

明治34年10月7日、桐生市宮本町に生る森口織維社長として企業を営む傍ら、桐生市教育委員会委員長など多くの公職



を歴任された。桐生クラブには昭和21年11月11日に入会された。二十数年間に涉り積極的な活動を行なわれ、昭和37年より47年亡くなるまで5期にわたり理



事として活躍された。特に文化活動委員会の俳句部会を担当され部会の発展に大いなる尽力をされた

一 麻雀部会

◎昭和47年度
8月10日第1回の麻雀大会を「ロン」で開催、24名の出席を得て盛会だった。11月25日には第2回大会を同じく「ロン」にて開催、参加者は12名。

◎昭和48年度
3月23日に第3回を開催した。参加者は16名だった。

- 第3回麻雀大会成績
- 1位 桐生建設運沼
 - 2位 加藤昌克
 - 3位 飯山清治

『桐生川をもっときれいにしましょう』

米田 籌 穂

公害問題が人類最大の課題になりつつあります現在、桐生市はまだ山紫水明の自然に恵まれていると云われています。

が、しかしこの恵まれた山や川も、今侵されつつあります。ここでは川について考えたいと思います。

桐生市に始まり桐生市に終る清流桐生川は、桐生市民の心のふるさとでもありましょう。桐生市民の手で、きれいにもよきたくも出来る川、桐生川について私達はもっと関心をよせたいものです。

昨年桐生薬劑師会の手で調査されました水質汚濁の点だけをとってみても問題は山積しています。

が、しかし問題は水質だけではなく、桐生川沿岸を安全に散策出来るでしょうか？子供が川原で遊んでもガラス片や缶詰の空缶で手足を傷つけないでしょうか？安心して水泳の出来る水でしょうか？ひと休みして楽しい語らいの出来る木陰やベンチの施設は充分でしょうか？下流の人々の飲水や農業用水に迷惑をかけていないでしょうか？

これらを広く含めた意味で「桐生川美化について」市民が、クラブ員がフランクに語り合いたいものだと考えております。

山については、当クラブ川村理事長のお骨折りにて市民の眼がまた一つひらかれました。次は川ではないでしょうか？

桐生クラブの歴史を五十年記念誌や先輩方のお話により断片的であれ見聞きしますと、創立期以来底を流れている気風は桐生での問題点を先取りして談論風発のなかから解決策を見出し、その時代の良きリーダーシップを取られたその気風であると承知致しております。

五拾数年前建築の、このすばらしい倶楽部の建物の維持管理と社員の社交クラブ的役割も本当に大切な事ではありますが、もう一つ前述の郷土桐生への市民社会の良きリーダーとしての果すべき役割責任とでも云うべきものについて、今一度考え、想いをクラブ創設期の先人の志にはせる必要も亦あるのではないのでしょうか？

この意味から、桐生川をもっときれいにしませんか？と云う事についても、是非クラブ社員のなんらかの会合でのお話し合いを期待するものです。

私の所属しています団体の一つであります桐生青年会議所でここ数年着手しています「社会開発計画」では、市民の皆様方のアンケートを実施し昨年未報告書を刊行致しました。この中でも生活環境整備に対するご要望は全9部門の中で、都市計画部門に次いで第2位であり、自然保護、緑地帯、児童公園、公害防止等を含んでおります。

このアンケートにもとずいて、J.C.（青年会議所）では48年度より、社会開発計画の実施段階を迎える事となりましたこの桐生川美化運動も、そのなかでの有力な事業計画候補の一つとつて現在勉強会を実施中であります。

当クラブの皆様におかれましても、是非、桐生川美化に一層のご関心をお寄せ下さいませよう、お願い申し上げます。拙文の筆を擱きます。

麻雀部会より一言

飯山清治

麻雀部会は、3月23日の大会で第3回になります。理窟抜きで一時(いつとき)麻雀マニヤが共通な楽しみの時を過ごせませす事は何よりの会合です。この様な企画をしなければ仲々暇を作る事が難しい桐生を代表する旦那衆が、文字通り万障繰り合わせて麻雀の為ならエンヤコラと延々と続けて参り度いものです。

一木曜懇話会一

◎昭和46年度

12月3日に高橋彦七氏をゲストに、「近ごろ読んだ本」と題して6名出席のもとに行なわれた。

◎昭和47年度

3月24日に「私の明治、大正」と題して行ない5名が出席した。

6月23日に山下正夫氏をゲストに、「焼ものづくりの話」のテーマで4名出席のもとに行なつた。

8月24日には「初心者俳句講座」と銘打って小玉謙子氏の指導で4名出席して開催した。

◎昭和48年度

4月6日「私の戦争体験」座談会開催

一郷土史研究一

◎昭和47年度

4月18日に清水義男先生をゲストにお招きして「庚申信館の謎」と題して、8名出席のもとに行なつた。

町名の改変に憶う

天利秀雄

近頃は全国到るところで、文化財保護の運動が盛んに行われるようになり、我々の先人の残した各種の文化遺産が検討され尊重されてきた事はまことに喜ばしい事である。その為の機関として各県なり都市の教育委員会の中に、文化財担当の事務官と専門委員会が設置されて文化財の調査や指定や保護に当ることになった。最近では町村にも同じ組織の機関が置かれてその運営が始まり、結局全国到る処この方面の施設が充実してきたことになる。したがって各地で世に知られなかった有形無形の文化財が、人々の前にその全容を現わして、歴史文化研究の対象となってきた事はお互に御同慶に堪えない次第である。

然し乍ら世の中には此等文化財の範疇に入らないもので大切な文化遺産がいくつもある。たとえば伝説、民話、地名等口語や伝承によって伝えられたものなどが、この中にはいる。特に「地名」などについては一般的には「単なる土地の名称」として勿論法的にも何等の制限もなく、不便であれば自由に変えられるものとして、その地名もつ歴史的や地理的の深い意味など一向におかまいなしに変えられることが多かった。特に最近都市部に人口が集中しその為市域が拡大され新しい町名が必要になると、その旧地名などは少しもかまわず適当な町名が附されたり、又一方町域が複雑であるからという理由で旧町名全部を廃して新しい統一的な町名に改めたりすることが各都市で行われたりするようになった。勿論わが桐生市も例外ではなかったようである。

現在桐生市は本町通りから東側の全部が旧町名が廃されて統一的な「東」や「仲」の町名に変わりあとは何丁目番地で区別して昔から伝えられた「安楽上町」や「泉町」、「清水町」、「今泉町」、「東久方町」など遂に廃止され消滅してしまつたのである。それ故今更法的処理も完了して廃止になつた町名をとかく

論じて何もなるまいという考え方もあろうが必ずしもそうばかりとは云えまい今後の事もあるから一応こちらの申分もお聞きを願いたい。

桐生の市街地特に天満宮から南6丁目までの土地はその成因は地理的に申すならば桐生川の氾濫原で扇状地という地形であろう。河川が峡谷を貫流して平原地に到達すると流水は急に広く流れて扇状の平地を形成する。桐生の市街地はほとんど其上に造られているので地下1米も掘下れば何れも砂礫地帯であることが之を証明している。このような土地においては流水は扇の要の部分、即ち上流から平原地の下に流れ込み、伏流水となって末端部に清水や泉となつて湧出する。そのあたりに附せられた地名が旧市内当時の「今泉町」であり「泉町」であり又「清水町」であつたので、此等の地名は此の土地の地理的要因にも深い関係をもつたものと云わなければならない。

更に此の旧市域を歴史の変遷の上からみると、西側台地に沿う地域から早く開けて、すでに平安朝頃に美和神社がおかれているから、その頃から村松の集落は始まつたといふ考えられる。従つて交通路もこの台地に沿うて南へ北へと伸びていたことであろう。「村松」や「堤」の地名は南北朝室町時代の記録にみえるから古い地名であろう。これに反して現在の本町通りから東の桐生川に沿うた部分は、ごく一部の今泉の地を残して他は全部古い氾濫原の姿を残して荒蕪地となり、特に東南部あたりは藪沢地のような状況で小動物鳥類の住家であつたから桐生城の武士達の狩場となつて居り、桐生幼綱の父重綱が鷹狩に来て洛馬負傷したのもこのあたりであつた。このような地形からこの辺一帯が「荒戸」なる地名が附せられ慶長以後、天満宮から南へ「桐生新町」が出来ても、この形勢はあまり変わらず、江戸時代を通じて「荒戸村」であり明治に至つてもその名称はつづいて「荒戸」の名を廃して、町名に「安楽

土」の文字を宛てたのは極めて新しい事であつた。

扱此の広い地域の「荒戸」の中で一番早く開墾され人家の立つた場所は「今泉」であつた。此の地名の始りはすでに戦国時代の末頃であつたらしく、西方寺の古記によると此に東勝寺(東照寺)なる末寺が建立されたが、その寺の山号が「今泉山」であつたといふ。この寺の初代の住職は徳盛和尚といつて永禄3年に示寂しているから、この頃すでに「今泉」の地名は存していたに違いない。したがつて「今泉」の開発はそれよりは多少早かつたものと思ふ。唯此の地域だけが広い荒戸の中にあつて早く開発された理由は明白には示し難いが、恐らくは此のあたりが、土砂の堆積等の理由から多少小高くなつて居り、又清い泉のわく処があつて人の住居に適していたとか、或は上流からの汰上の堆積が耕作に適していたとか何れこのような理由が人が住み、集落が出来、寺も建ち、やがて「今泉村」となつていったと思ふのである。

以上の如く桐生の東部地区桐生川流域の自然状態から漸次開発されて行つた過程を述べたが、とにかくこのような特殊な地理的環境や歴史的要因が「今泉」とか「清水町」とかの名称の町に残り、或は「荒戸村」や「東西安楽土」の称号に今日まで、その名残を止めて来た事は全く有難い事であつた。それ故此の土地に深い関連を持つこれらの名称を出来るならば今後もこの地方に止めて置きたいと考へたのは私一人ではないと思ふ。そこですでに新しい町名に変更した所は、今更に変更も出来まいから、旧町名の残る何等かの方途を考へていただきたいそれについて思ふのは新宿の八幡宮に「鳳岡殿」の額字がかかつて居るが、これは新宿の旧通りの出来る以前、あの辺一帯の原を方吼原とか奉公原とか呼んでいたもので此の社殿に音の共通する「鳳岡」の文字をかかげたといふ。

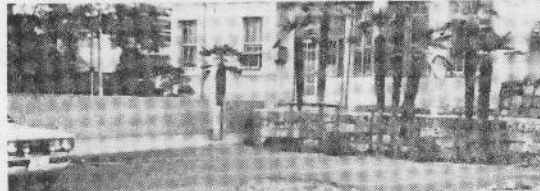
昔の人は無人の荒野であつた原野の名称もかく社殿に附してその名を後世に止めようとしたのである。何とゆかしい話ではないか。

都市計画による 倶楽部改築工事報告

昭和46年度

- 4月12日 支障物件の撤去工事開始
- 5月13日 植木の移植完了
- 7月19日 管理人室兼駐車場完成
門柱移動、幅を広げる。
ブロック・モルタル塀完成
- 10月25日 第二駐車場及び隣接塀完成
その他附帯工事全て完了した。

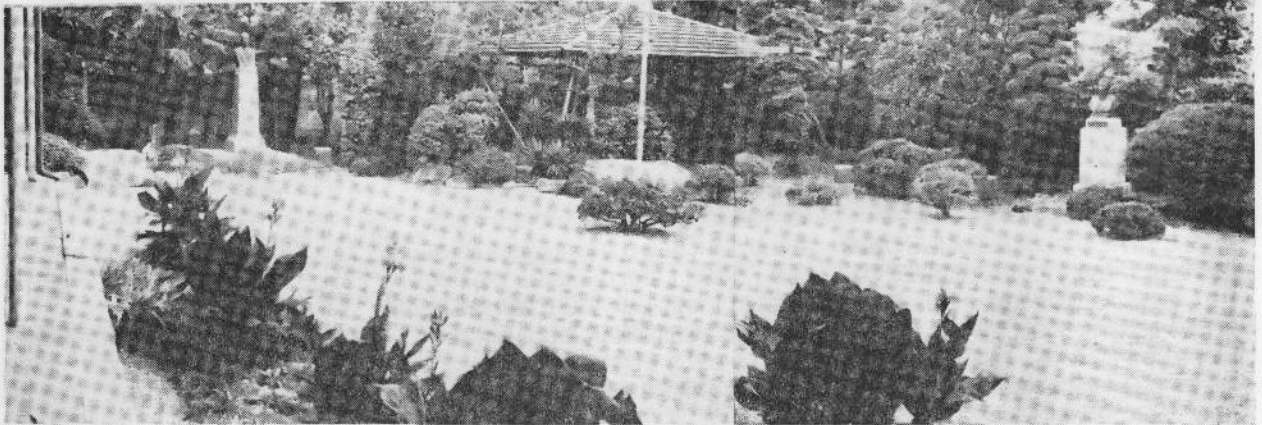
都市計画広見線拡張工事により倶楽部も一部改造したが、管理人室を南西部に移転し階下を駐車場にした。前庭にあった築山を取り除き、植木を裏庭に移植することにより駐車場を広くした。また東側に第二駐車場を新設し来館者の便を計った。かつての景観が失なわれたのは残念だが、機能的になったといえる。



写真説明(下)
新装一変した前庭



写真説明
(上) 新設駐車場
(下) 芝生から石庭に
変わった裏庭全景



投稿

◇覆面社員◇

桐生倶楽部の歴史は人の考え方、歩みに拠って作り出される人間史と同じ過程を歩む様に思われます。桐生に文化の灯としての発想に依り作られた集会所、社交倶楽部が若い情熱を、或る時は街作りや或る時は紳士のマナー取得に、文化の新しい芽を萌え出させる為の文化的行事を種々計画して育てて来た幾年月が其の経営に苦しい時代の口すがに廻り道をした時期とは訣別して、其の運営が設立発想時の本然の姿に戻り文化活動委員会の諸行事に活発に象徴される時を迎え社員一人として本当に嬉びに耐えませぬ。

何卒社員皆様は其の自覚の下に倶楽部計画の諸行事に参加下さいます様、そして桐生の文化は倶楽部からを合言葉に、桐生倶楽部で亦お会い致しましょう。

<退会社員>

◎46年度

池上直一、アンブローズ、野村証券、桐生織維(以上退会)
田代定四郎、曾我喜一郎、近藤古次郎、蓮沼治郎、前田勝利、山田勝太郎
(以上死亡)

◎47年度

若林佐二郎、大槻円次、新井秀雄、日本火災海上保険、小島三郎(退会)
野間一男、野間仁一、坂本浩一、森口順四郎、書上文左衛門
(以上死亡)

◎48年度

斎藤長平(死亡)

委員会名	委員長	委員
文化活動	前原	山下、森島、藤江、吉田、飯山、金谷
行 事	飯 山	塚越、角田、金谷
管 理	平 野	吉野、島
弘 報	小 池	

当番理事担当表

昭和48年度 桐生倶楽部

2月	塚越、金谷
3月	山下、吉野
4月	角田、森島
5月	森、島
6月	藤江、吉田
7月	前原、飯山
8月	塚越、金谷
9月	山下、吉野
10月	角田、森島
11月	森、島
12月	藤江、吉田

委員会担当表

昭和48年度 桐生倶楽部

◇◇新入会社員紹介◇◇

人間と刃物

佐久間 弘 次

何万年かの太古に我々の先祖たちが、この地上に人類として登場して以来「火」の利用とともに様々な道具が創り出され生活を支えて来た。いいかえれば道具を使うことを知った人類は、他の動物を置き去りにして急速な進化をしたとも云える。これら道具の中で、石器時代には既に重要な役割をしていた斧、槍、剣、鋸などの刃物は、銅器時代を経て鉄の鋭利な刃物となり、20世紀の今日まで人間生活の衣・食・住、文化に欠くことのできない基本的要素の一つとなって来た。昔から刃物にまつわる話、或いは刃物がワキを演ずる話は洋の東西を問わず枚挙にいとまがない。それは枯木を燃した原始の時代から電子工学の今日まで、人間

生活と切り離すことのできないものだったからなのである。

刃物の製造方法は、いろいろあるが、熱で鋼を軟化し形を造りながら鍛え、熱した鋼を急速に冷却する瞬間、硬い鋼に変化させる「焼入」の原理は、どここの国でも同じである。しかし日本の刃物が他国と違う独特な点は軟鉄と鋼鉄を組み合わせで造る「着鋼」（つけはがね）という方法である。鋼鉄の兜を割ったイギリスの剣や落ちてくる薄絹を受けただけで二つに切り離れたアラビアの刀など、強靱・鋭利な刀の話がある。がこれらは全て鋼ムクの刃物であり、一定硬度以上の強度な焼入れをした場合折れてしまう。この点日本の伝統ある着鋼刃物は、かなり硬く焼入しても刃こぼれはするが二つに折れとぶことは希れである。よく『高価なドイツ製庖丁を買ったが直ぐ切れなくなった』という話を耳にするが日本の高級な庖丁と比較した場合、切味の長持は

日本製に軍配が上る。それは全鋼と着鋼の違いから来る硬度の差であり、刃研ぎ方法の違いにもある。

現在輸入している刃物で「切れる」といわれるものは、日本に来てから研ぎ直しをしているものが多い。「切れ味」は研ぎ方次第で、その「切味」の持続性如何は製造工程にある。

しかしながらこの伝統的製法は、少年期から鍛え上げ壮年になってやっと熟達する職人の腕と感に頼らねばならず、年々後継者が減る一方である。そこで省力化のために工程合理化や大量生産のための機械化に追われ、複合鋼材などによるインスタント刃物が多くなりつつある。一方使用する側の人たちは漸くその価値を認め、ハンドメイドによる刃物を求める風調が強くなって来ており、恰も産業発展盲追から自然や縁を求める現代社会風調と相似した途をたどっているのが、日本の刃物の現状である。

倶楽部だより

昭和46年度

- 1月
 - 1日 新年互礼会
 - 12日 理事会
 - 17日 俳句吟行、恵方詣り妻沼聖天
 - 29日 臨時理事会、社員総会役員改選
- 2月
 - 8日 理事会正副理事長、会計、監事、委員会、当番等を決定
 - 15日 建築委員会
 - 16日 文化活動委員会(予算・活動方針)
 - 17日 木村理事逝去
 - 18日 俳句会(市村不先先生指導)
 - 27日 臨時理事会
- 3月
 - 2日 木村理事を偲ぶ会(ユネスコ共催)
 - 8日 理事会
 - 21日 スキー教室(尾瀬オリンピック)
 - 28日 俳句吟行「河ぞいの春」(邑楽郡千代田村利根川畔)
- 4月
 - 8日 理事会
 - 25日 俳句吟行「山の里」
- 5月
 - 8日 理事会
 - 25日 長沢義雄氏叙勲祝賀会(同氏が病気のため中止)
 - 29日 俳句会
- 6月
 - 6日 会報第15号発行
 - 7日 理事会
 - 20日 管理室工事完成
 - 24日 カラーテレビ20型を購入
 - 28日 俳句会
- 7月
 - 10日 理事会
 - 28日 月次会(小山市長に聞く)
 - 9日 俳句会
- 5月4日~7月4日春期開基大会
 - アメヒト発生防除
 - 麻雀パイ1組購入
- 8月
 - 9日 理事会
 - 15・16日 定時休館
 - 27日 俳句会 荒川あつし指導 電気掃除機・掛時計を購入
- 9月
 - 8日 理事会
 - 21日 月次会(郷土映画の観賞)
 - 21日 秋の開基大会開会(11月23日まで)
 - 26日 美術グループ写生会於広間
 - 30日 俳句会
- 10月
 - 8日 理事会
 - 13日 ボーリング大会於スターレン

- 16日 美術グループ打合せ会
- 25日 俳句会
- 26日 月次会(放談会) ガスレンジ購入(準備室)
- 11月
 - 9日 理事会
 - 6・7日 絵画展(出品24点来観者90名)
 - 24日 行事委員会
 - 26日 俳句会
 - 27日 月次会(叙勲祝賀とスライド)
- 12月
 - 3日 金曜懇談会(近頃読んだ本) 高橋彦七氏
 - 8日 理事会
 - 21日 クリスマス祭
 - 27日 忘年句会 植木の手入・消火器購入
 - 30・31日 年末休館

昭和47年度

- 1月
 - 1日 新年互礼会 55名出席
 - 13日 理事会
 - 25日 新春句会 20名出席
 - 28日 社員総会 18名出席
- 2月
 - 7日 文化活動委員会 6名出席
 - 8日 理事会
 - 13日 俳句吟行 於西方寺 25名参加
- 3月
 - 8日 理事会
 - 24日 金曜懇談会(私の明治・大正)
 - 29日 月次会(小山市長に聞く)38名 折たたみ椅子 100脚を広間に新調
- 4月
 - 8日 理事会
 - 18日 郷土史研究会(庚申信仰の謎) 清水義男先生 8名出席
 - 27日 俳句会 13名参加
 - 4日~5月30日 春の開基大会
 - 24日 行事委員会 10名出席
 - 25日 スポーツ部打合せ 6名出席
 - 28日 月次会(二大事件の真相を聞く)52名出席、県警本部より3名
- 5月
 - 2日 営繕委員会 3名出席
 - 8日 理事会
 - 11日 ボーリング大会於スターレン
 - 18日 森口理事逝去 固定資産税減額申請
 - 19日 俳句会 19名出席
 - 26日 ガーデンパーティ 35名出席
- 6月
 - 8日 理事会
 - 15日 開基大会終了 於東京閣 16名
 - 23日 金曜懇談会(焼ものづくりの話) 山下正夫氏 4名出席
 - 27日 俳句会21名出席 庭園工事終了、島理事より庭石

- 3ヶ寄贈される。表門に「無断駐車お断わり」看板を取付け。
- 7月
 - 2日 教森口氏追悼句会 50名出席
 - 8日 理事会
 - 13日 文化活動委員会 8名
 - 15日 名誉社員書上文左衛門氏逝去
- 8月
 - 5日 行事委員会 6名出席
 - 8日 理事会
 - 10日 麻雀大会 於ロン 24名出席
 - 15・16日 定時休館
 - 24日 木曜懇談会(初心者俳句講座) 小玉該子氏指導 4名出席
- 9月
 - 8日 理事会
 - 10日 美術グループ写生会 新井リコ先生指導 14名出席
 - 20日 納涼会 於森農場 72名出席
 - 5日~11月24日 秋の開基大会12名 社員専用車にステッカー交付 金堀風一隻新調
- 10月
 - 10日 美術グループ絵画展打合せ会
 - 12日 理事会
 - 17日 俳句会 3名出席
 - 21・22日 絵画展 出品者14名 出品点数27点 来観者110名
 - 25日 月次会(小池副理事にソ連の土産話を聞く)33名出席
- 11月
 - 8日 理事会
 - 14日 俳句会 20名出席
 - 25日 麻雀大会 於ロン 12名参加
 - 27日 行事委員会 8名出席
- 12月
 - 13日 忘年俳句会 42名出席 市村不先先生指導
 - 13日 理事会
 - 15日 Xmas祭 会員家族68名、子供30名 植木の手入れ、ガスストーブ器具一台購入(6号室)椅子カバー新調
- 昭和48年度
 - 1月
 - 2日 新年互礼会 出席63名
 - 11日 理事会
 - 16日 斎藤長平氏逝去
 - 26日 社員総会 新役員選出 155名出席(内132名委任状)
 - 2月
 - 8日 理事会 正副理事長、会計、当番、各委員会を決定
 - 11日 スキー大会 故斎藤長平氏を偲ぶ集い 28名
 - 26日 文化活動委員会 折たたみ椅子40脚購入(1号室)
 - 3月
 - 8日 理事会
 - 23日 第3回麻雀大会 於ロン
 - 29日 月次会(繊維と公害)12名出席 群大石井義治氏



社団法人

桐生倶楽部会報

桐生倶楽部の未来像について

社員とJC理事との懇談会を開催

島 勝二

桐生倶楽部50年記念祝典が催されてから、すでに6年経過してしまいました。此の間徐々に倶楽部の利用率も高まりどうやら安定した倶楽部なりの歩みを続けているのが現状だと存じます。

然し、激しく変る時代の流れに今後の倶楽部はどうあるべきなのか、如何に運営すべきか、考えてみると色々問題点があり、理事者として思い悩む事が少くありません。

例えば建物の問題です。建設以来56年を経て、今尚、原形のまま使用に耐えている美しい建物、緑の庭園とマッチした桐生倶楽部会館は桐生市の文化財であり、緑の少ない市街地の中になくはならぬ珠玉の存在とも云えましょう。

然し、会館の利用者にとっては狭隘だという声もあり、又、今後何年間使用に耐えられるかという疑問もあります。

50有余年前、桐生倶楽部を創立された当時の方々は、非常に年令の若い人が多く、郷土の為に情熱を燃やして倶楽部を作られた。其の当時の考え方を今ふり返って見る必要もあるのではなからうか。

そんな考え方が基本にあって、私と森理事が当番であった4月の月次会を、倶楽部社員と青年会議所理事の皆さんとの話し合いの会と致しました。

幸いに沢山の参加者を得て、隔意のない懇談が出来た事を感謝申し上げます。

以下、当日の主な発言を列記致します。

J C 側

1. 倶楽部のメンバーとしてもっとくつろげる方法がないか。例えば社員は自分のボトル(酒)を置いて、友人と杯を交しながら和やかに談笑出来るというような――。
2. J Cは例会場が桐生倶楽部で、事務所が現状ではやむを得ず商工会議所内に置いている。多少の経済的負担は払っても、倶楽部内に事務所も置いてもらえたら非常に便利である。
3. 若い社員なり、J C会員なりが、倶楽部の運営の御手伝いを積極的にやりたい気持を持っている。先輩が心よくそういう場を与えて欲しい。
4. J Cは 桐生市という地域社会に役

立つ事を願って色々な活動をしている。倶楽部の社員の皆様の御理解、御協力を賜りたい。

5. 倶楽部が現在の建物を尊重されているのは結構だが、現状では場所が狭くて、少し人数の多い会合は無理になっている。拡張して欲しい。その為には、J Cとしても誠意をもって御手伝いする。
6. 桐生倶楽部の存在が、ロータリーやライオンズ、J C等の各団体を誕生させる原動力になって来た面がある。これらの団体の話し合いの場を倶楽部として企画して欲しい。
7. 倶楽部は、もっと若い世代に門戸を開いて欲しい。

倶楽部社員側

1. 桐生という地域社会形成の歴史をふり返ってみて、今後の新しい社会作り若い世代に大いに期待したい。
2. 企業は人だというのが、街も人だ。特に若い世代に期待する。J C活動に期待すると同時に、お手伝いもして行きたい。
3. 和やかな桐生倶楽部の雰囲気の中で、社員の方々が、お互いの事業や、郷土を如何に発展させるか話し合い、又、趣味や文化活動を通して疲れをいやし、倶楽部に來たら頭も心もほぐれて明日の仕事にプラスになる。そんな倶楽部にしたい。
4. 倶楽部の建物は出来るだけ現状を維持したい。若しどうしても改築しなければならないとしても、此の建物の良さを損わないように願っている。
5. 倶楽部の発展とは決して大きくすることだけではない。良い伝統を大切に維持する中に大きな発展がある。以上の話し合いから、特に痛感

致しましたのは、J C諸君の中には私共以上に純粋に桐生倶楽部に愛情を持っている方がいるということ、又、私達としては若い人達に倶楽部の門戸を解放しているつもりであるが、未だ其れが充分でないこと等です。

未だ他には貴重な御意見を収録し切れず、落ちた所もあろうかと思えます。当日出席の皆様方の御寛容をお願いします。

今後も社員の皆様方に、「桐生倶楽部の形と、持つべき心について」として其の方向づけを事務局宛、理事宛に御提言なり、御寄稿なりを頂戴出来ますよう切にお願申上げ、4月月次会の報告と致します。又、当日の記録を飯山遊幸にとりて頂きましたことを感謝申上げます。

桐俱青年部 同窓会を開く

去る6月9日(日)に桐生倶楽部に於て、曾っての青年部のメンバー達の同窓会が開かれた。

青年部は昭和22年に発足し25年迄続いた桐生倶楽部の部会であり、当時のメンバーは男女併せて30名を超えていた。当日はその中の17名が集まり倶楽部側からは川村理事長も出席、25年ぶりに顔を合わせたなどという人達もあり、懐旧談に花を咲かせた。

今後は、年に一回は会合をもつ予定とのこと。





月次会報告

昭和48年度

- 4月26日 政界の四方山話をきく
参議員議員丸茂重貞先生をお迎えして有意義なお話をきいた。出席33名
当番(森島・角田)
- 5月25日 ヨーロッパ回遊談をきく
最近の欧州視察をされた福田市議会議長と川村理事長及び飯山理事の方々からその見聞談をお伺して楽しい月次会であった。出席33名。
当番(森・島)
- 6月27日 連続放火事件を追って
最近の連続放火と市内の交通事情について桐生警察署長警視志塚政男氏、と同交通課長警部神保吉夫氏をゲストにお迎えして苦心談をお伺した。出席30名。当番
(吉田・藤沢)
- 7月20日 納涼会
恒例社員家族合同の納涼会をクラブ庭園で開催、模擬店スタイルで子供向には金魚やヨーヨー、花火、西瓜割りをご用意され、花水が涼を添えた一茶のそばや大寿司の出張でにぎやかに夏の夜を楽しく過した。出席社員38名、家族18名、小中学生17名、幼児8名、計81名
担当(行事委員会)
- 8月 休会
- 9月25日 最近の電力事情について

東京電力株式会社群馬支店桐生営業所長 小野里隆璋氏を講師に電気エネルギー最近の事情について勉強した。出席19名。

当番(吉野・山下)

10月25日 最近のガス事情

前月に引続いて桐生ガス会社社長塚越平人氏のお話でガスに関するお話をお伺いいろいろな資料も拝見して勉強した。出席19名。

当番(森島・角田)

11月27日 叙勲祝賀と羽仁五郎先生のお話をきく。

午後5時、最近桐生市にご愛蔵の図書を多数ご寄贈された先生のお話を伺った。

午後7時 勲三等旭日中綬章を受章された森田勇治先生と勲五等双光旭日章を受章された山口茂先生の叙勲祝賀会を盛大に行い、桐生倶楽部では記念品として銀盃を両先生に贈った。出席50名 当番(森・島)

12月22日 クリスマス祭Xマスは一年中で社員家族そろって楽しい集いである。例年の呼びもの福引もあり和やかな裡にお祝いをした。出席社員家族60名、小中学生27名、幼児9名、市長招待、計97名

担当(行事委員会)

昭和49年度

1月2日 新年互礼会

1974年新春を寿ぐ互礼会はクラブ大広間の金屏風や紅白の幕を張りめぐらせた会場で盛大に行われた。出席53名、 担当(行事委員会)

1月24日 社員総会

定時社員総会は、社員総数246名に対し委任状提出数127名、出席数20名、合計147名で総会成立。川村理事長を議長に、昭和48年度事業概況の説明を平野副理事長、同財産目録、収支決算書は島理事から報告、園田監事の監査報告あり承認された。次に昭和49年度収支予算案も審議の結果万場一致で承認された。

2月 休会

3月26日 最近の法律の話

複雑な社会事情の中で前橋地方家庭裁判所桐生支部長浅野達男氏をゲストにお迎えして興味深いお話をお伺いした。出席16名

当番(森島・角田)

4月27日 J Cとの懇談

平常地域社会の発展を真剣に考えられている青年会議所理事を招いて桐生倶楽部の現在及び将来に何を期待すべきかを話題に懇談した。出席31名。 当番(島・森)

5月17日 叙勲祝賀とガーデンパーティ

春の叙勲に勲五等双光旭日章を受けられた理事前原勝樹氏の祝賀を兼ねてガーデンパーティを開く。尚この席でNHKテレビで桐生百景を全国に紹介された服部事務員に記念品を贈呈した。出席80名。

担当(行事委員会)

6月27日 最近のアメリカ見たまま

前原勝樹氏の渡米見聞談をきく。出席30名。

当番(飯山・前原)

雪の庭園

雪は豊年の貢という、昨年来カラカラに乾ききった桐生に恵みの雪が降った。ごらんとおり桐生倶楽部の庭園が何年ぶりか雪化粧をして素晴らしい景色となった。初代理事長金子竹太郎氏も功労者前原悠一郎氏も白い雪の綿帽子をかぶっている。こんな美しい風景も町の真ん中では倶楽部のほかにはあるまい。

(1月22日)



LOBBY

— 美術グループ —

◎昭和48年度

9月9日 桐生倶楽部に於て花を主体とした静物のスケッチ会をした。出席10名。

10月20日から21日まで第8回桐生倶楽部絵画展を二階広間で開く。出品数33点、出品者13名、来観75名。飾付けの夜グループによる懇親会が開かれ9名出席して傑作に囲まれながら歓談した。

— 俳句 —

- 8月8日 理事俳句会12名
- 9月7日 理事俳句会15名
- 10月8日 理事俳句会7名

— 木曜懇話会 —

4月6日 「私の戦争体験」座談会 出席6名。

— 囲碁 —

毎週火曜と金曜の練習例会を2回宛96回、延べ606人。

8月26日 梅田清風園に於て囲碁大会を行う。参加10名

— 麻雀 —

11月17日 クラブ「ロン」に於て麻雀大会を行う。参加8名

— スポーツ —

6月5日 スポーツ部打合会を行い活動方針を相談。出席7名

8月9日 赤城国際ゴルフ場に於てゴルフ大会。参加9名

8月25日 社員家族ボーリング大会をスターレーンで行う。参加34名

◎昭和49年度

4月7日 苗場国際スキー場で春スキーを楽しむ会を行った。参加23名

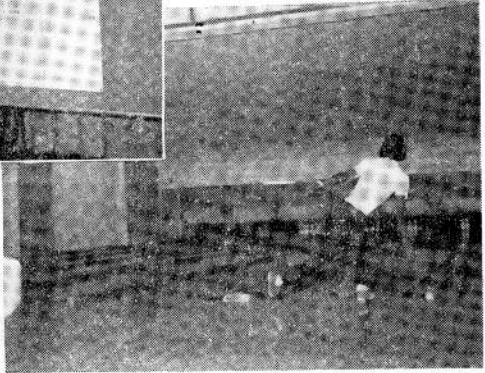
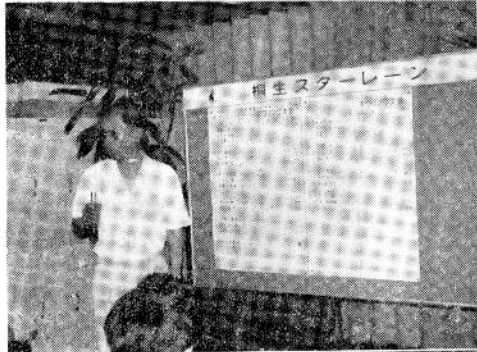
将棋 なし
郷土史 なし

呼び交はし探し歩くや茸狩り
もみじ葉を髪にさしたる童かな
秋日和白きベッドに友の顔
見返れば尾花が末の月一つ
みやげにと友手作りの今年米
木犀の散り敷く庭を掃き惜しむ

前原 小池 飯山 角田 塚越 島
前原 小池 飯山 角田 塚越 島

桐生倶楽部理事會十月句会

ひぐらしや深山の小径ひとりゆく 塚越
ひぐらしの声にひとます茶をすする 島
静なる厄日伴は空の旅 角田
夕立の去りて一きわ秋枝 吉田
ひぐらしにせかれ夕餉の支度かな 飯山
白むくげ一輪ありし忌日かな 小池
久々の友の集いや夜の秋 平野
みい蟬にひるねの夢を破られつ 藤江
北ぐにはすすきの野風肌寒く 森島
こほろぎもまれになりたり街の秋 川村
虫の音にはじめて今年の秋をしる 金谷
筆擱いてこほろぎの音をきわくる前原



桐生倶楽部社員趣味アンケート 文化活動委員会 1974・4 調べ

1. 対照発信 250通、 回答 166通、 回答率 66%、 1人平均 3.8
2. 部門別
 - A スポーツ ①スキー20、②ゴルフ64、③ボーリング35、④その他 野球、テニス、卓球等を希望あり。
 - B ゲーム ①囲碁30、②将棋22、③麻雀58、④その他 ビリヤード、百人一首各1
 - C 文芸 ①俳句23、②短歌4、③随筆16、④その他、読書6、
 - D 美術 ①洋画26、②日本画17、③美術鑑賞43、④その他 写真、刀剣、ツバ、書道、木版
 - E 音楽 ①洋楽20、②邦楽20、③謡曲21、④その他 詩吟2、レコード鑑賞2、社交ダンス等
 - F その他 ①郷土史27、②談話会19、③見学旅行56④茶道13、⑤その他、歌舞伎見物2、花道1

3. 順位

1	ゴルフ	64	8	俳句	23	15	談話会	14
2	麻雀	58	9	将棋	22	16	日本画	19
3	見学旅行	56	10	謡曲	21	17	随筆	16
4	美術鑑賞	43	11	洋画	20	18	茶道	12
5	ボーリング	35	12	洋楽	20	19	短歌	4
6	囲碁	30	13	邦楽	20			
7	郷土史	27	14	スキー	20			

◎昭和49年度

木曜懇話会

2月26日 於クラブ 欧米の性科学について医学博士前原勝樹先生のお話をきく。出席11名

スポーツ

4月7日 於苗場スキー場にて坪野茂氏指導によるスキー教室を開く、参加23名。

俳句

4月26日 於クラブ 出席10名

雀麻部会

5月20日 於クラブ「ロン」参加12名

郷土史

私の郷土研究

5月30日 於2号 出席3名

三氏が叙勲の祝賀

森田勇治先生（勲三等旭日中綬章）と山口茂先生（勲五等双光旭日章）に共に長年の御功績により叙勲され、そのお喜びを申上げる祝賀会は昭和48年11月27日午後7時よりクラブ大広間で、また前原勝樹先生（勲五等双光旭日章）はユネスコ活動の功績により、叙勲され昭和49年5月17日クラブガーデンパティエを兼ねてお祝い申しあげました。倶楽部ではご三方に記念品を差上げてお祝い申上げました。

新倶楽部社員紹介

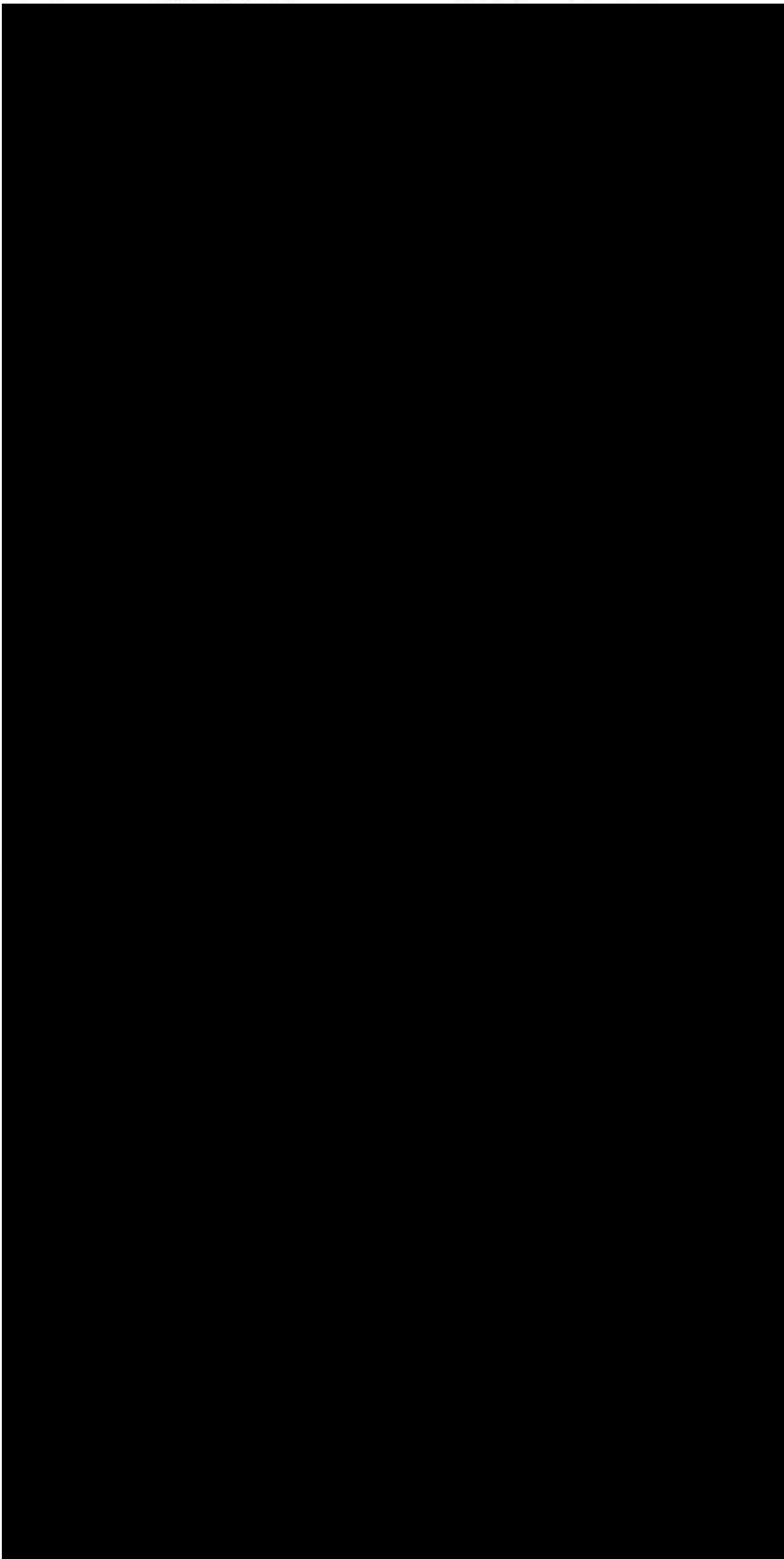
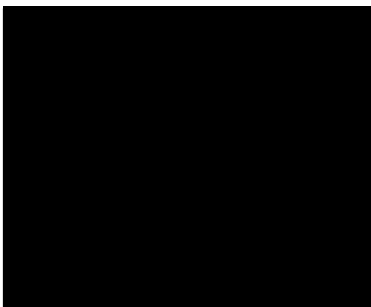
山下理事死去報告

桐生倶楽部理事山下正夫氏は、昭和48年12月10日、裁判所法廷で弁護士として弁論中倒れられ、直ちに厚生病院で看護の甲斐なく12日午後3時50分死去されました。



山下先生は明治35年10月25日鳥取市にお生まれになり、戦後の昭和21年弁護士として桐生市に法律事務所を開設、クラブには昭和32年の入社、続いて昭和37年以來理事通算3期、会計を担当する。文化活動では木匠懇話会担当、常にクラブの発展に奇与。また外にあっては法務省人権擁護委員、県の刀剣登録審査委員として活躍され、またご趣味としては読書及び、自から窯をきづいて焼きものを得意とされた。法務大臣の表彰状と12月12日に勲五等双光旭日章を授与された。

< 退会社員 >



犬と婦人と新聞記者、警官は入るべからず

小池久雄

クラブ (CLUB) は、主に英国で社交機関として発達した団体を指すが、その発生は17世紀にまでさかのぼることが出来るという。

形も当初は純粋な社交クラブのみであったが、其の後スポーツを主体としたカントリークラブ (ゴルフ・テニス・ボート等)、特殊な内容のクラブ (政治・実業・宗教等) も出来、地域もフランス・アメリカ初め世界中に広く誕生をみるようになった。又、ロータリークラブ、ライオンズクラブのように国際的なクラブ組織も発達した。

日本に於ては、明治に入って、在留外人が主体となってクラブが発生し、今も残る東京倶楽部は、明治17年鹿鳴館の一翼として発足したという歴史を持つ。東京倶楽部以外で、明治、大正に誕生した「社交クラブ」の中で、今尚、存続しているのは、東京に交詢社、日本倶楽部、大阪に大阪倶楽部、清交社、有恒倶楽部等がある。

英国の社交クラブは、「犬と婦人と新聞記者、警官は入るべからず」が原則で

仕事の話も一切持ちこむことを許さない。今でも上述の6倶楽部は、此の原則を大体は守っているようである。

日本倶楽部は、法人会員の大会社で、社長が女社長に変わった場合があったが、社長といえども例外は認められないというので、此の場合でも女性会員は認めなかったようである。何処の倶楽部でも、未だに女性会員は誕生していないし、婦人同伴も禁止されていて、年に何回か、家族デーを設け、其の日だけは女性を歓迎している程度だと云う。

こうした極めて厳格な英国風社交倶楽部が残っている反面「誰でもいらっしゃい」式の社交倶楽部も多い。「美女をはべらせて酒と音楽」のネオンに飾られた社交クラブは論外としても、結婚式場、披露宴、パーティが主体の名前だけの社交クラブもある。

私の乏しい体験でも、シドニーの社交クラブへ行った時、婦人同伴者の多かったことは当然としても、スロットマシン (日本で言えばパチンコ機) が、ずらりと並んでいて、会が終わってから此のギャ

ンプルに打ち興する人の多いのに驚いたことがある。ロンドンでも婦人がクラブに立ち入るのを認めている所や、会員夫人から会費をとって準会員として認めている所も出て来たようである。

時代と共に、多少ずつ英国型社交クラブも変貌して行くのはやむを得ない。然し、未だに英国19世紀の伝統を色濃く残す社交クラブの一つが、桐生に存在するということは全く奇跡に近い。

「桐生倶楽部50年史」の巻頭に、交詢社理事長高橋誠一郎氏の文章が載っている。「大変失礼な申分ではあるが、地方の小都市に50年も昔から続いた倶楽部があることを知って」と。社交倶楽部というものを知っている人なら誰でも桐生倶楽部の存在を聞いたなら驚くであろう。それほど珍らしい存在なのである。

今時、「犬と婦人と新聞記者、警官は入るべからず」が建前だなどと云ったら、狂人扱いされかねないが、未だに桐生倶楽部に婦人会員が存在しないということは、桐生倶楽部の伝統と見識を示すものであり、軽率に其の是非を論ずるわけには行かぬ。

ともあれ、桐生倶楽部は、日本に数少ない純粋な社交クラブである。何処にでもある、単なる集会場や公民館ではないことを、倶楽部員たるものは、良く認識すべきであろう。

SLにひかれて

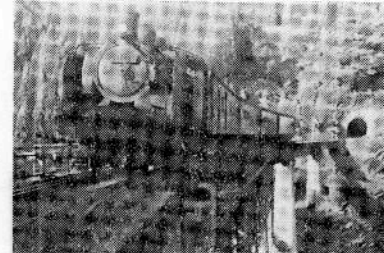
「牛に引かれて……」ならぬ「息子に引かれてSL詣で」を始めてから4年目になる。羽越、小海、只見、会津、磐越西、日中の各線を経て10回に過ぎないが、ともかくSL写しの醍醐味を味わいながら家族旅行を楽しむことが出来た。

S・L (Steam Locomotive) に長男の興味を持ったのは5年前、足尾線のサヨナラ運行がキッカで、ディーゼルや電車に急速に変わりつつあった時である。当時小学校4年生で単独遠出をさせる訳にいかず祖母が付添いで羽越へ出掛けたが『おばあちゃんももうコリゴリ』だと云う、理由は広い田島の真中で3時間も待ってるうちに小用が達せず大困りだったとか。そこで嫌々ながら次々年の夏、次男も連れて小海線に初めて出掛けた。

よく長男が『早く行かないと場所が無くなる』と云うので『あの長い線路端に場所が無いなんて』と一笑に付していたが、現地に行ってみてその言葉が理解できた。SLを写すには条件がある。カーブ・登り坂・鉄橋・トンネル・太陽の位置そして背景等々、この条件に適した場所を乗物の中から物色し、拠点を見つけると次の駅で下車し30分でも1時間でも歩いて戻る。ところが良い場所には先客

がいて、木影・岩影や草むらに三脚を立て陣取った若者が散開している。彼らの撮映範囲外にやと場所を見つけて三脚を立てるとそこは我々の地上権となる。

そして唯待つのだ、彼らは2〜3時間待つ位は短い方だと云う。関西や東京或いは東北方面から来たという20才前後の若者達と一緒に唯待つのだ。浮世の喧噪を離れ、目には緑、耳にはジーンという耳鳴りだけの中で何も考えず天を仰いで待つとき、命の洗濯をしているような気持ちになる。やがてその時が近づくと俄か



に動きが活発となる。遠く汽笛が鳴る『来たぞお!』誰かが叫ぶ、薄い黒煙が見える、『ポッポッポッポッ』という音が地面を伝わってくる。緊張の一刻、『来た!』一斉にシャッターが切られる「カジャッ」「カジャッ」とハスキーな金属音だけが一際高く周囲に響く、この間数秒……黒い固まりは鼓動にも似た音をたてながら目の前を通過し、アッという

間に視野から消える。この一瞬がいつの間にか私をSLの虜にしてしまった。やがて道具を納めると彼らは、運行表と時刻表と5万分の1の地図を片手に次の目的地に足を運ぶのであった。

この様相が昨年あたりから一変した。減りゆくSLの数とは逆に、ファンは急増し、有名個所にはザッと数百人、中には型式はおろか今度来るSLがどちらから来るかも知らない年輩者や女子供が激増した。しかも自家用車をとこる構わず駐車し、どこでも構わず陣取り、更にそれを排除しろと怒鳴り合う。録音機の側で声高に喚めく。SLが去ると先を争って自動車が走り、静かな山間、田園はクラクションとエンジン音の渦を巻き起すのだ。この手合いは田島の稔りをも無残に踏みにじり、新聞で叩かれたりした。今夏、中学2年になった長男はこの騒ぎを嫌って北海道へ寝袋を担いで一泊七日の旅に出た。広大な宗谷の原野と様々な人情の機微に触れ人間的に一廻り成長して帰って来た。

この騒ぎも今秋で終止符をうつ、北海道を除く全線路上から生きたSLは消え去ったのだ。SLファンは嘆き、地元の人々は帰って来た静けさと新来の科学の力を歓迎することであろう。

佐久間 弘次

倶楽部だより

昭和48年度

4月

木曜懇話会 私の「戦争体験」座談会(6日)
 理事会(8日)
 月次会 「政界四方山話」丸茂重貞氏のお話

5月

理事会(8日)
 月次会「ヨーロッパ視察談」福田議長、川村理事長、飯山理事(25日)
 その他、カーテン防炎加工をする(23日)サルビヤの花を植える。

6月

美術グループ写生会(3日)中止
 スポーツ部、行事委員会打合せ(5日)
 行事委員会(16日)
 月次会(27日)連続放火事件を追って

7月

アメヒト防除消毒(1日)
 理事会(6日)
 文化活動委員会(11日)
 納涼家族会(20日)

8月

理事会(8日)
 ゴルフ大会(9日)於赤城国際カントリークラブ
 休館(15日16日)
 社員家族ボリスグ大会(25日)於スターレーン

9月

理事会(7日)
 理事俳句会(7日)
 美術グループ写生会(9日)於倶楽部月次会(26日)「最近の電力事情」東京電力所長 小野量隆氏のお話

10月

理事会(8日)理事俳句会(8日)
 庭園手入れ(12日16日)アメヒト防除。
 第8回絵画展(20日・21日)於広間
 美術グループ懇親会(20日)
 月次会(25日)「最近のガス事情」

桐生ガス会社々長 塚越平人氏のお話。

11月

理事会(8日)
 行事委員会(12日)
 麻雀大会(17日)於ロンガス器具の防火点検(13日)
 月次会(27日)5時羽仁五郎先生のお話をきく。7時森田勇治、山口茂両氏の叙職祝賀会
 6号室椅子修理(10脚)

12月

理事会(8日)
 クリスマス祭(22日)
 山下理事死亡告別式(23日)
 ロビー椅子修理(16脚)
 年末休館(30日・31日)

昭和49年度

1月

新年互礼会(2日)年始休館(1~3日)
 理事会(9日)
 会計監査(21日)
 臨時理事会(24日)
 社員総会(24日)
 備品紅白の幕を購入(6日)

2月

理事会(6日)
 文化活動委員会(20日)
 木曜懇話会(26日)「欧米の性科学」前原勝樹氏のお話。

3月

理事会(3日)
 文化活動アンケートをとる(15日)
 月次会(26日)「最近の法律の話」前橋地方家庭裁判所桐生文部長 浅野達男氏のお話。

4月

理事会(8日)
 スキー教室(7日)於苗場国際スキー場。
 固定資産税の減額願をする(15日)
 営繕委員会(23日)
 俳句会(26日)
 行事委員会(26日)
 J C理事と桐生倶楽部との懇談(27日)
 使用料(定期使用者も含む)改正(

4月より)

5月

理事会(8日)臨時理事会(17日)
 叙職祝賀とガーデンパーティ(17日)
 麻雀大会(20日)於クロンクサルビヤ50本植える。

6月

一号室窓修理(6日)
 理事会(8日)
 月次会(27日)

会館使用料の改正と倶楽部利用のお願い

昭和45年4月以来の使用料を本年4月1日より改正実施いたします。(別紙)付きまして倶楽部利用のし方について御説明を申上ます。

会館の使用規定は

- 社員は本倶楽部会館を無料で随時御自由に共同使用できます。但しロビー以外の部屋を使用する際は、職員等の指示を受けて下さい。又、社員は家族及び知人を誘引することが出来ますが社員1名につき5名以上誘引することは御遠慮下さい。
- 社員であっても特定の日時を予め定めて専用する場合は、使用料を納入して頂きます。
- 社員外の者が本館を使用するには社員の紹介及び理事者の承認を要し且つ臨時会費(使用料)納入する規定になっております。

以上のように会館は社員が使うことが原則となっておりますので、御自分の応接間と同じように友人を誘って談話の場に使って頂いたり、御家族をつれて食事にお出かけになって色々御利用頂けますならば倶楽部会館本来の目的にかなう事ができますので皆様の積極的御利用をお願申し上げます。

◎その他御不明の点はその都度事務局にお尋ね下さい。

昭和49年4月1日

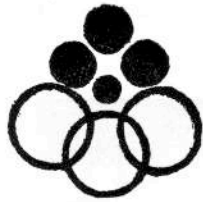
定員教並びに使用料

49. 4. 1

室名	定員	半日	9時~17時	17時~22時	備考
1号室	30名	2,200円	3,500円	3,000円	(食堂)
2号室	15名	1,800円	2,800円	2,200円	
5号室	7名	800円	1,200円	1,000円	(食堂)
6号室	15名	1,800円	2,800円	2,200円	
4号室	7名	2,200円	3,500円	3,000円	
二階広間	100名	4,000円	7,500円	5,000円	

テラス、あづまや等は独専使用は出来な

テラス	20名	食事・喫茶等集会の場 合	1,500円
あづまや	20名	食事・喫茶等集会の場 合	1,000円
厨房			700円
庭園	一般		5,000円
	社員		4,000円
	定期使用者		3,000円



社団法人

桐生倶楽部会報

初の桐生倶楽部文化祭開く

桐生倶楽部の新しい試みとして社員と其の家族を中心とした文化祭が開催されました。

5月4日(日)は、絵画展、華道展、ガーデンパーティ、懇話会

5月5日(月)は、前日に引続き絵画展、華道展の他に庭園内の「あずまや」を利用してのお茶の会、囲碁大会、俳句会等、盛沢山の行事に、社員、家族延200人程が参加した大変賑やかな楽しいものになりました。

此の企画は、文化活動委員会前原勝樹委員長長の提案によるもので、同委員会と行事委員会所属の委員達が、大変な御苦心で設営されたものですが、如何にも倶楽部らしい楽しい年中行事になりそうです。

ガーデンパーティの会場には、今回の統一地方選で当選の榮に輝いた社員の方(小山市長、杉野県議、大沢県議、福田市議、太田市議、飯山市議)をお招きし祝意を表しました。

尚、ボーリング大会、ゴルフ大会も予

定はしてはいたのですが、適当な日がとれず止むなく後日改めて文化祭の一環としての大会を行う事と致しましたので、其の節は又新しく御案内を申し上げます。

ともあれ、初夏の新鮮な若葉に彩られた爽やかな庭園と、古き良き時代の文化を象徴する建物と、温かい心のつながりを持った社員と共に家族達、全部が集まって楽しいハーモニーを奏でた桐生倶楽部文化祭でした。

第二回目からは更に良い企画を充分時間をとって整え、社員全員の参加出来るお祭りにしたいものです。

絵画及び華道展 2階広間

A 絵画展は出品11名、出品作品は油絵日本画を含めて23点、美術グループの方々による。

B 華道展はクラブ文化祭に協賛のため望月理喜久先生社中19名の方々によって飾られ古流の真隨を拜見した2日間の観賞者は110名、立派な展覧会であった。



C ガーデンパーティ5月4日午後2時より新緑のクラブ庭園で社員とご家族打そろって楽しく歓談した。出席55名。

D 懇話会はパーティのあとは午後4時から2号室で「古川柳漫談」と題して前原勝樹先生のお話を伺った。出席15名

E お茶の会は大日本茶道学会桐生支部の協賛で5月5日あづまやで茶会が開られた。新緑と紅白の幕と美人の取り合せは何と華やかなお手前であった。午後4時まで参加40名。

F 囲碁大会は囲碁とは仕事を離れた頭の体操であり精神を集中させる楽しいゲーム桐生倶楽部の部会の中でも一番盛んな部会であります。5月5日の囲碁大会は午後1時から夜の更けるまで6号室でパチッパチッと対戦しました参加10名

G 俳句の会は5月5日の夜7時から2号室に集まった同好者は8名、当季雑詠5句。



写真左 川村理事長も神妙な面持ちで



素敵なお嬢さん方も一役買いました



男性が一人だけとは……………もったいない話

桐生倶楽部文化祭参加句会

(五月五日)

枯芝に餌を求むる雀かな

虚子遺影白椿もて祀りけり

農夫ゆく田の畔に咲くレンゲ草

花の雲峯のかすみに連らなりて

豆飯を食べたしと言ふ婦省の子

うたげの座新婦に緑映えてゐし

閑山に残る躑躅の彩鏤びて

蝠編や古き西洋館ここに

辻 勇

黒須三山子

森島 秀

前原梅松居

小池 久緒

岩下 吟千

古川 光春

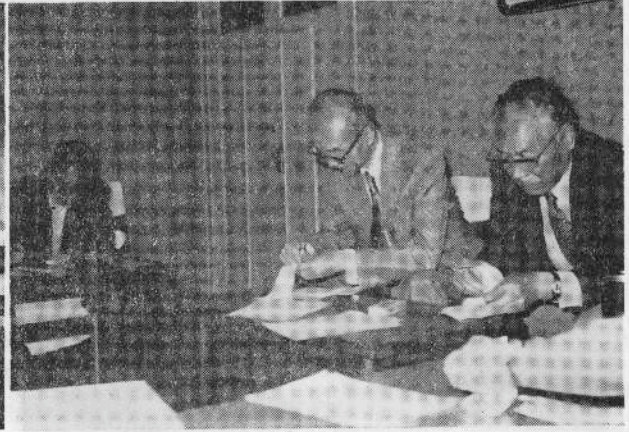
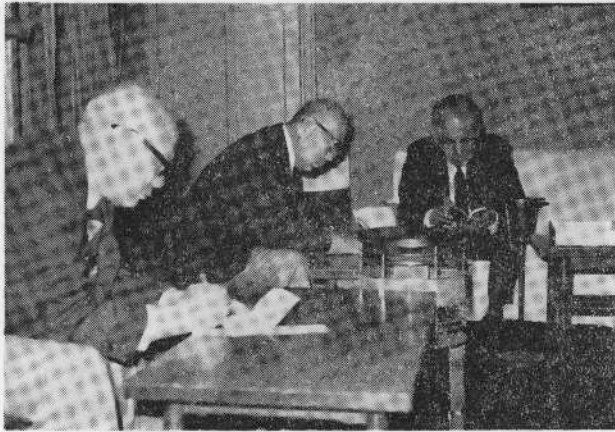
小玉 孩子



吾こそ名句と自信満々の俳人たち



花と競う絵画展



写真上

真剣に俳句と
取り組む面々



絵画展出品目録

画	題	
黄色いバラ	(F6)	油
秋晩風景	(F8)	油
境内風景	(F6)	油
谿谷	(F10)	油
キリスト像	(F6)	油
静物	(F6)	油
風景	(20号)	油
参道	(10号)	油
漫漫画		
漫漫画		
オランダ人形	(4号)	油
沖繩人形	(SM)	油
作品	(F50)	油
チューリップ	(6号)	日本画
風花	景(6号)	水
花	(4号)	油
風	景(M8号)	水

出品者

前原勝樹	樹
前原勝樹	樹
前原勝樹	樹
前古川三雄	雄
古森正雄	雄
森正武次	次
須賀武次	次
須賀武次	次
須賀武次	次
森口惠子	子
森口惠子	子
金谷善介	介
金谷善介	介
保倉一英	英
大川三夫	夫
丸山山夫	夫
丸山山夫	夫
丸山山夫	夫
江原庄兵衛	兵衛
菊地昭	昭



よっぱど楽しい話はずんだ
ようですね。懇話会では……

岡目八目も声を飲む熱戦を展開



二月は春のおわり。春の足音がきこえて、寒いけど暖かい。四季それぞれ、人それぞれで、私には、私の二月がある。節分に遠い日を想うのも楽しい。

思いがけなく今年は「三日の節分会に年男（としおとこ）をさせるから出かけてきなさい」と相生の大善寺から招待状がきた。「お父さんのように小さくて瘦たせ年男では、鬼がこわがらないだろう」と家族に言われて「そうだろうなあ」と思ったが「福を大勢の人に是非分けて上げて下さい」と住職夫人の説明がぐっときて、出かけることにした。

「私たちの心におこる、むさぼり、ねたみ、おろかさ、を鬼にたとえて追い払い、すがすがしい気持で一年を出発する」のが追分会、追舞式の意味だと、お寺さんの説明であった。「これを…」と渡された年男の道具一式は、大きな福餅に福袋。中に小物がごそごそ。どう呼ぶのか知らないが、とにかく平等に「福」を付ければ間違いなさそうで福豆、福銭、福モチ、福タオルに福石けん…。高いところから、これを皆さんに振る舞うのである。赤鬼も青くなる不況下で「福をちょうだい」と両手を差し出す人たちの姿が印象的だった。

寺院の行事は、交通安全、無病息災、商売繁昌ときまっているようである。しかし今年は、「金運」にあやかりたいのが境内を埋めつくした大方の人たちの気持だったろう。初詣でも例年にない人出だったようで、こっちも、何か金もうけがなかろうか、ということだったかも知れない。金もうけの「儲」の字は、分解すると「信・者」であって、人を信じる

言われて、それはそれは恐しい思いで、言われる通りにした。

しかし、「鬼は外、福は内」と叫ぶ順序を逆にすると、当然に戸締まりの作戦を変える必要がある。早すぎでは福の神が入りそこねるか、障子にはさまってケガをする。

私の家の前は、ほとんど明かりのない庭になっていて甚だ気味悪い。四十年前も今も変わっていない。こういう時代の子供でも「夜の鬼」は恐しいらしく、黙って聞いていると、小二の坊主と中一の姉が、戸締め係りをイヤがって譲り合っ

ている。「カミナリは電気だよナ」と平素は科学的なのに、この夜はまるっきり意気地がなかった。「こわい」節分を教えてくれた両親もいまは亡く、次の世代の子に、私が伝える番になった。私は、お寺さんで聞いた通り、鬼は外…が先になるんだよと合理的に教え、同時に、鬼のこわさも教えた。さらに次の世代、彼らが自分の家族を前におき、どんな風に節分の夜を語って聞かせるだろう。

木村 敏夫

(桐生タイムス社長)

二 月 雑 感

木 村 敏 夫

ことから始まる、ということだ。神、ほとけにすがりつきたい思いの節分風景に見えた。

この節分会で「鬼は外」を先に言うのが正しいのだと知ったのは、一つの発見だった。福は内を先にやると、狭い家に居すわっていた鬼とトラブルを起こすおそれがある。鬼を出し、さっぱりしたところで福に御入来いただいた方がより合理的である。その夜わが家でも、ささやかに恒例の豆まきをしたが、思い出すのは、くらやみの中の鬼のこわさである豆をまいたら、大急ぎで戸閉めるのだぞ早くしないと鬼が入ってくるゾと親に

梅 一 輪

岩 田 俊 光

春まだ浅い2月といえば、自然は雪に閉ざされて静かに眠っている。常緑樹も色を失い、落葉樹はハダカになって一葉もとどめていない。一見素枯れた荒野のようだが、冬来りなば春は隣に近く、陽春への臭吹きが感じられる。枯木という枯木の枝には、新しい芽がふくらみかけている。地中深く根をおろし、根を張り根を養っているからである。昔から木の根は木の高さだけ、四方八方に張るといわれる。まことに自然の営みほど不思議なものはない。とりわけすべての花に先がけて咲く梅は、香くわしく凛々とした犯しがたい気品がある。きびしい霜雪に耐えた孤高の赴きは、そのまま私どもの人生にもつながる。禅語に「枯木花開く劫外の春」とあるが劫外とは時間、空間を超えた永遠のいのちをさすのだろう。仏法と花とは切っても切れないのは、人生と花とが不可分だからである。花をめでない人はない。古来、いけ花が私どもの生活と一つになっていることでもわかる。仏教でいう「枯華微笑」泥中の白蓮華など花に関する教えはきりが無い。花はけがれの無い清浄心を意味し、仏心そのものとたたえられている。花は「どう

して美しいか。無心であるからで、人間にほめられようと咲くのではない、ただ咲くだけである。そこには、どうしてくれとか、どうしようというはからいが無い。ありのままの清浄無垢で、これに触発されて人の心もすがすがしくなる。

感応道交の一辭である。といってもハウス咲きの花には、もう一つ香りもなければ、すがすがしさもない。温室栽培の花が市場にハンランし出してから久しいもう花屋の店頭からは、季節感がなくなり春夏秋冬どんな花でも手に入る。便利な世の中になったものである。しかし、この便利がくせものでよく考えると人間の自然への挑戦である。自然に随順するのではなく、自然を征服して無季の花が多くなった。本来、人は自然との触れ合いなくして生きることにはできない。いかに科学技術が進歩し、豊かな文明をつくり出したとしてもそのことに変わりはない

わが郷土桐生は豊かな水、緑の山野に恵まれておりわれらの祖先は、この自然との協調の中で土地を開き、水を活かして産業をおこし、すぐれた文化を形成してきた。1月や2月の厳寒のさなかにケバケバしい菜の花をさしても、異和感で

落つけない。季のない花は気の抜けたビールで、花であって花でない。近ごろ「春待つ心」といったような、ゆかしい人間性がなくなった。つれづれなるままに庭に出て春を待ちかね「梅一輪、一輪ずつの暖かさ」と詠嘆するものがどれだけいるだろうか。インスタントな商品価値だけをねらう現代人には、自然の心はわからない。その心はお、自然環境を悪化させ、それを改善しなければ人間の精神は奥深いところまでむしばまれ、生命の存続さえ危ぶまれるに至り、人の未来は重大な危機に直面するおそれさえある

自然の厳肅さに目ざめ自然を征服するとか、自然は人間に従属するなどという思いあがり捨てて自然を尊び、自然の調和をそこなわず、その保全に総力を結集するときである。自然は書かれざる經典である。自然のどこをおさえても報仏の功德のしみとおらないところはない。霜雪にもめげず枝頭に凛々とした花を咲かせる古梅の根元へ根元へとさかのぼってみる。流れに沿って源流に思を馳せると、ほのかに無尽の大悲に当面せざるを得ない。これに当面するには、きびしい内と外の風雪にたえ根を養うほかはない。ひたむきに根を養い人事の限りをつくす。その積任のつき果てたところに「一超直入」が展開される。フレームの花とは、へだたること雲煙万里で、再びいう、自然は書かれざるお経である。

(50.2.15)

LOBBY

一 俳 句 一

- 昭和49年度
 - 6月28日 6名
 - 12月9日 7名
- 昭和50年度
 - 3月25日 8名

一 スポーツ 一

- 昭和49年度
 - 9月18日 赤城国際カントリークラブに於てゴルフ大会を行う 参加8

名。
11月27日 スターレーンに於てボーリング大会を開く 参加は16名であった。

一 美 術 一

- 昭和49年度
 - 9月15日 絵画展のための写生会を行う。静かなクラブ庭園でのスケッチは素材豊かで楽しかった。参加4名
 - 10月19日と20日は第9回絵画展、会場はいつもの二階広間、出品された方は17名で出品点数は34点、小品ながらこれだけの作品が集まったのは初めて、然し来館者が70名とはもっ

たいないようだ。懇親会は10名集まったが来年度は文化祭をやろうと大張りきりであった。

一 囲 碁 一

- 昭和49年度
 - 毎週火曜と金曜日に練習例会を開いておりますので同好社員はお出かけ下さい。
 - 11月17日 秋の囲碁大会を「やまねや」二階で開くクラブ天狗が12名出席して終日手合せをした。
- 昭和50年度
 - 毎週練習例会を続けている。



木村健司氏と8ミリ映画会 3月月次会

3月の月次会は、木村健司氏をお招きし、8ミリ映画製作の苦心談をお聞きし木村プロダクション製作の優秀作2編を鑑賞致しました。

木村氏は、8ミリ映画製作では我国でも最高の技術を持つ方であり、乏しい製作費の中で、素晴らしい作品を次々に作っておられます。

今回の2編は「銅街道」（足尾より前鳥迄の幕府が銅を運搬するに使った街道）と「お六くし」（木曾街道と木曾で有名なお六くしの由来、製作工程を写したもの）。

いずれも木村氏が独自に開発したサウンド方式で、普通の16ミリに劣らない音響効果を伴った素晴らしい映画でした。

80才を祝つて個展

当クラブ名譽社員大川英三氏は10月11日から3日間シマ画廊で日本画の個展を開かれた。氏は口も八丁手も八丁クラブ元老の中でも若い者に負けない元気な方で個展としては作品も50余点、かつて機屋老談を語られたお人柄にふさわしく着物の襷模様を描かれたのには感銘深いものがありました。会場は氏を知る人々や市民であふれ立派な催でありました。

(49.10.12)

法の光

坪井良栄

桐生山鳳仙寺は天正2年5月、北関東の雄と言はれた、由良盛繁公により開創された曹洞宗の名刹である。

開山堂の入口には、「一条の清水青山をめぐり、数片の白雲古寺にこもる」の1対の聯が古色蒼然と白漆で書き連られてある。

山間の静寂な緑に囲まれた7堂伽藍が400年34代の歴史を今に伝えて歴然と現存して居る。ここは求道の人々が法を求めて、きびしく又けわしい修行の日々を行った道場であり、桐生の歴史の一コマを大きく語りつたえて居る。

昭和47年2月、日本仏教会の代表として仏教発生の地インドに派遣される。

羽田より飛行機にて、12時間首都ニューデリーに到着、更に飛行機にて東に1時間ラクノー、それより汽車にゆられて2昼夜、4人1組になりトイレつきの、貨車を改良した程度の客車にてノガー到着バスにて3時間ネパール領内に、簡単な汽車の踏切り程度の柵のある国境を越えて入る。ここは釈迦誕生の地ルンビニである。インドは炎熱の地である夏は50

度の暑さ、人々は裸足でサリーをまとい牛糞の散らばる道を、黙々として歩を進めて居る。気候はきびしく、生活も又苦しい、釈尊は2500年の昔、カピラの国の王子として生まれ、王位を捨てて、家族と離れて、1人出家の道に入られ6年間の苦行の後、35才でブタガヤの菩提樹の許で大悟せられ45年の教化の後80才にしてクツナガラに於て、涅槃に入りましたが、その教は世界の人々の間に生きて現在に到って居る。青春の5ケ年を中国に過す。仏教はインドに起り、中国に入り日本に伝わる。

学徒出陣により、中国に出征、激しい戦陣の毎日であり、3度野戦病院に入院等の事もあったが、戦闘の寸暇多くの仏寺を訪ねる事が出来た。中国の人々とは、文字を通じ、宗教を通じ、人種を通じて合い通じるものがある。

中国には当時仏道教儒教等あり、宗教を通じて接する時、遠く奈良平安の昔からの多くの心のつながりを感じるものである。戦乱に、天災に、その日その日の生活にあえぐ中国の人々の間にあっては

仏寺に、道字で祈る間こそが、静かな心の休まる1刻であったかも知れない。

6000年の歴史は、幾度も為政者がvari異民族の圧政にあえぐ事もあり、仏教もその流れから離れる事は出来なかった。

48年5月本山の命令により、ベトナムに入る。中国の侵略1000年フランスの植民地として80年、更に10年余のベトナム戦争、ベトナムの人々の以外に明るい表情には驚く、ウエサカの祭り、(釈尊誕生の聖日、旧暦4月15日)国中が仏教の5色の旗と熱帯の花にうづまって居る。ゴン、ジエム政権の仏教と民衆に対する極度の圧迫が、僧侶の焼身自殺となり今日のベトナムの仏教徒の立上りとなるベトナムの仏教は中国から入り、南から入ったビルマタイの仏教とは異なると、ベトナムの人は、自分の国を越南と呼び北から入った仏教を北宗、南から入った仏教を南宗と呼び、共に仏教としては協力して居る。

1週間1000キロにわたり、ベトナムの各地を、サイゴン、ダラット、ブンタオと行動するも、釈迦休戦の聖日であり、1発の銃声も聞かず、ベトナムの戦線近くまで自由に行動することが出来た。世界の国々、特に東アジア、東南アジア南アジアと御仏の法の光は不滅の歴史を伝えて居る。この旅を通じ、法の光を求めることになり、この1隅を照らす光こそ明るい平和を出現する源となることを信じます。

社員総会を開催

(1月28日)

定時社員総会は、社員総数 246名に対
し委任状提出数 152名、出席数20名、合
計 172名で総会成立。川村理事長を議長
に昭和49年度事業概況の説明を平野副理
事長。同財産目録、収支決算書は吉野理
事から報告、また遠田監事に右の監査を
受けたことを報告承認されました。次に
議長は伝統ある倶楽部会館の保存保持の
ため昭和50年1月より会費と入会金の改
訂の承認を求め

- 個人会費 月額 1500円也
- 法人会費 〃 2000円也
- 入会金 個人 20000円也
- 法人 30000円也

と承認されました。

次に昭和50年度収支予算案審議の結果
万場一致で承認されました。次に議長は
役員任期満了につき改選を提案、選衡
委員5名により慎重に選衡の結果を議長
に報告、議長は全員に諮りし結果下記の
通り全役員の新任と欠員1名の補充を承
認いたしました。

- 理 事 川 村 佐 助
- 〃 小 池 久 雄
- 〃 平 野 元 吉
- 〃 吉 野 一 郎
- 〃 島 勝 二
- 〃 前 原 勝 樹
- 〃 森 島 秀
- 〃 飯 山 清 治
- 〃 塚 越 平 人
- 〃 吉 田 展 雄
- 〃 森 正 雄
- 〃 藤 江 敏 雄
- 〃 角 田 定 次 郎
- 〃 金 谷 善 介
- 〃 米 田 壽 徳
- 監 事 遠 田 安 蔵
- 〃 園 田 昇

以上

また2月8日理事会で正副理事長、会
計、当番、委員会の決定をいたしました

- 理 事 長 川 村 佐 助
- 副 理 事 長 小 池 久 雄
- 〃 平 野 元 吉
- 会 計 吉 野 一 郎
- 〃 島 勝 二

◎当番及委員会表は別項参照

昭和50~51年度 委員会構成

委員会名	委員長	委員 (理事)	委 員
文化活動	前 原	藤森 島 江	坪野 (スキー) 清水 (ボーリング) 武藤 (ゴルフ) 保倉 (美術) 須賀 (美術鑑賞) 木村博 (囲碁) 飯山 (麻雀) 岩下 (俳句) 木村 (敏) (懇話会) 坪井 (郷土史)
行 事	飯 山	角米 塚 島 吉 田 越	坪野、小林 (祥)、武藤、五十嵐 出島 (英)、田中 (英)、星野、 阿部 (光)
管 理	平 野	吉 田 野	
広 報	小 池	金 谷	坪野、佐久間

桐生の自然を守ろう

伊 藤 正 夫

大正12年9月1日。正死した父の処置
を終へて、母と私は激しい余震に戦き、
猛火に追はれ追はれて商船学校 (現商船
大学) の校庭へ何とか避難する事が出来
た。余り突然の度重る惨事に身も心も疲
れ果て、ウトウトして居るともう午後7
時近かったと思ふが激しい怒声と泣き叫
ぶ声にフト前方を見ると隅田川の最下流
の木造、相生橋が中心から火を噴いてい
る。之は河を下って来た荷物を満載した
船に火がつき、之が橋桁に激突して燃へ
移ったもので、やがて橋の中央、50米位
が燃へ落ちると同時に震から穀類を撒く
様に、橋の上から荷車と人が群をなして
河の中へ次から次へと転落して行く。石
川造船所の赤々と燃へ盛る焔に反映して
鮮かに写し出された此地獄絵に私は声も
出ず只唯然として見惚れて居た。之が果
して現実か？私は今悪夢を見ているので
は……こんな事が実際にあっていいもの
か！月島へ渡ろうとして深川から押し寄
せる群集は橋の中央で何が起きているの
か分らず、只先へ先へと押して来る為此
の惨事は暫らく続いていた。

河面の船は殆ど焔々と燃えた儘海へ流
されて行く、此の間を只ものがくのみ
の人影が黒々と無数に散在している。

実際想像を絶する大惨事を見た私は、
50年経過した今もまざまざと鮮明に想出
される。

昭和20年3月10日、東京大空襲の惨状

も凄しいもので、私の友人の安否を本所
(今墨田区) に尋ねたが、一面の焼野原
で僅かな焼跡の目印で漸く探し当てたか
防空壕で一家6人、蒸焼きになって死亡
していた。然し此の家族は何かそれと
認識出来たが近くの塚は内部が燃え外へ
出る事も出来ず、炭化した一塊の死体は
男女の性別さえ分らず、黒々とした頭
蓋骨のみを届出して其処の人数を確認す
るだけだった。

道路、河、等にも死体が散乱し特に爆
撃後の惨状等は其頃の国内事情で殆ど発
表されていないが酸鼻の極であった。何
故私がこんなに悲惨な事を書いたかと疑
われるが、昭和22年9月キャスリン台風
以来、大きい天災に遭っていないし、天
災の真の恐ろしさを識らない桐生市は山
と河の美しい天与の理想郷である。

私を尋ねて来る都会の人達には三方山
に囲れた桐生周辺の自然環境は実に美し
く見えるらしい。

梅田の山と谷を案内するのも私の自慢
の1つである。余り恵まれ過ぎて等閑視
され勝ちな此の自然こそ桐生の何物にも
換え難い尊い宝でもある。吾妻山麓の放
置された痛々しい地肌、儘の造成地跡の
恥部や、其他2~3を見るにつけても、
何とか之以上市民の良識と努力で環境保
全に万全を期し度い事を切願するもので
ある。



月次会報告

昭和49年度

7月26日 交通センター事務局長本間富次氏を講師にバオリズムの講演会をお伺いした。出席13名当番(金谷、角田)

8月 休会

9月19日 桐生市教育長福田才治氏に「教育の実状を語る」というお話を聞く。出席20名 当番(森島)

10月21日 書家相田みつを氏の「人生が楽しく過す話」を聞き有意義であった。出席18名 当番(島森)

11月25日 理事長川村佐助氏に「喜の字の川村村人生」をお伺いした

1月28日 社員

総会社員総数
246名委任状
数 152名、出席
20名、合計
172名

2月 休会

3月27日 木村健司氏制作の映画「あかがね道街」と「お六柳」の鑑賞会となった

出席27名 当番(島、森)

4月 地方統一選挙のため休会

5月4日～5日 第1回文化祭(全)

館) 絵画と華道展共に 110名、ガーデンパーティ55名、懇話会15名、お茶の会40名、囲碁大会10名、俳句会8名、担当(文化活動、行事両委員会)

6月30日 今期を担当の小山市長と(クリスマスパーティにて)



太田市議長に今後の桐生市を語るというテーマでその抱負をお伺いした。出席48名当番(飯山、前原)



(ムード盛り上ったガーデンパーティ)

(ガーデンパーティで挨拶する小山市長)

出席42名 当番(吉田、藤江)

12月15日 クリスマス等、恒例の福引やイヤリングコーラスの出演で社員家族合同でクリスマスをお祝した。出席社員46、家族22、小学生23、幼児10、合計 110名 担当 行事委員会

昭和50年度

1月3日 新年互礼会は昭和50年の新春を寿ぎ普たん余り見えぬ社員も多数参加してにぎやかに過した 出席67名 担当行事委員会

当番担当表

昭和50年度

- 2月 角田、森島
- 3月 森、島
- 4月 藤江、吉田
- 5月 前原、飯山
- 6月 塚越、金谷
- 7月 米田、吉野
- 8月 角田、森島
- 9月 森、島
- 10月 藤江、吉田
- 11月 前原、飯山
- 12月 塚越、金谷

昭和51年度

- 1月 米田、吉野
- 2月 角田、森島
- 3月 森、島
- 4月 藤江、吉田
- 5月 前原、飯山
- 6月 塚越、金谷
- 7月 米田、吉野
- 8月 角田、森島
- 9月 森、島
- 10月 藤江、吉田
- 11月 前原、飯山
- 12月 塚越、金谷

昭和52年度

- 1月 角田、森島

新倶楽部社員紹介

遺産の継承

中村 弥市

昨年秋、当クラブに入会させて頂きました。

先代中村弥市が、当倶楽部創立当時の社員として、名前をつらねているのを、桐生倶楽部五十年史によってみつけました。大正四年から大正七年にかけての設立までの過程をみると、大変な苦心と努力を要した事を知り、創り出すことのむづかしさをヒシヒシと感じさせます。勿論、私の生れる前のことです。

当時は、紳士の集りの場であるから、芸者の入館には条件をつけ、エプロンをかけさせた等、笑いがこみあげてきます和服着用者のために貸袴を用意した等此の精神が今でも続いているとすれば

私なぞとても入会する資格なんかありません。

現在、私が大事にしている本が、「桐生地方史」(合本一冊)ですが、此本の出版が桐生倶楽部であり、御大典記念として出版されたと云うこと、亡父の面影と共に感慨深いものがあります。出版委員の名簿の中には、一丁目の人で亡くなった真尾源一郎さんもよく知っており、ソリゲンさんの名で有名でした。その御親戚の藤江守四郎先生には、私が四・五才の頃、疫痢かなんかにかかった折、人力車でかけつけてくれた遠い記憶があります。

桐生倶楽部は、社員の誰方が書いておられた様に、昔から洋館造りの粋な建物として群を抜いていたものですが、私の利用経験では、此の瀟洒な建物に、債権者会議等で何回か来ているので芳しくな

い想出があります。

然し、所謂、大正デモクラシー時代に活躍した先輩の精神的遺産は大きく、これからも当倶楽部は、二代目、三代目と未広かりに発展してゆくものと確信しています。

洗練された大先輩の遺した雰囲気の中に入って、果して私がやってゆけるかどうか、甚だ心許ない次第ですが、幸い、知人の先輩も多いので、何かと御指導を頂き、欠陥社員にならぬ様、励むつもりでおります。

余談になりますが、去る三月二十七日の月次会に於ける映画ですが、画面もともかく、音楽が素晴らしく、お家で録音されたとおききしましたが、クラシック現代音楽と、巧みに使い分けておられました。敬服致します。

倶楽部だより

昭和49年度

7月

- 理事会 (8日)
- 月次会 (26日)
- 職員夏季手当支給 (15日)
- 文化活動委員会 (27日)
- ロビーカーペット新調 (30日)

8月

- 理事会 (8日)
- 定時休館 (15日16日)

9月

- 建築委員会 (6日)
- 理事会 (8日)
- 美術グループ写生会 (15日) 庭園
- ゴルフ大会 (18日)
- 赤城国際カントリークラブに於て
- 月次会 (19日)
- J C理事とクラブ理事の懇談 (21日)
- 排水工事 (前庭)

10月

- 理事会 (7日)
- 第9回絵画展 (19、20日) 於広間
- 美術グループ懇親会 (19日)
- 月次会 (21日)
- 植木の手入れ

11月

- 理事会 (4日)
- 行事委員会 (15日)
- 開基大会 (17日) 於やまねや
- 月次会 (25日)
- ボーリング大会 (27日) 於スターレーン

12月

- 理事会 (7日)
- 俳句会 (9日)
- クリスマス祭 (15日)
- 職員年末手当支給 (15日)
- 年末休館 (30日、31日)

昭和50年度

会費	月額	個人	1500円
		法人	2000円
入会金	法人	30000円	
	個人	20000円	

に改正

1月

- 新年瓦礼会 (3日)
- 年始休館会 (1日~3日)

- 理事会 (9日)
- 監査会 (14日)
- 臨時理事 (28日)
- 定時社員総会 (28日)

2月

- 理事会 (8日)
- 臨時理事会 (20日)
- 文化活動委員会 (27日)

3月

- 管理委員会 (6日)
- 理事会 (8日)
- 文化活動委員会 (17日)
- 俳句会 (25日)
- 月次会 (27日)

4月

- 美術と華道展の打合せ (2日)
- 理事会 (8日)
- 行事委員会 (29日)
- 職員定期昇給 (4月より)
- 庭の手入れをする (29日)

5月

- 第1回文化祭 (4日~5日)
- 全館
- 理事会 (8日)
- 広報委員会 (21日)
- 俳句会 (22日)
- 月次会 (30日)
- 火災保険増額

三月句会

雪折の杉枝積る宮の屋根
 ふぎの苔三つ仏へ供へけり
 山雨来て椿の花の落ちにけり
 門前に花売る媼彼岸寺
 解く舟にとびのる犬や水温む
 早荒畑を吹き抜けてをり春一番
 公園の花のほんぼりや用意

三山子
 伊藤千藤
 吟松
 梅春
 光春
 森しま
 孩

<退会社員>

- ◎昭和49年度
 - 周東英助
 - 土田金一郎 (死亡)
 - 榎ユニチカ桐生工場
- ◎昭和50年度
 - 渡辺明一
 - 加藤進康
 - 山崎作蔵
 - 加藤義平
 - 飯塚癸己三 (死亡)
 - 栗本博恭 (死亡)
 - トーシン(株)
 - 桐生工業(株)

広報委員会だより

そろそろ「つゆ」に入ります。「つゆ」とは「梅雨」と書くので「梅」にちなんだ随筆を載せました……なんて洒脱にもなりません、早いうちに頂いた原稿が発行遅れのために時期はずれとなってしまいました。就筆者には大変恐縮しております。

倶楽部会報は数えて第18号となりましたものの、一年分或いは二年分の出来事をまとめて掲載してまいりました。これは、経済的な問題もさることながら、広報委員会なるものが、今まで小池副理事長一人の孤軍奮闘で、なんとかつない

で来た訳でして、号が続いたのが不思議なくらいでした。

そこで今年度から、行動力では抜群の金谷氏と坪野氏を補強し、再発足をいたしました。当面の目標は年4回の会報発行を計画し、その第一回目が発行されたわけです。

そんなわけで早春をテーマにした随筆が梅雨の季節に登場した次第でして、今後も「三ヶ月遅れ」の記事が載りますが「二年前の記事」より大巾前進と、御容認の上御愛読ください。同時に出来るだけ多くの会員の筆を紹介したいと思いますので、どしどし短文を係りまでお寄せくださるよう、お願いいたします。

(佐久間)



社団法人

桐生倶楽部会報

科学で安心出来るか？

吉岡春之助先生講話

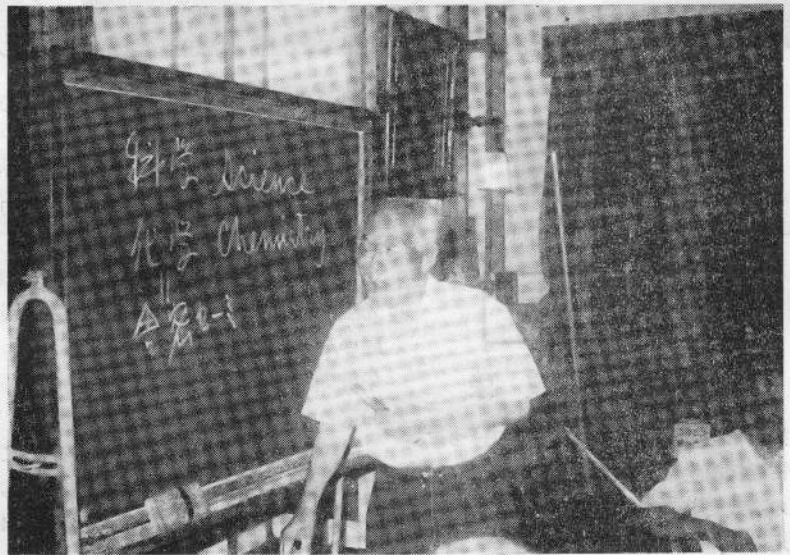
昭和50年7月28日 18:00より20:00迄
於桐生倶楽部ホール

当日は多数の聴講者を迎え定刻に開始
先づ理事長の挨拶の後、塚越理事より先
生の紹介があり直ちに標題のお話に移
ったが82才の御高令にも拘わらず該博な
知識特に術語についてはその出典を明か
にされつつ、而もたっぶり2時間の立っ
たままで話され聴講者もその内容に魅せ
られ極めて熱心に最後迄聴講された。
講話の要旨は次の通りである。

近年宇宙ロケット打上げ、ドンキング
の成功、その他の技術が開発され、その
成果を眼(ま)の当りに見ると世人は科
学万能のように錯覚するが、決してその
様なことはない。第一上述のことは科学
技術学であって科学そのものではない。
科学では現段階では本質的なものは何一
つ解明出来ていない。これらの証明が
出来ないものは「公理」或は「仮説」と
言う言葉で逃げているにすぎない。ア
インシュタイン博士を世に出したアン
リ・ポアンカレの著者「科学の価値」の
開巻第一頁に「科学は技学に貢献するが故に

価値があるのではなく技術の研究を進め
て行く働きをするから価値がある」と
いう言葉があるが科学と科学技術とを混同
してはならない、それでは技術が進むと

何でも可能になるかといなどそれは前述
の如く科学は物の本質を明かに出来ない
ので不可能である。ただ科学では物と物
との関係を明かにすることが出来る。例
えば「電気とはなにか」というとその本
質は判らないがその関係はわかっている
ので技術面で応用は出来る電気のeffect
(効果と約している)は化学変化、発熱
、磁気作用であるがこれらは測定するこ
とが出来るので応用可能である。亦他の
例としては「力」があるが、これも本質

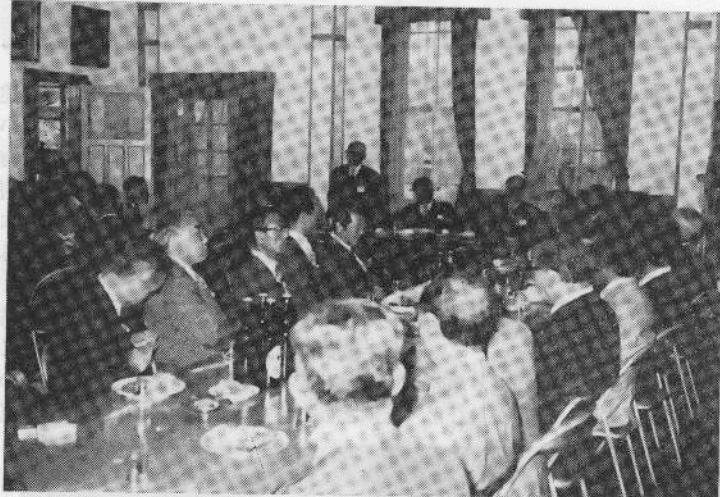


は判っていない。しかし力は物体に速さ
の変化を支えることはわかっているので
応用は出来る。このように物の本質は神
のみが知っているが神はこれをいいあら
わすすべも知らない。まして人間が科学
或は科学技術を万能と信じるなどとは思
い上りも甚だしいもっと謙虚にならな
ければいけない。併せて聖書に平和とは「
獅子と羊とが群れ遊び幼女が蛇の穴に手
を入れてもかまれない」(マタイ伝)と
あるが平和の方向に努力しなければなら
ない科学はそれを達成するために利用さ
れなければならない。以上

(塚越・要訳)



月次会報告



6月・月次会より
「小山市長・太田議長に聞く」

日桐生産業文化会館に於いて「市民のつどい」が盛大に挙行されました。

これは桐生城の整備と林道の改さく、記念碑の建立、山頂の祝賀会等と発展したものだと思えます。

郷土桐生の歴史に、少さい一つの同好の輪が大きく拡がる時に、物心両面に豊かな社会が造くられ受けつがれる事と存じます。

一懇話会一

氷の芸術を楽しむ

今回の懇話会には8月25日(月)午後6時から、行く夏を惜しんで「氷細工を見る会」という涼しい趣向でひらかれたクラブ庭園に席が設けられ、テラスですずき飲食店の鈴木道朗マスターと産文食堂森田昭チーフらがノコギリと薄刃のノミをふるって1本138キロもある氷柱に挑む。ビールのコップを傾けつつこれを鑑賞するという訳で参加者は25人。

なにが出来たのかと見守る中でおよそ1時間。大きな翼をひろげた美事な白鳥が姿をあらわした。

鈴木さんの説明によると、氷細工の芸術、が日本に入ったのは大正7、8年頃。戦後米軍の進駐で急に広まったとのこと。しかし地方でその技術を持つ人はまだ少く、彫刻の実際を見る機会も少ない。

担当 木村 敏夫

LOBBY

一郷土史談会一

桐生城

坪井良栄

郷土桐生の発展は古い伝統の受けつぎ特に近代桐生城主、由良成繁の治世、徳川の新政によってその基礎が確立したと言えよう。

天正元年(1573年)成繁公桐生城に入城、足利、館林、太田等、北関東の多くが、その治下に入り、古く各方面に新田の開拓、仏社の建立、城下町の整備等も行う。

天正6年成繁歿し、国繁その跡をつぐ天正18年(1590年)秀吉関東に入り、家康の治下となる。家康桐生を天領として代官大久保、手代大野八右衛門は、手代として来るや、種々思い切った企画を行い、旧来の桐生城町屋を廃して、桐生新町を建設、陣屋を桐生ヶ丘の東麓に造る等思い切った改革を行う。

今回発刊された松島正見先生の続桐生城物語は由良より幕末に至る桐生の郷土

を判りやすく面白く物語風に記載したものであります。

特に重点を近代に置かれた事は身近かの歴史だけに親しさを感じるものであります。

8月20日桐生倶楽部に集まるもの前原先生、森島さん、森さん、金谷さん、髯庭さん、小生と講師の松島先生の5名、午後7時から定刻の9時を過ぎるまで、和気あいあいに話しは進む。

松島先生は先に桐生城物語を発刊、これが大きなのろしになり、「桐生城をしのぶ市民の会」が結成され、45年5月24



真夏の夜の夢

飯山清治

いとうらやましき事……整然とした基盤の日の様な街作り、そして町角は角切りされ、由緒ある処を中心に一条通りから〇条通りと云う様なタテ区画……横割りは一丁目から秩序よく〇丁目……街路樹は道幅に順応した木々の並木、円続する山々の石段は花にうづもれ、山々は全山を彩るつつじ……市の木もくせいは芳香を放ち、市の花サルビヤは真赤に咲き誇る。

街角に立てば老人子供に優しい手を差しのべる人々が溢れ、小さな善行運動が輪を拡げ、市民は善行バッヂをつけ其の回数の数字を競い合う街、そして市民広場は彫刻の森、青年男女は音楽を楽しむサークルを作り、屋外ステージでは演劇愛好グループが今日も新作を発表している。若い者はスポーツに打ち興じ、中年の者はトリム運動の中に喜びを感じ、年配の方は緑の遊歩道に散策する。桐生川沿いに文学碑を楽しみながら歩み、夏の夜は飛びかうホテルにホテル狩りと洒落れこみ吾妻公園に足をふみ入れれば万葉の昔を偲ぶすがとなる。渡良瀬川畔はサイクリングロード、桐生川をさかのばれば水車が回り、友禅流しが散見出来る。白壁土造りの郷土資料館に『かしてありけり、の昔時を偲び、トンネルを通ると桐生川ダムが眼下に拡がる。俗化されない自然の雄大さに『良しぞ桐生に生れけり、と感銘を新たにして、しばし時の過ぎるのを忘れる。ダムを見下す場所に世界各国の旗が林立して居る。あれはユネスコ村であろうか。素晴らしい国際集会所でnowな空気を満喫して或る人は画布に絵筆を走らせて居る。亦或る人は釣り糸を垂れ清流に木々の緑の深まる影を何時迄も見つめて動かない。ふと寝返りを打ったものか。それと緑陰につつまハンモックから落ちたのか。そんな夢がかき消された。一時の楽しい夢をもう一度見る為にも頑張て現実の社会で働らき少しでも一つづつでも実現させて行く方向づけをして行き度いと考え乍ら夢想の世界を懐しみましに。……いと楽しき事の多かりき……

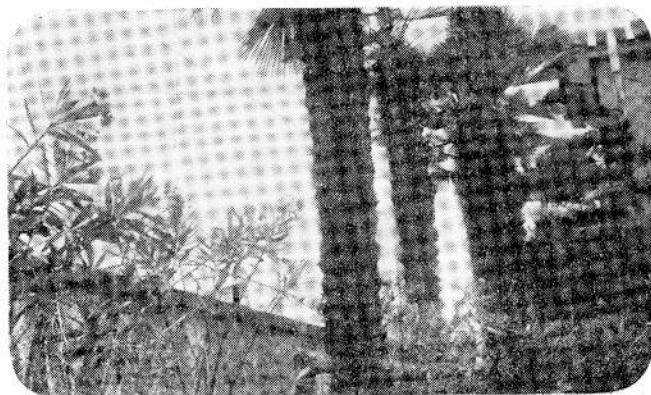
テレビ社会の偏見

下山洋一

公害、自然破壊から桐生市を守ろうと地域産会のリーダーを志向する青年会議所の諸君に依って着々と浄化の成果を挙げられている事は真に頼母しく敬服いたします。この様に公害糾弾、世論を地道に喚起する反面瞬時に全国民に波及させる機能を果たすのにテレビがある。現在テレビは各戸に普く行き渡り情報の機動性に著しい貢献を成しています。其の力は世論の象徴であり流行を生み出し生活様式を変化させ民衆に最も影響力のある機関に発展してまいりました。

反面普遍性なるが故にその役割の利点と弊害も相半ばして居る兆候が見える。対話を持たぬ影像の一方交通のため思索の努力を忘れ政治・スポーツ・事件解説者の主張の受け売りが互に自己主張であるかの様に錯覚し、共鳴しあう様な日常会話が目立ち始め価値判断の無個性化の傾向が見られ始め事件の大小に関りなく報道の軽重に依って世論が動かされる事がしばしば見られます。

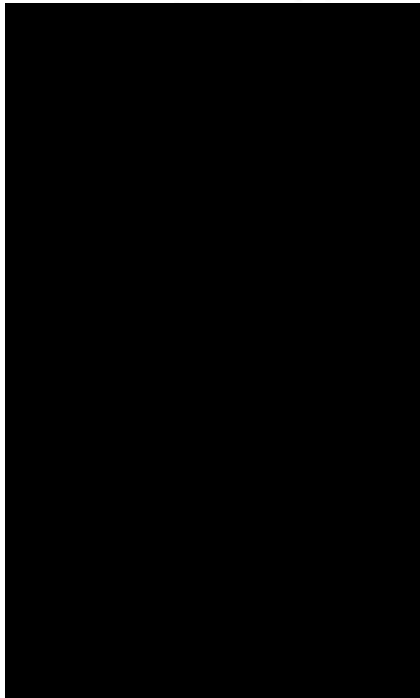
娯楽番組の中には視聴者獲得の立場から茶の間に主導権を持つ女性におもねる番組が多くそこに憧憬を生みブラウン管のスターに無批判的に傾注した表れがタレント議員の登場であり中でもフザケ選挙で楽々と当選。この傾向は今後より増大して行くと思われれます。戦後男性の無気力化から子供の躰の全権を母親に委ねる家庭が多く、母親の場合情報社会にありながら比較的テレビしか情報を求めず、其の様な茶の間から誕生し成長して行く所謂テレビっ子の出現等テレビ至上の市民が価値感の基準を一方的に刷り込まれブラウン管の声そのものが世論であると錯覚して行く、此の風潮に抵抗する世代と肯定する世代との差の変化によってテレビは世論を自由に繰り得る機関に発展し公害糾弾のエネルギーを逆用の暴発させたら社会変革も容易になり得るであろうと想像したのは、思いすぎでしょうかね



キョウチクトウの花が咲きました

クラブ前庭にピンク色の可愛い花が咲きました。キョウチクトウは7月から10月近くまで咲き続ける夏の花の代表です。普通は濃いピンクの八重咲きやクリーム・ルビー色の種類もあります。原産地は熱帯といわれ桐生は最北端になります。尚最近、桐生市の花一杯運動推奨花に指定されましたが、大変に毒性が強く、枝などを絶対に口にくわえたりしてはいけません。

新倶楽部社員紹介



倶楽部だより

- 6月
 - 理事会(9日)
 - サルビヤ40本植える(12日~30日)
 - 会館修理工事始まる(12日~30日)
 - 月次会休会
 - 会報第18号発行(25日)
 - 夾竹桃12本前庭に植える(26日)
- 7月
 - アメヒト消毒(6日)
 - 理事会(9日)
 - 職員夏季手当支給(15日)
 - 月次会(28日)
- 8月
 - 文化活動委員会(2日)
 - 理事会(8日)
 - 定時休館(15日・16日)
 - 郷土史部会(19日)
 - 懇談会(25日)
 - 月次会休会
- 9月
 - 広報委員会(1日)
 - 理事会(8日)俳句会(13日)月次会(26日)
 - 室内消毒(15日)

クラブの美術紹介(シリーズ1)

香山新涼

岡田晴峰筆

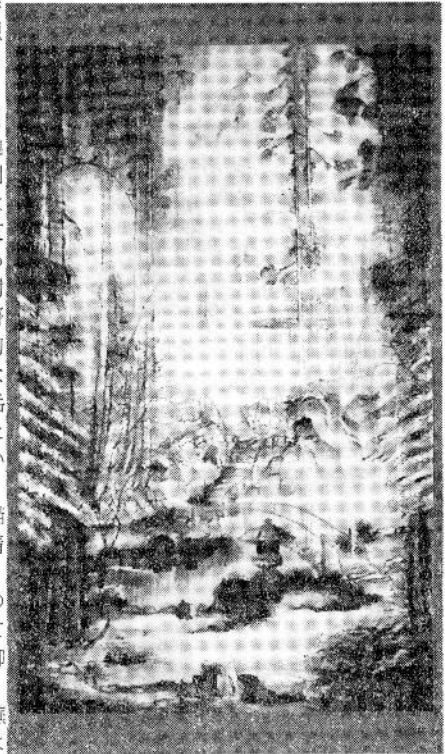
桐生倶楽部二階の広間に掲げてあるタテ2幅ヨコ2幅の南画の大幅は、立木の中に泉水を配し、深山の涼気いづこからともなく肌に感ずる仙境の風景である。作者岡田晴峰画伯は明治28年4月3日、山田郡毛里田村吉沢(現太田市)のお生れ、小室翠雲先生の門下として研鑽、幾多苦難をのり越えて大正11年日本南画院入選以来次々と大作を世に問い、その代表作に「刀水淵源」や「源平須磨の戦」の屏風画がある。

南画は中国、明代に興り、北宗画(北画)に対する語でいづれも禪の境地より発した絵で唐代に別れ、その区別は絵の様式の区別による。この概念は要するに宮廷の画院の絵画と在野の文人の絵という類形をたてたものである。謹厳剛直でリアルに濃麗な北画に対して、自由で柔軟な画風で描法は粗野で色彩は淡白な南画は、北画の職業的な技巧に対し、南画は余技的で自由な趣がある。こうした画風の相違は山岳の峻しい北中国と平野の多い南中国との風土的差異がおのづから反映している。南画はふつう文人画とも呼ばれ、本質においては自己の好むところを描き技巧は多少未熟であっても高潔で清純な精神を理想とした。

日本の南画は江戸時代中期に中国の影響をうけて興った。初期画人としては祇園南海、服部南郭、彭城百川、柳沢淇園があり日本南画の先駆となり、その後、蕪村と池大雅を輩出した。蕪村の絵は俳諧的な情趣を盛り、大雅は南画の本質をよく掴みながら破格の画境を示して、ともに中国画とは別個の日本的作風を創造したのである。このころから日本各国に個性的な作家を輩出し、南画は江戸時代を通じて隆盛をきわめ、京都の青木木米、備前の浦上玉堂、九州の田能村竹田、江戸の谷文

晁、渡辺華山らはことに有名である。明治以後は富岡鉄斎のような独自の境地を開いた南画家も出たが一般的には形式化して次第におとろえた。しかしその精神や内容は新しい日本画に影響を与えて南画々家以外の日本画家から多くの南画的作品が生まれた。

岡田晴峰先生は昭和2年より桐生に



お住いになり数々の彩管を振られました。桐生では織物会館に掲出の大作ほか多数残されているそうです。昭和41年9月29日70才で逝去された。また先年桐生で回顧展が開かれたのも記憶に新しい。(服部)

広報委員会だより

またまた予定より遅れました。「真夏の夜の夢」も寒くてチヂミ上りそうですが、それでも創刊以来、年間最多発行を目標にガンバります。今回からクラブ内にある美術品紹介シリーズを企画しました。このあと第二・

第三の企画があり、こちらも夢一杯です乞うご期待を

クラブよりお願い
通知に対する御返信は、出欠にかかわらず御返信ください。



社団法人

桐生倶楽部会報

年頭に際して

桐生倶楽部理事長 川村 佐助



明けましておめで
とうございます。

昨年は極めて厳しい不況に終始し、夫々の御立場で大変御苦勞も多かったことと存じますが、社員の皆様方には御無事で新しい年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。又、平素は至らぬ理事長ですが絶大な

御協力を賜わり、おかげさまで当倶楽部が順調に運営出来ておりますことを厚く御礼申し上げます。

さて、日本の経済が目覚ましい高度成長から低成長へ変わりつつある現在、色々なもの見方や考え方も変わりつつあるようです。

真の豊かさは、決して物質的豊かさだ

けではないという認識も一般的になりつつあるようです。

我田引水のように、これからの時代、当倶楽部の存在は色々な意味で益々貴重になってくるのではないのでしょうか。本年も皆様方の御指導御支援を得て、より良い倶楽部を作る為に努力するつもりでおりますので、よろしくお願い申し上げます。

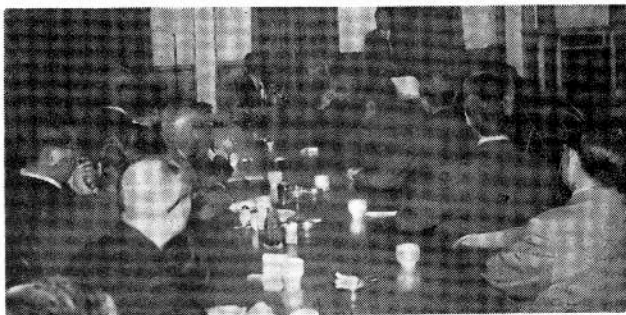
新しい年の皆様方の御多幸と御健勝をお祈り致しまして新年の御挨拶と致します。

神田知事さんに

ブラジル訪問の見聞をきく

11月次会

(担当理事 前原・飯山)



理事会で月次会のテーマを図ったところ、最近ブラジルを訪問し群馬県移民30周年記念式に出席されて見聞を広められた神田知事のお話を聴こうという希望が多かった。そこで杉野昇社員の橋渡しで

お願いしたところご多忙にかかわらず、すぐご承引をいただいたので11月28日に開催の運びとなった。当夜の参会者50名を越える盛会となり、講話終了後の質疑

歓迎ぶりということで、県人会の実力を改めて見直した。

東南ア諸国の一部では、日本人は歓迎されない評判があるけれどブラジルに限って日系人への信頼は大きいようだ。日本人は、山野を切りひらき、ブラジルを開発してくれた恩人だとの意識が地元民にありました。日本人、は信義と道義を重んじ、コスイことをしないという見方をしており、日系人もそれを誇りとしている。他の民族にくらべて教育レベルも高い。日系人が大きな顔で歩けるのはこんな理由からだろう。

こんどの訪問では、副大統領、国会議員、知事、日本字新聞経営者らに会ったが、ブラジルの州知事さんは軍隊を動員する権限まで持っていて、群馬県の知事と大ちがい。ある国会議員からブラジルはいま外貨がほしいので生糸を作って日本に輸出したいがどうだろうと持ちかけられて困った。こちらら養蚕県だから、この件は少し待ってくれと返事してきた国は大きく資源が豊かで、10年20年先が楽しみなわけだが、とくにアルミ開発では日本の協力を大きな期待を持っている

のがわかった。

サンパウロでは、黒人が実のびのびと生活しており、かつレディーファーストである。家内を看護婦代り？で連れていったのに、荷物一つ持たせられない。コーヒーが出るのも家内が先である。群馬県知事の場合は通用しなかった。レセプションの席で、副大統領がイスにすわりもせず、モジモジしているのが変だと思っただが、家内がいつまですわらずにいたためだとわかった。大統領はドイツ系の人だが、やがて日系二世の大統領ができるかも、との声もあった。

◇

以上のように日系人の実力はかなり高いものであり、明治の日本人のよい部分だけ生きている、といった印象であった町を走る車の大部分はワーゲンだが、日系大統領になったらトヨタ、ニッサン、スバルが走るかもしれない。

(桐生タイムス記事引用)

◇

ブラジルにおける日系人の信用と勢力は想像以上のもので、本県出身者を見ると、ポロもうけた人はないが惨めな落伍者もなく、みんながんばっている。大体、県人会発足の動機は、終戦直後の日本人相互助け合い運動から始まったものと聞いているが、現在渡川出身の方が群馬県人会会長をつとめ、よくまとまっている。白バイならぬ赤バイ3台が先導する大がかりな出迎えは福田副総理以来の



討論も活発で、意義深いものとなった。お話しの内容は大体次の通りであった。

西村光夫先生を迎えて

9月次会

9月26日(金)西村光夫先生を招き、内外外勢についてお話を承りました。先生は三井銀行物産本社の出身で慶大卒業後、金融関係の研究で学位をとり、群馬大同銀行についての研究もその時のテーマの一つといひます。GHQの経済顧問、慶大、日大教授を歴任それに世界経済調査会の常務理事、スウェーデン社会研究所所長等、また後輩の指導をされたりなかなか多忙の方でしたが快く引受けて下さいました。お話の概要を少し御紹介いたします。

冒頭、イアリングコーラスの演奏会が産文で行われるというのをきいてスウェーデンのそうした施設が実によく出来ていてレコードを楽しんだり、読書したり子供は親がそうしている間遊べる場所もあって至れりつくせりで、日本には未だそうしたものが無いが非常にオープンで誰でも利用出来るとのこと、図書館についても、自由に好きな本をえらぶことが出来て大変便利だとその事など説明がありました。本論では「今世界、日本も混迷の時代であること、特に各国ともインフ

レで悩み、どうしたらよいか迷っている状態だということ。その深い原因は此前の世界不況で弱り切っている時

、従来は不況で物が売れないから物価が下り、やがて輸出がふえたりして景気が回復するというやり方だったが、金にみあった通貨制度にとらわれないで政府や中央銀行などが必要と思えば自由に通貨をふやせばよいというケインズの説になびいた各国は金本位制をすてて通貨をふやし、景気回復に力を入れはじめ、ずっとそのやり方を続けて来た。景気は回復したものの金との絶縁したやり方には歯止めがなく、次第に通貨は増大し財政の赤字は国債でカバーして行ったのでインフレへと拍車をかけた。政治家はいつも景気拡大をのぞんで、その傾向を強めるのだった。人間を信用しないで金によって制約を加えるやり方と政府や金融トップを信用して自由にやらせるやり方と二つのやり方、世界は後者のやり方をとったため今日のインフレになってしまった

しかも輸出不振、消費需要減退で不況に悩み、いわゆるスタグフレーションで会社、個人営業等皆赤字になって困っているのに一方物価は上昇して行く、労働攻勢のためもあるから日本は大企業の方が

大きな打撃を受けている。しかし日本はドッジのお陰で今まで外国のように赤字財政のための国債を発行する必要もなく景気上昇もあって、どうやらやって来たここへ来て景気回復するためには、現行国債発行以外の方法はない。国債の発行も国民の手で消化出来ればインフレを抑える効果があるが、それには金利を高くせねば国民は買おうとしないので、なかなかいくら金利にするかが問題であろう。尚、財政赤字の一端をたどるから今後国債がどれだけになるか心配である(或る学者は60兆ともいう)。しかし1、2年は心配はない。ただ、その比重が大きくなると政府官僚の数も増大してやがて官僚によって支配されるおそれがあるが、私は後者の方がよいと思う。」と話が終わってスウェーデンの社会福祉について注目すべき若干の発言がありました。

以上

(文責・森正雄)

X'mas

家族会

盛大に開かる



脳の老化と精神成人衛生

講師 三枚橋病院長 石川儀平先生

信致

(10月次会より)

脳の話を理解するためには、赤ん坊の時代から脳の一生について話をしなければならぬ。

人間の赤ちゃん時代から死に至るまで、人間の一生にはいろいろな区切りの時期がある。

例えば、乳児期学～童期～思春期～青年期～壮年期～初老期～死と区切られる。これは人生の段階であり、精神面、脳というものの働きの意義と関係がある。

脳は脳細胞によってできているが、頭の良し悪しは一般的に①脳細胞が多い②脳が大きい③脳にしわがあると頭が良いと言われている。

しかし、東大の脳の標本室には歴代総長始め浄々たる学者の脳の標本があるが、大小いろいろとある。大きいだけなら象や鯨の脳の方が遥に大きい。頭の良し悪しは脳の大小に関係ない。

しわがあるのは、脳にきれ込みが生ずることで、脳の表面積が大きいことであり、その点では「いるか」が第1で人間は第2位である。人間の脳をのばすと丁度新聞紙の半分になる。いるかの方が人間より利口だろうか？

細胞が多ければ多い程よいというが、これも違う。

人間の赤ちゃんは一定の細胞数を持って生まれてくるからである。

脳がよく働くと言うことは、細胞繊維、神経繊維が、脳の発達により言葉、

学問、神経繊維、そして体の例より複雑になっていく教育のプロセスによってである。この神経繊維の組み合わせは、育て方、教育などによってその配線の具合が違って来るからである。

人間の脳はコンピューターのようなものである。赤ちゃん時代にハード・ウェアであり、配線を巧い具合にしてよく働くようにするのはソフト・ウェアである。これを巧くプログラミングすることが一番大切である。最近のコンピューターは開発時代のハード・ウェア中心からいかにプログラミングしたら巧く情報が処理できるかと言うソフト・ウェア中心になっている。

人間の脳も全く同じで、始めは脳が脳として有効に働くかと言うハードウェアの問題が大切であるが、その後は神経繊維のからみ合いなどをどう巧く作っていくかと言うこと、脳をより良く働かせるには、どうするかというソフトウェアが大切になる。

人間の赤ちゃんは馬や鹿の子のように生れてすぐ歩かない。泣く、物をにぎる、つかむという動作のみである。これは馬や鹿とくらべたら1年早く生れたことになる。従って母親は体内の子宮に1年よけいにいると思っ世話し、母親との肌のふれ合いが大切である。手足を動かすということは、脳の頭頂の部分が命令をだすわけだがここでは意志の伝達が未発達である。従っ

てスキンシップが大切になる。

赤ちゃんは、胎児のときは「へそのお」から酸素を送られているが、生れると「へそのお」が切られ呼吸して脳に酸素を送る。脳細胞に酸素がいかないと、手足のまひ、更に知能の低い子となる。神経細胞は一度やられたら駄目である。

後頭葉は視覚に訴える。光～目～視神経～認識となる。これを冒されると異状がないのに明きめくらとなる。

側頭葉は記憶～判断をするところ。記憶力が落ちたり、老人の物忘れなどはここに関係する。ここを強く打つとてんかんとか一瞬にして昔の記憶を思い出すことがある。

前頭葉は創造力の中心である。怒りをしずめ、恥かしさを感じ、罪を認める人間が人間らしくあるのはこの発達による。これには躰が大いに関係がある。3才児に模ぼうの時それ以後は創造の時代である。この時期に父親が「躰」することが必要である。ところが現在では父親が弱くその影が薄い。最近の少年院の統計では、7才以前に母を亡くした子と7才以後に父を亡くした子が多い。子は原始感情から生成につれて意思力を持つようになる。これにはせらうという創造力のプラスの面とやっぺはいけなマイナスの面がある。これを育てるのがしつけだが、最近報ぜられた東大生の自殺のように、受験勉強をして東大にやっぺ入る。受験というルールが外されると自由なルール、創造力がでてこないためである。脳は20才前後が一番発達している。記憶力が衰えるのは脳の細胞の働きがだんだん落ちていくことである。

(次号につづく)

前原勝樹先生の個展

1月23日と24日の2日
先生の個展が桐生倶楽部の2階で開かれた。この

個展は去る33年に次いで2回目の個展で、花を描かせたら桐生倶楽部多数画人中の随一で今回は街頭に進出して彩管を振られたお姿を拝見した人は多数あるだろう。そこに今回展覧の先生の意欲がしのばれた。花、静物、風景 拝見した作品は丹念に書きこまれ、その出品点数も驚く勿れ60余点。しかも今回は「チャリティー洋画展」として売上金はユネスコ・ギフトクーポンとして、脱発途上国の救済資金にご寄付いただきますので、この洋画展に賭けた先生のお方の入れようがよくわかる。果せるかな開場7時間で全作は完結となり、会期中の来観者は1,000名を突破すると言うクラブはじまって以来の大盛況の個展となった。個展終了後「先生には「桐生倶楽部」をお描きになられた作品(F8号)を

記念に寄贈され、当倶楽部でも末長く大切に飾らせて頂くことになった。

今回展を通じて感じたことを語らせてもらおうと「絵とはその技の優劣ではない、観者をして喜びと楽しさを醸し

だす会場の雰囲気、これあってこそ立派な個展と言えよう。2日間にわたる個展会場に集まった人々の歓喜を筆者は今も思い出す。絵とは人間の心の表現である。先生は人も知るユネスコ協会の会長さんで桐生倶楽部の文北活動委員長、クラブ理事。1975年12月記(服部 修)



新倶楽部社員紹介

クラブの美術紹介シリーズ(2)

桐生倶楽部

前原勝樹筆

赤い屋根瓦に明るいペーージュのイタリヤ壁、練瓦を積み重ねた5本の飾りエントツ、60年の風雪に耐えた堂々たるたたづまい。この油絵は1975年に描かれた前原勝樹氏の作品である。

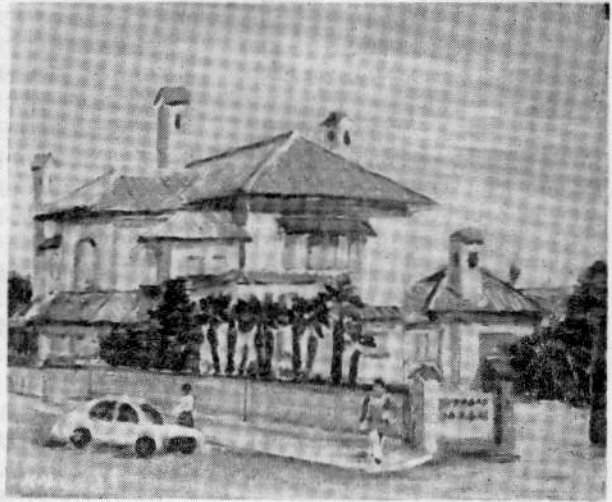
氏は医を業とし、文筆に秀で、絵画を好み、その祖は金井烏洲に師事した画人前原瓦瀬が出ている。現存する瓦瀬の作品をみるとその天才振りがよく判る。こうした立派な画人を祖先に仰ぐ氏が好んで絵の制作に打ちこむのも豈、偶然ではあるまい。

今回掲出の油絵は水彩に対し油彩画ともいい、麻布を張ったカンパスの上に乾性油、揮発油、ワニス等の溶き油で処理した

絵の具で描く絵画で15世紀、フランドルの画家パンアイク以来西洋絵画の主流となり今日に至っている。日本では江戸時代、平賀源内、司馬江漢、亜欧堂田善らが長崎のオランダ人に学んで描いたのが最初とされるが、本格的にその技法が伝えられたのは明治時代になってから浅井忠、黒田清輝らによってである。油絵は日本画に対して洋画とも言う。

ここで桐生倶楽部について申述べよう。同倶楽部は県下における社団法人の第1号で、明治33年以来18年に渉って桐生の有力団体であった桐生懇談会が時代の進運にともなう発展的解消をして社交機関の設立を企画したもので、その目標はあくまで大桐生発展の理想に燃えたものであった。大正7年8月6日設立の許可を得ると翌8年12月

、東安楽土字阿武久田(現仲町2丁目)の地に会館を建設した。敷地は当初1800坪余あったが、その後、市街地発展のため市へ寄附及び譲渡して半減してしまつた。桐生倶楽部は各界や桐生高工の教授などを社員とし、相互の知



識を交換して親睦をはかり公益の事業攻究遂行を目的とし、この会館こそ郷土の指導者の集る館として高き誇りをもち紳士道の高揚につとめたのであります。風格ある桐生倶楽部は社員の息抜き場であり、更に桐生の奥座敷として中央から名士が多数来館した。記録に見るその数はほう大である。これは桐生倶楽部が郷土の産業文化に大きな貢献を捧げた証左である。

戦後、市街地の近代化が進み、群大も一部記念館を残して建て直し、赤レンガの銀行も懇話会有志活躍の舞台である桐生館も姿を消した。桐生倶楽部は60年の伝統と歴史を尊び毎年保全のため理事長以下多大の努力を続けている。以上の理由から言っても前原氏の作品は貴重なものと言えよう。

(解説 服部 修)

倶楽部だより

- 9月
 - 月次会 (26日)
- 10月
 - 理事会 (8日)
 - 月次会 (27日)
- 11月
 - 理事会 (8日)
 - ゴルフ大会 (8日)

- 会報第19号発行 (10日)
- 行事委員会 (20日)
- 前原理事個展 (23~24日)
- 月次会 (28日)
- 12月
 - 広報委員会 (10日)
 - 理事会 (11日)
 - 職員年末手当支給 (15日)
 - Xマス祭 (18日)
 - 年末休館 (30~31日)